

は じ め に

新入生の皆さんは、縁あって本学理工学部に入學し、これからの学生生活に胸をはずませていることと思います。大学における生活は多面的かつ多彩ですが、その中心は勉学です。在学生の皆さんも、新学期を迎えて新たな決意と希望を持って勉学に取り組もうとしていることでしょう。

何事においてもそうですが、目標を設定し、その目標に向けて弛まぬ努力を行うことが大切です。皆さんの探究心や積極性、自主性がその支えとなります。大学生活を通して、基礎力と幅広い教養、そして自分で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくような力を身に付けて欲しいと思います。また、敬いと思いやりのある人格を培いながら高い見識を身に付け、グローバルに貢献するために不断の研鑽を積んで欲しいと思います。

この冊子は、皆さんの努力を支援し必要な情報を提供するための、「履修要項」と「シラバス」が合体して編集されたものです。理工学部において勉学を進めていく上で必要となる、重要事項が網羅されています。

「履修要項」には単位制度の説明からはじまり、卒業必要単位数や進級要件、履修登録手続などの説明が書かれています。なお、「数学」、「理科」、「工業」、「情報」の教員免許状に関する教職課程の説明は別冊に書いています。

「シラバス」には、すべての開講科目について、授業の内容や方法、授業計画、教科書・参考書、履修方法、成績の評価方法等が書かれています。科目の履修登録の際に、履修すべきかどうかの重要な判断材料を与えてくれます。さらに、日々の授業の際の、予習・復習のためのガイドとして有効に利用して下さい。

2011年度より、理工学部全学生を対象に「校友サポートネット」、「e-キャリアポートフォリオ」といったシステムを稼働しています。また、理工学部では初年次教育の一環として理工系基礎学力の定着を目指し、教員と学生アシスタントによる「フレッシュャーズ・ステップアップ・サポート（クラス会）」を定期的に開催するとともに、「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、シニアアドバイザー・上級生が、数学・物理などの理工系基礎科目の個別学習指導を行い、初年次から手厚い学習支援態勢を整えています。

正課では、自分の将来にむけてのキャリア啓発の第一歩として、新入生対象に「キャリアデザイン」、2年次生対象に「キャリアプランニング」を、さらに3年次では、大学で修得した知識や技術が実社会でどのように役立つかを実地で学ぶため、国内外企業における実習科目を開講しています。これらを通し、初年次より自らのキャリア形成を意識することで、みなさんの就業力アップと社会的・職業的自立につながることを切に願っています。

また、本冊子を読んでみて不明点や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口にご相談に来て下さい。履修の仕方を誤ったがために卒業延期等の事態を招くことがないようにして下さい。

皆さんの学生生活が楽しく実り多いものとなることを願っています。

2012年4月

理工学部長 大柳 満之

龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を形成する。

理工学部教育理念・目的

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

学位授与の方針〔学士（理学・工学）〕

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

[学生に保証する基本的な資質]

(建学の精神)

○仏教、ことに浄土真宗に基づいた建学の精神、すなわち「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の意味を深く理解している。

○豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

○科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。

○英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。

○幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

(思考・判断)

○科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。

○基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。

○論理的能力・問題解決力を身につけている。

(興味・関心)

○問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学を継続的に行うことができる。

○広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

(態度)

○高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。

○世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。

○日本語だけでなく英語を通じて、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

(技能・表現)

○科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門の技術を身につけている。

○知的生産の技術を身につけている。

○国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

- (1) 学部で4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- (2) 卒業認定を受けるためには、所定の134単位以上の単位数を必要とする。
- (3) 卒業認定を受けるためには、「特別研究論文（卒業論文）」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程編成・実施の方針

理工学部の「教育理念・目的」、「学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専門科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

- 仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」（2科目）を必修科目として設置する。
- 視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。
- 国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を1年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。
- 専門科目を1年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて行う。

2012年度 学 年 暦

	日	月	火	水	木	金	土
4月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
5月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
6月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
7月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
8月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
9月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

- 1 学年始
- 2 入学式（瀬田）
- 3～8 履修指導期間
- 9 第1学期授業開始
- 29 昭和の日
- 30 振替休日（授業実施日）
- 3 憲法記念日
- 4 みどりの日
- 5 こどもの日
- 14～18 履修辞退受付期間
- 16 降誕会（5講時以降休講）
- 19 降誕会（瀬田）
（全学授業実施日）
- 21 創立記念日・降誕会
（全学終日休講）
- 2 水曜5講時以降 8回分
- 21 ご生誕法要（瀬田）
- 16 海の日（授業実施日）
- 24～25 集中補講日
- 28 第1学期授業終了
- 30～8/5 第1学期試験期間
- 5 定期試験予備日
- 6～10 集中講義Ⅰ
- 6～9/8 夏期休業
- 11～18 一斉休暇
- 22～24 追試験期間
- 27～9/1・9/3～9/8 集中講義Ⅱ
- 27～9/15 理工学部学外実習
- 10 第2学期開始
- 10～19 履修指導期間
- 17 敬老の日
- 19 9月卒業式・入学式
- 20 第2学期授業開始
- 21 ご生誕法要（瀬田）
- 22 秋分の日（授業実施日）

	日	月	火	水	木	金	土
10月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
11月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
12月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
1月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
2月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28		
3月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

- 8 体育の日（授業実施日）
- 18 報恩講（全学終日休講）
- 22～26 履修辞退受付期間
- 27～28 龍谷祭（瀬田）
（27 全学終日休講）
- 2～4 龍谷祭（深草）
（2・3 全学終日休講）
- 3 文化の日（全学終日休講）
- 21 ご生誕法要（瀬田）
- 23 勤労感謝の日（授業実施日）
- 21 ご生誕法要（瀬田）
- 23 天皇誕生日
- 24 振替休日（授業実施日）
- 25 土曜日 13回分
- 26～1/5 冬期休業
- 29～1/5 一斉休暇
- 1 元旦
- 7 講義再開
- 14 成人の日
- 19 第2学期授業終了
- 21～22 集中補講日
- 23～29 第2学期試験期間
- 27 定期試験予備日
- 30～3/31 春期休業
- 11 建国記念の日
入試終了2日後から
3日間追試験期間（予定）
- 15 卒業式（瀬田）
- 20 春分の日
- 31 学年終

⚠ 注意事項

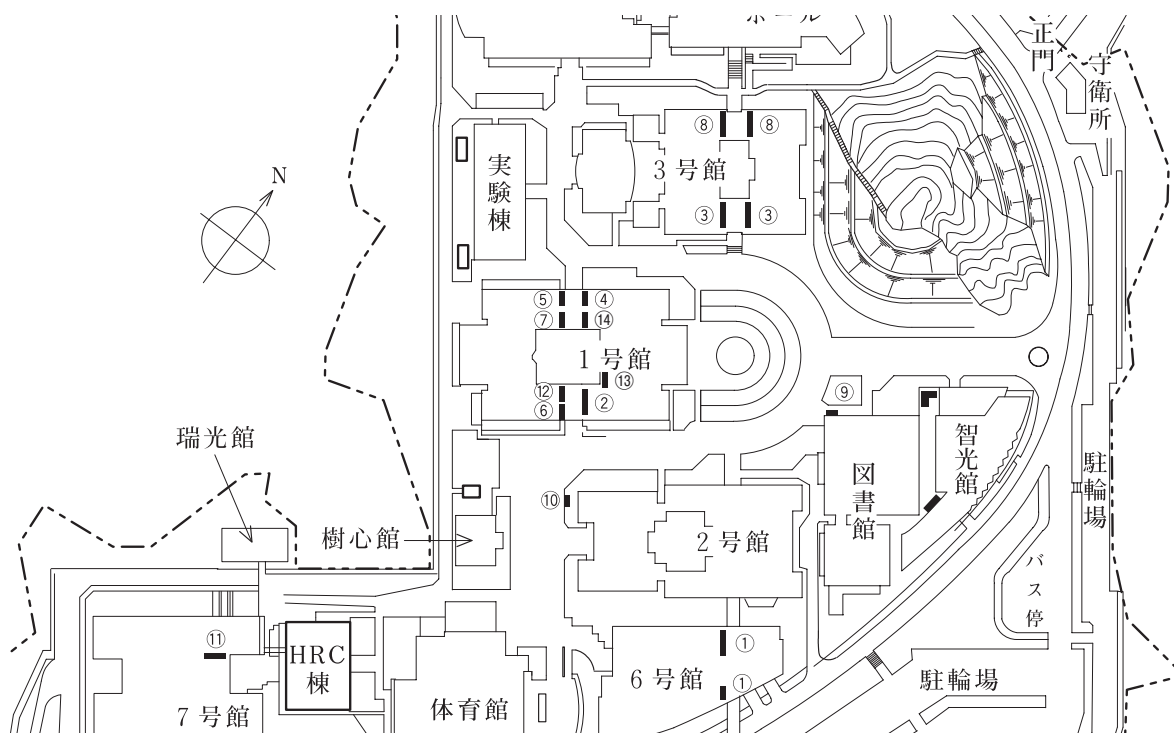
- ご生誕法要は、12時15分から13時15分です。2講時の授業終了を15分繰りあげて実施します。
- 土曜日の3・4講時にも補講が行われる場合があります。

	授業日
	補講期間
	定期試験

大学からの連絡・通知の掲示

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落としたために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。電話による問い合わせについては、間違いが起こり得ますので一切応じません。



掲 示 板

学部掲示板

大学全般に関する連絡

学内行事・窓口業務についての連絡・呼び出し・その他

授業に関する連絡

授業・休講通知・教科についての一般事項

定期試験・追試験に関する連絡

①…社会学部教務課

②…理工学部教務課

③…国際文化学部教務課

⑪…理工学部（補助的運用）

⑬…理工学部（臨時的運用）

学生部（瀬田）、瀬田教学部

④奨学金

⑫学生生活

⑥教職関係

キャリア開発部（瀬田）掲示板

⑤インターンシップ関係

⑦就職ガイダンス関係

⑭就職・資格講座等に関する連絡

国際交流関係掲示板 ⑧

図書館関係掲示板 ⑨

宗教部専用掲示板 ⑩

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所を変更する場合があります。

…登校したら掲示板を
下校前にも掲示板を…

休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報を本学のポータル上で次のとおり公開しています。

(1) アクセス方法 <パソコン用>

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルログイン」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

<携帯電話用>

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルサイトをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲 本学開講科目

(3) 公開の期間 <パソコン用>

休講：休講日を含めて30日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

<携帯電話用>

休講：休講日を含めて3日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて3日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

(4) 注意事項 ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず学部の掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※他学科等のシラバスや時間割については理工学部HP (<http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/>) を参考にして下さい。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「プロフィール設定」で設定可能です。

ガイダンス

新学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

最初のガイダンスでは、みなさんが学修の履修計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、教職など諸資格取得のためのガイダンスも開催されます。これらの連絡は、掲示により行われるので十分注意しなければなりません。

2012年度 理工学部学年始ガイダンス日程

<書類配布、説明会等日程>

行事 年次	成績表・書類配布 履修登録説明会	学科別履修説明会
新 入 生	4月4日（水）9：00集合	左記書類配布等終了後
新2年次生	3月23日（金）9：30集合	左記書類配布等終了後
新3年次生	3月23日（金）13：30集合	左記書類配布等終了後
新4年次生	3月23日（金）15：30集合	左記書類配布等終了後

⚠️注意事項

- 大切な伝達事項等があるので、上記の日程には必ず出席してください。
なお、やむを得ず出席できない場合は、事前に理工学部教務課に連絡の上、指示を受けてください。
- 書類配布日には、成績表、登録関係書類等を配布するので、学生証を持参のうえ、必ず本人が受け取りに来てください。

<各説明会会場>

学 科	教 室	
	新入生	2～4年次
数理情報学科	別途指示	3号館101教室
電子情報学科		3号館102教室
機械システム工学科		3号館105教室
物質化学科		3号館107教室
情報メディア学科		7号館講義室1
環境ソリューション工学科		7号館講義室2

☆成績の疑義申し出については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。
申し出は、理工学部教務課に備えつけの用紙で行ってください。

<履修登録日程>

	予備登録期間	受 付
全 年 次 (新入生除く)	3月23日（金）9：00～3月27日（火）13：00（2：00～7：00除く） 発表：4月8日（日）9：00～Web登録画面にて発表 ※ただし、英語（再）の予備登録については、別途掲示板で指示	Web予備登録画面
	事前登録期間	受 付
全 年 次 (新入生除く)	3月23日（金）9：00～3月27日（火）13：00（土・日除く）	理工学部教務課
	授業科目受講登録期間	受 付
全 年 次	4月8日（日）9：00～4月13日（金）16：00（2：00～7：00除く）	Web登録画面

2012年度 学生定期健康診断日程表(理工学部)

対 象 学 年	性別	月 日	受付時間	受検学舎	健診項目
新入生	男性	4月5日(木)	9:00～12:15	瀬田学舎 4号館 1階	胸部X線身体計測 尿検査 問診 内科診察 (必要時)
	女性	4月4日(水)	13:30～16:30		
2年次生	男性	4月6日(金)	14:30～16:30		
	女性	4月6日(金)	10:30～12:15		
3年次生 編転入生	男性	4月3日(火)	14:00～16:30		
	女性	4月6日(金)	10:30～12:15		
4年次生以上 大学院生 介護等体験実習生	男性	4月4日(水)	9:00～12:15		上記項目 + 視力
	女性	4月6日(金)	10:30～12:15		

※健康管理カード(問診票)・採尿容器は履修説明会時に配布します。詳細はホームページで案内しますので確認してください。

注意事項

1. **学生証**を忘れず持参のこと。
2. 健診は混雑が予想されます。**受付時間内の早め**に受付を済ませること。
3. 指定日時に受検できない場合は、**他学部の同学年・同性の時間**に受検し、未受検のないようにすること。
4. 2・3年次生で今年度、介護等体験実習受講予定の学生は、視力検査が必要！4年次生以上・大学院生の日時で受検すること。
5. 服装は、無地でボタン・金属等のないTシャツとし、アクセサリーはつけないで受検すること。
6. 貴重品は各自が責任もって管理すること。
7. 健康管理カード(問診票)・採尿容器は、健康診断前日までに学部教務課または保健管理センター窓口に取りに来ること。
8. 受検当日、健康管理カード(記入しておくこと)・尿容器(採尿した)を持って受付すること。
※受付後に、採尿することのないように！
9. この期間中に健康診断を受検しないと、2012年度中の診断書の発行はできません。
10. 社会人等で職場などの定期健康診断(本学における実施項目を含んでいるもの)を受検している場合は、その結果のコピーを提出することによって受検に替えることができる場合がありますので、保健管理センターに相談すること。

心身ともに健康な学生生活を送るために ～保健管理センターの利用について～

1. 保健管理センターについて

【主な業務】

- * 健康診断および健康診断後の保健指導
- * 応急処置
- * 健康に関する相談
- * 心理カウンセラーによる相談
- * 診療（内科・精神科）※健康保険証が必要
- * 精神科医による心の相談
- * 健康診断書の発行
- * 健康に関する調査・研究・教育
- * 健康増進のための学習会の開催

2. 定期健康診断について

【検査項目】

- * 身長、体重、胸部レントゲン、尿検査（蛋白・糖）、問診、視力（対象者のみ）、内科診察（必要時）

【実施時期など】

- * 4月の第1週目に実施します。指定された日に受けてください。指定日に受けられない場合は、他学部の特待生等の指定日に受検してください。
- * 大学での健康診断実施日程終了後は、保健管理センターでの健康診断を行いませんので、必ずこの期間内に受検するよう注意してください。
- * 勤務先で健康診断を受ける方は、結果（コピー可）を保健管理センターに提出してください。
- * 詳細は、掲示板や保健管理センターのホームページなどで確認してください。

3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書・健康診断書は、本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。

従って、本学の定期健康診断を受けていない場合は、発行できません。

【健康診断証明書について】

- * 「健康診断証明書」は、自動発行機で発行します。用途は、就職活動や本学に提出する各種実習受講、奨学金申請等に限られます。

【健康診断書について】

- * 進学や大会参加、アルバイトなどで使用する健康診断書は、医師の診察が必要です。発行までに数日かかることがありますので、指定用紙や要項を持参の上、余裕をもって申し込んでください。

4. 保健管理センターの利用について

① 応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガをした時、看護師が応急処置や休養室の提供を行っています。状態により医師の診察が必要な時は、外部医療機関を紹介します。

② 健康相談

健康上の相談や悩みも気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。

③ 保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには、身長体重計・体脂肪計・視力計・血圧計が設置されています。自己の健康管理に利用してください。

大学近辺の医療機関のご案内や健康情報などをホームページに掲載していますのでご利用ください。

URL : <http://www.ryukoku.ac.jp/hoken>

【開室時間】

〔深草学舎・大宮学舎〕 8:45～17:15

〔瀬田学舎〕 9:00～17:30

※休業期間等は開室時間の変更があります。

5. 診療所について

【診療科名】 内科・精神科

【診療日及び時間】 詳細は、保健管理センターのホームページで確認してください。

【費 用】 診療には、「健康保険証」が必要です。コピーの健康保険証は使用できません。

※扶養者と別居している方で、ご自身の健康保険証を持ってない方は、「遠隔地被保険者証」を取り寄せてください。

※医師の診察を受けずに薬だけお渡しすることはできません。症状は、体からの「SOSサイン」ですので、必ず医師の診察を受けてください。

6. 学生相談（こころの相談室）について

学生生活全般に関するさまざまな相談（対人的なこと、学業・進路、心身の健康等）に、カウンセラー（臨床心理士）が応じ、学生生活支援を目的とした心理的なサポート等を行います。相談の申込はポータルサイト上でのweb予約も可能です。詳しくは、保健管理センター「こころの相談室」のホームページをご覧ください。また、直接窓口での申込も可能ですのでお問い合わせください。相談は予約制（無料）です。

【受付窓口】

「こころの相談室」への問い合わせは、下記までご連絡ください。

月～金曜日 9:00～17:00（12:30～13:30を除く）

(1) 深草学舎・大宮学舎 電話 075-642-1111（代表） 内線1254

(2) 瀬田学舎 電話 077-543-5111（代表） 内線7781

なんでも相談室もあわせてご利用ください

学生生活を有意義に送ることができるよう、深草・瀬田学舎の学生部の中に「なんでも相談室」（大宮学舎は西翼2階・こころの相談室内別室）を設けています。学生生活でのあらゆる相談や問い合わせを受け付ける「よろず相談窓口」です。相談に応じて、アドバイスや情報の提供、適切な相談先への紹介も行っています。予約は不要です。どんな小さなことでも気軽に訪れてください。

※学生部の「なんでも相談室」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、カウンセラー（臨床心理士）による相談を受けることもできます。医療機関への案内も行っています。

7. 健康増進のための学習会やイベントについて

心身ともに健康な学生生活が過ごせるよう、健康学習会や健康に関するさまざまなイベントなどを行っています。詳細については、ホームページやポータルサイト等で随時案内しますので積極的に参加してください。

目 次

はじめに

龍谷大学の教育にかかわる基本方針 理工学部教育理念・目的

2012年度学年暦

大学からの連絡・通知の掲示

ガイダンス

2012年度学生定期健康診断日程表（理工学部）

保健管理センター利用について

履修の心得

I 履修をはじめるにあたって	2
1. 長期的な履修計画を立てること / 2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
II 単位制度と単位の認定	3
1. 単位制度 / 2. 単位とは / 3. 単位の認定 / 4. 履修登録制度	
5. 授業科目の履修 / 6. 履修辞退制度 / 7. 授業時間 / 8. 卒業要件単位および学士号	
9. 進級制度 / 10. セメスター制 / 11. 入学前に修得した単位の認定	
III 履修登録	8
1. 履修登録手続のスケジュール / 2. 履修登録に際しての注意事項 / 3. 履修登録制限	
4. 予備登録 / 5. 履修登録要領 / 6. 履修登録の確認	
IV 成績評価	13
1. 成績評価の方法 / 2. 成績評価の基準 / 3. 成績疑義 / 4. 平均点とGPA	
V 筆答試験	15
1. 試験の時期 / 2. 受験資格 / 3. 受験の注意事項 / 4. 答案の無効	
5. 筆記試験における不正行為 / 6. 追試験 / 7. 筆答試験時間	
8. レポート試験における不正行為	
VI 教育支援	18
1. 学科の委員 / 2. クラス担任制 / 3. 教員との面談 / 4. T.A.制度 / 5. チューター制度	
6. 理工学部初年次学習支援センター / 7. L.A.制度 / 8. ライティングセンター / 9. その他	

教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標	22
II 数理情報学科の教学理念と教育目標	24
III 教育課程の編成・履修方法	26
1. 授業科目の区分 / 2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目	
3. 各科目の履修方法について	
①教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）の履修方法	27
1. 必修科目の履修について / 2. 学科指定・クラス指定 / 3. 予備登録について	
4. 先修制について / 5. 予備登録について（総合科目） / 設置科目	
②教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）カリキュラム対照表	37
1. 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）基礎科目	
2. 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）総合科目	
③固有科目の履修方法	40
1. 学部内共通科目の履修方法 / 2. 学科固有科目の履修方法 / 3. 卒業・進級の要件	
4. 設置科目 / 5. カリキュラムフローチャート	

④学科固有科目カリキュラム対照表	57
⑤他学科科目の履修について	59
⑥単位互換制度について	60
⑦日本技術者教育認定機構（J A B E E）について	64
⑧卒業年次生の大学院授業科目の履修について	65
Ⅳ 諸課程等の履修方法	66
①教職課程	66
②本願寺派教師資格課程	66
③特別研修講座	67
V 協定型インターンシッププログラム	68
Ⅵ 放送大学科目の受講について	70

学修生活

I 窓口事務	76
1. 学部窓口取扱時間 / 2. 届書・願書および各種証明書	
3. 各種証明書の交付について / 4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて	
II 授業休止の取り扱い基準	80
1. 全学休講とする場合 / 2. 授業等の開始基準 / 3. その他の注意事項	
III 学籍の取り扱い	82
1. 学籍とは / 2. 学籍簿 / 3. 学生証 / 4. 学籍の喪失 / 5. 休学と復学	
6. 年次 / 7. 再入学 / 8. 編入学・転入学 / 9. 9月卒業について	
IV 留学	87
1. 交換留学 / 2. BIE Program留学 / 3. 私費留学	
4. 個人留学（休学して留学する） / 5. 短期留学	
V 通学について（自転車・バイク・自動車）	89
1. 自動車通学の禁止 / 2. バイク・自転車通学 / 3. バイク・自転車の駐輪	
4. 交通安全教育講習会について / 5. 自動車の臨時入構許可について	

シラバス

I 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目） 基礎科目	95
II 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目） 総合科目	167
III 学部内共通科目	207
IV 学科固有科目	227
V 教職課程科目	269
Ⅵ 本願寺派教師資格課程科目	285

付録

I 教員名簿	292
II 瀬田学舎近隣医療機関	294
III 瀬田学舎見取図	296
IV 履修要項・Syllabus利用の手引き	297

TOEIC®はエデュケーショナル・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。
この印刷物はETSの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

TOEFL®はエデュケーショナル・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。
この印刷物はETSの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

履 修 の 心 得

教 育 課 程

履 修 要 項

学 修 生 活

履 修 の 心 得

I 履修をはじめるときにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組み合わせがあります）。卒業に必要な単位の取得は、学部設置されている授業科目にもとづいて行われます。単位とは、それぞれの授業科目を通して得られる学修の量をあらわすものです。

授業科目は、「**教養教育科目**（共同開講科目）（共通科目）」、および「**固有科目**」からなります。みなさんはこれらの科目群から卒業に必要な一定の単位数を満たすよう履修しなければなりません。

各学年ごとに、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお年度によって開講される科目が異なるので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてるときは、同時に次年期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに分類されます。

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

選択必修科目とは、指定された科目群の中から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

選択科目とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があり、この要件を欠く場合は卒業の認定を受けることができません。

随意科目とは、単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」や各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

また、理工学部では各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。4年間で卒業要件を満たすとともに各学年毎に進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いて下さい。

2. 系統的に科目を履修すること

各学年に設置されている授業科目、カリキュラムフローチャートを参考にして、系統だった履修をすることが重要です。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格や開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組む、専門的な視点に立って研究することです。テーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修すること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われてはじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

Ⅱ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制というのは、すべての科目に一定の単位数が定められており、みなさんがその科目の授業を受け、かつ、その試験に合格した場合、定められた単位が与えられます。その単位の合計が一定の要件における一定の単位数を満たした者に対して卒業が認定される制度です。

2. 単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単 位 数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自 主	授 業	合 計	自 主	授 業	合 計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

(1) 単位の計算方法

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○ 講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位
学期連結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき）＝4単位

○ 外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき）＝1単位
学期連結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位

3. 単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなり

ません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること。
- (2) その科目の授業に**出席**し、履修に必要な**学修**をすること。
- (3) その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください。）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

4. 履修登録制度

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることができません。履修登録は、学修計画の基礎となるわけであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければならないです。

5. 授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の**学修**をするということです。

学修の内容は、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「シラバス（講義概要・授業計画）」によって指示される参考文献等を中心として、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかにかかっていると云えます。

6. 履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っている場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録確認表配付後の、登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切記録に残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行ないません。したがって、履修辞退した科目は**平均点**や**GPA**の計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	
事前登録が必要となる科目 ※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が他大学他学部等の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験、教育実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB（教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB）	実習施設、実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目 ※別表「◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり

※教養教育科目（共同開講科目）の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

ただし、「自然観察法」は履修辞退ができません。

◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部	履修辞退の対象外とする科目
理工学部	基礎セミナー（対象学科／数理情報学科）

※これら以外に履修辞退対象外科目が生じた場合は、別途理工学部揭示版で揭示します。

(4) 履修辞退の申出期間

2012年度の履修辞退の申出期間は下記の日程です。なお、下記の申出期間以外の履修辞退の申し出は受付しません。

学期	履修辞退受付期間
第1学期（前期）	5月14日（月）～18日（金）
第2学期（後期）	10月22日（月）～26日（金）

(5) 履修辞退の申出方法

上記、履修辞退の申出期間にポータルの「Web履修辞退申請」から申請してください。受付期間中に、ポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、理工学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目を第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。
- なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期） （5月中旬）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期） （10月下旬）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

7. 授業時間

本学における1回の授業時間は、90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

	1講時	2講時	3講時	4講時	5講時
開始時刻	9 : 20	11 : 05	13 : 35	15 : 20	17 : 00
終了時刻	10 : 50	12 : 35	15 : 05	16 : 50	18 : 30

8. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、数理情報学科では「学士（理学）」、電子情報学科・機械システム工学科・物質化学科・情報メディア学科・環境ソリューション工学科では「学士（工学）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、134単位以上を修得しなければなりません。

(1) 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。

これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

② 所定単位の修得

本学部の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに履修すべき単位数を指定しています。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

(2) 卒業の時期

卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

なお、在学期間が4年以上の学生で、卒業要件単位を修めた場合は、前期終了時（9月）に認定することがあります。（9月卒業）

⚠ 注意事項

9月卒業を希望する者は、4月初旬に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても、9月卒業の対象にはなりません。

9. 進級制度

理工学部では、各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。履修登録するにあたっては、細心の注意をすることが必要です。

10. セメスター制

理工学部授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制というのは、半年を1学期とするもので、1学年を原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4年次までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら年次、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目が配当されています。これらの科目の中からの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目ですから、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

11. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次に願い出た者に限り、出身大学で修得した科目を、本学理工学部の科目として認定することがあります。詳細は、入学後すみやかに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

Ⅲ 履 修 登 録

履修登録は、自らの学習計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届ける手続であり、みなさんの学習計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自分の責任において取り組まなければなりません。

1. 履修登録手続のスケジュール

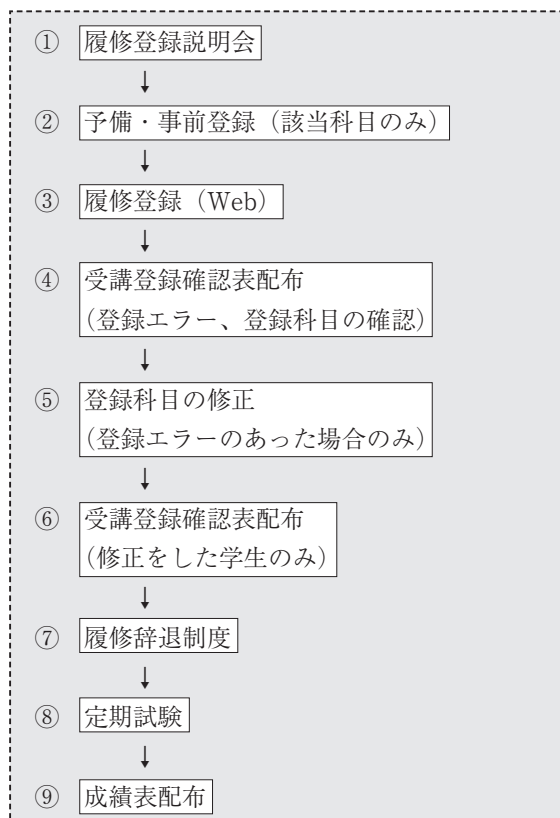
1～3年次生は、履修登録が前期・後期の年2回行われます。ただし、4年次生については、卒業見込判定の関係から、前期に1年分の履修登録を行います。

1～3年次生	年2回登録	前期：通年・前期科目登録
		後期：後期科目登録
卒年次生	年1回登録	前期：通年・前期・後期科目登録
		後期：後期科目の変更のみ受付

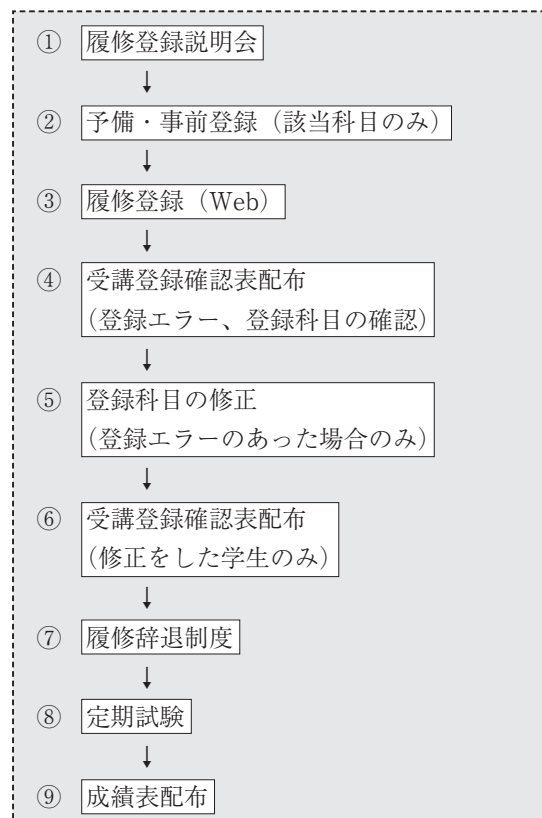
履修登録に関する手続きのスケジュールは以下の通りです。

〈1～3年次生〉

前期



後期

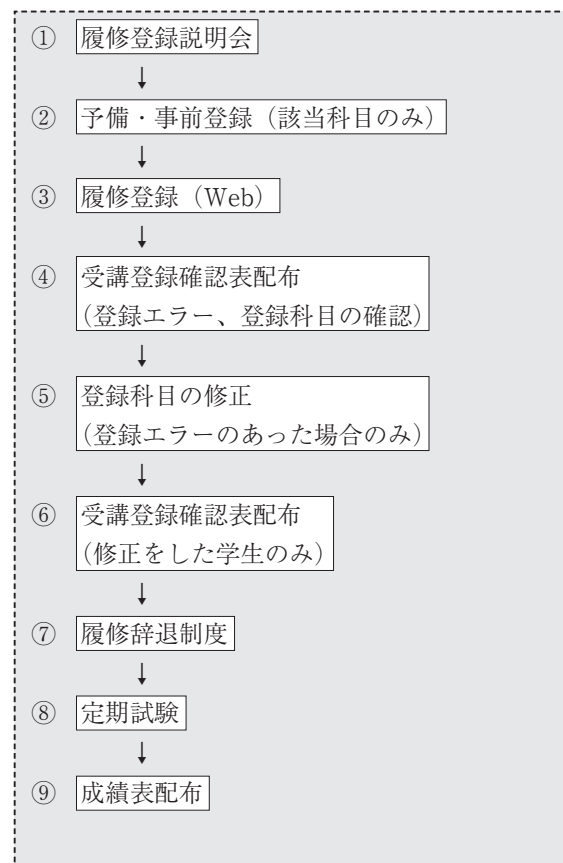


⚠ 注意事項

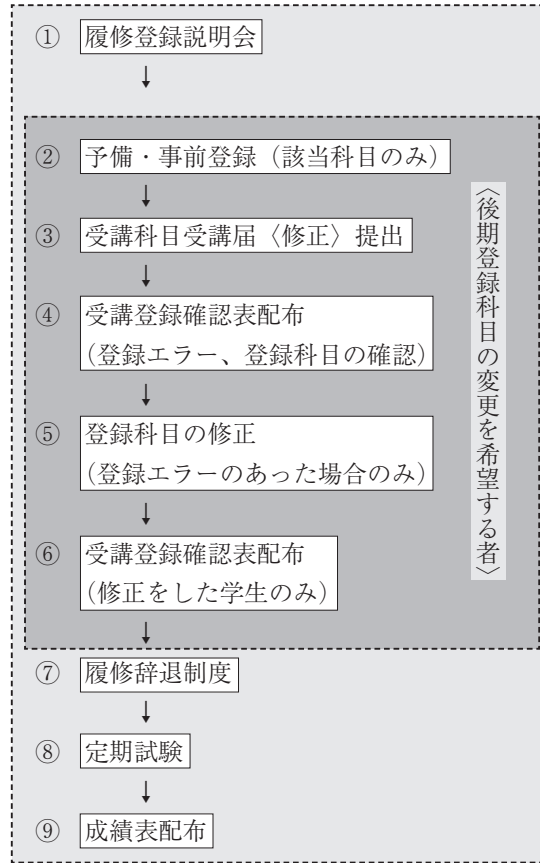
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

〈卒業年次生〉

前期



後期



⚠ 注意事項

- 前期登録時は、卒業見込判定の関係から、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。
- 後期登録時は、後期科目について変更・追加・取消を希望する場合のみ登録を行ってください。
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

2. 履修登録に際しての注意事項

① 単位の修得

履修登録した科目でなければ、受講、受験、単位の修得はできません。

② 二重登録の禁止

同一時間帯に2科目以上履修登録することはできません。二重登録した場合、該当科目は全て無効となりますので注意してください。

③ 修得済み科目の登録禁止

既に単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。

④ 登録制限単位数

制限単位以上の科目を履修登録することはできません。ただし、随意科目（諸課程科目など）は制限単位に含みません。

⑤ 履修配当年次

現年次より上の年次に配当されている科目を履修登録することはできません。（留年生に対する特別措置は除く）

⑥ クラス、学科指定

学科や学籍番号によってクラスあるいは学科が指定される科目（英語、スポーツ技術学、仏教の思想等）があるので注意して登録してください。Web登録画面にて確認して下さい。

⑦ 登録科目の追加、変更の禁止

登録日以後の科目の変更、追加、修正は認めません。ただし、履修不可能科目の登録によるエラーがあった場合はこの限りではありません。（履修辞退制度による登録取消は除く）

⚠ 注意事項

- ① 必修科目が配当されている学年にあつては、その年次において登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できません。ただし、授業科目の区分等の関係で、卒業要件を充たすに必要な場合は、下級年次配当の授業科目を登録することができます。
- ③ 授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）

3. 履修登録制限

理工学部では、下記のとおり履修登録制限を行っています。ただし、入学年度によって履修登録制限単位数が異なるので、登録の際に間違いがないよう十分に注意してください。

1. 2011年度以前入学生

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	30	30	30	60
後期制限単位数	30	30	30	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分ずつをカウントします。

⚠ 上記履修登録制限単位数に含まれない科目

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 集中講義期間に実施される「情報と職業」（2単位）
- ③ 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度科目

2. 2012年度以降入学生

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	25	25	25	50
後期制限単位数	25	25	25	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分ずつをカウントします。

【履修登録制限単位数に関する特別措置】

2012年度以降入学生については、学部が定める所定の手続きをおこなった場合、以下の科目を上記履修登録制限単位数（半期25単位、年間50単位）から除外することができます。ただし、総履修登録単位数は半期30単位、年間60単位を超えることはできません。

<履修登録制限単位数から除外できる科目>

諸課程科目	教職課程科目	人権論 A, 人権論 B, 日本国憲法, 教育原論 A, 教育原論 B, 発達と教育 A, 発達と教育 B
再履修科目	過去に履修したが、単位取得できなかった科目	
集中講義科目	情報と職業	

⚠ 注意事項

以下の科目も履修登録制限単位数に含まれません。履修を希望する場合は、「Ⅲ. 履修登録」(p.8)に従い所定の履修登録手続きをしてください。

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度科目

4. 予備登録

予備登録とは、定員が定められている科目について、受講者数の調整およびクラス分けのため、通常の履修登録に先立って行われるものです。

予備登録にあたっては、以下の点に注意する必要があります。

予備登録が必要な科目は、別途指示します。

- ① 予備登録が必要な科目は、予備登録なしに履修することはできません。（ただし、予備登録の結果、定員に満たなかった場合は追加募集する場合があります。）
- ② 予備登録で履修許可された科目は、必ず登録しなければなりません。

5. 履修登録要領

(1) 登録の心得

- ① 登録は、すべて自己の責任においてなされなければならないので、十分に注意して履修登録を行ってください。なお、登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ② 登録不備等が卒業延期等重大な結果につながる場合があるので必ず登録確認を行ってください。
- ③ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学部掲示板とポータルで確認してください。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割等に変更が生じた場合は、理工学部掲示板に掲示しますので注意してください。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。

登録期間は次のとおりです。

学 期	登録期間
第1学期	4月8日（日）9：00～4月13日（金）16：00 〈2：00～7：00除く〉
第2学期	未定（理工学部掲示板・HPで別途お知らせします。）

⚠ 注意事項

- * 通年科目、前期・後期のペア科目の単位数は、前期・後期にそれぞれ半分ずつカウントされます。
- * 半期に完結するペア科目（半期で1週間に2回講義が行われる科目）の単位数は、半期にカウントされます。

(例) 前期ペアで4単位の科目の場合は、前期に4単位を加算します。

(例) 前・後期ペアで4単位の科目、通年で4単位の科目の場合は、前・後期それぞれに2単位ずつ加算します。

* 集中講義Ⅱの期間に実施される科目は、9月卒業を希望する者は受講できません。

④ 受講登録確認表の配布

本人が登録した授業科目は、コンピューター処理され、その結果が4月下旬（第2学期は10月中旬）に理工学部教務課窓口で配布されますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問のある場合は、ただちに、理工学部教務課窓口に出してください。

6. 履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において、配布する受講登録確認表で必ず確認してください。（配布日時は理工学部掲示板にて指示）

もし、確認せずに間違ったまま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となり、試験が受けられなくなるので注意してください。

登録確認を怠ったために、登録不備等により留年や卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じているので、確認は1科目ずつ慎重に行ってください。

万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間に理工学部教務課まで申し出てください。（日時は理工学部掲示板にて指示）

Ⅳ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、授業担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

適用入学年度	段階評価と評点
2004年度以前入学生	A（80～100点） B（70点～79点） C（60～69点）
2005年度以降入学生	S（90～100点） A（80～89点） B（70～79点） C（60～69点）

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

※2004年度まで使用していた試験欠席を示す「K」表記は、2005年度より廃止しました。（全学生に適用）。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期分（後期）を3月下旬に配布します。指定された期日に学生証を提示の上、指定された場所で受け取ってください。

3. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。詳細は別途掲示します。

4. 平均点とGPA

(1) 平均点

平均点は、登録科目の素点（100点満点）の合計と単位数をかけたものを、登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{平均点} = \frac{\sum (\text{登録科目の素点} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語ⅠA」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学Ⅰ」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、平均点は次のように計算されます。

$$\text{平均点} = \frac{(90 \times 2) + (80 \times 1) + (40 \times 2) + (78 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{496}{7} = 70.86$$

(2) G P A

G P Aとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、登録科目の素点（100点満点）を下表のように換算し直し、その合計を登録科目の総単位数で割ったものです。

$$G P A = \frac{\sum (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

素 点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語ⅠA」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学Ⅰ」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、G P Aは次のように計算されます。

$$G P A = \frac{(4 \times 2) + (3 \times 1) + (0 \times 2) + (2 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{15}{7} = 2.14$$

(3) 各科目の算入基準

平均点およびG P Aの計算をする際、下表のとおり取り扱いします。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (2005年度以降入学生については、卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目	算入しない

*再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。

理工学部としては平均点を使用することとし、G P Aは参考までに学業成績表に表記することとします。

V 筆 答 試 験

筆答試験は、次の要領で実施されます。

1. 試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

- ① **定期試験**（学期末・学年末試験）
個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。
- ② **追試験**
定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう。（追試験の項を参照のこと。）

2. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- ① その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- ② 定められた学費を納入していること。
- ③ 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- ④ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

3. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- ① 指定された試験場で受験すること。
- ② 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- ③ 学生証を携帯すること。
- ④ 学生証を必ず机上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、理工学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- ⑤ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- ⑥ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所に置くこと。
- ⑦ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、鞆の中に入れること。
- ⑧ 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

4. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- ① 無記名の場合。
- ② 指定された場所に提出しない場合。
- ③ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
- ④ 同一科目の複数開講において、開講曜講時等の間違いで受験したもの。
- ⑤ 試験場間違いで受験したもの。
- ⑥ 受験態度の不良な場合。

5. 筆記試験における不正行為

- ① 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。
さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- ② 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - (ア) 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
 - (イ) 監督者の指示に従わない場合。
 - (ウ) 身代り受験を行った場合、または行わせた場合。
 - (エ) カンニングペーパー等を所持していた場合。
 - (オ) 許可された以外のものを参照した場合。
 - (カ) 机上等への書き込みをしていた場合。
 - (キ) 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
 - (ク) 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
 - (ケ) その他、(ア)～(ク)に準じる行為を行なった場合。

6. 追試験

- ① 追試験の受験資格
 - (ア) 病気や怪我、試験時における体調不良等により受験ができなかった者。
 - (イ) 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
 - (ウ) 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
 - (エ) 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
 - (オ) 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学コンソーシアム科目）の試験により受験ができなかった者。
 - (カ) 3年次生で単位認定の対象となるインターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
 - (キ) 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
 - (ク) 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
 - (ケ) 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
 - (コ) その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

ただし、その際、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含まない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内。）に理工学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

- ② 追試験の受験料は、1科目1,000円です。
- ③ 実技、実験・実習科目（例えば、「スポーツ技術学」）、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。
- ④ 追試験における評点は、最高100点です。

7. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験14日前に掲示およびポータルにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講 時	開始時間	終 了 時 間	
		右記以外の全科目 (60分)	理工学部固有科目 (学部内共通科目) (学科固有科目) (90分)
1講時	9 : 20	10 : 20	10 : 50
2講時	11 : 10	12 : 10	12 : 40
3講時	13 : 30	14 : 30	15 : 00
4講時	15 : 20	16 : 20	16 : 50
5講時	17 : 10	18 : 10	18 : 40
6講時	19 : 00	20 : 00	20 : 30

※2、4、5講時は通常の講義時間と異なるので注意すること。

8. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

参考 レポート提出要領

① レポートの提出方法

- (ア) レポートは授業担当者の指示に従って提出すること。
- (イ) レポートは指示されたところに提出し、郵送の場合は宛名を確認の上、必ず「書留」で発送すること。
- (ウ) 授業担当者に直接提出するように指示のあるものについて、事故を防ぐため事情のいかんを問わず、理工学部教務課窓口では一切取り扱わない。
- (エ) 提出期限は厳守すること。（期限を経過したものは受理しない。）
- (オ) その他、指示に従わない場合は無効となる。

② レポートの提出形式

用紙・規格等は次のとおりとする。

用紙種別	字数	大きさ	書き方	綴じ方	綴じ位置
龍大論文用紙	400字	B4判	縦書き	右側	A
龍大原稿用紙	400字	B4判	横書き	上側	B
レポート用紙		A4判	横書き	左側	C

●必ずホッチキスで綴じること。

●表紙の書き方、綴じ方は下図のとおり。（但し、担当者より別途指示がある場合は、指示に従うこと。）

表紙記入・綴じ方法

(B)

学 部
年 組
氏 名
提出日

学 科
学 籍 番 号

学 科
担 当
開講時間
曜 日
講 時

(A)

Ⅵ 教育支援

理工学部には、学修に関することから学生生活まで、さまざまなサポート体制があります。ここでそのいくつかを紹介しますので、積極的に利用してください。

1. 学科の委員

理工学部では、学科毎に教員が諸委員を担当して、学科の運営にあたっています。以下に、みなさんに関わりの大きい委員を紹介しますので、それぞれに関わる事について、なんでも相談してください。（各委員は1年毎に変更されます。担当教員は掲示します。）

担 当	担 当 内 容
学 科 主 任	総合的に学科の運営を担当します。
教 務 委 員	学科の授業運営を担当します。 時間割の作成や履修説明会なども行います。2名の教員が担当します。
学 生 生 活 委 員	学修以外の学生生活について、学生部と連携して担当します。
就 職 担 当 委 員	就職活動について、キャリア開発部と連携して担当します。2名の教員が担当します。
学外実習実施委員	3年次科目「学外実習」の運営を担当します。

2. クラス担任制

入学してから各研究室に配属されるまで、全学生に対してクラス担任を配置します。どんなことでも気軽に相談してください。新入生オリエンテーションでのクラス会をはじめとして、定期的に開催し、学修相談・懇親交流を行います。また、食事会を実施するクラスもあり、学科全体の懇親会なども開かれます。

3. 教員との面談

理工学部の専任教員との面談は、各自で行うようにしてください。また、在室時間は、各研究室のドアのスケジュールシートを参考にしてください。

学科によっては、学科のHPに各教員のスケジュール表が示されています。

他学部の教員との面談も、各自で行うようにしてください。研究室の所在や出校日などは理工学部教務課窓口で問い合わせてください。

非常勤の教員は、担当授業の曜講時以外は出校しておられませんので、できるだけ、授業の際に直接申し出てください。

教員によっては、オフィスアワーを実施している場合がありますので、そちらも利用してください。

4. T.A.制度

ほとんどの実験・実習科目に、大学院生などによるT.A. (Teaching Assistant) を配置し、教員と連携して、少人数による双方向・対話型のきめ細かな指導を行っています。

5. チューター制度

授業で十分に理解できなかった内容や、高校までの基礎的な内容など、学修に対する相談に大学院生などが個別に対応してくれます。チューターには、決められた時間・場所で待機している常駐型と、個人指導の個別型があります。常駐型の実施日時は掲示板等でお知らせします。個別型については、教務委員に相談してください。

6. 理工学部初年次学習支援センター

「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、外部講師・上級生が理工系基礎科目「数学・物理・化学」を中心とした学習指導・学習相談を実施しています。

開設場所・開設時間等、詳細については、オリエンテーションおよび掲示板等でお知らせいたします。

7. L.A.制度

計算機実習室での自習をサポートするために、学生によるL.A（Leaning Assistant）を配置しています。

8. ライティングセンター

当センターは、学生 みなさんにおけるアカデミックライティングの技術を向上させるための機関です。具体的には、卒業論文・卒業研究、レポート、ゼミ発表などに関する相談を受けつけます。何からはじめればいいのかわからないときや行き詰まったときなど、下記の開室期間を参照のうえ、自由に利用してください。相談には、本学所属の大学院生など、みなさんの先輩にあたるチューターが応じますので、本学に合った的確なアドバイスが受けられます。

◆場 所 1号館1階 セルフラーニングルーム（講師控室のとなり）

◆開室日時 月・水・金 11：00～16：00（授業実施期間中）

9. その他

カウンセリングを行う学生相談室や、セクシュアル・ハラスメントに関する相談員も配置しています。

各相談窓口がわからない場合は、理工学部教務課窓口へ問い合わせてください。

教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標

理工学部は、日本の仏教系大学では初めての自然科学系学部で、情報化と国際化が著しい現代において、**科学と人間の調和**を最も重視し、技術の高度化のみならず精神文化の豊かさに対し貢献できる科学技術者の育成を教学の理念としています。

20世紀において科学技術は大きな発展を遂げ、われわれの生活に多大の貢献をしてきましたが、同時に環境に対して大きな負荷を与え、また精神文化や倫理にも少なからず影響を与えてきました。特に、科学技術に携わる人材の倫理観の欠如は、大きな社会的問題を引き起こしています。本学設立の基礎である仏教の思想と高い倫理性を基礎におき、最新の科学技術の高度な専門知識を備え、21世紀の社会に大いに貢献できる有為な人材を育てることこそ本学理工学部に与えられた使命であり、存在価値であります。

自然を学ぶことから出発した**理学**と、人間生活の向上に資することを目的とした**工学**とは引き離すことのできない自然科学の2大分野であり、共に急速に発展しています。これら最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、若い世代に教育していくことによって、時代の要請にかなない先端技術の発展に寄与し得る人材を育成することを理工学部の目標としています。このため、基礎から応用までバランスがとれ、科学全体を総合した教育課程を構成しています。

教養教育科目（共同開講科目）

人間性を高めるため、入学初年度に**仏教の思想**を必須科目として設定しています。また、他学部との共同開講である**教養科目**や**スポーツ科学**の受講を義務付け、科学偏重や視野の狭い技術者にならないような配慮をしています。また、国際化に対応して系統的な**英語教育**を実施し、その他の外国語の履修の機会や**倫理教育科目**を設定しています。

固有科目

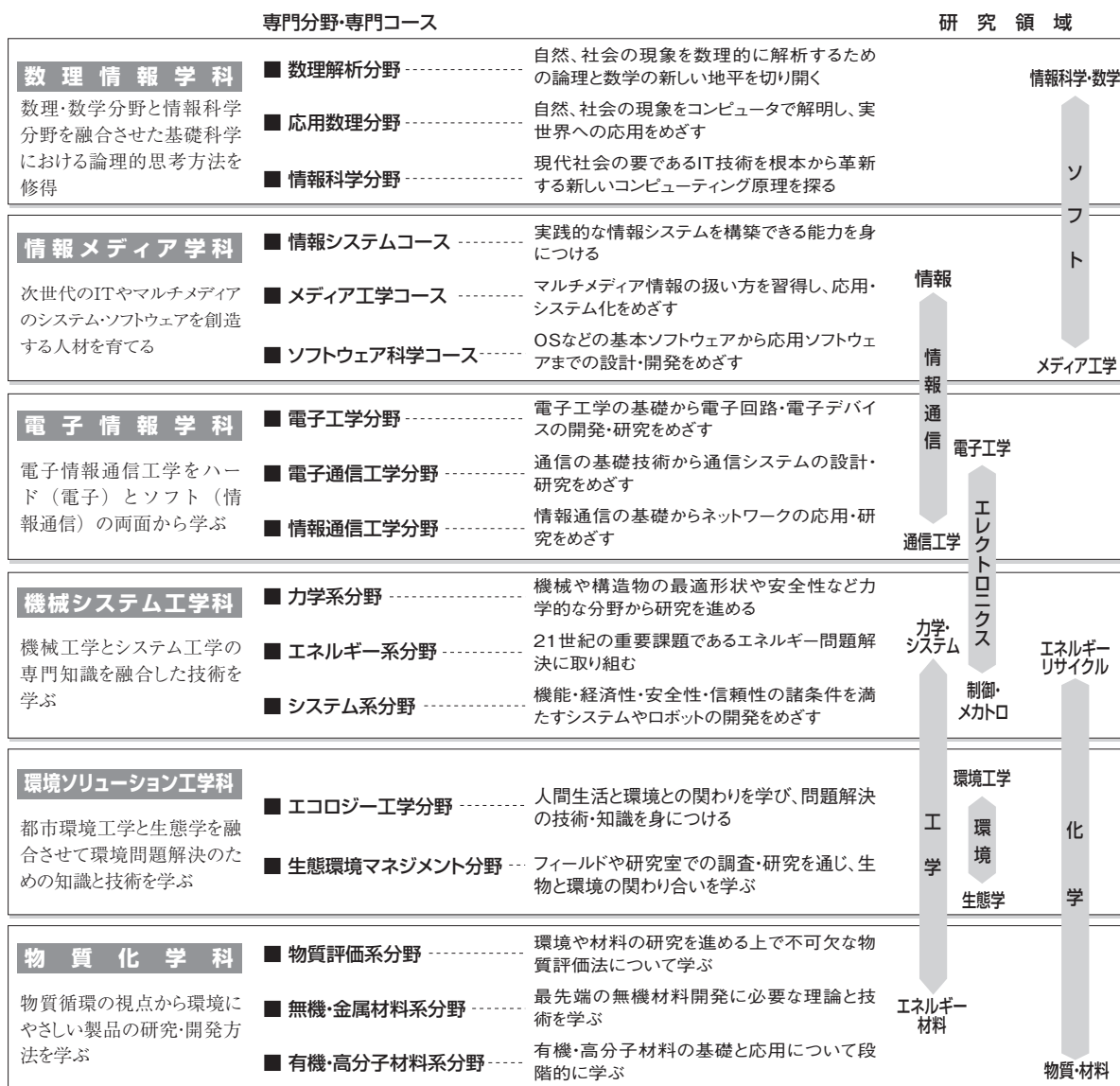
<学部内共通科目>

学部共通の基礎教育として、実践力のある技術者・研究者としての基礎を確立するために、情報リテラシー教育を含むコンピュータ関連科目を基礎から応用まで段階的に用意して、専門的な計算機実習、理工学基礎実験（物理実験）、学外実習や総合実習・特別演習を学部内共通の必修または選択必修科目とし、**基礎技術**の強化を行っています。

<学科固有科目>

専門科目については、各学科の特性に合わせたカリキュラムが編成されています。現代の自然科学を代表するキーワードは、「**情報**」「**システム**」「**エネルギー**」「**材料・物質**」「**環境**」です。これらを軸として、**数理情報学科**では数理科学と情報科学が、**情報メディア学科**では情報科学とメディア工学が、**電子情報学科**では電子工学と情報通信工学が、**機械システム工学科**では機械工学とシステム工学が、**環境ソリューション工学科**では都市環境工学と生態学が、**物質化学科**では材料・物質と化学が、それぞれ組み合わせられた専門課程のカリキュラムが編成されています。さらに、個々の科目の内容を統合し応用する力を育てるために、**卒業研究**を高単位の必修科目とし、極めて重要視しています。なお、科目選択の幅を広げるため、制限内で他学科の科目の履修も認めています。

学科構成図



科学技術は日進月歩であり、社会が求める人材も変化して行きます。一旦設定した教育内容も時代の要請に応じて変化させていかなければなりません。理工学部が設立当時より継続している**学外実習**は、学生を企業に派遣し実習を行わせるものですが、学生自身が実社会において使われている最先端技術を知り、勉学の必要性を実感すると共に、社会が求めている人材や備えるべき知識についての情報を企業等から直接得る良い機会となります。また、企業との**共同研究**から得られる情報も大切です。これらの情報を基に、学生に付与すべき知識を見直しカリキュラムに反映していくことで、常に社会のニーズに即した教育内容となり、実践力をもつ人材を育てることができます。

同時にキャリア教育にも積極的に取り組み、将来に対する意識の啓発等のために「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」を開講しています。

幼少時代から科学技術に関する興味を持たせ、科学者の芽を育てていくことも大切です。理工学部では教職につく人材の育成にも努力しています。学科によって中学校教諭一種免許（数学・理科）、および高等学校教諭一種免許（数学、情報、工業、理科）を取得することができます。

Ⅱ 数理情報学科の教学理念と教育目標

現代の科学技術は、数学・物理・情報科学などの枠を超え、さまざまな分野が密接に関連しあいながら発展しています。そのため、複雑な自然・生命・社会現象の謎を解明しようとする、抽象的な理論の探求と同時に、物理現象としての考察やコンピュータを使った解析が必要不可欠となります。また産業界においても、机上の理論あるいは情報技術の一方に偏らず、数理・数学と情報科学の両分野に足場をもち多角的な視点から問題を解決できる技術者へのニーズが高まりつつあります。

このような時代の要請に応えるべく、数理情報学科では、数理科学と情報科学にまたがった学際的なカリキュラムを編成し、これらの分野を融合した知識・技術を幅広く学べるようにしています。教員には、数理科学、数学、物理学、コンピュータ科学、システム工学などの最前線で活躍する研究者が揃っているため、様々な分野の基礎から最先端まで体系的な教育・指導を受けることができます。また、少人数制で行う演習・実習などを通じてエンジニアとしての実践的な能力を身につけることも重視しており、知識・思考力とともに行動力・表現力をも兼ね備えた、これからの時代にふさわしい人材を育成しています。普遍的で柔軟な思考力と、強力な情報処理スキルを身につけて数理情報学科を卒業する学生には、社会の様々なポジションでの活躍のチャンスがあります。例えば

- ・ IT社会で活躍するシステムエンジニア
- ・ 広い視点を持つ数理科学/情報科学の研究者
- ・ 次世代のエンジニアを育てる中学高校の数学、情報の教員
- ・ 既存の概念にとらわれない視点から新しいフィールドを切り開く職
- ・ そのほか、柔軟な論理的思考力の求められる職

などです。

学科には3つの専門分野の柱があり、これらが互いに融合して特徴あるカリキュラムを形作っています。

■数理解析分野…

自然、社会の現象を数理的に解析するための論理と数学の新しい地平を切り開く。

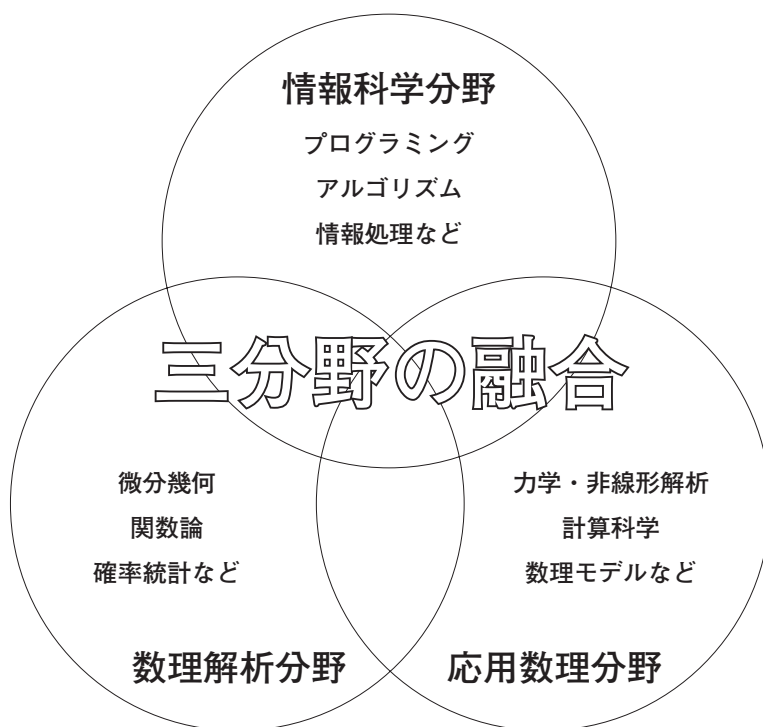
■応用数理分野…

自然、社会の複雑な現象をコンピュータで解明し、実世界への応用をめざす。

■情報科学分野…

現代社会の要であるIT技術を根本から革新する新しいコンピューティング原理を探る。

3つの分野を融合したカリキュラムによって、数学や情報などの知識を単に個別に習得するだけでなく、実践的な演習・実習を通じてそれらを総合し、バランスよく修得することで、将来にわたって応用可能な数理情報の考え方が身に付き、複雑な現象を多角的にとらえ幅広い問題を総合的に解決することのできる人材を育成します。また、カリキュラムは柔軟で個々の得意分野を生かすように科目群を選択すれば、自分独自のコースを作りあげることができます。自分のオリジナルなコースを作ってみましょう。



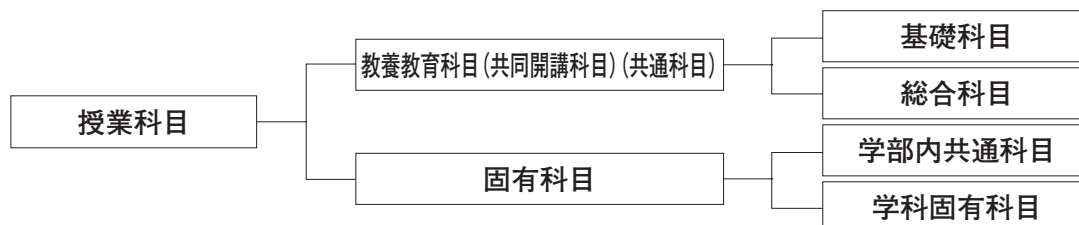
変化の激しい21世紀の世界には、絶えず新しいフィールドが生まれてきます。例えば、脳と心の科学、自ら学ぶコンピュータなどはこれから大きく発展していくフィールドでしょう。一方、歴史を持つフィールドの中にも消えていくものが少なくありません。もはや、特定の1つのフィールドだけに精通しているだけでは、21世紀の世界で活躍するには十分とは言えません。

数理情報学科では、柔軟な数学的論理的思考力と数理的分析力、そして自在にコンピュータを操る力を基盤に、複数の異なるフィールドのスピリットを身につけ、今後生まれてくる新しいフィールドにもいつでも飛び込んでいけるチャレンジ精神を持つマルチなサイエンティスト、マルチなエンジニアの養成を目標としています。

Ⅲ 教育課程の編成・履修方法

1. 授業科目の区分

理工学部教育課程（カリキュラム）の編成は、「教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）」「固有科目」から編成され、さらに、教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）は「基礎科目」「総合科目」、固有科目は「学部内共通科目」「学科固有科目」で編成されます。これらの分類のことを授業科目の区分といいます。



(1) 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）は、固有科目との有機的な結びつきのもとに、幅広い教養と総合的判断力を養うことを目的とし、基礎科目、総合科目から構成されています。瀬田学舎の3学部が共同して開講します。

(2) 固有科目

固有科目は、専門領域に関する授業科目であり、理工学部共通の基礎教育を行う学部内共通科目と、各学科専門分野の基礎および応用を教育する学科固有科目に分類されます。

2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目

すべての授業科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目のいずれかに指定されています。

(1) 必修科目

卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

(2) 選択必修科目

指定された科目群の中から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。なお、数理情報学科では「グループ必修科目」(2006年度以前入学生)／「コア選択必修科目」(2007年度以降入学生)と呼びます。

(3) 選択科目

どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要がある、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

(4) 随意科目

単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」のような序論科目や、各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

3. 各科目の履修方法について

- (1) 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2008年度以降入学生	P27～P31
2003～2007年度入学生	P32～P36

- (2) 固有科目についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2009年度以降入学生	P40～P45
2007・2008年度入学生	P46～P51
2006年度以前入学生	P52～P56

①教養教育科目の履修方法 【2008年度以降入学生】

教養教育とは

(1) 教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、瀬田学舎では、基礎科目（6分野）と総合科目（「情報」「福祉」「国際」「環境」をキーワードとする）にわけて、学際的・系統的履修を可能にしています。

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A、B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため伝統的に大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育に対する正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

＜科目概要＞

英語ⅠA・ⅠB	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡA・ⅡB	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「スポーツ技術学A・B」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- (2) 「英語（再）」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- (3) 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」の各科目は、予備登録が必要となります。
- (4) 「英語セミナー」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

＜先修制授業科目＞

- ① **ドイツ語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② **フランス語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「フランス語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ **中国語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「中国語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ **コリア語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「コリア語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語 I A・I B	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語 I C・I D	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーA、セミナーB	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「自然観察法」は、予備登録が必要となります。

6. 教養教育科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義を開設しています。教養教育科目特別講義については、卒業要件として認めるものは、4科目8単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目 【2008年度以降入学生】

■基礎科目

科 目 名	単位数	配当年次			
		1 年次		2 年次	
		前	後	前	後
仏教の思想 A	必修 2	○			
仏教の思想 B	必修 2		○		
スポーツ技術学 A	必修 1	○			
スポーツ技術学 B	必修 1		○		
英語 I A	必修 1	○			
英語 I B	必修 1	○			
英語 II A	必修 1		○		
英語 II B	必修 1		○		
英語 III	必修 1			○	
英語 IV	必修 1				○
英語セミナー A 1	選択 2	○			
英語セミナー A 2	選択 2		○		
英語セミナー B 1	選択 2			○	
英語セミナー B 2	選択 2				○
英語セミナー C 1	選択 2			○	
英語セミナー C 2	選択 2				○
英語セミナー D 1	選択 2			○	
英語セミナー D 2	選択 2				○
英語セミナー E 1	選択 2			○	
英語セミナー E 2	選択 2				○
※ 英語セミナー F 1	選択 2			○	
※ 英語セミナー F 2	選択 2				○
ドイツ語 I A	選択 1	○			
ドイツ語 I B	選択 1		○		
ドイツ語 I C	選択 1	○			
ドイツ語 I D	選択 1		○		
ドイツ語セミナー A	選択 2			○	
ドイツ語セミナー B	選択 2				○
フランス語 I A	選択 1	○			
フランス語 I B	選択 1		○		
フランス語 I C	選択 1	○			
フランス語 I D	選択 1		○		
フランス語セミナー A	選択 2			○	
フランス語セミナー B	選択 2				○
中国語 I A	選択 1	○			
中国語 I B	選択 1		○		
中国語 I C	選択 1	○			
中国語 I D	選択 1		○		
中国語セミナー A	選択 2			○	
中国語セミナー B	選択 2				○

科 目 名	単位数	配当年次			
		1 年次		2 年次	
		前	後	前	後
コリア語 I A	選択 1	○			
コリア語 I B	選択 1		○		
コリア語 I C	選択 1	○			
コリア語 I D	選択 1		○		
コリア語セミナー A	選択 2			○	
コリア語セミナー B	選択 2				○
文学入門	選択 2	○	○		
哲学入門	選択 2	○	○		
心理学入門	選択 2	○	○		
教育原論 A	選択 2	○			
教育原論 B	選択 2		○		
発達と教育 A	選択 2			○	
発達と教育 B	選択 2				○
歴史入門	選択 2			○	○
倫理学入門	選択 2	○	○		
言語学入門	選択 2	○			
論理学入門	選択 2	○	○		
法学入門	選択 2	○			
日本国憲法	選択 2	○	○		
政治学入門	選択 2	○	○		
統計入門	選択 2	○	○		
社会学入門	選択 2	○	○		
経済学入門	選択 2	○	○		
社会思想史入門	選択 2			○	○
★ 生活の中の数学	選択 2	○			
★ 生活の中の物理	選択 2		○		
※★ 生活の中の化学	選択 2		○		
★ 生命と科学	選択 2			○	
★ 生活の中の統計技術	選択 2	○			

△注意事項

- 1) ★印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。(余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。)
- 2) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。
- 3) ※印「英語セミナー F 1, F 2」は2012年度不開講。

■総合科目

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
情報社会とメディア	選択	2	○	○		
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○
情報と人間	選択	2		○		
スポーツ文化論	選択	2			○	○
情報倫理	選択	2			○	
現代社会と福祉	選択	2	○			
メディアにみる福祉	選択	2		○		
世界の福祉	選択	2			○	
国際社会と日本A	選択	2			○	
国際社会と日本B	選択	2				○
国際社会と日本C	選択	2			○	
日本の文化	選択	2		○		
アジアの文化	選択	2			○	○
欧米の文化	選択	2			○	○
海外英語研修	選択	2		○		
科学技術史	選択	2	○	○		
現代の技術	選択	2		○		
環境と倫理	選択	2			○	
環境と人間A	選択	2			○	○
環境と人間B	選択	2			○	○
* 自然観察法	選択	2			○	
人権論A	選択	2	○			
人権論B	選択	2		○		
平和学入門	選択	2	○	○		
ジェンダー論	選択	2	○			
生命と共生	選択	2	○	○		
人間と社会と法	選択	2			○	
生活の中の宗教	選択	2	○	○		
現代社会と宗教	選択	2	○	○		
現代社会とスポーツ	選択	2			○	○
健康とスポーツ	選択	2	○	○		
大学生入門	選択	2	○			
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○	
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○
◆ 教養教育科目特別講義A	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義C	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義E	選択	2	○			

※2012年度は不開講

※2010年度以降不開講

◆印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは4科目8単位まで

⚠ 注意事項

- 1) * 自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

① 共同開講科目の履修方法 【2003年度～2007年度入学生】

■ 基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部の専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A・B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため古来大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育にたいする正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解及び情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）

の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスの編成方法については、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

<科目概要>

英語ⅠＡ・ⅠＢ	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡＡ・ⅡＢ	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- ① 「スポーツ技術学Ａ・Ｂ」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- ② 「英語（再）」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- ③ 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」の各科目は、予備登録が必要となります。
- ④ 「英語セミナー」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

<先修制授業科目>

- ① ドイツ語セミナーＡもしくは、Ｂを履修するためには「ドイツ語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・ⅠＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② フランス語セミナーＡもしくは、Ｂを履修するためには「フランス語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・ⅠＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ 中国語セミナーＡもしくは、Ｂを履修するためには「中国語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・ⅠＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ コリア語セミナーＡもしくは、Ｂを履修するためには「コリア語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・ⅠＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

<英語以外の外国語概要>

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠＡ・ⅠＢ	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠＣ・ⅠＤ	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーＡ、セミナーＢ	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

6. 教養教育科目特別講義・共同開講科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義（共同開講科目特別講義）を開設しています。これらの科目については、卒業要件として認めるものは、4科目8単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目 【2003年度～2007年度入学生】

■基礎科目

科 目 名	単位数		配当年次			
			1 年次		2 年次	
			前	後	前	後
仏教の思想 A	必修	2	○			
仏教の思想 B	必修	2		○		
スポーツ技術学 A	必修	1	○			
スポーツ技術学 B	必修	1		○		
英語 I A	必修	1	○			
英語 I B	必修	1	○			
英語 II A	必修	1		○		
英語 II B	必修	1		○		
英語 III	必修	1			○	
英語 IV	必修	1				○
英語セミナー A 1	選択	2	○			
英語セミナー A 2	選択	2		○		
英語セミナー B 1	選択	2			○	
英語セミナー B 2	選択	2				○
英語セミナー C 1	選択	2			○	
英語セミナー C 2	選択	2				○
英語セミナー D 1	選択	2			○	
英語セミナー D 2	選択	2				○
英語セミナー E 1	選択	2			○	
英語セミナー E 2	選択	2				○
※ 英語セミナー F 1	選択	2			○	
※ 英語セミナー F 2	選択	2				○
ドイツ語 I A	選択	1	○			
ドイツ語 I B	選択	1		○		
ドイツ語 I C	選択	1	○			
ドイツ語 I D	選択	1		○		
ドイツ語セミナー A	選択	2			○	
ドイツ語セミナー B	選択	2				○
フランス語 I A	選択	1	○			
フランス語 I B	選択	1		○		
フランス語 I C	選択	1	○			
フランス語 I D	選択	1		○		
フランス語セミナー A	選択	2			○	
フランス語セミナー B	選択	2				○
中国語 I A	選択	1	○			
中国語 I B	選択	1		○		
中国語 I C	選択	1	○			
中国語 I D	選択	1		○		
中国語セミナー A	選択	2			○	
中国語セミナー B	選択	2				○

科 目 名	単位数		配当年次			
			1 年次		2 年次	
			前	後	前	後
コリア語 I A	選択	1	○			
コリア語 I B	選択	1		○		
コリア語 I C	選択	1	○			
コリア語 I D	選択	1		○		
コリア語セミナー A	選択	2			○	
コリア語セミナー B	選択	2				○
文学入門	選択	2	○	○		
哲学入門	選択	2	○	○		
心理学入門	選択	2	○	○		
教育原論 A	選択	2	○			
教育原論 B	選択	2		○		
発達と教育 A	選択	2			○	
発達と教育 B	選択	2				○
歴史入門	選択	2			○	○
倫理学入門	選択	2	○	○		
言語学入門	選択	2	○			
論理学入門	選択	2	○	○		
法学入門	選択	2	○			
日本国憲法	選択	2	○	○		
政治学入門	選択	2	○	○		
統計入門	選択	2	○	○		
社会学入門	選択	2	○	○		
経済学入門	選択	2	○	○		
社会思想史入門	選択	2			○	○
★ 生活の中の数学	選択	2	○			
★ 生活の中の物理	選択	2		○		
※★ 生活の中の化学	選択	2		○		
★ 生命と科学	選択	2			○	
★ 生活の中の統計技術	選択	2	○			

△ 注意事項

- 1) ★印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。(余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。)
- 2) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。
- 3) ※印「英語セミナー F 1, F 2」は2012年度不開講。

■総合科目

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
情報社会とメディア	選択	2	○	○		
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○
情報と人間	選択	2		○		
スポーツ文化論	選択	2			○	○
情報倫理	選択	2			○	
現代社会と福祉	選択	2	○			
メディアにみる福祉	選択	2		○		
世界の福祉	選択	2			○	
国際社会と日本A	選択	2			○	
国際社会と日本B	選択	2				○
国際社会と日本C	選択	2			○	
日本の文化	選択	2		○		
アジアの文化	選択	2			○	○
欧米の文化	選択	2			○	○
海外英語研修	選択	2		○		
科学技術史	選択	2	○	○		
現代の技術	選択	2		○		
環境と倫理	選択	2			○	
環境と人間A	選択	2			○	○
環境と人間B	選択	2			○	○
* 自然観察法	選択	2			○	
人権論A	選択	2	○			
人権論B	選択	2		○		
平和学入門	選択	2	○	○		
ジェンダー論	選択	2	○			
生命と共生	選択	2	○	○		
人間と社会と法	選択	2			○	
生活の中の宗教	選択	2	○	○		
現代社会と宗教	選択	2	○	○		
現代社会とスポーツ	選択	2			○	○
健康とスポーツ	選択	2	○	○		
大学生入門	選択	2	○			
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○	
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○
◆ 共同開講科目特別講義	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義C	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義E	選択	2	○			

※2012年度は不開講

※2010年度以降不開講

◆印の5科目のうち、
卒業要件単位として認
めるのは4科目8単位
まで

⚠ 注意事項

- 1) * 自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

②教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）カリキュラム対照表

カリキュラム改革にともない、下記対照表の通り、入学年度によって科目名が異なり、合同授業となる場合があるので注意してください。（一部の科目については、不開講となる場合があるので注意してください。）

1. 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）基礎科目

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科 目 名	単位	科 目 名	単位
仏教の思想A	2	仏教の思想A	2
仏教の思想B	2	仏教の思想B	2
スポーツ技術学A	1	スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1	スポーツ技術学B	1
英語ⅠA	1	英語ⅠA	1
英語ⅠB	1	英語ⅠB	1
英語ⅡA	1	英語ⅡA	1
英語ⅡB	1	英語ⅡB	1
英語Ⅲ	1	英語Ⅲ	1
英語Ⅳ	1	英語Ⅳ	1
英語セミナーA 1	2	英語セミナーA 1	2
英語セミナーA 2	2	英語セミナーA 2	2
英語セミナーB 1	2	英語セミナーB 1	2
英語セミナーB 2	2	英語セミナーB 2	2
英語セミナーC 1	2	英語セミナーC 1	2
英語セミナーC 2	2	英語セミナーC 2	2
英語セミナーD 1	2	英語セミナーD 1	2
英語セミナーD 2	2	英語セミナーD 2	2
英語セミナーE 1	2	英語セミナーE 1	2
英語セミナーE 2	2	英語セミナーE 2	2
英語セミナーF 1	2	英語セミナーF 1	2
英語セミナーF 2	2	英語セミナーF 2	2
ドイツ語ⅠA	1	ドイツ語ⅠA	1
ドイツ語ⅠB	1	ドイツ語ⅠB	1
ドイツ語ⅠC	1	ドイツ語ⅠC	1
ドイツ語ⅠD	1	ドイツ語ⅠD	1
ドイツ語セミナーA	2	ドイツ語セミナーA	2
ドイツ語セミナーB	2	ドイツ語セミナーB	2
フランス語ⅠA	1	フランス語ⅠA	1
フランス語ⅠB	1	フランス語ⅠB	1
フランス語ⅠC	1	フランス語ⅠC	1
フランス語ⅠD	1	フランス語ⅠD	1
フランス語セミナーA	2	フランス語セミナーA	2
フランス語セミナーB	2	フランス語セミナーB	2
中国語ⅠA	1	中国語ⅠA	1
中国語ⅠB	1	中国語ⅠB	1
中国語ⅠC	1	中国語ⅠC	1
中国語ⅠD	1	中国語ⅠD	1
中国語セミナーA	2	中国語セミナーA	2
中国語セミナーB	2	中国語セミナーB	2
コリア語ⅠA	1	コリア語ⅠA	1
コリア語ⅠB	1	コリア語ⅠB	1
コリア語ⅠC	1	コリア語ⅠC	1
コリア語ⅠD	1	コリア語ⅠD	1
コリア語セミナーA	2	コリア語セミナーA	2
コリア語セミナーB	2	コリア語セミナーB	2

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科目名	単位	科目名	単位
文学入門	2	文学入門	2
哲学入門	2	哲学入門	2
心理学入門	2	心理学入門	2
教育原論A	2	教育原論A	2
教育原論B	2	教育原論B	2
発達と教育A	2	発達と教育A	2
発達と教育B	2	発達と教育B	2
歴史入門	2	歴史入門	2
倫理学入門	2	倫理学入門	2
言語学入門	2	言語学入門	2
論理学入門	2	論理学入門	2
法学入門	2	法学入門	2
日本国憲法	2	日本国憲法	2
政治学入門	2	政治学入門	2
統計入門	2	統計入門	2
社会学入門	2	社会学入門	2
経済学入門	2	経済学入門	2
社会思想史入門	2	社会思想史入門	2
生活の中の数学	2	生活の中の数学	2
生活の中の物理	2	生活の中の物理	2
生活の中の化学	2	生活の中の化学	2
生命と科学	2	生命と科学	2
生活の中の統計技術	2	生活の中の統計技術	2

2. 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）総合科目

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科目名	単位	科目名	単位
情報社会とメディア	2	情報社会とメディア	2
現代社会とマス・メディア	2	現代社会とマス・メディア	2
情報と人間	2	情報と人間	2
スポーツ文化論	2	スポーツ文化論	2
情報倫理	2	情報倫理	2
現代社会と福祉	2	現代社会と福祉	2
メディアにみる福祉	2	メディアにみる福祉	2
世界の福祉	2	世界の福祉	2
国際社会と日本A	2	国際社会と日本A	2
国際社会と日本B	2	国際社会と日本B	2
国際社会と日本C	2	国際社会と日本C	2
日本の文化	2	日本の文化	2
アジアの文化	2	アジアの文化	2
欧米の文化	2	欧米の文化	2
海外英語研修	2	海外英語研修	2
科学技術史	2	科学技術史	2
現代の技術	2	現代の技術	2
環境と倫理	2	環境と倫理	2
環境と人間A	2	環境と人間A	2
環境と人間B	2	環境と人間B	2
自然観察法	2	自然観察法	2
人権論A	2	人権論A	2
人権論B	2	人権論B	2
平和学入門	2	平和学入門	2
ジェンダー論	2	ジェンダー論	2
生命と共生	2	生命と共生	2
人間と社会と法	2	人間と社会と法	2
生活の中の宗教	2	生活の中の宗教	2
現代社会と宗教	2	現代社会と宗教	2
現代社会とスポーツ	2	現代社会とスポーツ	2
健康とスポーツ	2	健康とスポーツ	2
大学生入門	2	大学生入門	2
教養教育科目特別講義	2	共同開講科目特別講義	2

③固有科目の履修方法【2009年度以降入学生】

本学科のカリキュラムには、大きく分けて「数理解析」「応用数理」「情報科学」の3本柱があり、これらの分野の各科目の履修により、相互に関連する幅広い知識を総合的に深く学ぶという構成になっている。まず、1年次、2年次では基礎的な知識を修得し、数学の演習および計算機の実習の科目によって具体的にその知識を身に付ける。3年次、4年次ではそれに引きつづきより専門的な内容を学修する。さらに、4年間を通じ基礎、総合、学部共通の各科目を履修することで、人文・社会および理工学の他の分野を学び、専門にとらわれない幅広い視野を育む。また、数理情報演習では、特定のテーマに関する総合的演習を行う。セミナー・特別研究では、各教員の指導のもとで、それぞれのテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。

以上のように、「数理解析」「応用数理」「情報科学」を3本柱とするカリキュラムを通して、数理的な考えを身に付けて、就職、大学院という次のステップに進む。

履修単位数に関する具体的条件は、以下の説明と「設置科目」、「卒業・進級の要件」の注意事項をよく読むこと。

1. 学部内共通科目の履修方法

学部内共通科目は、理工学部6学科の共通科目であるが、特に数理情報学科では、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ・計算機基礎実習Ⅱおよび総合演習を必修科目にしている。

また、それ以外の科目も、理工系の学生の基礎教養的な科目なので、学科固有科目と同様に重要であると考えている。

2. 学科固有科目の履修方法

1年次、2年次に必修科目、コア選択必修科目のほとんどが配置しており、全分野で必要となる基礎知識を身につけるようになっている。必修科目はすべての単位を取得すること。コア選択必修科目は、3つのコア科目群（数理解析、応用数理、情報科学）のうち少なくともひとつのコア科目群のなかから必要単位を取得すること。できれば、コア選択必修科目も全科目（3つのコア科目群の科目すべて）履修することが望ましい。また、演習・実習も数多くあり知識の応用力を養う。3年次、4年次では、特別研究に向けてさまざまな分野の選択科目が設置しており、興味に応じて自由に選択できるようになっている。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区 分			単位数
教養教育科目 (共同開講科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
	学部内共通科目		必修
		選択	4
		(小計)	(12)
学 科 固 有 科 目	必修		40
	コア選択必修		16 A)
	選択		28
	(小計)		(84)
フリーゾーン			10 B)
合 計			134

⚠ 注意事項

A) 設置科目一覧の3つのコア科目群のうちいずれか1つから16単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。

B) フリーゾーンについては教養教育科目、学部内共通科目、学科固有科目、他学科科目から区分を問わずに修得することができる。随意科目は除く。

2008年度以降入学生は単位互換制度も参照。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	20
	卒業要件総修得単位数	30
3 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	34
	コア選択必修科目単位数	4 C)
	卒業要件総修得単位数	62
4 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	44 D)
	コア選択必修科目単位数	10 C)
	卒業要件総修得単位数	106
卒 業	必 修 科 目 単 位 数	60
	コア選択必修科目単位数	16 C)
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

C) 3つのコア科目群のうちいずれか1つより修得する単位数。

D) 44単位の内、次の科目を修得していること。
数理情報演習、総合演習、1年次配当必修科目のすべて。

4. 設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考	
					1 年		2 年		3 年		4 年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
学部内共通科目	英語	科学技術英語	選択	2								○		
	化学	化学概論Ⅰ	選択	2	○									
		化学概論Ⅱ	選択	2		○								
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○							
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○						
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○									
		地学概論Ⅱ	選択	2		○								
	実験・実習	物理実験	必修	2				○						
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○									
		計算機基礎実習Ⅱ	必修	2		○								
		自然観察実習	選択	2	○									
		学外実習（キャリア実践実習）	選択	2					○					
		海外キャリア実践教育及び実習A	選択	2					○				）履修希望者は必ずA・B ）両方を登録すること	
		海外キャリア実践教育及び実習B	選択	2					○					
		総合演習	必修	2					○					
	総合	科学思想史	選択	2					○				○	
		情報学概論	選択	2				○			○			
		環境科学	選択	2				○			○			
		資源エネルギー論	選択	2					○				○	
		人間工学	選択	2					○		○			○
		工学概論	選択	2				○				○		
		生体情報概論	選択	2				○				○		
		工業経済	選択	2					○					○
		生態学概論	選択	2				○				○		
		地域環境概論	選択	2				○				○		
		地球環境概論	選択	2					○					○
		情報と職業	選択	2				○						
		MOT概論	選択	2				○				○		
		MOT演習	選択	2					○				○	
		知的財産概論	選択	2			○				○			○
	キャリアデザイン	選択	2	○										
	キャリアプランニング	選択	2				○							
	学部内固有科目	数学序論	随意	②	○									
線形代数・演習Ⅰ		必修	4	○										
線形代数・演習Ⅱ		必修	4		○									
微積分・演習Ⅰ		必修	4	○										
微積分・演習Ⅱ		必修	4		○									
集合と位相・演習		コア	4				○						(M)	
離散数学・演習		コア	2					○					(M)（I）	
関数論・演習		コア	4						○				(M)	
微分幾何		コア	2							○			(M)	
確率統計・演習Ⅰ		コア	2					○					(M)	
確率統計・演習Ⅱ		選択	2						○					
関数解析		選択	2									○or○		
偏微分方程式		選択	2									○or○		
計算機援用数学		選択	2									○or○		
多様体と力学系		選択	2									○or○		
大域解析		選択	2									○or○		
物理学序論		随意	②	●	○									
物理数学・演習Ⅰ		必修	4	○										
物理数学・演習Ⅱ		必修	4		○									
力学		コア	2					○					(P)	
電気と磁気		コア	2					○					(P)	
ベクトル解析		コア	2					○					(M)（P）	

区 分	授業科目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考
				1 年		2 年		3 年		4 年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
学 科 固 有 科 目	数理モデル基礎・演習Ⅰ	コア	2			○						(M) (P)
	数理モデル基礎・演習Ⅱ	コア	2				○					(M) (P)
	現象の数学A	コア	2					○				(P)
	現象の数学B	選択	2						○			
	応用数理A	選択	2					○ or ○				※2012年度不開講（隔年開講のため）
	応用数理B	選択	2					○ or ○				
	理論物理A	選択	2					○ or ○				※2012年度不開講（隔年開講のため）
	理論物理B	選択	2					○ or ○				
	数値計算法	コア	2			○						(M) (P) (I)
	数値計算法演習	コア	2			○						(M) (P) (I)
	計算科学Ⅰ	コア	2				○					(P)
	計算科学演習Ⅰ	コア	2				○					(P)
	計算科学Ⅱ	コア	2						○			(P)
	計算科学演習Ⅱ	コア	2						○			(P)
	グラフィックス基礎・演習	コア	4						○			(I)
	パターン情報処理	選択	2						○			
	情報処理の基礎	必修	2			○						
	計算機システムⅠ	コア	2				○					(I)
	計算機システムⅡ	コア	2					○				(I)
	プログラミング・演習	必修	4				○					
	応用プログラミング演習	コア	4					○				(I)
	アルゴリズム・演習	コア	4					○				(I)
	データ構造とアルゴリズム	コア	2						○			(I)
	応用アルゴリズム	選択	2							○		
	記号処理	選択	2						○			
	オートマトン	選択	2						○			
	ネットワーク構成論	選択	2							○		
	認知科学と人工知能	選択	2							○		
	デジタル信号処理	選択	2							○		
	数理計画法	選択	2							○		
	データベース	選択	2							○		
	数理情報演習	必修	2							○		
	基礎セミナー	選択	2	○					○			
	プレゼンテーション演習	随意	②						○			
	特別講義	選択	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
	セミナー	必修	2							○		
	特別研究	必修	6								○	

「必修」＝必修科目、「コア」＝コア選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

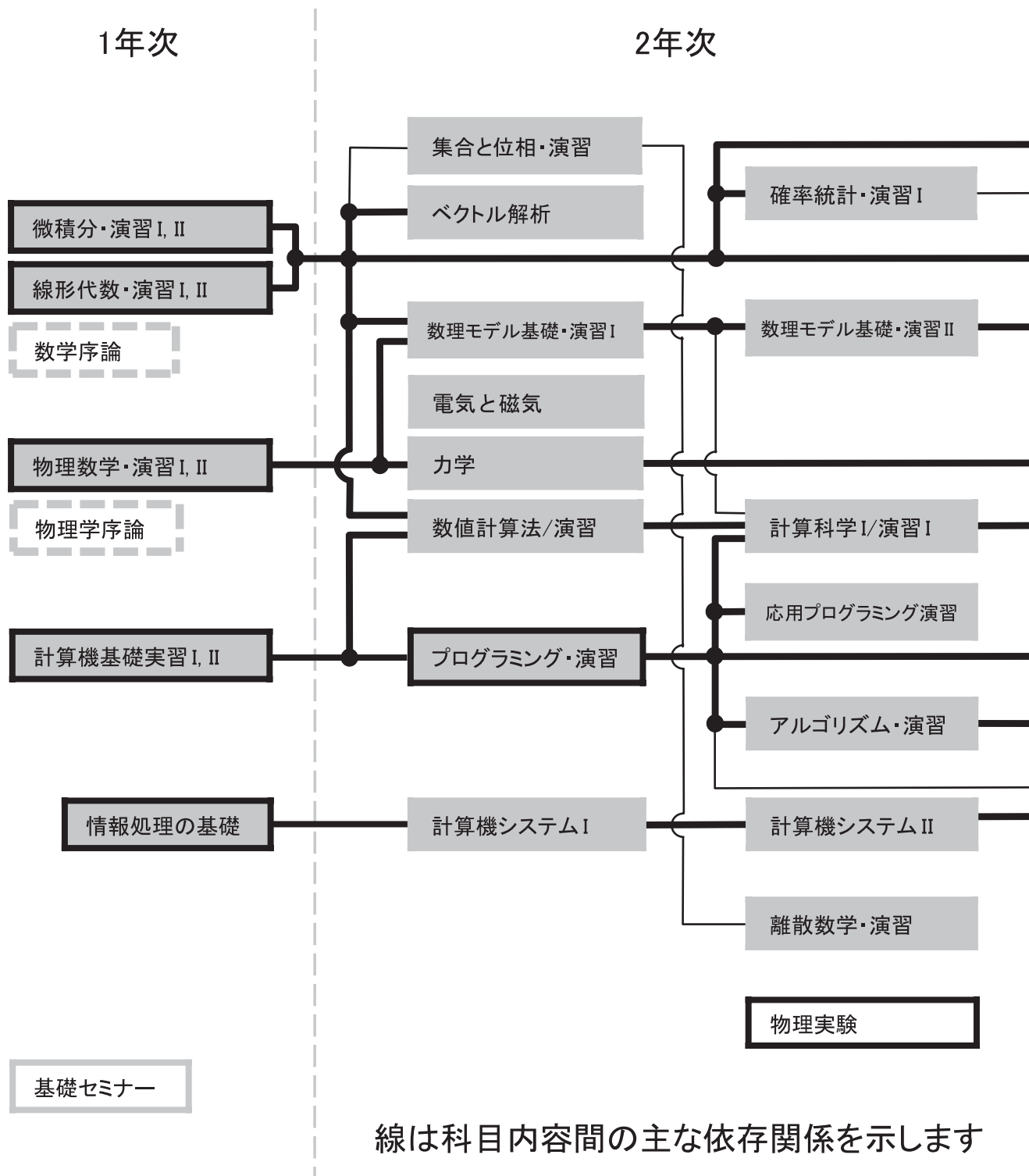
⚠ 注意事項

- 1) 学外実習（キャリア実践実習）、海外キャリア実践教育及び実習A・Bは総合演習と同一の学期に行う。
登録の際は教員の指示に従うこと。
- 2) コア選択必修科目の備考欄の記号（M）、（P）、（I）はそれぞれ

（M）数理解析コア科目群 （P）応用数理コア科目群 （I）情報科学コア科目群

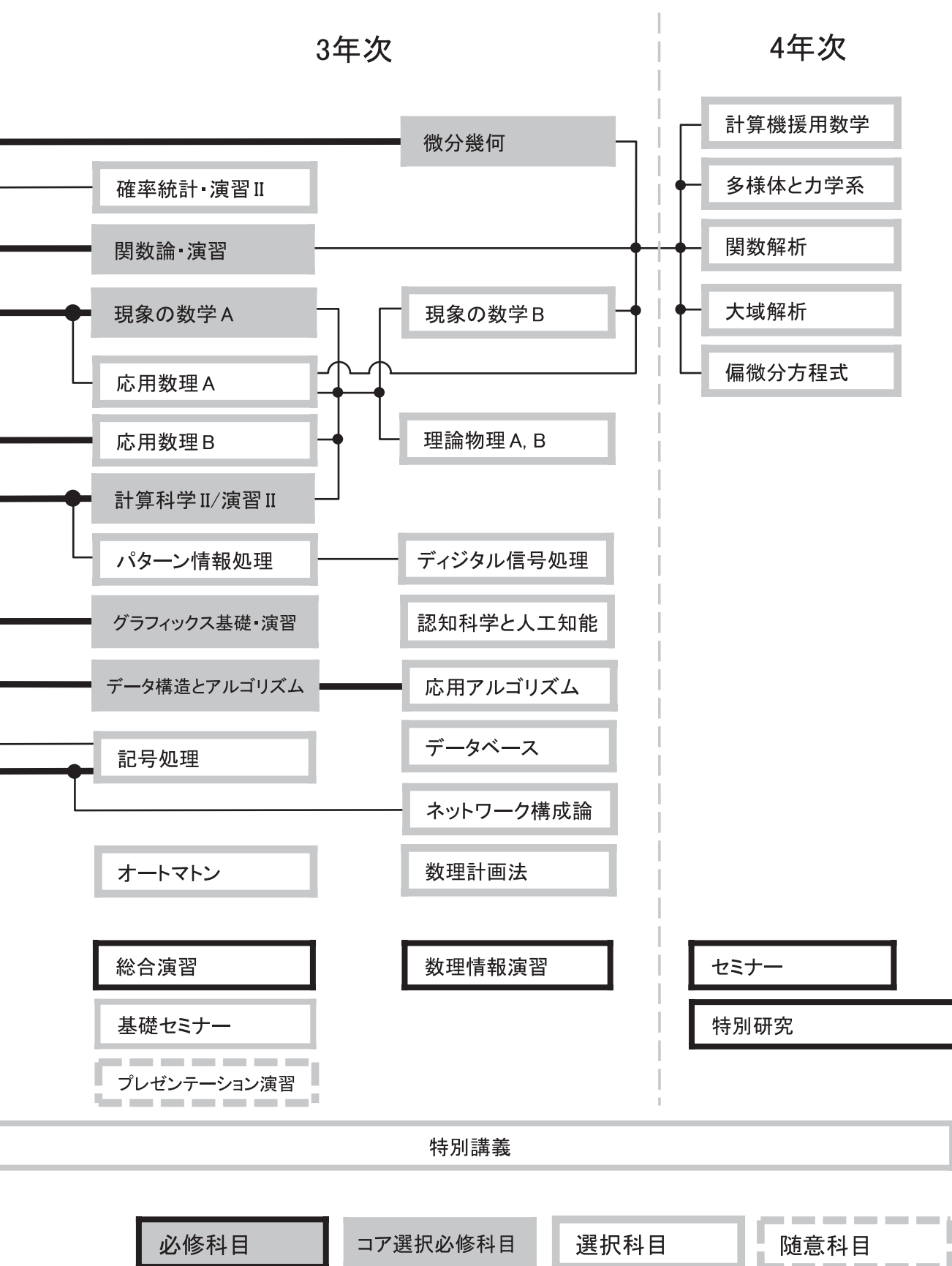
 に属する科目であることを表している。「（P）（I）」のように複数の記号のついた科目は、対応するコア科目群のいずれにも属している。3つのコア科目群のうちいずれか1つから16単位以上修得すること。
- 3) 特別講義は、1年次から4年次の間に行われる12回以上の独立の講義のうち6回以上合格点を得る事を必要とする。ただし、登録は4年次前期に行うことになるので忘れないように気を付けること。
- 4) ●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他合科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5. カリキュラムフローチャート



特別講義

数理情報学科 カリキュラムフローチャート



③固有科目の履修方法【2007・2008年度入学生】

本学科のカリキュラムには、大きく分けて「数理解析」「応用数理」「情報科学」の3本柱があり、これらの分野の各科目の履修により、相互に関連する幅広い知識を総合的に深く学ぶという構成になっている。まず、1年次、2年次では基礎的な知識を修得し、数学の演習および計算機の実習の科目によって具体的にその知識を身に付ける。3年次、4年次ではそれに引きつづきより専門的な内容を学修する。さらに、4年間を通じ基礎、総合、学部共通の各科目を履修することで、人文・社会および理工学の他の分野を学び、専門にとらわれない幅広い視野を育む。また、数理情報演習では、特定のテーマに関する総合的演習を行う。セミナー・特別研究では、各教員の指導のもとで、それぞれのテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。

以上のように、「数理解析」「応用数理」「情報科学」を3本柱とするカリキュラムを通して、数理的な考えを身に付けて、就職、大学院という次のステップに進む。

履修単位数に関する具体的条件は、以下の説明と「設置科目」、「卒業・進級の要件」の注意事項をよく読むこと。

1. 学部内共通科目の履修方法

学部内共通科目は、理工学部6学科の共通科目であるが、特に数理情報学科では、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ・計算機基礎実習Ⅱおよび総合演習を必修科目にしている。

また、それ以外の科目も、理工系の学生の基礎教養的な科目なので、学科固有科目と同様に重要であると考えている。

2. 学科固有科目の履修方法

1年次、2年次に必修科目、コア選択必修科目のほとんどが配置しており、全分野で必要となる基礎知識を身につけるようになっている。必修科目はすべての単位を取得すること。コア選択必修科目は、3つのコア科目群（数理解析、応用数理、情報科学）のうち少なくともひとつのコア科目群のなかから必要単位を取得すること。できれば、コア選択必修科目も全科目（3つのコア科目群の科目すべて）履修することが望ましい。また、演習・実習も数多くあり知識の応用力を養う。3年次、4年次では、特別研究に向けてさまざまな分野の選択科目が設置しており、興味に応じて自由に選択できるようになっている。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区 分			単位数
教養教育科目 (共同開講科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
	学部内共通科目		必修
		選択	4
		(小計)	(12)
学科固有科目		必修	40
		コア選択必修	16 A)
		選択	28
		(小計)	(84)
フリーゾーン			10 B)
合 計			134

⚠ 注意事項

A) 設置科目一覧の3つのコア科目群のうちいずれか1つから16単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。

B) フリーゾーンについては教養教育科目、学部内共通科目、学科固有科目、他学科科目から区分を問わずに修得することができる。随意科目は除く。

2008年度入学生は単位互換制度も参照。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	20
	卒業要件総修得単位数	30
3 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	34
	コア選択必修科目単位数	4 C)
	卒業要件総修得単位数	62
4 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	44 D)
	コア選択必修科目単位数	10 C)
	卒業要件総修得単位数	106
卒 業	必 修 科 目 単 位 数	60
	コア選択必修科目単位数	16 C)
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

C) 3つのコア科目群のうちいずれか1つより修得する単位数。

D) 44単位の内、次の科目を修得していること。
数理情報演習、総合演習、1年次配当必修科目のすべて。

4. 設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考	
					1 年		2 年		3 年		4 年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
学部内 共通科目	英語	科学技術英語	選択	2								○		
	化学	化学概論Ⅰ	選択	2	○									
		化学概論Ⅱ	選択	2		○								
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○							
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○						
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○									
		地学概論Ⅱ	選択	2		○								
	実験・実習	物理実験	必修	2				○						
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○									
		計算機基礎実習Ⅱ	必修	2		○								
		自然観察実習	選択	2	○									
		学外実習	選択	2					○					
		総合演習	必修	2					○					
		総合	科学思想史	選択	2				○			○		○
	情報学概論		選択	2				○			○		○	
	環境科学		選択	2				○			○		○	
	資源エネルギー論		選択	2				○			○		○	
	人間工学		選択	2				○			○		○	
	工学概論		選択	2				○			○		○	
	生体情報概論		選択	2				○			○		○	
	工業経済		選択	2				○			○		○	
	生態学概論		選択	2				○			○		○	
	地域環境概論		選択	2				○			○		○	
	地球環境概論		選択	2				○			○		○	
	情報と職業		選択	2				○						
	MOT概論		選択	2				○			○		○	
	MOT演習		選択	2				○			○		○	
	知的財産概論		選択	2		○		○			○		○	
	キャリアデザイン		選択	2	○									
キャリアプランニング	選択		2			○								
学部内 専攻科目	数学序論		随意	②	○									
	線形代数・演習Ⅰ		必修	4	○									
	線形代数・演習Ⅱ	必修	4		○									
	微積分・演習Ⅰ	必修	4	○										
	微積分・演習Ⅱ	必修	4		○									
	集合と位相・演習	コア	4			○						(M)		
	離散数学・演習	コア	2				○					(M)（Ⅰ）		
	関数論・演習	コア	4					○				(M)		
	微分幾何	コア	2						○			(M)		
	確率統計・演習Ⅰ	コア	2				○					(M)		
	確率統計・演習Ⅱ	選択	2					○						
	関数解析	選択	2							○or○				
	偏微分方程式	選択	2							○or○				
	計算機援用数学	選択	2							○or○				
	多様体と力学系	選択	2							○or○				
	大域解析	選択	2							○or○				
	物理学序論	随意	②	●	○									
	物理数学・演習Ⅰ	必修	4	○										
	物理数学・演習Ⅱ	必修	4		○									
	力学	コア	2				○					(P)		
	電気と磁気	コア	2				○					(P)		
	ベクトル解析	コア	2				○					(M)（P）		
	数理モデル基礎・演習Ⅰ	コア	2				○					(M)（P）		
数理モデル基礎・演習Ⅱ	コア	2					○				(M)（P）			

区 分	授業科目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考
				1 年		2 年		3 年		4 年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
学 科 固 有 科 目	現象の数学A	コア	2					○				(P)
	現象の数学B	選択	2						○			
	応用数理A	選択	2					○	or	○		※2012年度不開講（隔年開講のため）
	応用数理B	選択	2					○	or	○		
	理論物理A	選択	2					○	or	○		※2012年度不開講（隔年開講のため）
	理論物理B	選択	2					○	or	○		
	数値計算法	コア	2			○						(M) (P) (I)
	数値計算法演習	コア	2			○						(M) (P) (I)
	計算科学Ⅰ	コア	2				○					(P)
	計算科学演習Ⅰ	コア	2				○					(P)
	計算科学Ⅱ	コア	2					○				(P)
	計算科学演習Ⅱ	コア	2					○				(P)
	グラフィックス基礎・演習	コア	4					○				(I)
	パターン情報処理	選択	2					○				
	情報処理の基礎	必修	2		○							
	計算機システムⅠ	コア	2			○						(I)
	計算機システムⅡ	コア	2				○					(I)
	プログラミング・演習	必修	4			○						
	応用プログラミング演習	コア	4				○					(I)
	アルゴリズム・演習	コア	4				○					(I)
	データ構造とアルゴリズム	コア	2					○				(I)
	応用アルゴリズム	選択	2						○			
	記号処理	選択	2					○				
	オートマトン	選択	2					○				
	ネットワーク構成論	選択	2						○			
	認知科学と人工知能	選択	2						○			
	ディジタル信号処理	選択	2						○			
	数理計画法	選択	2						○			
	データベース	選択	2						○			
	数理情報演習	必修	2							○		
	基礎セミナー	選択	2	○					○			
	プレゼンテーション演習	随意	②						○			
	特別講義	選択	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
	セミナー	必修	2							○		
	特別研究	必修	6								○	

「必修」＝必修科目、「コア」＝コア選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

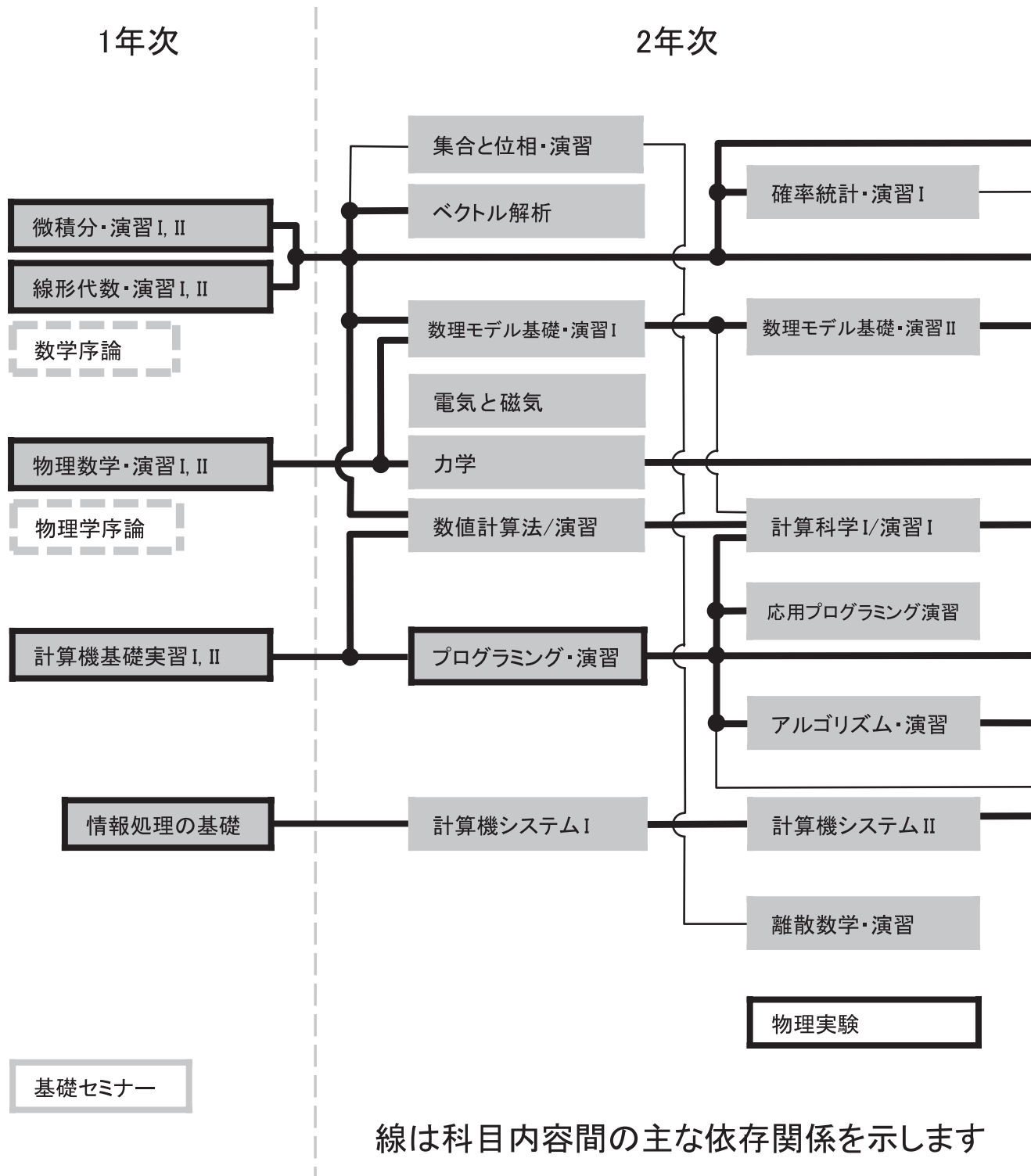
⚠ 注意事項

- 1) 学外実習は総合演習と同一の学期に行う。登録の際は教員の指示に従うこと。
- 2) コア選択必修科目の備考欄の記号 (M)、(P)、(I) はそれぞれ

(M) 数理解析コア科目群 (P) 応用数理コア科目群 (I) 情報科学コア科目群

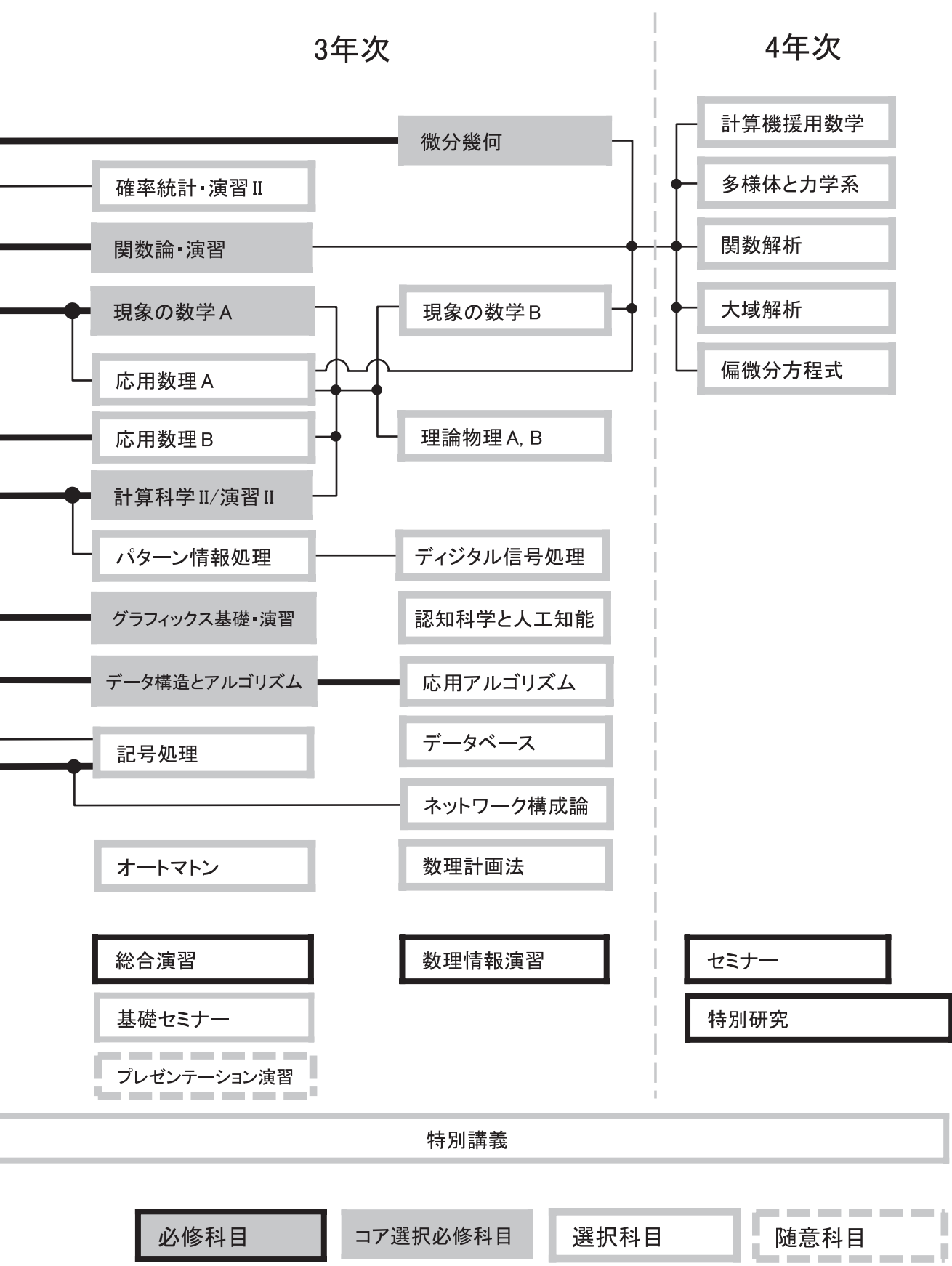
 に属する科目であることを表している。「(P) (I)」のように複数の記号のついた科目は、対応するコア科目群のいずれにも属している。3つのコア科目群のうちいずれか1つから16単位以上修得すること。
- 3) 特別講義は、1年次から4年次の間に行われる12回以上の独立の講義のうち6回以上合格点を得る事を必要とする。ただし、登録は4年次前期に行うことになるので忘れないように気を付けること。
- 4) ●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他合科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5. カリキュラムフローチャート



特別講義

数理情報学科 カリキュラムフローチャート



③固有科目の履修方法【2006年度以前入学生】

本学科のカリキュラムには、図に示されているように、大きく分けて「情報」「数学」「現象」の3本柱があり、これらの分野の各科目の履修により、相互に関連する幅広い知識を総合的に深く学ぶという構成になっている。まず、1年次、2年次では基礎的な知識を修得し、数学の演習および計算機の実習の科目によって具体的にその知識を身に付ける。3年次、4年次ではそれに引きつづきより専門的な内容を学修する。さらに、4年間を通じ基礎、総合、学部共通の各科目を履修することで、人文・社会および理工学の他の分野を学び、専門にとらわれない幅広い視野を育む。また、数理情報演習では、特定のテーマに関する総合的演習を行う。セミナー・特別研究では、各教員の指導のもとで、それぞれのテーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。

以上のように、「情報」「数学」「現象」を3本柱とするカリキュラムを通して、数理的な考えを身に付けて、就職、大学院という次のステップに進む。

履修単位数に関する具体的な条件は、以下の説明と「設置科目」、「卒業・進級の要件」の注意事項をよく読むこと。

1. 学部内共通科目の履修方法

学部内共通科目は、理工学部6学科の共通科目であるが、特に数理情報学科では、理工学基礎実験A、計算機基礎実習Ⅰ・計算機基礎実習Ⅱおよび総合演習を必修科目にしている。

また、それ以外の科目も、理工系の学生の基礎教養的な科目なので、学科固有科目と同様に重要であると考えていること。

2. 学科固有科目の履修方法

1年次、2年次に必修科目、グループ必修科目のほとんどが配置しており、全分野で必要となる基礎知識を身につけるようになっている。必修科目はすべての単位を、グループ必修科目はグループになっている科目のうちから必要単位を取得すること。できれば、グループ必修科目も全科目履修することが望ましい。また、演習・実習も数多くあり知識の応用力を養う。3年次、4年次では、特別研究に向けてさまざまな分野の選択科目が設置しており、興味に応じて自由に選択できるようになっている。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区 分			単位数
共同開講科目 (共通科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
	学部内共通科目	必修	8
		選択	4 A)
		(小計)	(12)
学科固有科目	必修	32	
	グループ必修	18 B)	
	選択	28	
	(小計)	(78)	
フリーゾーン			16 C)
合 計			134

⚠ 注意事項

- A) 総合分野より4単位以上修得すること。
- B) 設置科目一覧の@マークの科目（数理計算）より12単位、\$マークの科目（情報科学）より6単位の計18単位を修得すること。各グループの余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。
- C) フリーゾーンについては共同開講科目（共通科目）、学部内共通科目、学科固有科目、他学科科目から区分を問わずに修得することができる。随意科目は除く。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	18
	卒業要件総修得単位数	30
3 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	32
	グループ必修科目単位数	6 D)
	卒業要件総修得単位数	62
4 年 進 級	必 修 科 目 単 位 数	40 E)
	グループ必修科目単位数	14 D)
	卒業要件総修得単位数	106
卒 業	必 修 科 目 単 位 数	52
	グループ必修科目単位数	18 D)
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

- D) @マークの科目（数理計算）、および\$マークの科目（情報科学）より修得する単位数。
- E) 40単位の内、次の科目を修得していること。
数理情報演習、総合演習、線形代数および演習Ⅱ、1年次配当必修科目のすべて。

4. 設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
学部内	英語	科学技術英語	選択	2								○	
	化学	化学概論Ⅰ	選択	2	○								
		化学概論Ⅱ	選択	2		○							
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○						
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○					
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	理工学基礎実験 A	必修	2				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	必修	2		○							
生物多様性実習 B		選択	2	○	●								
学外実習		選択	2					○					
総合演習		必修	2					○					
共通科目	総合	科学思想史	選択	2				○		○		○	〔総合分野より4単位以上取得すること。〕
		情報学概論	選択	2			○		○		○		
		環境科学	選択	2			○		○		○		
		資源エネルギー論	選択	2				○		○		○	
		人間工学	選択	2				○		○		○	
		工学概論	選択	2			○		○		○		
		生体情報概論	選択	2			○		○		○		
		工業経済	選択	2				○		○		○	
		生態学概論	選択	2			○		○		○		
		地球環境概論	選択	2				○		○		○	
		情報と職業	選択	2			○						
		MOT概論	選択	2			○		○		○		
		MOT演習	選択	2				○		○		○	
		知的財産概論	随意	②		○		○		○		○	
		キャリアデザイン	選択	2	○					○			2005年度以降入学生対象 2005年度以降入学生対象
		キャリアプランニング	選択	2			○						
		学 科	基礎数学	数学序論	随意	②	○						
線形代数および演習Ⅰ	必修			4	○	●		●					
線形代数および演習Ⅱ	必修			4		○	●						
微積分および演習Ⅰ	必修			4	○								
微積分および演習Ⅱ	必修			4		○							
集合・位相および演習	グループ			4			○	●					
関数論および演習	グループ			4					○				
微分幾何入門	選択			2						○			
固有数学	確率・統計および演習Ⅰ		選択	2				○	●				○or○ ○or○ ○or○ ○or○ ○or○
	確率・統計および演習Ⅱ		選択	2					○	●			
	関数解析	選択	2										
	偏微分方程式	選択	2										
	固有値問題	選択	2										
	多様体と力学系	選択	2										
	大域解析	選択	2										
応用物理	物理学序論	随意	②	●	○							@	
	物理数学および演習Ⅰ	必修	2	○									
	物理数学および演習Ⅱ	必修	2		○								
	力学Ⅰ	グループ	2			○							
	電磁気学	選択	2				○	●					
	力学Ⅱ	選択	2					●	○				
	統計熱力学	選択	2						○				
※2012年度不開講（隔年開講のため）													

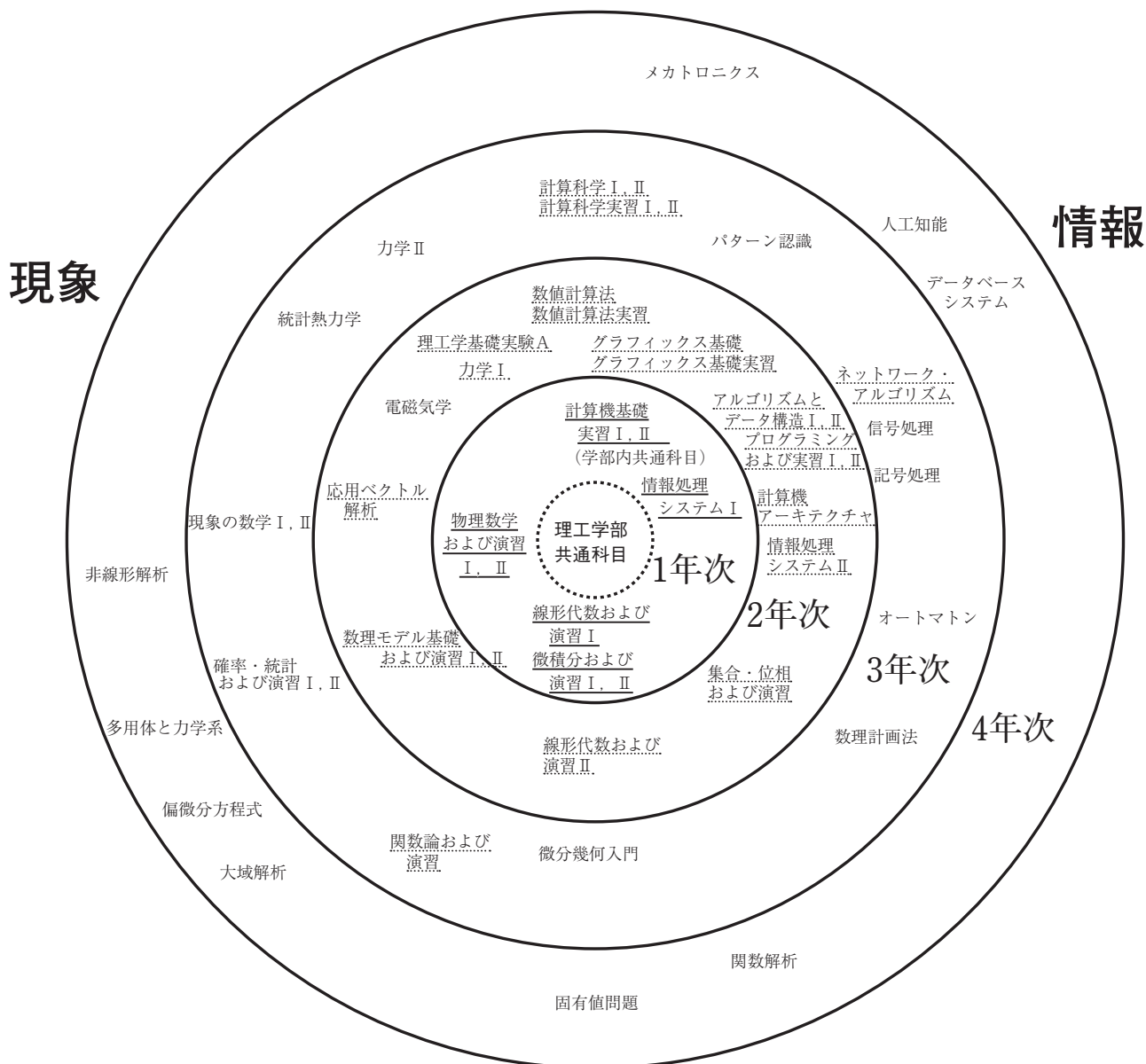
区 分		授業科目	単位数	配当年次（前期・後期）								備 考	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
学 科 目	現象の数学	応用ベクトル解析	グループ	2			○						@
		数理モデル基礎および演習Ⅰ	グループ	2			○					@	
		数理モデル基礎および演習Ⅱ	グループ	2				○				@	
		現象の数学Ⅰ	選択	2					○				
		現象の数学Ⅱ	選択	2						○			
		非線形解析	選択	2				○			○	※2012年度不開講（隔年開講のため）	
		計算数理	数値計算法	グループ	2			○					@
	グラフィックス基礎		グループ	2			○	●				@	
	数値計算法実習		グループ	1			○					@	
	グラフィックス基礎実習		グループ	1			○	●				@	
	計算科学Ⅰ		選択	2				○	●				
	計算科学Ⅱ		選択	2					○	●			
	計算科学実習Ⅰ		選択	1				○	●				
	計算科学実習Ⅱ		選択	1					○	●			
	メカトロニクス		選択	2								○	
	パターン認識		選択	2					○				
	情報システム	情報処理システムⅠ	必修	2		○							
		情報処理システムⅡ	グループ	2			○					\$	
		計算機アーキテクチャ	選択	2				○					
		人工知能	選択	2								○	
	計算機科学	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	グループ	2			○					\$	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	グループ	2				○				\$	
		プログラミングおよび実習Ⅰ	グループ	2			○					\$	
		プログラミングおよび実習Ⅱ	グループ	2				○				\$	
		ネットワーク・アルゴリズム	グループ	2					○			\$	
	情報数理	記号処理	選択	2					○				
信号処理		選択	2					○					
数理計画法		選択	2						○				
オートマトン		選択	2					○					
データベースシステム		選択	2							●	○		
演習	数理情報演習	必修	2						○				
	基礎セミナー	選択	2	○				○					
	プレゼンテーション演習	随意	②					○					
	特別講義	選択	2	○	○	○	○	○	○	○	注意事項3) 参照		
	セミナー	必修	2						○				
	特別研究	必修	6							○			

「必修」＝必修科目、「グループ」＝グループ必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠ 注意事項

- 1) 学外実習は総合演習と同一の学期に行う。登録の際は教員の指示に従うこと。
- 2) @マークの科目と\$マークの科目はグループ必修科目であり、以下の点に注意すること。
 - ① @マークのグループ必修科目10科目より12単位修得すること。
 - ② \$マークのグループ必修科目6科目より6単位修得すること。
- 3) 特別講義は、1年次から4年次の間に行われる12回以上の独立の講義のうち6回以上合格点を得る事を必要とする。ただし、登録は4年次前期に行うことになるので忘れないように気を付けること。
- 4) ●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。
- 5) 2006年度以前入学の1年次生が「線形代数および演習Ⅱ」を履修するためには事前登録が必要である。

5. カリキュラムフローチャート



下線は必修科目

点線はグループ必修科目

数理情報演習
セミナー
特別研究

数学

●学科固有科目
数理情報演習
セミナー
特別研究
特別講義
総合実習

●学部内共通科目
計算機基礎実習I, II
理工学基礎実験A
総合演習
学外実習
科学技術英語
科学思想史
情報学概論
環境科学
資源エネルギー論
人間工学
工学概論
生体情報概論
工業経済
MOT概論
MOT演習
知的財産概論
キャリアデザイン
(2005年度以降入学生対象)

生態学概論
地球環境概論
情報と職業
化学概論I, II
生物学概論I, II
地学概論I, II

④学科固有科目カリキュラム対照表

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科目名	単位	科目名	単位
数学序論	2	数学序論	2
線形代数・演習Ⅰ	4	線形代数および演習Ⅰ	4
線形代数・演習Ⅱ	4	線形代数および演習Ⅱ	4
微積分・演習Ⅰ	4	微積分および演習Ⅰ	4
微積分・演習Ⅱ	4	微積分および演習Ⅱ	4
集合と位相・演習	4	集合・位相および演習	4
離散数学・演習	2		
関数論・演習	4	関数論および演習	4
微分幾何	2	微分幾何入門	2
確率統計・演習Ⅰ	2	確率・統計および演習Ⅰ	2
確率統計・演習Ⅱ	2	確率・統計および演習Ⅱ	2
関数解析	2	関数解析	2
偏微分方程式	2	偏微分方程式	2
計算機援用数学	2	固有値問題	2
多様体と力学系	2	多様体と力学系	2
大域解析	2	大域解析	2
物理学序論	2	物理学序論	2
物理数学・演習Ⅰ	4	物理数学および演習Ⅰ	2
物理数学・演習Ⅱ	4	物理数学および演習Ⅱ	2
力学	2	力学Ⅰ	2
電気と磁気	2	電磁気学	2
理論物理A	2	統計熱力学	2
理論物理B	2	力学Ⅱ	2
ベクトル解析	2	応用ベクトル解析	2
数理モデル基礎・演習Ⅰ	2	数理モデル基礎および演習Ⅰ	2
数理モデル基礎・演習Ⅱ	2	数理モデル基礎および演習Ⅱ	2
現象の数学A	2	現象の数学Ⅰ	2
現象の数学B	2	現象の数学Ⅱ	2
応用数理A	2	非線形解析	2
応用数理B	2		
数値計算法	2	数値計算法	2
数値計算法演習	2	数値計算法実習	1
グラフィックス基礎・演習	4	グラフィックス基礎	2
		グラフィックス基礎実習	1
計算科学Ⅰ	2	計算科学Ⅰ	2
計算科学演習Ⅰ	2	計算科学実習Ⅰ	1
計算科学Ⅱ	2	計算科学Ⅱ	2
計算科学演習Ⅱ	2	計算科学実習Ⅱ	1
		メカトロニクス	2
パターン情報処理	2	パターン認識	2
情報処理の基礎	2	情報処理システムⅠ	2
計算機システムⅠ	2	情報処理システムⅡ	2
計算機システムⅡ	2	計算機アーキテクチャ	2
ネットワーク構成論	2		
認知科学と人工知能	2	人工知能	2
データ構造とアルゴリズム	2	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2
アルゴリズム・演習	4	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2
プログラミング・演習	4	プログラミングおよび実習Ⅰ	2

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科目名	単位	科目名	単位
応用プログラミング演習	4	プログラミングおよび実習Ⅱ	2
応用アルゴリズム	2	ネットワーク・アルゴリズム	2
記号処理	2	記号処理	2
ディジタル信号処理	2	信号処理	2
数理計画法	2	数理計画法	2
オートマトン	2	オートマトン	2
データベース	2	データベースシステム	2
数理情報演習	2	数理情報演習	2
基礎セミナー	2	基礎セミナー	2
プレゼンテーション演習	2	プレゼンテーション演習	2
特別講義	2	特別講義	2
セミナー	2	セミナー	2
特別研究	6	特別研究	6

⑤他学科科目の履修について

2001年度より理工学部ではカリキュラム改革の一環として、自主的学習プランの作成と幅広い知識の習得や総合的思考力を養うために、他学科科目の履修を大幅に拡大しました。履修を希望する者は以下の事項に注意して履修してください。

1. 履修可能他学科科目

＜科目＞

各学科から提供された科目の中から、あなたの所属する学科が履修を認めた科目。
(理工学部教務課備えつけの、他学科科目受講可否一覧を参照してください。)

＜配当年次・対象＞

科目提供学科での配当年次および対象入学年度に従います。
履修要項で確認してください。

＜開講曜講時＞

理工学部教務課カウンターに設置している他学科時間割表で確認してください。

2. 単位認定

他学科科目は、各学科次の通り単位認定されます。

＜数理情報学科＞

2006年度以前入学生は、フリーゾーン科目として16単位まで認定。

2007年度以降入学生は、フリーゾーン科目として10単位まで認定。

＜電子情報学科＞

学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。

＜機械システム工学科＞

2006年度以前入学生は、学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。

2007年度入学生より、自由選択科目として9単位まで認定。

＜物質化学科＞

学科固有科目選択科目として6単位まで認定。

＜情報メディア学科＞

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

＜環境ソリューション工学科＞

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

上記以外の学生は随意科目として認定。

3. 履修方法

受講登録より事前に、必ず『他学科科目履修届』(理工学部教務課窓口にて配布)を提出してください。(提出がない場合、受講、単位認定ができない場合があります。)

履修制限単位数に含まれます。

⚠ 注意事項

科目によっては該当学科の受講生を優先するため、受講可能人数を制限する場合があります。(その場合、掲示にて発表しますので注意してください。)

⑥単位互換制度について

単位互換制度とは、他大学が提供する科目のうち、理工学部があらかじめ履修可能科目（掲示等でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定される制度です。受講料は無料です。（ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。）

また、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が「他大学」または「キャンパスプラザ京都」において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

理工学部では、大学コンソーシアム京都の単位互換制度と、環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度を利用することができます。

1. 履修条件

【2007年度以前入学生】

随意科目として、大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。

【2008年度以降入学生】

学科	単位互換 制度名	備 考			
		単位認定	登録制限	受講対象	備考
数理情報学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中にフリーゾーン科目として上限2単位まで単位を認定する。	履修登録制限単位には含まない。	1年次生～3年次生 (卒業年次生は随意科目として受講可。)	大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。
	環びわ湖大学コンソーシアム				
機械システム工学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中に自由選択科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学コンソーシアム				
電子情報学科	大学コンソーシアム京都 環びわ湖大学コンソーシアム	・在学期間中に教養教育科目の総合科目として上限2単位まで単位を認定する。			
物質化学科					
情報メディア学科					
環境ソリューション工学科					

2. 「単位互換履修生」の学籍およびその取り扱い

- ①履修手続きを完了した者には、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。
- ②単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
- ③単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。

3. 試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱い科目

本学の 授業科目	単位互換科目	対応方法	本学の科目 の追試対象	追 受 験 試 料
◎	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
○	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、 本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択	認める	必要

4. その他の注意事項

単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることになります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。

5. 大学コンソーシアム京都の単位互換制度について

大学コンソーシアム京都においては、1994年度から京都地域の大学および短期大学が単位互換の協定を締結し、各大学から特色ある科目を提供することによって、相互に科目履修のできる「単位互換授業」の制度を設置、さらには、1998年度からは、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO団体等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め40以上の大学および短期大学が参加していることもあり、これまでも多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、今後、理工学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配付する予定です。

(1)出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都 単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日に出願手続きをおこなってください。

対象科目	登録日
全科目（前期科目・後期科目・集中科目すべて）	4月2日（月）9：00～4月11日（水）16：00

出願手続きは、ポータルサイトにログインして「大学コンソーシアム京都単位互換出願」に入力してください。なお、受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について、6月初旬と9月中旬に追加登録をおこないます。（9月追加登録は後期科目の定員に余裕がある科目のみとなります。）

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格については、「単位互換開講科目シラバスWeb」または募集ガイドの「単位互換科目詳細」の項を参照してください。

(2)履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は4月末頃掲示でお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

- 休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

ホームページアドレス <http://www.consortium.or.jp/>

6. 「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されています。

①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」

夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO団体等においておこなう。

②長期プロジェクト型「プログレスコース」

3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

③短期体験型（冬期）「トライアルコース」

短期大学生および4年制大学1・2年次生を対象に12月中旬～2月下旬にかけて最低5日間の実習をおこなう。

「インターンシップ・プログラム」は理工学部では最終評価に合格すれば、下記にしたがって単位が認定されます。なお、インターンシップ・プログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必須・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備 考
理工学部	全学科	****	**	**	*****	*****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によつて異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学外実習」で読み替える。

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課に確認してください。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので理工学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、2012年度の「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」で確認してください。

(1)資格要件 理工学部学生の履修条件は以下のとおりです。

3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

(2)出願手続について

理工学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

(3) インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

① 事前学習について

実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアップやビジネスマナー講座などがあります。

② 実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特色あるプログラムが策定されています。

③ 事後学習について

ゼミクラスで各々の実習体験を報告することによって、自らの問題意識や関心を明確にし、今後の学習効果やライフプランにつなげていくことを重点とした学習をおこないます。

(4) 実習先の決定について

実習生の希望や適性を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

7. 環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度が提供する科目を履修し、それを単位として認定する制度です。この制度は、2005年度から開始され、滋賀県特有の内容をテーマにした科目や各大学や短期大学の学部・学科・専攻の特徴的な科目が提供されています。本学の学生は本学の定める範囲において、単位互換科目を受講することができます。

(1) 出願手続きについて

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度で提供される科目の履修を希望する学生は、指定された登録期限日までに出願手続きをおこなってください。出願書類は、カウンター配布の「環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度 出願票」を1科目1枚として、事前に各学科教務委員の確認を得た上で、理工学部教務課窓口へ提出してください。

受講料は、実習費等が別途必要な場合を除いて無料です。ただし、実習費等が必要な科目については、履修許可通知が届いた後、科目開設大学の指示にしたがって納入してください。

(2) 履修許可および履修手続き

出願者多数の場合は、科目開設大学において選考が行われ（原則として、出願票に各自が記載した「志望理由」をもとに選考されます）、選考結果は本学を通じて出願者に通知します。許可通知は4月末頃の予定です。前期科目の場合、出願して履修許可通知があるまでの4月前半に授業が開始されることがあります。この場合、履修許可通知があるまでは、その出願科目を仮受講してください。

許可通知の後、科目開設大学によっては写真提出等の別途手続きを必要とする場合がありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

⑦日本技術者教育認定機構（JABEE）について

1. JABEEとは

JABEEとは「日本技術者教育認定機構」のことです。英語名の“Japan Accreditation Board for Engineering Education”の頭文字をとったもので「ジャビー」と愛称されています。JABEEは、大学などの高等教育機関のプログラムを審査し、その内容が国際的に認められるレベルにあり、技術者として活動するために必要な知識や能力の養成に成功していると判断したとき、認定を与えます。

2. JABEEによる認定制度

JABEEによる審査は、定められた明確な基準に照らし、書類審査と実地審査に基づいて、厳密かつ公正に行われます。JABEEはまた、アメリカ、イギリスを始め、世界各国が加盟するワシントン協定に加盟しており、JABEEの認定は国際的な認定として認められています。

3. 認定の基準

JABEEは以下の基準をすべて満たした技術者教育プログラムに対して認定を与えます。

- (1)大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。
- (2)教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。
- (3)教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。
- (4)入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は、教育機関が、整然とした教育目標と教育戦略を持ち、必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために、人的資源や設備が組織的にも財務的にも充分であることを要求するものです。（JABEEホームページより）

4. 認定を受けるメリット

JABEEから認定を受けるためには、基準を満たすため数々の教育改善を継続的に実行することが求められます。また、それを客観的に説明する努力も必要となります。このようにして、学部や学科での教育内容や方法に継続的な改善が加えられるので、学生諸君は常に社会の要求に合致した質の高い教育を受けられることが保証されます。また、JABEE認定プログラムを修了するということは、国際的に通用する技術者として認められるための第一歩を踏み出すことでもあります。その評価が、卒業後の皆さんの活躍により益々高まり、広範囲なものになることを期待します。また、修了生には技術士になるための1次試験（技術士補試験）が免除されるなどの直接的なメリットも期待できます。

5. 理工学部における取り組み

本学理工学部ではJABEE認定に対し深い関心を寄せており、2003年度には、物質化学科が関西にある私立大学の化学系としては初めて、JABEEの認定を受けました。

⑧卒業年次生の大学院授業科目の履修について

理工学部では、卒業年次生のうち特に優秀な学生に対し、学部における修学に影響のない範囲で本学大学院理工学研究科科目（以下、大学院科目）の履修を認めています。この制度の利用者には大学院への進学を奨励するため、学内推薦入学試験の受験を要件としています。

大学院科目の履修ならびに学内推薦入学試験の受験に関して、指導教員または教務委員とよく相談することをおすすめします。

また、大学院理工学研究科修士課程1年修了制を利用して、大学院理工学研究科修士課程の在学期間を短縮することが可能です。これは、文部科学省の大学院設置基準および本学大学院学則第12条に基づき実施されるものです。

1. 履修出願資格

大学院科目の履修を出願できる者は、次の各号に該当し、かつ研究科委員会の定める要件を満たさなければなりません。

- ①本学理工学部の卒業年次生
- ②大学院科目を履修する能力を有する者
- ③本学大学院理工学研究科への進学を希望している者であって、かつ学内推薦入学試験（詳細は学内推薦入学試験要項を参照してください。）に出願を希望している者。ただし、同試験において不合格となった場合および入学手続を所定の期間に行わなかった場合は履修許可を取り消すものとする。
- ④各専攻において別途定める基準を満たす者

2. 出願方法

大学院科目の履修を希望する者は、卒業年次の第一学期（前期）履修登録時に所定の願書を理工学部教務課に提出し、研究科委員会の議に基づき、教授会の承認を得て、履修が許可されます。

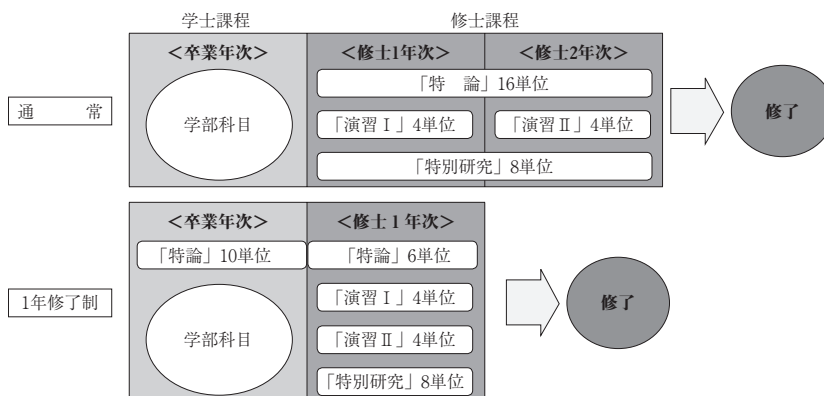
3. 単位認定

許可された者が、出願した大学院科目に合格した場合は、本学大学院理工学研究科に入学した際に、研究科委員会の議を経て大学院科目として単位が認定されます。

この単位は、理工学部の卒業要件単位としては認められませんので、注意してください。

4. 修士課程1年修了制のしくみ

修士課程を1年間で修了するためには、下図のように、卒業年次の時に大学院の特論科目（10単位）を修得し（大学院入学時に単位認定）、修士1年次の時に修了要件単位に必要な特論科目（6単位）と演習Ⅰ・Ⅱ（8単位）、特別研究（8単位）を修得して、修士論文の審査に合格しなければなりません。



Ⅳ 諸課程等の履修方法

①教職課程

教育職員免許法に基づき、本学が認定を受けている免許状の種類は下記の通りです。本学学則に定める所定の単位を修得することによって、下記の免許状が取得できます。

入学年度により取得できる免許状が異なりますので注意してください。

教育職員免許法取得に関する科目の履修方法については、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック（瀬田学舎共通）」を参照してください。

＜2000年度以降入学生＞

学科	免許教科	中学校教諭	高等学校教諭
数理情報学科	数 学	一種免許状	一種免許状
	情 報		一種免許状
電子情報学科	工 業		一種免許状
	情 報		一種免許状
機械システム工学科	工 業		一種免許状
物質化学科	理 科	一種免許状	一種免許状
情報メディア学科	情 報		一種免許状
環境ソリューション工学科	理 科	一種免許状	一種免許状

②本願寺派教師資格課程

本願寺派教師資格は、下記の本学部開講の関連科目を履修することによって取得できます。

本山教師科目	本学部開講の関連科目	単位	配当年次	備考
真 宗 教 義	真 宗 学 概 論	4	2	
仏 教 教 義	仏 教 学 概 論	4	2	
真 宗 史	真 宗 史	4	1	
仏 教 史	日 本 仏 教 史	4	1	
宗 教 概 説	宗 教 学 概 論	4	2	
勤 式 作 法	勤 式	4	1	*
宗 門 法 規	宗 門 法 規	2	1	◎
布 教 法	教 化 法	4	1	*

隔年開講の科目がありますので、計画的に履修してください。

*……2010、2012、2014年度開講（予定）

◎……2011、2013、2015年度開講（予定）

③特別研修講座

課程	目的・内容	担当課
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	簿記の初歩から指導をおこない、商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験3級・2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人々たちを、養成することを目的としています。	矯正・保護総合センター窓口
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験、家庭裁判所調査官補試験など）の合格を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な学習カリキュラムを編成し、良質な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	法学部教務課窓口
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
模擬試験 資格試験	<模擬試験> TOEIC®IP / TOEFL®-ITP	生協窓口
	<資格試験> 簿記検定試験	経営学部教務課窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されていることがあります。	<目的・内容> 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 <就職対策系> 就職筆記試験対策講座／エントリーシートの書き方講座／マスコミ就職対策講座／R-CAP <試験対策> 公務員講座 <資格系> TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／通関士講座／2級FP技能士・AFP講座／宅地建物取引主任者講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2007）／ITパスポート講座／社会福祉士国家試験講座／ホームヘルパー2級講座／CAD利用技術者講座／色彩検定講座／秘書検定講座	キャリア開発部 （深草・瀬田・大宮） 窓口

※ 上記の講座以外にも、「RECコミュニティカレッジ」（生涯学習講座）を多数開講しています。

本学学生は会員価格で受講できます。詳しくはパンフレットをご覧ください。

※ TOEIC®、TOEFL®はエデュケーション・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。この（印刷物／製品／ウェブサイト）はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

V 協定型インターンシッププログラム

①プログラムについて

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。このプログラムの具体的な内容については、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム2012」のリーフレットを参照してください。

また、2007年度より理工学部で卒業要件単位として単位認定されることになりました。詳細については、下記のとおりです。

(1)対象学年

学部3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

なお、協定型インターンシッププログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

(2)単位認定

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必須・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備 考
理工 学部	全学科	****	**	**	*****	*****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によっ て異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学 外実習」で読み替える。

(3)応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで配布される募集要項を参照してください。

(4)シラバス

次ページ参照

(5)定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ実習受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談してください。

なお、協定型インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の授業科目	協定型 インターンシップ	対応方法	本学の科目の 追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	必要
○	○	本人の判断により選択可能	認める	必要

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

(6)注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習の全てのカリキュラムを通じて、キャリア形式を支援する内容となっているため、原則欠席することはできません。また、途中で辞退することは、実習先をはじめとして、受講できなかった学生にも大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

2012年度 体験型インターンシップ「協定型インターンシップ」授業計画(案)

	日程	予定学舎	講師	講義名	内容
第1講	6月23日(土) 1限目	大宮学舎	担当教員 総合コーディネーター 長上先生	オリエンテーション① 龍谷大学の歴史 (自校史学習)	・総合コーディネーター挨拶 ・担当教員からのコメント ・自校史を知り「龍大代表」としての自覚を持つ
第2講	6月23日(土) 2限目	大宮学舎	担当教員 総合コーディネーター	オリエンテーション② 大宮学舎見学	・インターンシップにどのような態度で臨むべきか ・事前、事後学習の概要と諸注意 ・龍谷大学のルーツを探る
第3講	6月23日(土) 3限目	大宮学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	OB／OGによる パネルディスカッション	「私にとっての職業。職業を通じて考える人生」
第4講	6月30日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・インターンシップとは何かを語り合おう
第5講	6月30日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク②	ゼミ形式によるグループワーク ・現代社会において「働く」とはどういうことか
第6講	6月30日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク③	ゼミ形式によるグループワーク ・インターンシップの目標設定
学生による実習先訪問と担当者インタビュー（7/1～7/13）					
第7講	7月7日(土) 1限目	瀬田学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	ビジネスマナー①	ビジネスマナー ・心構え、第一印象、敬語の使い方、マナー など
第8講	7月7日(土) 2限目	瀬田学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	ビジネスマナー②	ビジネスマナー ・電話応対（事前訪問時の電話応対）、来客応対、名刺交換 など
第9講	7月7日(土) 3限目	瀬田学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	特別講義	「職業とは何か」 ・「職」の専門家による仕事概論
第10講	7月14日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク④	実習先担当者インタビューや調査を基に ・インターンシップの目的と受入先概要についてプレゼンテーションを行う ・各グループに分かれてディスカッション、資料作成 ・グループ毎に最終プレゼンテーション
第11講	7月14日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑤	
第12講	7月14日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑥	
学生による実習先直前訪問（7/15～7/27）					
第13講	7月28日(土) 2限目	深草学舎	学長 担当教員 総合コーディネーター	学長による特別講義 「建学の精神と本学の未来」 実習直前オリエンテーション	・龍大生代表として、他大学生とどう違うのか考える。 ・インターンシップをめぐるリスクにはどのようなものがあるか。 ・インターンシップを行うにあたっての準備、諸注意（実習中の態度、マナーなど）
インターンシップ実習(総合コーディネーター・担当教員による中間指導)					
第14講	9月29日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・学生1人ずつ実習内容を報告 ・グループごとに実習内容の振り返り
第15講	9月29日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク②	
第16講	9月29日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク③	
第17講	10月6日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク④	ゼミ形式によるグループワーク ・各グループ単位で実習成果をまとめ、クラス内でプレゼンテーション ・最優秀プレゼンを選出する
第18講	10月6日(土) 4限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク⑤	
第19講	10月6日(土) 5限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	修了式・情報交換会	全体修了式（修了証授与）、情報交換会 ・各クラスの最優秀グループが再度プレゼン。
	10月中旬		担当教員 総合コーディネーター	対外的な報告会	ポスターセッションとプレゼン（優秀事例） 情報交換会

※上記プログラムは、日程・内容等について変更になることがあります。

Ⅵ 放送大学科目の受講について

【文学部、経済学部：文学部社会人特別コース生、法学部、政策学部、社会学部コミュニティマネジメント学科、理工学部数理情報学科・機械システム工学科、国際文化学部適用】

放送大学とは、テレビ（ビデオ）・ラジオ（カセットテープ）等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく新しいタイプの正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。

本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、1997年度以降入学生は、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって取得した単位を卒業要件単位として認定されます。（ただし、理工学部は随意科目として認定。）この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。

受講希望者は下記要領を熟読の上、所定の手続きをしてください。

なお、受講にあたっては、1単位あたり5,500円（2単位科目、11,000円）の授業料が必要になります。

1. 履修方法および単位認定等について

①出願および履修期間

「特別聴講学生」の履修期間は、2セメ、4セメ、6セメ（1、2、3年後期）の1学期間（6ヶ月）です。

特別聴講学生出願票は理工学部教務課窓口にあります。

2012年度の出願および履修・試験期間は次のとおりです。

出願期間	履修期間	単位認定試験期間
6月21日～6月29日 （予定）	10月1日～1月20日 （予定）	2012年度 2013年1月下旬（予定） 不合格の場合、2013年7月下旬に行われる単位認定試験（再試験）を受験することができます。（無料）

②履修できる放送大学科目（全て2単位科目です。）

理工学部（数理情報学科・機械システム工学科）
放送大学開講科目全て（共通科目・専攻科目）を対象とする。 ※ただし、全科履修生のみ受講対象の「体育実技」および「卒業研究」を除く。

※上記以外の科目の履修は出来ません。

③学期毎の履修制限

理工学部が定めている履修制限単位数には含みません。

④卒業要件に算入できる上限単位数

文学部（社会人特別コース生を除く） 経済学部	専攻（固有）科目 8単位まで
社会人特別コース生	選択基礎科目および選択専攻科目として修得した単位の合計と、大学コンソーシアム京都単位互換科目の修得単位を合わせて、30単位を上限に卒業要件単位として認定する。
法学部	専攻科目 8単位まで
社会学部（コミュニティマネジメント学科）	専攻科目 12単位まで

※超過分は卒業要件単位数に含まれないので注意してください。（随意科目扱いとなります。）

理工学部（数理情報学科・機械システム工学科）	教養教育（共同開講）科目（総合科目）の随意科目として、4単位まで

⑤履修方法

学期開始までに送付される印刷教材と本学ならびに学習センターに設置されているビデオテープ、カセットテープ（1科目：15巻 1巻45分）による視聴および通信指導によって学習し、学期末に本学において単位認定試験を受けることになります。

通信指導とは、原則15回の放送授業のうち8回まで学習を終え、放送大学から通知される課題についてレポートを放送大学に提出し、放送大学教員による採点・評価・指導を受ける通信添削です。この通信指導に合格しなければ、単位認定試験は受験できません。

<ビデオテープ、カセットテープの視聴について>

4号館1階にある放送大学滋賀学習センターで、ビデオテープおよびカセットテープの視聴ができます。

学習センター内での視聴はどの都道府県でも可能ですが、貸出については、所属学習センター（滋賀学習センター）のみとなります。

⑥単位認定試験について

2012年度の放送大学科目の単位認定試験は、2013年1月下旬（予定）です。

「滋賀学習センター（瀬田学舎4号館1階）」

※2012年度前期に実施する再試験の会場も上記の通りです。

試験当日欠席した場合は、追試験制度はありませんので、次学期で再試験を受験してください。（「⑨再試験について」を参照。）

⑦単位の認定

成績表は放送大学から本人および本学に通知されます。本学は成績等を確認の上、単位認定します。

⑧単位取得

試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定します。

なお、放送大学の成績評価は、④A,B,C（合格）、D,E（不合格）等の標記によって通知されるため、本学では次のような素点換算により本学成績表に表示します。

放送大学	本学素点換算
④（90点以上）	95
A（89～80点）	85
B（79～70点）	75
C（69～60点）	65
D（59～50点）	55
E（49点以下）	45
未受験	0

⑨再履修（再試験）について

放送大学では、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）において再履修（再試験）制度があります。

この制度は単位認定試験や通信指導において不合格になった場合（試験欠席、通信レポート未提出も含む）、次学期の1回に限り再試験の受験ならびに通信レポートの再提出ができます。

次学期での再試験を希望する場合は、放送大学に対する手続きは不要ですが、本学の履修登録で放送大学科目の登録をしなければなりません。

なお、2012年度前期に実施する再試験は、7月24日～7月31日に実施されます。（会場は、「⑥単位認定試験について」を参照）

⑩放送大学科目の試験と本学の試験日時が重なった場合

放送大学科目の試験期間は本学と同じ時期に実施されます。このことにより、放送大学科目と本学科目の試験時間が重なった場合は、原則として放送大学科目を優先して受験し、本学科目については、追試験で受験してください。

なお、この場合に限り、追試験の適用を次のとおりとします。

(ア)追試験の受験料は無料です。

(イ)諸課程科目についても実施の対象になります。

※その他については、通常の追試験制度に準じます。

2. 放送大学への出願および本学での履修登録について

①放送大学科目出願について

受講希望者は、6月21日～6月29日（予定）に「特別聴講学生出願票」を理工学部教務課窓口に提出してください。放送大学科目は、第2学期の出願期間までに単位認定試験の時間割が発表されていますので、試験日・時限を確認の上、出願してください。

②学費について

入学料、テキスト代は無料ですが、授業料として1科目（2単位）につき、11,000円（1単位あたり5,500円）が必要です。出願後、放送大学から送付されてくる用紙にて、直接、納入してください。

③本学での履修登録について

放送大学科目を受講する場合は、「特別聴講学生出願票」の提出の他に本学の履修登録で放送大学科目を登録しなければなりません。また、次学期で再試験を受験する場合も同様に履修登録してください。

履修登録（本登録）をしないで単位認定試験および再試験を受験し合格しても、本学の単位として認定されないので注意してください。

3. 龍谷大学以外での学習方法

①視聴方法

テレビ・ラジオともCSデジタル放送により全国どこでも受信できます。放送大学の番組を視聴するには、お手持ちのテレビにスカイパーフェクTV！（パーフェクTV！サービス）対応のパラボラアンテナおよびCSチューナーを接続し、テレビ番組（205ch）、ラジオ番組（500ch）のチャンネル番号を入力すると視聴できます（無料放送）。

②再視聴

所定の時間帯に視聴できなかった場合や、繰り返し学習したい場合は、都合の良い日に視聴することができます。学習センターは土曜日、日曜日も利用できます。（月曜日、祝日休み）

所属する学習センターでは、テープの貸出を受けることができます。

※なお、学習センターの利用に際しては放送大学の学生証を必ず持参してください。

③滋賀学習センターの所在地

瀬田学舎4号館1階

4. 出願から成績評価までの流れ

①放送大学科目の登録手続き

出願・科目登録申請	6月21日～6月29日（予定）	理工学部教務課窓口
授業料の振込	9月上旬	後日、自宅に送付されてくる用紙にて振込んでください。
教材・学生証の配付	学費納入確認後随時	放送大学から自宅に送付されます。
履修登録（本学）	日程については、掲示板等で確認してください。	理工学部教務課窓口

②受講および単位認定試験等について

授業開始（15回）	10月1日～	本学（深草学舎）5号館3階セルフラーニング室 および学習センター
通信指導問題の送付	11月上旬まで	放送大学から自宅に送付されます。
通信指導解答の提出	12月上旬まで	放送大学へ直接提出。8回まで視聴を終了してください。
通信指導添削の返送	1月中旬	放送大学→学生
単位認定試験通知	1月中旬	放送大学→学生
放送授業終了	1月20日	
単位認定試験	1月下旬（予定）	滋賀学習センター（瀬田学舎4号館1階）
成績通知	3月上旬	放送大学→学生 放送大学→本学

※単位認定試験ならびに通信指導を不合格になった場合は、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）で1回限り、再試験ならびに通信レポートの再提出ができます。

放送大学への手続きは不要ですが、本学の履修登録で「放送大学科目」を登録してください。
履修登録をせず再試験に合格しても、本学の単位として認定されませんので注意してください。

学 修 生 活

学
修
生
活

I 窓口事務

窓口取扱時間は次のとおりです。

1. 理工学部教務課の窓口取扱時間

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	9:00～17:30	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11:45～12:45を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10:45～17:30	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

2. 届書・願書および各種証明書

理工学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用して下さい。(理工学部教務課窓口で受け取ってください。)

(1) 届書

事 項	添 付 書 類
※保証人変更届	特になし
現住所変更届	特になし
本籍地変更届	住民票記載事項証明書 (本籍地記入)
改 姓 名 届	住民票記載事項証明書

(※印のものは、保証人の連署が必要。)

(2) 願書

事 項	添 付 書 類	受 付 期 間
※休 学 願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月30日まで ○第2学期休学 当該年度の12月31日まで
※復 学 願	理由書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月31日まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月30日まで
※退 学 願	理由書または診断書、 学生証	
追 試 験 受 験 願	理由書、追試験料納付書、 診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め4日以内 (土・日・祝日は含まない)

(※印のものは、保証人の連署が必要。)

(3) 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、理工学部教務課窓口にて提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な 日数等	証明書の種類	手数料 (2007.4.1変更)	備 考
即日交付	在学証明書	1通 100円	左記証明書は証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業（修了）証明書		
	卒業（修了）見込証明書		
	学業成績証明書		
	健康診断証明書	1通 200円	
	卒業（修了）・学業成績証明書		
	卒業（修了）見込・学業成績証明書		
	通学証明書（理工学部教務課窓口で受付） 学割証	無 料	
2日後交付	単位修得証明書	1通 100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、理工学部教務課窓口 に提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
1週間後交付	英文証明書	1通 300円	
	学力に関する証明書	1通 200円	

(注1) 交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。

(注2) 手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

(注3) 卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは理工学部掲示板でお知らせします。

(注4) 「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上から「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL <http://www.ryukoku.ac.jp>（本学ホームページ）の（訪問者別ガイド）「卒業生の方へ」－「各種手続きについて知りたい」の「各種証明書発行について」－「郵送で申請の場合」からアクセスできます。

① 郵送の場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

◆証明書に関して ・必要な証明書の種類と枚数 ・必要な証明書の使用目的 ◆申請者に関して ・氏名（在学時から姓が変わられた方は、旧姓もご記入ください） ・生年月日 ・出身学部、学科名（文学部は専攻名） ・学籍番号 ・卒業年度 ・現住所（郵便番号を含む） ・電話番号	◆同封が必要なもの ・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 （返信に必要な切手を貼付してください。） ・手数料 （手数料は同額の切手でも納金できます。）

② 直接、来学する場合

直接、来学して申請する場合は、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口へ申請してください。

(4) 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下、「学割証」）（手数料無料、即日交付）

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。

なお、交付枚数は原則として年度毎に1人10枚、1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。※年間10枚を超えて必要な場合は、理工学部教務課窓口で相談してください。

◆学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア. 学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ. 学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、即交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ. 学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引、有効期間は発行日から3ヵ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日2週間前までに下記窓口へ提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合……………理工学部教務課窓口

クラブやサークルの場合……………学生部

3. 各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、理工学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館1階エントランスホール	月～金	8：45～21：45
		土	8：45～17：15
	紫英館1階各学部教務課窓口	月～金	8：45～17：15 (但し、火曜日は10：30～)
	紫光館1階ロビー	月～土	8：45～17：15
大宮	西翼（新館）1階ロビー	月～金	8：45～20：15
		土	8：45～17：15
瀬田	1号館1階エントランスホール	月～土	9：00～17：30
	6号館社会学部教務課 3号館国際文化学部教務課	月～金	9：00～17：30
大阪・梅田 キャンパス	フロア	月～金	10：00～18：30 就職活動繁忙期は 10：00～19：00

⚠ 注意事項

- ・証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。
※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。
- ・上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。
- ・オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間帯については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。
- ・証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力はいずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続きが必要となりますので、各自が所属する理工学部教務課窓口で申請してください。
- ・学生証の再発行手続きが生じた場合、理工学部教務課窓口に出してください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口へ提出してください。
- ・証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として証明書自動発行機にて対応します。
- ・夜間時間帯および土曜日において、証明書自動発行機に故障が生じた場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに理工学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について授業担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

Ⅱ 授業休止の取り扱い基準

(交通機関の不通、台風等の場合の授業についての取り扱い)

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、台風による暴風警報が発令された場合は、下記の基準に従ってください。

1. 全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

- (a) 下記のうち、2つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。
対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

① J R	(米原～西明石)
② 京都市営バス・京都市営地下鉄	(全区間)
③ 京阪電車	(出町柳～淀屋橋)
④ 阪急電車	(河原町～梅田、梅田～三宮)
⑤ 近鉄電車	(京都～橿原神宮前)

※ただし、**瀬田学舎**は J R (京都～米原) または帝産湖南交通 (J R 瀬田駅～龍谷大学) のいずれか 1 つの運行が中止された場合も休講とします。

- (b) 暴風警報が京都府南部 (京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部)、大阪府 (北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内)、滋賀県南部 (近江南部、東近江、甲賀) のいずれかの市町村に出された場合、その時点でただちに全学休講とします。

2. 授業の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報解除の場合は、次の基準により授業等を実施します。

運行開始の時刻および 警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前 6 時まで	1 講時から平常どおり実施
午前 10 時まで	3 講時から平常どおり実施
午後 2 時まで	6 講時から平常どおり実施
午後 2 時以降	終日休講

3. その他の注意事項

- 上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
- 定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

■暴風警報が出された場合に全学休講となる区域について

本学の「授業休止の取扱基準」第1項(b)で規定している区域は、気象庁の発表区域に従えば、以下のとおりとなります。

気象庁は、警報・注意報を二次細分区域で発表しますが、これを受けてメディア等では、簡潔かつ効果的に情報を伝えるために、状況に応じて「一次細分区域」、「市町村等をまとめた地域」、「二次細分区域」のいずれかによって該当する区域をお知らせします。本学基準で規定している区域のいずれかに暴風警報が発令されているか確認するようにしてください。

【一次細分区域】	【市町村等をまとめた地域】	【二次細分区域】
京都府南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
	京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
	山城中部	宇治市、八幡市、城陽市、京田辺市、久御山町、宇治田原町、井手町
	山城南部	木津川市、和束町、精華町、笠置町、南山城村
大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町
滋賀県南部	東近江	近江八幡市、東近江市、竜王町、日野町
	近江南部	野洲市、守山市、草津市、栗東市、大津市南部
	甲賀	甲賀市、湖南市

【注】二次細分区域は、市町村を原則としますが、一部の市町村では、それらが分割されて設定されるケースがあります。本学「授業休止の取扱基準」で規定する区域では、大津市がこれに該当し、北部と南部に分割され、大津市南部のみが基準の該当区域となります。(大津市北部に暴風警報が発令されても全学休講とはなりません)

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は、入学によって発生し、入学は、大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は、卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み			
T	1 2	0	0 0 1
L：文学部・文学研究科 E：経済学部・経済学研究科 B：経営学部・経営学研究科 J：法学部・法学研究科 T：理工学部・理工学研究科 C：社会学部・社会学研究科 W：国際文化学部 ・国際文化学研究科 H：政策学部 S：短期大学部 F：法科大学院 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科	入学年度（西暦） の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：0～7 編転入生：8 再入学生：9 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V その他（学術研究生）：Z （特別専攻生）：S	学部内における 個人番号

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。ただし、頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の理工学部教務課窓口に届け出て下さい。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ア 学業成績表を受領するとき。
 - イ 試験を受けるとき。
 - ウ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - エ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - オ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - カ 図書館を利用するとき。
 - キ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので、大切に扱って下さい。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください。）

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールと貼り替えてください。また、該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、**退学**と**除籍**の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願い出ることはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- イ 当該学期分の学費を納入していること。（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格ありません。なお、学期当初に退学する場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。）

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要がある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ア 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- イ 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ウ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により願い出ること。
- イ 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ウ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ア 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。
1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。
- イ 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ウ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

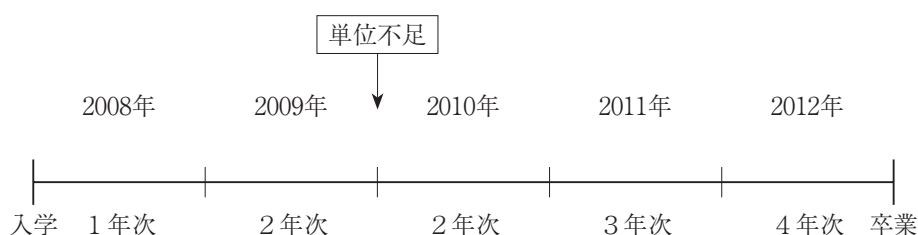
休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教

育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1ヵ月以内にしなければなりません。

6. 年次

理工学部では原級制度を実施するため所定の要件を満たしていなければ進級できません。
この場合「年次」の進行は原年次復帰方式とします。
学籍異動上は次のような扱いになります。

例) 2009年度を留年（留年異動日2010年4月1日）



7. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせして下さい。

8. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を理工学部教務課窓口にも速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については選考の上これを許可することがある。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則第18条の3）

9. 9月卒業について

第1学期（前期）末（9月末日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、9月末日付にて卒業認定を受けることを希望する場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます。（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません。）詳細については理工学部教務課窓口にご相談して下さい。

Ⅳ 留学

龍谷大学には、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、国際部（深草学舎6号館1階）、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）を参考にしてください。

1. 交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解の発展のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則1年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学生在籍料は必要※、留学先大学の学費免除が受けられます。

募集案内、応募方法などは、国際部、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページを参照ください。

「学生交換協定校（19カ国42大学・学部）」

地域	留 学 先		応募方法
アジア	中 国	復旦大学、上海師範大学、同済大学、中国人民大学、大連外国語大学、大連外国語大学日本語学院（経営）	国際部にて募集し、語学試験および面接によって選考します。 応募締切日は各募集大学によって異なります。
	台 湾	台湾師範大学、東海大学	
	韓 国	東国大学、東亜大学	
	タ イ	チュラロンコン大学、アサンプション大学	
北米	アメリカ	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、アンティオークカレッジ、南ミズーリ州立大学、米国仏教大学院、カリフォルニア大学デービス校（理工学研究科）、東テネシー州立大学、アイダホ大学、アリゾナ州立大学、ハワイ大学マノア校	
	カナダ	キングス・ユニバーシティ・カレッジ、カルガリー大学、クワントレン・ポリテクニク大学、ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ	
オセアニア	オーストラリア	RMIT大学、マードック大学、ディーキン大学	
ヨーロッパ	ロシア	モスクワ大学アジア・アフリカ学院	
	ウクライナ	キエフ大学	
	ポーランド	ワルシャワ経済大学	
	イギリス	リバプール・ジョン・ムーアーズ大学	
	ドイツ	デュースブルグ・エッセン大学	
	フランス	リヨン第3大学	
	フィンランド	東フィンランド大学（旧ヨエンスク大学）	
	スウェーデン	リネウス大学（旧ベクショー大学）	
	デンマーク	オーフス大学	
	スペイン	バルセロナ自治大学、バレンシア大学	
アフリカ	スロバキア	コメンスキー大学	
	南アフリカ	クワズール・ナタール大学	

※留学先大学の都合により条件が変更になる場合や募集を行わない場合がありますので、国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）の情報を確認してください。

2. BIE Program留学

BIE Program (Berkeley Intercultural English Program) は、龍谷大学のRyukoku University Berkeley Center (アメリカ・バークレー) を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習、Community Service Learning (ボランティア活動)、講義を組み合わせたプログラムで5-week (5週間) とsemester (半年間) の2つのプログラムが年間2本ずつ (合計4本) あります。

留学期間は在学期間に算入され、5-weekプログラムは学部最大6単位、semesterプログラムは学部最大18単位まで認定可能です。

	留学期間	募集時期
5-week summer program	8月上旬～9月下旬	4月下旬～5月中旬
5-week spring program	2月中旬～3月下旬	10月中旬～10月下旬
Fall semester program	10月上旬～2月中旬	5月中旬～5月下旬
Spring semester program	3月下旬～7月上旬	11月中旬～11月下旬

3. 私費留学

各自で留学したい大学を探し、大学から承認を得て留学する方法で、龍谷大学から毎年多くの学生が私費留学をしています。

この留学は交換留学と同じく、留学期間は在学期間に算入され、取得した単位は単位認定の対象となります。

交換留学と大きく異なる点は、留学先大学の学費や寮費等が自己負担であること。また、留学手続き等は各自で行うことです。手続前に各学部教務課や指導教員と相談してください。

4. 個人留学 (休学して留学する)

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間には算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間 (ないし半年間) 海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしてみたい、海外でボランティアをしてみたいという学生がよく利用する方法です。

5. 短期留学

カリキュラムやクラブ活動の関係で長期間、大学を離れることができない学生には、夏期休暇や冬期休暇を利用した短期留学がお勧めです。

龍谷大学では、これら長期休暇を利用した語学研修や異文化体験等のプログラムを設けています。(各プログラムの開講は年度によって異なります。)

詳細は国際部、所属学部教務課、教学部 (学部共通コース) に問い合わせてください。

V 通学について（自転車・バイク・自動車）

1. 自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。

しかしながら、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設駐車場等に駐車し、自動車通学する学生が後を絶ちません。これらは社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も受けています。

このような自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導の上、厳しく処分することとしています。学生諸君の節度ある行動を強く求めます。

2. バイク・自転車通学

バイク・自転車は、多くの学生が利用しています。しかし、最近通学途上においてバイク・自転車の交通事故・接触事故等が多発しています。

また、「バイク・自転車が、狭い生活道路を、スピードを出して通行しているので大変危険！」等の苦情が近隣住民から多数寄せられています。大学までの通学途中には、小学校や保育園等があり、その保護者からも心配する声が寄せられています。

交通ルールを逸脱した悪質な運転は、「道路交通法」に基づき厳重な処罰の対象となります。交通事故による悲劇や地域住民への迷惑を回避するためにも交通ルール・マナーの遵守を徹底し、安全運転を心がけてください。

3. バイク・自転車の駐輪

バイク・自転車は必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置しているバイク・自転車は、駐輪場に掲示の「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。

また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損等について大学は一切関与致しません。確実な施錠はもちろんのこと、ふたつ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

4. マナーアップキャンペーンについて

学生生活におけるマナー向上促進のため、毎年定期的に「マナーアップキャンペーン」を実施しています。このような機会を積極的に利用して、バイク・自転車通学における交通マナーアップに努め、安全な学生生活を心がけることを望みます。

5. 自動車の臨時入構許可について

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由がある時は、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に相談してください。

① 夜間にまで及ぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合	→ 理工学部
② 長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合	→ 理工学部
③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合	→ 学生部

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となりますので、必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

シラバス

教養教育科目
(共同開講科目)(共通科目)
(基礎科目)

教養教育科目
(共同開講科目)(共通科目)
(総合科目)

学部内共通科目

学科固有科目
<数理情報学科>

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

教養教育科目
(共同開講)(共通)
基礎科目

教養教育科目
(共同開講)(共通)
総合科目

学部内共通

学科固有

教職課程

教本
師願
課寺
程派

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

教養教育科目(共同開講科目)

(基礎科目)

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
エ	英語ⅠA	クラス・開講曜講時による		95
	英語ⅠB	クラス・開講曜講時による		95
	英語ⅡA	クラス・開講曜講時による		96
	英語ⅡB	クラス・開講曜講時による		96
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による		97
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による		97
	英語セミナーA1	宇野 誠一	前期 月1	98
	英語セミナーA1	宇野 誠一	前期 月2	98
	英語セミナーA1	ワード ジョン	前期 水1	99
	英語セミナーA1	ワード ジョン	前期 水2	99
エ	英語セミナーA2	宇野 誠一	後期 月1	100
	英語セミナーA2	宇野 誠一	後期 月2	100
	英語セミナーA2	ワード ジョン	後期 水1	101
	英語セミナーA2	ワード ジョン	後期 水2	101
	英語セミナーB1	五十嵐 海理	前期 金2	102
	英語セミナーB2	五十嵐 海理	後期 金2	103
	英語セミナーC1	音羽 レベッカ	前期 水2	104
	英語セミナーC1	音羽 レベッカ	前期 水3	104
	英語セミナーC1	イエニク・S・C	前期 金2	105
	英語セミナーC2	イエニク・S・C	後期 水2	105
エ	英語セミナーC2	音羽 レベッカ	後期 水2	106
	英語セミナーC2	音羽 レベッカ	後期 水3	106
	英語セミナーC2	ワード ジョン	後期 水3	107
	英語セミナーD1	大槻 志郎	前期 水2	108
	英語セミナーD2	大槻 志郎	後期 水2	109
	英語セミナーE1	西山 けい子	前期 水2	110
	英語セミナーE2	西山 けい子	後期 水2	110
キ	教育原論A	藤井 奈津子	前期 月1	111
	教育原論A	田中 圭治郎	前期 月2	111
	教育原論B	大野 僚	後期 月1	112
	教育原論B	田中 圭治郎	後期 月2	112
ケ	経済学入門	藤田 梨樺	前期 水4	113
	経済学入門	長命 洋佑	前期 金5	113
	経済学入門	李 复屏	後期 月1	114
	経済学入門	李 复屏	後期 月3	114
	言語学入門	泉 文明	前期 月2	115
	言語学入門	二葉 晃文	前期 木3	115
コ	コリア語ⅠA	孫 才喜	前期 水3	116
	コリア語ⅠB	孫 才喜	後期 水3	116
	コリア語ⅠC	朴 炫国	前期 木3	117
	コリア語ⅠD	朴 炫国	後期 木3	117
	コリア語セミナーA	金 里博	前期 水3	118
	コリア語セミナーB	金 里博	後期 水3	118
シ	社会学入門	渡辺 めぐみ	前期 木3	119
	社会学入門	渡辺 めぐみ	後期 木3	119
	社会思想史入門	村澤 真保呂	前期 水2	120
	社会思想史入門	村澤 真保呂	後期 水2	120
	心理学入門	松島 恵介	前期 月1	121
	心理学入門	松島 恵介	後期 月1	121
	心理学入門	関口 茂久	後期 月3	122
ス	スポーツ技術学A	種目・開講曜講時による	学科により異なる	122
	スポーツ技術学B	種目・開講曜講時による	学科により異なる	123
セ	生活の中の化学	中沖 隆彦/糟野 潤	後期 木3	123
	生活の中の数学	松本和一郎/山岸 義和	前期 水3	124
	生活の中の統計技術	樋口 三郎	後期 水3	124
	生活の中の物理	石崎 俊雄	後期 月2	125
	政治学入門	山崎 充彦	前期 木3	126
	政治学入門	山崎 充彦	後期 木3	127
	生命と科学	宮武 智弘	前期 金1	128

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
チ	中国語ⅠA	張 健同	前期 月1	128
	中国語ⅠA	李 愛華	前期 水3	129
	中国語ⅠB	張 健同	後期 月1	129
	中国語ⅠB	李 愛華	後期 水3	130
	中国語ⅠC	韓 正愛	前期 水3	130
	中国語ⅠC	張 健同	前期 水3	131
	中国語ⅠC	張 健同	前期 水4	131
	中国語ⅠD	韓 正愛	後期 水3	132
	中国語ⅠD	張 健同	後期 水3	132
	中国語ⅠD	張 健同	後期 水4	133
テ	中国語セミナーA	李 愛華	前期 水1	133
	中国語セミナーB	李 愛華	後期 水1	134
	哲学入門	鷺見 淳之	前期 月3	134
	哲学入門	渡邊 華月	前期 水3	135
	哲学入門	鷺見 淳之	後期 月3	135
	哲学入門	渡邊 華月	後期 水3	136
ト	ドイツ語ⅠA	呉 春吉	前期 月3	136
	ドイツ語ⅠA	松口 春美	前期 水4	137
	ドイツ語ⅠB	呉 春吉	後期 月3	137
	ドイツ語ⅠB	松口 春美	後期 水4	138
	ドイツ語ⅠC	松口 春美	前期 水3	138
	ドイツ語ⅠC	永井 達夫	前期 水4	139
	ドイツ語ⅠD	松口 春美	後期 水3	139
	ドイツ語ⅠD	永井 達夫	後期 水4	140
	ドイツ語セミナーA	永井 達夫	前期 水3	140
	ドイツ語セミナーB	青山 豊	後期 木4	141
ニ	統計入門	李 复屏	前期 月1	141
	統計入門	長命 洋佑	後期 金5	142
	日本国憲法	時本 義昭	前期 木3	142
	日本国憲法	時本 義昭	後期 月1	143
	日本国憲法	時本 義昭	後期 月3	143
	日本国憲法	時本 義昭	後期 木3	144
ハ	発達と教育A	松島 恵介	前期 水1	144
	発達と教育A	松島 恵介	前期 水2	145
	発達と教育B	松島 恵介	後期 水1	145
	発達と教育B	松島 恵介	後期 水2	146
	フランス語ⅠA	瓜生 濃世	前期 水3	146
	フランス語ⅠB	瓜生 濃世	後期 水3	147
	フランス語ⅠC	森部 卓	前期 月2	147
	フランス語ⅠC	嶋崎 陽一	前期 月3	148
	フランス語ⅠC	森部 卓	前期 木3	148
	フランス語ⅠD	森部 卓	後期 月2	149
フ	フランス語ⅠD	嶋崎 陽一	後期 月3	149
	フランス語ⅠD	森部 卓	後期 木3	150
	フランス語セミナーA	嶋崎 陽一	前期 木4	150
	フランス語セミナーB	嶋崎 陽一	後期 木4	151
	仏教の思想A	道元 徹心	前期 水2	155
	仏教の思想B	道元 徹心	後期 水2	157
	文学入門	大槻 志郎	前期 水3	158
	文学入門	嶋崎 陽一	前期 木3	158
	文学入門	嶋崎 陽一	後期 木3	159
	文学入門	坂本 輝世	後期 水4	159
ホ	法学入門	時本 義昭	前期 月1	160
	法学入門	時本 義昭	前期 月3	160
リ	倫理学入門	菊地 建至	前期 水3	161
	倫理学入門	菊地 建至	後期 水5	162
レ	歴史入門	西村 昌洋	前期 水3	163
	歴史入門	佐野 東生	後期 金2	163
ロ	論理学入門	中谷 隆雄	前期 月3	164
	論理学入門	中谷 隆雄	後期 月3	164

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

【担当】 クラス・開講曜講時による

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■サブタイトル

TOEIC対策セミナー

■講義概要

この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。

■到達目標

1年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。

■講義方法

毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。
TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (70%) Participationが含まれる
定期試験 (30%) 最終授業日に行う (In Class Test)

■テキスト

Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝
日出版 2000円

参考文献

宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかには負けるな』
化学同人 2200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②Text 1
- ③Text 2
- ④Text 3
- ⑤Text 4
- ⑥Text 5
- ⑦Text 6
- ⑧Text 7
- ⑨Text 8
- ⑩Text 9
- ⑪Text 10
- ⑫Text 11
- ⑬Text 12
- ⑭In class Final Exam
- ⑮Feedback

英語セミナーA 1

【担当】 宇野 誠一
【開講】 前期 月2

■サブタイトル

TOEIC対策セミナー

■講義概要

この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。

■到達目標

1年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。

■講義方法

毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。
TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週授業でおこなったUnitの復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (70%) Participationが含まれる
定期試験 (30%) 最終授業日に行う (In Class Test)

■テキスト

Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝
日出版 2000円

参考文献

宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかには負けるな』
化学同人 2200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②Text 1
- ③Text 2
- ④Text 3
- ⑤Text 4
- ⑥Text 5
- ⑦Text 6
- ⑧Text 7
- ⑨Text 8
- ⑩Text 9
- ⑪Text 10
- ⑫Text 11
- ⑬Text 12
- ⑭In class Final Exam
- ⑮Feedback

英語セミナーA 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 水1

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%)
小テスト (25%)
その他 (25%) Homework.

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』

■参考文献

『The Institute for Business Communication (IIBC)』

■履修上の注意・担当者からの一言

Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.

■講義計画

- ①Introduction to the TOEIC test
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Looking at aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound - alike words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Recognizing - Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 水2

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%)
小テスト (25%)
その他 (25%) Homework.

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』

■参考文献

『The Institute for Business Communication (IIBC)』

■履修上の注意・担当者からの一言

Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.

■講義計画

- ①Introduction to the TOEIC test
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Looking at aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound - alike words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Recognizing - Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 水1

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%)
小テスト (25%)
その他 (25%) Homework.

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』

■参考文献

『The Institute for Business Communication (IIBC)』

■履修上の注意・担当者からの一言

Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.

■講義計画

- ①Introduction to the TOEIC test
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Looking at aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound - alike words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Recognizing - Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 水2

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%)
小テスト (25%)
その他 (25%) Homework.

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』

■参考文献

『The Institute for Business Communication (IIBC)』

■履修上の注意・担当者からの一言

Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.

■講義計画

- ①Introduction to the TOEIC test
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Looking at aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound - alike words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Recognizing - Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

■サブタイトル

時事英語

■講義概要

時事英語とは、マスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では、英米の新聞やテレビでふつうに流れる英語に慣れていきます。

マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の
人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書
かれています。

日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また、テキスト以外に、ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標

時事英語に慣れることを目標とします。とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法

ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。

(1) 本文のリスニング (2) 本文の精読 (ときに速読も) (3) 本文のまとめ (4) テストなど (5) リスニングテスト

■授業時間外における予・復習等の指示

進度にそって精読してきてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 授業中の受け答えです。

小テスト (20%) 語彙力を問う小テストを行いたいと思います。

定期試験（40%）学期末試験を行います。

成績評価の方法については変更することがあります。

■テキスト

Kita, R. and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社 2000円

このほかにも、適宜、話題のニュースを記事や放送の形で見ることにします。

参考文献

『The Daily Yomiuri』

『The Japan Times』

日本で発行されている英字新聞を利用しない手はありません。とくに、The Daily Yomiuriは、読売新聞と社説を共有していますから、日本語と英語で対照しながら読めます。そのほか、教室で指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

予習をしてきてください。予習ができないときは、せめて復習してください。また、講義計画は変更される場合があります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業中にお知らせします。

■講義計画

①時事英語の特徴について確認しながら、精読していきます。

②環境についての記事 1

③同上。

④同上

⑤環境

⑥同上。

⑦同上

⑧社会における価値観についての記事1

⑨同上

⑩同上。

⑪社会

⑫同上

⑬同上。

⑭社会

⑮同上

⑬前期末試験

■サブタイトル

時事英語

■講義概要

時事英語とは、要するにマスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では時事英語に慣れていきます。

マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書かれています。

日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。

テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また、テキスト以外に、ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標

時事英語に慣れること、とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法

ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。
(1) 本文のリスニング (2) 本文の精読 (ときに速読も) (3) 本文のまとめ (4) テストなど (5) リスニングテスト

■授業時間外における予・復習等の指示

進度に沿って精読してきてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 授業中の受け答えです。

小テスト (20%) 語彙力を問う小テストを行います。

定期試験 (40%) 定期試験です。

成績評価の方法は変更することがあります。

■テキスト

Kita, R., and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社 2000円

テキストは前期からの継続使用です。講義計画は変更される可能性があることをご理解ください。また、途中でテキストを読み終わってしまった場合は、ネットで記事を手入して読んでいきます。TIMEやNEWSWEEKのような報道系の雑誌の記事を読んだり、BBCの放送を見たりしたい、と思います。

■参考文献

『The Wall Street Journal』

『The Guardian』

『The Independent』

アメリカの高級紙の中でも経済よりの記事が多いウォールストリートジャーナルを図書館などで見てみてください。世界の金融の中心地でどんなことを知りたがっているか、知ることができます。イギリスの新聞、ガーディアンとインディペンデントは政治的態度が異なるので、比べてみてください。その他、授業中に指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

予習をしてきてください。予習が出来なかったときは、せめて復習してください。また、4回欠席で期末試験の成績がゼロ点になりますので、気をつけてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

必要があれば指示します。

■講義計画

①テキストを前提とせずに、英語の新聞記事を使って、時事英語の特徴などをお話しします。また、授業のやり方を説明します。この回に欠席すると、皆さんには不利益になります。

②食糧問題の記事1 (これ以降、すべてに言えることですが、前期での進捗状況によって、開始すべきユニットが変更になる場合がありますので、ご了承ください。)

③同上

④同上

⑤食糧問題の記事2

⑥同上

⑦同上

⑧教育についての記事1

⑨同上

⑩同上

⑪教育についての記事2

⑫同上

⑬同上

⑭教育についての記事3

⑮同上

⑯期末試験

英語セミナーC 1

【担当】 イエニク・S・C

【開講】 前期 金2

■サブタイトル

Active English

■講義概要

The aim of this course is to improve students ability to use English by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays. This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.

■到達目標

Relative to students abilities

■講義方法

Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.

■授業時間外における予・復習等の指示

Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.

■成績評価の方法

平常点（100%） Homework. Class Performance.

■テキスト

特になし

■参考文献

Any good dictionary.

■履修上の注意・担当者からの一言

Do not miss the first class.

■講義計画

①Introduction and Video Exercise

②Creative Stimulus Exercise

③Creative Stimulus and Narrative Writing

④Convert Narrative to Dialogue

⑤－⑮Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays

英語セミナーC 2

【担当】 イエニク・S・C

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

English Communication

■講義概要

To develop an intuitive grasp of and fluency with relatively easy English, especially through experiencing the sound of the language. Mainly utilizes narrative and dramatic language in the forms of stories and video skits. A balanced and integrated approach to all four language skills: listening, speaking, reading and writing. A variety of exercises and tasks will be used to demonstrate common English usage and guide students to express their own original thoughts directly in English in both spoken and written forms. This will also naturally reinforce basic grammar and function structures from an active point of view.

■到達目標

Relative to students' abilities.

■講義方法

.Various types of class participation. Dialogues, narrative writing, etc.

■系統的履修

.

■授業時間外における予・復習等の指示

Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.

■成績評価の方法

平常点（100%） Class participation.

■テキスト

辞書持参

■参考文献

特になし

■講義計画

①.Video

②.Narrative

③.Dialogue

④.Video

⑤.Narrative

⑥.Dialogue

⑦.Video

⑧.Narrative

⑨.Dialogue

⑩.Video

⑪.Narrative

⑫.Dialogue

⑬.Video

⑭.Narrative

⑮.Dialogue

英語セミナーC2

【担当】音羽 レベッカ

【開講】後期 水2

■サブタイトル

Thinking about Global Life 世界を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える

■到達目標

世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記を参照
平常点10 ・ 参加45 (1回につき3点 x 15回) ・ 宿題30 (1回につき10点x3回) ・ テスト15 合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
- ②Introducing the World (1) Natural Environment
世界の紹介 (1) 自然環境
- ③Introducing the World (2) Human Environment Assign HW 1
世界の紹介 (2) 人間環境
- ④How Others Live ? Imagining other lives
人間の生き方 世界の人々の生活を想像する
- ⑤Relationships on the International Stage Hand in HW 1
国際的な人間関係
- ⑥Men and Women
世界における男性と女性
- ⑦Social Rules vs Universal Laws
社会のルールと人間のルール
- ⑧Being Part of Society ? Experiences of a Gaijin Assign HW 2
社会の一員 「外人」の経験
- ⑨Human Rights and Human Responsibilities
人権と人間の責任
- ⑩Exploitation Hand in HW 2
私は他の人間や動物を使用してもいい?
- ⑪Money & Economics
世界的に考えるお金
- ⑫Individual "evil" ? crime & punishment
個人的な「悪」 犯罪
- ⑬Mass "evil" ? war & oppression Assign HW 3
国際的な「悪」 戦争
- ⑭Being a Positive Force in the World
私は世界でどうやってPositiveな影響を与えればいい?
- ⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーC2

【担当】音羽 レベッカ

【開講】後期 水3

■サブタイトル

Thinking about Global Life 世界を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える

■到達目標

世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記を参照
平常点10 ・ 参加45 (1回につき3点 x 15回) ・ 宿題30 (1回につき10点x3回) ・ テスト15 合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
- ②Introducing the World (1) Natural Environment
世界の紹介 (1) 自然環境
- ③Introducing the World (2) Human Environment Assign HW 1
世界の紹介 (2) 人間環境
- ④How Others Live ? Imagining other lives
人間の生き方 世界の人々の生活を想像する
- ⑤Relationships on the International Stage Hand in HW 1
国際的な人間関係
- ⑥Men and Women
世界における男性と女性
- ⑦Social Rules vs Universal Laws
社会のルールと人間のルール
- ⑧Being Part of Society ? Experiences of a Gaijin Assign HW 2
社会の一員 「外人」の経験
- ⑨Human Rights and Human Responsibilities
人権と人間の責任
- ⑩Exploitation Hand in HW 2
私は他の人間や動物を使用してもいい?
- ⑪Money & Economics
世界的に考えるお金
- ⑫Individual "evil" ? crime & punishment
個人的な「悪」 犯罪
- ⑬Mass "evil" ? war & oppression Assign HW 3
国際的な「悪」 戦争
- ⑭Being a Positive Force in the World
私は世界でどうやってPositiveな影響を与えればいい?
- ⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

■サブタイトル

Language Acquisition Through Interaction

■講義概要

The Objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts. Throughout the course we will develop the learners speaking and listening skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language they learn, and make use of their own experiences and knowledge. We will be working in pairs and small groups providing a maximum amount of student-generated communication. We will review after every three units to recycle and consolidate the language and structures previously presented.

■到達目標

After completing this course, students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.

■講義方法

Students will be divided into pairs or groups at the beginning of each class, thus providing many opportunities for student interaction. Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students are required to download the Self-study audio at > www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.

■成績評価の方法

平常点 (50%)

小テスト (25%)

その他 (25%) Homework

■テキスト

Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book Two』 Longman 2180円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Learning is an ongoing and cyclical process in that what is taught one day may well not be remembered, known, or understood the next. It is therefore very important students attend regularly, because to learn a language is to use it frequently.

■講義計画

- ①Asking for information: Just asking
- ②Describing things: It' s black and white
- ③Making requests: Would you mind?
- ④Giving instructions: Turn it clockwise
- ⑤Review and consolidation: Say that again
- ⑥Asking for Permission: Go right ahead
- ⑦Excuses, Excuses: Making excuses and giving reasons
- ⑧Giving opinions: I couldn' t agree more
- ⑨Comparing things: Bigger and better
- ⑩Review and consolidation: Say that again
- ⑪Giving advice and making suggestions: If I were you
- ⑫Talking about experiences: Have you ever
- ⑬Inviting: How about dinner?
- ⑭Making predictions: It' s going to rain
- ⑮Review and consolidation: Say that again

■サブタイトル

Harry Potter and Friends, Fantastic Fiction English

■講義概要

とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しむようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしめたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。具体的には、具体的に読むものは2本立て。日本ではなじみがないが、映画上映の際にメインの映画+短編映画1本の2本立てというやり方がある。メインディッシュ+前菜のような感じ。この授業でもそのノリで、メインとしてお馴染みHarry Potter第1巻の原書をシリーズで毎回少しずつ英語で読み、一方、それとは気分を変えて、様々な、より短く、だいたいはいより簡単で、変化に富んだ内容の短編や長編の一部を、retold版（より易しい英語で書き直したもの）なども活用して読む、という形を取ってみる。というわけで、けっこうぜいたくな試みである。

■到達目標

物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。「実用」を超えた英語の味わいを体験すること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法

事前に2本立てで2種類のハンドアウトを配布。合わせても4ページ前後の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メイン作品については、一部しか読めないのが、話の展開はリスニング練習を兼ねて映画の映像で補う。授業ではまず前回学習した英語表現、及び当日読む作品のストーリーについて的小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説+情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。ほぼ毎回、学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修

英語セミナー D2

■授業時間外における予・復習等の指示

予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になるようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 小テスト、課題 (予習) の達成状況、授業中の発表、最後に書いてもらうコメントなど

定期試験 (60%)

3分の1以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則0点とする。

■テキスト

Harry Potter and the Philosopher's Stone (UK版)、及び他の小説の、いずれもハンドアウトを使用する予定。なおHarry Potterについては、自分で本を買ってもいいし(2012年1月現在、800円余りで買える)、あらかじめ持っている本があればそれを活用してもよい。Harry Potter and the Sorcerer's Stone (US版)でもさほど影響ない。

参考文献

まだ第1巻とはいえ、Harry Potterの英語はなかなか難しい。多分子想以上だろう。図書館も含めて翻訳は簡単に読めるだろうから参考にするのは構わない。

■履修上の注意・担当者からの一言

欲ばりな内容で、消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方については調整するかもしれない。それほど負担が大きいわけではないので、受講する場合はちゃんと予習するつもりで参加すること。メイン作品については、授業では要所要所しか読めないが、この機会に1冊丸ごと読破してほしい。原書の購入法は授業中に紹介、相談に乗る。

■ オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。
2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learning
サイトを開設予定。

■講義計画

- ① introduction
- ② Harry Potter 1 (1) + 昔話
- ③ Harry Potter 1 (2) + 不気味な話
- ④ Harry Potter 1 (3) + 皮肉な話
- ⑤ Harry Potter 1 (4) + あつと驚く話
- ⑥ Harry Potter 1 (5) + どきどきする話
- ⑦ Harry Potter 1 (6) + ほのぼのする話
- ⑧ Harry Potter 1 (7) + ショートショート
- ⑨ Harry Potter 1 (8) + ほろりとする話
- ⑩ Harry Potter 1 (9) + 不思議な話
- ⑪ Harry Potter 1 (10) + 古典の名場面
- ⑫ Harry Potter 1 (11) + 怖い話
- ⑬ Harry Potter 1 (12) + 犯罪の話
- ⑭ Harry Potter 1 (13) + にやりとする話
- ⑮ Harry Potter 1 (14) + おかしい話
- ⑯* + の後のサブのストーリーについては、とりあえずジャンルをランダムに示したもので、必ずしも取り上げる順番ではない。

■サブタイトル

Charlie and the Chocolate Factory, and Other Stories --
Fantastic Fiction English 2

■講義概要

とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しむようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えばしめたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。具体的には、具体的に読むものは2本立て。日本ではなじみがないが、映画上映の際にメインの映画＋短編映画1本の2本立てというやり方がある。メインディッシュ＋前菜のような感じ。この授業でもそのノリで、メインとして、ジョニー・デップ主演映画でもお馴染み、ロアルド・ダール原作のCharlie and the Chocolate Factoryの原書をシリーズで毎回少しずつ英語で読み、一方、それとは気分を変えて、様々な、より短く、だいたいはいより簡単に、変化に富んだ内容の短編や長編の一部を、retold版（より易しい英語で書き直したもの）なども活用して読む、という形を取ってみる。というわけで、けっこうぜいたくな試みである。

■到達目標

物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。「実用」を超えた英語の味わいを体験すること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法

事前に2本立てで分2種類のハンドアウトを配布。合わせても5ページ前後の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メイン作品については、一部しか読めないのが、話の展開はリスニング練習を兼ねて映画の映像で補う。授業ではまず前回学習した英語表現、及び当日読む作品のストーリーについて的小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説+情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。ほぼ毎回、学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修

英語セミナー D1

■授業時間外における予・復習等の指示

予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければい
つまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になる
ようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 小テスト、課題 (予習) の達成状況、授業中の発表、最後に書いてもらうコメントなど

定期試験 (60%)

3分の1以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則0点とする。

■テキスト

Charlie and the Chocolate Factory、及び他の小説の、いずれもハンドアウトを使用する予定。Charlie and the Chocolate Factoryについては、自分で本を買ってもいいし（2012年1月現在、500円余りで買える）、あらかじめ持っている本があればそれを活用してもよい。

参考文献

翻訳（『チョコレート工場の秘密』）もあるので、参照してもらうのは構わない。

■履修上の注意・担当者からの一言

欲ばりな内容で、消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方については調整するかもしれない。それほど負担が大きいわけではないので、受講する場合はちゃんと予習するつもりで参加すること。メインのCharlie and the Chocolate Factoryの英語は、前期D1のHarry Potterに比べるとだいぶ易しい。授業では要所要所しか読めないが、この機会に1冊丸ごと読破してほしい。原書の購入法は授業中に紹介、相談に乗る。

■ オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。
2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learning
サイトを開設予定。

■講義計画

- ① introduction
- ② Charlie and the Chocolate Factory (1) + 昔話
- ③ Charlie and the Chocolate Factory (2) + 不気味な話
- ④ Charlie and the Chocolate Factory (3) + 皮肉な話
- ⑤ Charlie and the Chocolate Factory (4) + あつと驚く話
- ⑥ Charlie and the Chocolate Factory (5) + どきどきする話
- ⑦ Charlie and the Chocolate Factory (6) + ほのほのする話
- ⑧ Charlie and the Chocolate Factory (7) + ショートショート
- ⑨ Charlie and the Chocolate Factory (8) + ほろりとする話
- ⑩ Charlie and the Chocolate Factory (9) + 不思議な話
- ⑪ Charlie and the Chocolate Factory (10) + 古典の名場面
- ⑫ Charlie and the Chocolate Factory (11) + 怖い話
- ⑬ Charlie and the Chocolate Factory (12) + 犯罪の話
- ⑭ Charlie and the Chocolate Factory (13) + にやりとする話
- ⑮ Charlie and the Chocolate Factory (14) + おかしい話
- ⑯* + の後のサブのストーリーについては、とりあえずジャンルをランダムに示したもので、必ずしも取り上げる順番ではない。

英語セミナー E 1

【担当】 西山 けい子
【開講】 前期 水2

■サブタイトル

映画を使って英語に親しむ

■講義概要

アメリカン・ニューシネマの代表作のひとつThe Graduate (1967、監督マイク・ニコルズ、邦題『卒業』)を取り上げる。大学を優秀な成績で卒業したものの、将来の明確な展望をもてずに不安な日々を過ごす青年ベンジャミン(ダスティン・ホフマン)は、両親の友人ミセス・ロビンソン(アン・バンクロフト)に誘惑され関係を重ねるようになる。しかし、彼女の娘のエレインに惹かれたことから物語は急展開を遂げる。サイモン&ガーファンクルによるサウンドトラックでも有名なこの作品を、DVDの英語字幕を見ながら半期かけてひととおり学び、あわせて関連資料を読む。1960年代のアメリカ社会について、映像や文献を紹介する。

■到達目標

映画を用いることにより、映像の助けを得ながら自然なスピードの英語音声に慣れるようにする。口語的な表現や深い心理表現などに注目し、作品を味わいながら英語を学ぶ。授業でとりあげる作品だけでなく、各自が自分の好きな映画を英語字幕で見ることへの抵抗感をなくす。

■講義方法

DVDで英語字幕を見ながらセリフを聞き取る。スクリプトで意味を確認したあと、声に出して言う練習をする。作品の解説や批評などの関連資料を読む。また、多くの映画に興味をもってもらえるように、課題では、過去のいろいろな作品の名場面に触れられるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回授業でとりあげる分のスクリプトを読んでくる。

■成績評価の方法

平常点(60%) 授業への取り組みや、担当箇所の発表など
レポート(40%) 課題は教室で指示する

■テキスト

プリントを配布する。

■参考文献

Mark Harris 『Pictures at a Revolution: Five Movies and the Birth of the New Hollywood』 Penguin 1242円
テッド・デミ 『アメリカン・ニューシネマ-反逆と再生のハリウッド史 [DVD]』 ナウオンメディア 3990円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業で紹介する映画は、英語のレベルや作品の面白さを考えて選んでいます。できるだけ時間をつくって、図書館や自宅で鑑賞するようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室は2-313です。質問等については、授業後の水曜12:35-13:35または火曜昼休みに来室してください。

■講義計画

- ①イントロダクション 映画The Graduateの前半を鑑賞する
- ②映画The Graduateの後半を鑑賞する 課題の説明をする
- ③卒業記念パーティ
- ④ミセス・ロビンソンの誘惑
- ⑤ベンの誕生日
- ⑥年上の女
- ⑦ホテルの部屋で
- ⑧両親の心配
- ⑨エレインとのデート
- ⑩ミセス・ロビンソンの警告
- ⑪エレインの衝撃
- ⑫エレインを追って
- ⑬エレインの気持ち
- ⑭花嫁の略奪
- ⑮60年代アメリカ

英語セミナー E 2

【担当】 西山 けい子
【開講】 後期 水2

■サブタイトル

映画を使って英語に親しむ

■講義概要

サスペンス映画の傑作、ヒッチコック監督のPsycho(『サイコ』、1960)を取り上げる。アメリカ映画史上もっとも有名なシャワーシーンを含め、この映画の全編を英語字幕つきで詳しく見ながら、半期かけてひととおり作品を学ぶ。あわせて作品の解説や分析などの関連資料を読む。

■到達目標

映画を用いることにより、映像の助けを得ながら自然なスピードの英語音声に慣れるようにする。口語的な表現や深い心理表現などに注目し、作品を味わいながら英語を学ぶ。授業でとりあげる作品だけでなく、各自が自分の好きな映画を英語字幕で見ることへの抵抗感をなくす。

■講義方法

DVDで英語字幕を見ながらセリフを聞き取る。スクリプトで意味を確認したあと、声に出して言う練習をする。作品の解説や分析などの関連資料を読む。また、いろいろな映画に興味をもってもらえるように、課題を通じて、過去のいろいろな作品の名場面に触れる機会をつくる。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の授業で扱う部分のスクリプトを読んでくる。

■成績評価の方法

平常点(60%) 授業への取り組みや、担当箇所の発表など
レポート(40%) 課題は教室で指示する

■テキスト

プリントを配布する。

■参考文献

Stephen Rebello 『Alfred Hitchcock and the Making of

Psycho』 Mrion Boyars 1890円
Raymond Durnat 『A Long Look at 'Psycho'』 BFI 2684円
トリュフォー／ヒッチコック 『定本・映画術 ヒッチコック・トリュフォー(改訂版)』 晶文社 4200円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業で紹介する映画は、英語のレベルや作品の面白さを考えて選んでいます。できるだけ時間をつくって、図書館や自宅で鑑賞するようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室は2-313です。質問等については、授業後の水曜昼休みに受け付けます。または火曜昼休みに来室してください。

■講義計画

- ①イントロダクション 映画Psychoの前半を鑑賞する
- ②映画Psychoの後半を鑑賞する
- ③昼下がりの逢引き
- ④4,000ドルの着服
- ⑤マリオンの失踪
- ⑥ベイツ・モーテル
- ⑦ノーマンとの夕食
- ⑧シャワー
- ⑨沼と影
- ⑩マリオンの足取りを追って
- ⑪私立探偵の死
- ⑫ベイツ・モーテル1号室
- ⑬ミセス・ベイツ
- ⑭もうひとりのノーマン
- ⑮まとめ

教育原論A

【担当】 藤井 奈津子

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

子ども期の再発見

■講義概要

かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Aでは、まず後者のロマン主義的子ども観の流れに沿って、大人とは異なる〈子ども〉特有の生のありようについて考えていきたい。文学作品や映画に描かれた子どもを手がかりに、議論を進めていく予定である。

■到達目標

近代における子ども期の発見の歴史と、そこで見出された子ども特有の生のありようについて理解することによって、現代の教育を考えていく上で重要な子ども観を養う。

■講義方法

板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。

■系統的履修

できれば教育原論Bも受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし。

■成績評価の方法

レポート（40%）小レポート4回

定期試験（60%）期末試験

■テキスト

テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。

■参考文献

Ph. アリエス 『〈子供〉の誕生—アンシャン・レジーム期の
子供と家庭生活』 みすず書房 5200円

森田伸子 『テキストの子ども—ディスカール・レシ・イマー
ジュ』 世織書房 2600円

本田和子 『映像の子どもたち—ビデオという覗き窓』 人文
書院 1900円

■講義計画

①オリエンテーション

②子ども期の発見

③子どもの時間（1）—ロマン主義的子ども観

④子どもの時間（2）—〔映画視聴〕

⑤子どもの時間（3）—映画解説—子どものリアリティ

⑥子どもと秘密（1）—子どもの秘密と大人の秘密

⑦子どもと秘密（2）—〔映画視聴〕

⑧子どもと秘密（3）—映画解説—禁止への侵犯

⑨子どものイニシエーション（1）—イニシエーションとは何か

⑩子どものイニシエーション（2）—〔映画視聴〕

⑪子どものイニシエーション（3）—映画解説—子どもから大人へ

⑫大人の生における子ども期の意味（1）—子ども期とは何か

⑬大人の生における子ども期の意味（2）—J.S.ミルの事例から

⑭大人の生における子ども期の意味（3）—里山学校の実践

⑮まとめ

教育原論A

【担当】 田中 圭治郎

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

公教育の諸問題

■講義概要

教育とは何かを、教育哲学、教育史、思想、教授学、教育制度等のさまざまな角度から考察する。そのため、プラトン、コメニウス、ルソー、パスタロッチ、フレーベル、デューイ等の人物の思想を説明し、教育の基礎知識を習得してもらう。

■到達目標

公教育の成立により、教育の大衆化がいかに可能になったか。一人ひとりの可能性を生かすのはどうすればよいかを理解してもらう。

■講義方法

授業計画にもとづいて、テキストを中心に講義をすると共に、適宜、ビデオ、プリントを使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを授業開始以前に読んでおくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）主として出席を評価基準とする

小テスト（30%）

定期試験（40%）

■テキスト

田中潤一・田中達也 『未来を拓く教育—軌跡と展望—』 ナ
カニシヤ出版 2600円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

私語をなくすこと。出席を重視する。

■講義計画

①教育学入門（1） 国際理解教育、異文化理解教育

② 〃 （2） 多文化教育

③教育の本質

④教育の思想Ⅰ

⑤教育の思想Ⅱ

⑥教育の思想Ⅲ

⑦教育方法（1）

⑧教育方法（2）

⑨カリキュラム・教育課程論（1）

⑩カリキュラム・教育課程論（2）

⑪学校制度論（1）

⑫学校制度論（2）

⑬進路指導・キャリア教育（1）

⑭進路指導・キャリア教育（2）

⑮まとめ

■サブタイトル

教育の再考

■講義概要

これまで教育を受けてきた人が、人に教える立場になったとき、どのような教育観が必要となってくるのか。少なくとも、自分が受けてきた「教育」が、教育のすべてであると思うのはあまりに偏った見方である。この講義では、体験や経験だけで教育を考えるのではなく、教育を対象化できる思考方法を身につけることを目的として、教育に関する歴史や制度を紹介していく。

■到達目標

各自が抱く自明の「教育観」を、教育学の基礎的な思考方法によって再検討できるようにする。

■講義方法

講義形式を基本とするが、視聴覚教材等を用いる場合もある。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容を整理し、日ごろから考えることを重点においた理解をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (10%) ミニッツペーパー

定期試験 (50%) 学期末の筆記試験

その他 (40%) 小レポート

講義時間内に小レポート（複数回）を課す場合があるので、注意すること。

■テキスト

特になし

参考文献

特になし

■講義計画

- ①「教育」のイメージ
- ②教育に関する最近の動向 (1) 現在までの推移
- ③教育に関する最近の動向 (2) 教育改革の方向性
- ④教育に関する最近の動向 (3) 学力論にみる教育のあり方
- ⑤教育学の思考方法としてのモデル論
- ⑥教育モデル論の類型
- ⑦近代教育学の特質
- ⑧子どもの発達観
- ⑨近代学校教育の成立
- ⑩日本の戦後教育の理念
- ⑪戦後「新教育」の特徴
- ⑫学習指導要領の変遷
- ⑬戦後教育のパラダイムシフト
- ⑭教育基本法の改正と教員養成制度
- ⑮まとめ

教育原論B

【担当】 田中 圭治郎

【開講】後期 月2

■サブタイトル

教育の思想と実態

■講義概要

現在、われわれが直面している学校現場での諸課題についてどのように対処していったらよいのかについて考えたい。小学校・中学校・高校の教育現場に焦点を当ててみる。価値観の多様化にともなって、教師がどのように一人ひとりの子どもを見つめ、その可能性を伸ばすことができるのかについて述べる。

■到達目標

この授業では、人間としてどのように生きるべきかという視点から教育を考え、一人ひとりを生かす教育について考えてみる。

■講義方法

授業計画にもとづいて、テキストを中心に講義をすると共に、適宜ビデオ、プリントを使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを授業開始までに読んでおくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 主として出席を評価基準とする

小テスト (30%)

定期試験 (40%)

■テキスト

田中圭治郎著 『多文化教育の世界的潮流』 ナカニシヤ出版
2356円

参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

私語をなくすこと。出席を重視する。

■講義計画

- ①教育学入門 (1) 人間と教育
- ② 〃 (2) 教育の今日的課題
- ③教育の意義と目的 (1) 素質と環境
- ④ 〃 (2) 学校教育の諸問題
- ⑤ 〃 (3) 家庭教育・社会教育の諸問題
- ⑥ 〃 (4) バンクス等の多文化教育の思想
- ⑦公教育の理念と成立 (1) ソクラテス、ルター、ルソー、コンドルセ
- ⑧ 〃 (2) ペスタロッチー、フレーベル、ヘルバルト
- ⑨ 〃 (3) モンテッソーリ、デューイ
- ⑩ 〃 (4) フリースクール等の学校、改革
- ⑪世界の教育 (1)
- ⑫ 〃 (2)
- ⑬ 〃 (3)
- ⑭ 〃 (4)
- ⑮まとめ

経済学入門

【担当】 藤田 梨樺

【開講】 前期 水4

■サブタイトル

現代経済学

■講義概要

私たちの日々の生活は経済の動きに左右されている。それゆえ経済学は諸君が現代社会を生き抜いていく上で身につけておくべき教養の1つであるといえる。本講義では、経済問題の本質を理解するのに必要となる経済学の基本的な専門知識の習得だけでなく、具体的な事例を取り上げ経済学の基本的な考え方の習得を目指す。教科書の流れに沿い、資料や映像などで補足し、分かりやすく説明する。

■到達目標

経済学の基本的な考え方を習得し、それを踏まえて現実の経済現象が理解でき、かつ洞察する眼を養う。

■講義方法

資料や映像を用いて解説する。時々小テストや課題提出を行い、講義内容の理解の程度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストをじっくり読み込むこと

■成績評価の方法

平常点（50%）小テスト、課題提出による授業参加
定期試験（50%）中間試験

■テキスト

岩田規久男 『経済学への招待』 新世社 1800円

■参考文献

伊藤元重 『入門経済学（第3版）』 日本評論社 3150円

■講義計画

- ①経済学とは
- ②経済学の考え方
- ③ミクロ経済学入門
- ④市場と資源配分
- ⑤需要と供給①－価格決定メカニズム－
- ⑥需要と供給②－資源配分と所得分配の決定－
- ⑦政府の役割①－資源配分と政府－
- ⑧政府の役割②－所得再分配と政府－
- ⑨中間試験
- ⑩マクロ経済学入門
- ⑪国内総生産の決定
- ⑫国内総生産の変動
- ⑬インフレとデフレの解明
- ⑭マクロ経済の安定化政策－財政金融政策－
- ⑮マクロ経済学の視点で日本経済を見る①－日本の経済成長の要因－

経済学入門

【担当】 長命 洋佑

【開講】 前期 金5

■サブタイトル

われわれは予想どおりに不合理な行動をとる

■講義概要

われわれは日常生活の中で、なぜ、歩いていけるとところに車やタクシー、電車でいくのだろうか？なぜ、大学構内の自動販売機で飲み物を買うのだろうか？なぜ、バイトをするのだろうか？なぜ、日々、野菜の価格が変動するのだろうか？なぜ、人気の飲食店には行列ができるのだろうか？なぜ、大学に行くのだろうか？と、日常生活の何気ない場面に対し、意識的に「なぜ？」と考えると「・・・なんでやる？」と思うようなことが多々あるのではないのでしょうか？日常生活（経済行動）の裏側には、人間の心理が見え隠れしています。そうした部分を少し覗いてみませんか？本講義では、そうした「なぜ？」に対し、経済学の視点からわかりやすく説明することを心がけます（初めて経済学に触れる学生大歓迎です）。

■到達目標

日常生活の中で経済学の考え方が活かせるようになる

■講義方法

講義形式による。また、学生の意見・考え方を講義に反映させたいので、意見・考え方を取り入れられるような工夫を試みる

■授業時間外における予・復習等の指示

日常生活の中で、自分の行動を見直す。

■成績評価の方法

平常点（40%）
定期試験（60%）

■テキスト

受講生に合わせて、テキストを紹介するが、基本的には配布資料によって講義を行う。ただし、配布当日に欠席した人は

自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

「経済学」はお金のことばかり扱う学問と思われがちですが、実際は、日常生活に非常に密接した学問です。経済学を学ぶことによってちょっと違った日常生活が送れるかもしれません。なお、他の学生になるような非常識な行為（私語・携帯）は慎むようお願い申し上げます。私語が多い場合は、退会をお願いしております。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②経済学の領域
- ③お金のお話①：ほんとうに価値のあるものとは？
- ④お金のお話②：一体、何に満足するのか？
- ⑤お金のお話③：なぜ、こんな行動をとってしまったのか？
- ⑥お金のお話④：自分でもわからない1000円と1000円の価値
- ⑦これまでの復習
- ⑧海外との関わり①：世界のなかの小さな国、日本
- ⑨海外との関わり②：日本で何をすればよいのか？
- ⑩海外との関わり③：一人勝ちはできない！
- ⑪消費者の行動①：人は何を求め生きているのか？
- ⑫消費者の行動②：日常生活は危険に満ちた暮らしの方が好ましい！？
- ⑬消費者の行動③：人の行動はなぜ予想どおりに不合理なのか？
- ⑭消費者の行動④：右向け左！！当たり前を疑おう。
- ⑮これまでの復習

経済学入門

【担当】 李 复屏

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

暮らしの中の経済学

■講義概要

この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標

経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法

視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。

■系統的履修

なし。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

定期試験 (50%)

■テキスト

N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3200円

■参考文献

授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようにだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画

- ①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
- ②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
- ③経済学者らしく考える②：大学進学の場合費用はいくらか
- ④取引と貿易：なぜ取引するのか
- ⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
- ⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
- ⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
- ⑧価格の役割：市場が語る時
- ⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
- ⑩公共部門：政府も失敗するさ
- ⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
- ⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
- ⑬貨幣システム：お金とはなにか
- ⑭復習：練習問題
- ⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

経済学入門

【担当】 李 复屏

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

暮らしの中の経済学

■講義概要

この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標

経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法

視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。

■系統的履修

なし。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

定期試験 (50%)

■テキスト

N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3200円

■参考文献

授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようにだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画

- ①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
- ②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
- ③経済学者らしく考える②：大学進学の場合費用はいくらか
- ④取引と貿易：なぜ取引するのか
- ⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
- ⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
- ⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
- ⑧価格の役割：市場が語る時
- ⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
- ⑩公共部門：政府も失敗するさ
- ⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
- ⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
- ⑬貨幣システム：お金とはなにか
- ⑭復習：練習問題
- ⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

言語学入門

【担当】 泉 文明

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

日本語学と対照言語学

■講義概要

世界にはどれくらいの言語があるのでしょうか。また、言語はどのようにグループ分けできるのでしょうか。そして、その中で日本語はどのように位置づけられているのでしょうか。諸外国語を知ることで、日本語のカタチが分かってくるでしょうし、日本語がしっかり分かっているなければ諸外国語の姿・生態もつかめません。認知言語学や計量言語学の紹介も行います。

■到達目標

国語としての日本語の知識と外国語としての英語や中国語の知識を活用しながら、言語を見つめる客観的な態度を身に付ける。

■講義方法

基本的には講義方式をとるが、場合によっては演習方式をとることもありうる。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストと講義計画を見れば、予習のポイントが分かるので、それを参考にして予習すること。

■成績評価の方法

平常点 (10%)

小テスト (20%)

定期試験 (70%)

定期試験が大きな割合を占めるが出席も重視するし、毎回の予習は念入りにして臨むこと。

■テキスト

玉村文郎編 『新しい日本語研究を学ぶ人のために』 世界思想社 2300円

■参考文献

玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社 1893円

■講義計画

- ①言語学とは何か
- ②言語研究の歴史
- ③世界の言語 (1)
- ④世界の言語 (2)
- ⑤世界の言語 (3)
- ⑥世界の言語 (4)
- ⑦小テスト
- ⑧小テストの解説
- ⑨日本語の姿 (1)
- ⑩日本語の姿 (2)
- ⑪表現 (1)
- ⑫表現 (2)
- ⑬表現 (3)
- ⑭その他の言語研究
- ⑮まとめ

言語学入門

【担当】 二葉 晃文

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

社会・文化・人をつなぐ言語学

■講義概要

本講義は主に日本語と英語のことばの接触、選択、民族、国家について考察していく。

■到達目標

提示される問題について、積極的に考え、言語に一般的な性質を探る態度を身に付ける。

■講義方法

基本的には講義方法をとるが、場合によっては演習方法をとることもある。

■系統的履修

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜、課題を指示するので、それに基づいて予習・復習をすること。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

火曜日、木曜日昼休み。そのほかは、授業の前後に相談してください。

■講義計画

- ①ことばへのアプローチ
- ②ことばのはなし1
- ③ことばのはなし2

- ④ことばと人と文化1
- ⑤ことばと人と文化2
- ⑥ことばとコミュニケーション1
- ⑦ことばとコミュニケーション2
- ⑧ことばの接触・選択1
- ⑨ことばの接触・選択2
- ⑩ことばと民族・国家1
- ⑪ことばと民族・国家2
- ⑫ことばとパワー1
- ⑬ことばとパワー2
- ⑭DVD鑑賞
- ⑮まとめ

コリア語ⅠA

【担当】孫 才喜

【開講】前期 水3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語の文字(ハングル)を正確に発音するようにする.
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする.
2. 韓国語で自己の紹介ができて, 相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする.

■講義方法

教科書の内容を読んで, 意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法

- 平常点(30%) 授業中質問と対答, 読み, 暗記
小テスト(30%) 宿題, 授業態度, 聞取(書き) 試験
定期試験(40%)

■テキスト

入佐信宏,文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』 白帝社 2500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

- 1.外国語として韓国語を週1回勉強してマスターすることは不可能です. 毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください.
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信を持つこと。

■講義計画

- ①言語の意味や歴史と文化との関係
- ②韓国語の起源とハングルの創制ー母音と子音
- ③母音,子音+母音の単語
- ④子音+母音+子音の単語
- ⑤あいさつ、自己紹介
- ⑥日本語カナのハングル表記 発音規則ー連音化
- ⑦主格助詞、イだ(이다) 動詞
- ⑧肯定文(表現)と疑問文(表現)
- ⑨国籍の表現 発音規則ー鼻音化
- ⑩疑問詞の活用と答え
- ⑪親戚の呼び方
- ⑫存在の表現と答え
- ⑬動詞の原型と活用
- ⑭数字の表現ー基数、序数
- ⑮数字の表現の暗記

コリア語ⅠB

【担当】孫 才喜

【開講】後期 水3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語(ハングル)を正確に発音するようにする.
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする.
2. 韓国語で自己の紹介ができて, 相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする.

■講義方法

1. 教科書の内容を読んで, 意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法

- 平常点(30%) 授業中質問と対答, 読み
小テスト(30%) 宿題, 授業態度, 聞取(書き) 試験
定期試験(40%)

■テキスト

入佐信宏,文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』 白帝社 2500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週1回勉強してマスターすることは不可能です. 毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください.
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信を持つこと。

■講義計画

- ①日常生活,習慣に関する表現-1 動詞の不定形ー質問,対答
- ②日常生活,習慣に関する表現-2 動詞の不定形ー質問,対答
- ③物の状態に関する表現-1 ー形容詞の原型, 変形
- ④物の状態に関する表現-2 ー形容詞の原型, 変形
- ⑤趣味の表現、種類
- ⑥数字の表現、読み方ー日,月,時間,番号
- ⑦毎日常生活に関する表現ー日,月,時間,番号、曜日
- ⑧過去表現
- ⑨未来表現
- ⑩買い物の表現ー単位,数え方,お金-1
- ⑪買い物の表現ー単位,数え方,お金-2
- ⑫韓国の歌
- ⑬韓国の映画
- ⑭韓国のドラマ
- ⑮韓国語と文化の係わり

コリア語 I C

【担当】朴 炫国

【開講】前期 木3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して正確に発音するようにする.
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする.
2. 韓国語で自己の紹介ができて, 相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする.

■講義方法

教科書の内容を読んで, 意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記.

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業中質問と対答, 読み, 暗記.
小テスト (30%) 宿題, 授業態度, 聞取 (書き) 試験
定期試験 (40%)

■テキスト

延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です. 毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください.
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信を持つこと.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

paku@world.rykoku.ac.jp, 研究室4号館331, 077.543-7881, (月曜日以外の昼ご飯の時間, 会議の可能性あり, 前以て電話必要)

■講義計画

- ①人間と言語, 言語と文化
- ②韓国語の起源とハングルの製作
- ③韓国語の母音と子音
- ④母音の単語 - 音, 書き方, 読み方
- ⑤子音の単語 - 音, 書き方, 読み方-1
- ⑥子音の単語 - 音, 書き方, 読み方-2
- ⑦子音の交替 平音, 硬音, 濃音 パチム (終声)
- ⑧あいさつ 発音練習-連音化
- ⑨自己生活 発音練習-鼻音化1
- ⑩勉強 発音練習-硬音化
- ⑪家族 発音練習-鼻音化2
- ⑫図書館 発音練習-濃音化1
- ⑬昼ご飯 発音練習-7終声
- ⑭友達 発音練習-濃音化2
- ⑮買い物 発音練習-激音化

コリア語 I D

【担当】朴 炫国

【開講】後期 木3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語 (ハングル) を正確に発音するようにする.
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙を暗記して活用するようにする.
2. 韓国語で自己の紹介ができて, 相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする.

■講義方法

教科書の内容を読んで, 意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記.

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業中質問と対答, 読み, 暗記.
小テスト (30%) 宿題, 授業態度, 聞取 (書き) 試験
定期試験 (40%)

■テキスト

延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です. 毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください.
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信を持つこと.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

paku@world.rykoku.ac.jp, 研究室4号館331, 077.543-7881, (月曜日以外の昼ご飯の時間, 会議の可能性あり, 前以て電話必要).

■講義計画

- ①人間と言語, 言語と文化
- ②韓国語の起源とハングルの製作
- ③韓国語の母音と子音 韓国の歌
- ④母音の単語 - 音, 書き方, 読み方
- ⑤子音の単語 - 音, 書き方, 読み方-1 韓国のドラマ
- ⑥子音の単語 - 音, 書き方, 読み方-2
- ⑦子音の交替 平音, 硬音, 濃音 パチム (終声), 韓国の映画1
- ⑧あいさつ 発音練習-連音化
- ⑨自己生活, 発音練習-鼻音化1 韓国の映画2
- ⑩勉強 発音練習-硬音化
- ⑪家族, 発音練習-鼻音化2 韓国の食べ物
- ⑫図書館 発音練習-濃音化1
- ⑬昼ご飯 発音練習-7終声
- ⑭友達, 発音練習-濃音化2 韓国の観光
- ⑮買い物の表現 激音化

コリア語セミナーA

【担当】金 里博

【開講】前期 水3

■サブタイトル

楽しく日常会話ができ、辞書片手に新聞・雑誌を読んでもよう！

■講義概要

テキストにて基本文法を学びながら、諸文章の読解が出来、併せて日常会話が出来るようにする。

■到達目標

発音が少々日本語的ではあっても基本的な日常会話が出来る。辞書が有れば新聞・雑誌が基本的に読め訳せる。

■講義方法

毎回、新聞・雑誌等を音読し、訳す。随時、時節に合った対話を行う。テキストに準じて必要な文法事項を説明・解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストに使用されている語彙を語彙帳に書き集め憶える。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 四回以上の欠席の平常点は0点とする。
小テスト (30%) 最大4回行われる小テスト(読み・筆記)は一回70点以上を合格とする。70点未満は不合格とし一度だけ追試を認める。追試は80点以上を合格とする。

定期試験 (50%)

無断欠席は5点減点とする。やむを得ない欠席(忌引き・公務等)の場合、レポート提出で対応する用意はしている。レポート不提出は一回につき10点減点とする。

■テキスト

岡山 善一郎 『朝鮮語を学ぶ(初級編)』 白帝社 2000円
欠席する場合、必ずメールにて事前報告すること。事前報告が不可能な場合でも2～3日中に必ず報告すること。(メールアドレスは初授業の時に知らせる)。報告が無い場合は無断欠席とし減点が加算される。

■参考文献

朴 炫国 『韓国語の発音と演習』 白帝社 2000円

熊谷明泰 『アリラン』 朝日出版社 2400円

吉本一他 『韓国語へのとびら(CD付)』 朝日出版社 2500円
コリア語文を正しく読め、会話し、作文するためには文法は不可欠なので上記の参考文献をよく読んで繰り返し学習するのが良い。

■履修上の注意・担当者からの一言

語学は持続と連続が最も有効な学習方法であるので欠席は望ましくない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

開校時、履修者全員にメールアドレスを提示するので前もって連絡した場合は次週の講義後に時間を割くことは可能である。また、疑問質問はメールしてくれると可能な限り早く答えるようにする。

■講義計画

- ①復習 (1) ハングル字母子音
- ②復習 (2) ハングル字母母音
- ③発音規則 (子音同化)
- ④会話 (1) 自己紹介
- ⑤基本的日常会話の小テスト
- ⑥雑誌もしくは新聞を読む (1)
- ⑦雑誌もしくは新聞を読む (2)
- ⑧会話 (2) 機内と入国に際して
- ⑨会話 (3) 短期留学先での会話
- ⑩尹東柱の詩を読み、鑑賞し、暗唱する (1)
- ⑪朴木月の詩を読み、鑑賞し、暗唱する (2)
- ⑫シナリオの抜粋を読む (1)
- ⑬シナリオの抜粋を読む (2)
- ⑭コリア語単語を30個以上使って400字内外の自己紹介作文を書く (日本語が含まれても可能。)
- ⑮講師もしくは級友と会話をする
- ⑯定期テスト

コリア語セミナーB

【担当】金 里博

【開講】後期 水3

■サブタイトル

楽しく日常会話ができ、辞書片手に新聞・雑誌を読んでもよう！ (2)

■講義概要

コリア語の新聞・雑誌・文芸誌等を読む。脚本等を読むことによって会話力を習得する。

■到達目標

ポケット型辞書が有れば新聞・雑誌が基本的に読める。発音が少々日本語的であっても日常会話が出来る。

■講義方法

毎回、新聞・雑誌等を音読する。随時、時節に合った対話を行う。必要な文法事項を解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

機会が有れば韓国ドラマを見る。新聞が読める程度の単語を覚える。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 欠席を4回以上すると平常点は0点とする。
小テスト (30%) 小テストは70点を合格とし、70点未満は不合格とする。追試は一度だけ認める。追試の合格は80点とする。

定期試験 (50%)

無断欠席は5点減点とする。やむを得ない欠席(忌引き・公務等)の場合、課題レポート提出で対応する用意は有る。

■テキスト

岡山善一郎 『朝鮮語を学ぶ』 白帝社 2000円

■参考文献

朴 炫国 『韓国語の発音と演習』 白帝社 2000円
熊谷明泰 『アリラン』 朝日出版社 2400円
吉本 一他著 『韓国語のとびら』 朝日出版社 2500円

コリア語文を正しく読め、会話し、作文するためには文法は不可欠なので上記の参考文献をよく読んで再学習するのが良い。

■履修上の注意・担当者からの一言

語学は持続と連続が最も有効な学習方法であるので欠席は望ましくない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

初講時、履修者全員にメールアドレスを提示するので前もって必ず連絡する。また、疑問質問はメールしてくれると可能な限り早く答えるようにする。欠席は必ず事前に届け出ること。

■講義計画

- ①ハングル子音の復習 (1) 順音・激音・濃音
- ②ハングル母音の復習 (2) 基本母音・複合母音
- ③ハングル字母子音の復習 (3) 終声音
- ④挨拶会話 (1) 自己紹介 (1)
- ⑤挨拶会話 (2) 自己紹介 (2)
- ⑥ハンギョレ新聞・東亜日報・中央日報等の記事を読み訳す (1)
- ⑦ハンギョレ新聞・東亜日報・中央日報等の記事を読み訳す (2)
- ⑧シナリオ「冬のそなた」を読み訳す (1)
- ⑨シナリオ「冬のそなた」を読み訳す (2)
- ⑩シナリオ「冬のそなた」を読み訳す (3)
- ⑪シナリオ「冬のそなた」を読み訳す (4)
- ⑫韓国文化評論を読み訳す (1)
- ⑬韓国文化評論を読み訳す (2)
- ⑭韓国観光時に使う会話 (1)
- ⑮韓国観光時に使う会話 (2)
- ⑯定期考査

社会学入門

【担当】 渡辺 めぐみ

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

社会学とはどのような学問なのか

■講義概要

社会学という学問について、さまざまな事象から解説していきます。そして、現代の社会問題について、社会学の視点から考えていきます。

■到達目標

社会現象について論理的に思考しよう。現代の社会問題について自ら考えよう。

■講義方法

原則として講義形式。パワーポイントを使用します。映像資料の上映もあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

次のテキストで自習することをおすすめします。講義の理解に役立ちます。浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版 2010年

■成績評価の方法

定期試験(100%)持ち込み不可。

■テキスト

特になし

■参考文献

アンソニー・ギデンズ『社会学』而立書房 3780円

そのほか、講義中に指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレスを講義中に配布します。

■講義計画

- ①社会学とは何か
- ②教育について考える その1 - 学校とは何か
- ③教育について考える その2 - 学校と社会のつながり
- ④家族について考える その1
- 家族の「当たり前」を見直す
- ⑤家族について考える その2 - ジェンダーとは
- ⑥家族について考える その3 - 親子とは
- ⑦家族について考える その3 - 結婚とは
- ⑧セクシュアリティについて考える その1
- セクシュアルマイノリティの基礎知識
- ⑨セクシュアリティについて考える その2
- 世界のパートナーシップ
- ⑩労働について考える その1 - 働く人の権利とは
- ⑪労働について考える その2 - 組織について考える
- ⑫「貧困」について考える
- ⑬マスメディアについて考える
- ⑭ナショナリズムについて考える
- ⑮グローバル化について考える

社会学入門

【担当】 渡辺 めぐみ

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

社会学とはどのような学問なのか

■講義概要

社会学という学問について、さまざまな事象から解説していきます。そして、現代の社会問題について、社会学の視点から考えていきます。

■到達目標

社会現象について論理的に思考しよう。現代の社会問題について自ら考えよう。

■講義方法

原則として講義形式。パワーポイントを使用します。映像資料の上映もあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

次のテキストで自習することをおすすめします。講義の理解に役立ちます。浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版 2010年

■成績評価の方法

定期試験(100%)持ち込み不可。

■テキスト

特になし

■参考文献

アンソニー・ギデンズ『社会学』而立書房 3780円

そのほか、講義中に指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレスを講義中に配布します。

■講義計画

- ①社会学とは何か
- ②教育について考える その1 - 学校とは何か
- ③教育について考える その2 - 学校と社会のつながり
- ④家族について考える その1 - 家族の「当たり前」を見直す
- ⑤家族について考える その2 - ジェンダーとは
- ⑥家族について考える その3 - 親子とは
- ⑦家族について考える その3 - 結婚とは
- ⑧セクシュアリティについて考える その1 - セクシュアルマイノリティの基礎知識
- ⑨セクシュアリティについて考える その2 - 世界のパートナーシップ
- ⑩労働について考える その1 - 働く人の権利とは
- ⑪労働について考える その2 - 組織について考える
- ⑫「貧困」について考える
- ⑬マスメディアについて考える
- ⑭ナショナリズムについて考える
- ⑮グローバル化について考える

心理学入門

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

心理学諸理論の体系的理解

■講義概要

心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテインメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標

心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法

その他(100%)以下を参照。

定期試験(教科書・ノート他、一切持ち込み不可)・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。(採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる)。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で資料を配布する)

■参考文献

宝島編集部編 『心理学・入門』 宝島社
大橋ら著 『心理学者、裁判と出会う』 北大路書房
松島著 『記憶の持続 自己の持続』 金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①「心」概念とその認識の在り方を巡って
- ②科学的方法論と心理学との関係性
- ③心理学的測定論
- ④主観性／客観性という二元論を巡って
- ⑤モチベーションに関する諸理論
- ⑥行動主義の心理学
- ⑦条件付けと行動療法
- ⑧認知心理学概説
- ⑨神経心理学概説
- ⑩発達心理学概説
- ⑪臨床心理学概説
- ⑫フロイト／ユングの理論
- ⑬人格心理学概説
- ⑭社会性と自己との関係性を巡って
- ⑮総括

心理学入門

【担当】 松島 恵介

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

心理学諸理論の体系的理解

■講義概要

心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテインメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標

心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法

その他(100%)以下を参照。

定期試験(教科書・ノート他、一切持ち込み不可)・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。(採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる)。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で資料を配布する)

■参考文献

宝島編集部編 『心理学・入門』 宝島社
大橋ら著 『心理学者、裁判と出会う』 北大路書房
松島著 『記憶の持続 自己の持続』 金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①「心」概念とその認識の在り方を巡って
- ②科学的方法論と心理学との関係性
- ③心理学的測定論
- ④主観性／客観性という二元論を巡って
- ⑤モチベーションに関する諸理論
- ⑥行動主義の心理学
- ⑦条件付けと行動療法
- ⑧認知心理学概説
- ⑨神経心理学概説
- ⑩発達心理学概説
- ⑪臨床心理学概説
- ⑫フロイト／ユングの理論
- ⑬人格心理学概説
- ⑭社会性と自己との関係性を巡って
- ⑮総括

心理学入門

【担当】 関口 茂久

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

脳 (Brain) と心 (Mind) と行動 (Behavior)

■講義概要

最近、「モーツァルト効果」が話題になっています。これは、モーツァルトの音楽を聴くと、誰もが安らいだ気分になって頭がスッキリする作用があるという事です。それでは、なぜモーツァルトの音楽を聴くと心が安らぎ頭がスッキリするのでしょうか？それは、音楽を聴くということは、耳だけで聞くのではなく、脳で聴くからなのです。音楽を聴いた脳は、「モーツァルトの音楽」を理解するだけでなく、モーツァルトが作曲した音楽が、他の音楽よりも特別に脳の中心部にある「情動の中枢」を刺激して「安らいだ気分」をもたらすからなのです。このように、心理学は心を脳の働きを通して表出する行動を科学的に解析する学問なのです。専門的には、心には認知、知覚、記憶と学習の働きがあり、それらの働きが基礎になって、考える自分や感情を表に出す自分とか言葉や意志を伝える自分があるのです。現代の心理学は、心を科学するための方法を多く編み出しました。それが、心理学的方法です。講義では、様々な心の働きを調べるための方法を解説します。

■到達目標

心が体とくに脳の成熟と密接に関係していることが分かります。また、様々な行動が対人関係や社会的状況によって現れることが理解できるようになるでしょう。

■講義方法

講義内容は、テキストをスライド編集して提示します。また、簡単な知覚検査と記憶検査を実施することによって、自分の心の働きを体験してみましょう。

■系統的履修

哲学と社会学に関する科目

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週、次章の解説文を一読しておくように指示しています。また、通算10回程度の課題レポートをまとめることにしています。

■成績評価の方法

その他 (100%)
期末試験の成績 (80%) とテーマについてのレポート (20%)

により総合的に評価します。

■テキスト

関口茂久 『心理学入門 (改訂版)』 ふくろう出版 2000円

■参考文献

参考書などは瀬田図書館に最新の心理学のテキストを用意しておきましたので参照してください。

■履修上の注意・担当者からの一言

心理学は応用範囲が広いので、基礎知識の理解が不可欠です。そのためには、心理学的概念を正確に憶えましょう。また、テキストは講義の参考資料ですから、授業に出席して講義内容を補充する必要があります。わからない点等は、講義終了時に質問時間を用意しておきますので、聞いてください。

■講義計画

- ①心理学には、多くの専門領域があります。授業は、各専門領域ごとのテーマ(テキストの各章のタイトル)に従って講義を進めます。
- ②私の心はどこにあるの？
- ③心をコントロールする脳神経系
- ④成熟する脳と行動発達
- ⑤心の窓と知覚
- ⑥知覚検査の実施
- ⑦学習する脳と行動
- ⑧記憶は「私」をつくる
- ⑨記憶検査の実施
- ⑩情に流される
- ⑪心の不調とケア
- ⑫共感する心
- ⑬コロロギズム：け高い献身愛
- ⑭映画「野生霊長類の社会」の課題
- ⑮心を測る：心理測定法

スポーツ技術学A

【担当】 種目・開講曜講時による

【開講】 学科により異なる

■講義概要

現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。

- 1) スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
 - 2) スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
 - 3) 自己の体力を分析し、改善策を探る。
- スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標

1.スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。2.自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法

より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1) 1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する(どちらか不認定になった場合は次年度再履修する)。2) ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。3) 登録方法は、①予備登録およびWeb登録、②たて3cmよこ2.5cmの写真(出席カード用)2枚を準備し、最初の授業時間(体育館メインフロア)に持参する。なお最初の授業時にはトレーニングウェアは不要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

オリエンテーションの時に指示する

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席と授業参加
レポート (30%) 体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

- スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
- 体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画

- ①オリエンテーション (体育館メインフロアに集合、更衣の必要なし)
- ②各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ③各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ④各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑤各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑥各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑦各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑧各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑨各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑩各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑪各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑫体力測定①
- ⑬体力測定② (体育館に集合)
- ⑭各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑮各種スポーツ活動とまとめ (詳細については、講義時に指示)

スポーツ技術学B

【担当】 種目・開講曜講時による
【開講】 学科により異なる

■講義概要

現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。

- 1) スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
 - 2) スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
 - 3) 自己の体力を分析し、改善策を探索。
- スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標

1. スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2. 自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法

より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1) 1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。2) ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。

■授業時間外における予・復習等の指示

オリエンテーションのときに指示する。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席と授業参加

レポート (30%) 体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視すること
と、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

- スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
- 体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画

- ①各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑫体力測定①
- ⑬体力測定②（体育館に集合）
- ⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

生活の中の化学

【担当】 中沖 隆彦、糟野 潤
【開講】 後期 木3

■講義概要

私たちが現代社会で生活していく上で、化学物質の使用や化学反応は日常いたるところで見られます。普段何気なく使っていて、どうしてこうなるのか？と不思議に思ったことはないでしょうか？本講義では生活に密着した身近なところで見られる化学に関する話や実際の化学製品について化学の知識があまりなくても平易に解説します。例えば毎日身に付けている洋服の素材は？いい香りがするのはなぜ？環境問題はどんなになっているの？といったことをとりあげます。

■到達目標

身の回りのいたるところに見られる「化学」を身近に感じてもらい、化学に対する関心と知識が深まります。

■講義方法

1回の講義でトピックを決めて話をします。演示実験や適宜パワーポイント等の視覚的な教材も使用します。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習に力を入れてください（講義の内容を意識しながら、身の回りにある「化学」を再度見つめて欲しい）。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎回小エッセーを授業の終わりに書いてもらいます。

定期試験 (70%) 語句説明や論述式問題から評価する。

定期試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

化学の話を肩ひじ張らずにします。講義内容はビギナー向けですので化学の知識がなく化学式が苦手という人でも大歓迎です。より高度な内容を望む学生は他の講義を選択してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業が終わったあとと研究室で行います。

■講義計画

- ①グリーンケミストリー
- ②合成繊維
- ③界面活性剤
- ④空が青いのは？－色の化学－
- ⑤ゲルの化学－砂漠の緑化に役立つ吸水性高分子－
- ⑥香りの化学
- ⑦最先端ディスプレイ－液晶orプラズマ？－
- ⑧中間テスト
- ⑨植物のつくるエネルギー－光合成－
- ⑩微生物発酵でつくられる酒、味噌
- ⑪コスメの化学
- ⑫水の不思議
- ⑬原子力エネルギー
- ⑭ゴムの化学
- ⑮電池の歴史

生活の中の数学

【担当】松本 和一郎、山岸 義和

【開講】前期 水3

■講義概要

前半は、等比数列やネズミ講について、松本が講義する。後半は、ひまわりの葉序と連分数、そして利息と生命保険について、山岸が講義する。

■到達目標

日常の身のまわりに隠れた数学に気づく。複利の感覚を身につける。

■講義方法

板書と、必要に応じてPowerPointを利用して、講義を行います。

■授業時間外における予・復習等の指示

後半は、eラーニングのページを利用してレポートを課す予定。

■成績評価の方法

その他 (100%)
前半は筆記試験を実施する。後半はレポート、作図および工作と、筆記試験とを同程度に重視して評価する。前半と後半の両方で合格水準に到達すること。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

電卓を使用することがある。

■講義計画

- ①前1：無限大のマジック
- ②前2：等比数列・等比級数
- ③前3：親切な街の消費者金融業者
- ④前4：「70%の法則」
- ⑤前5：ネズミ講とは何か？
- ⑥前6：ネズミ講は破綻するのか？
- ⑦前7：ネズミ講の構造は到るところにある
- ⑧前8：決して負けない賭け
- ⑨後1：正方形タイリング
- ⑩後2：利息の計算
- ⑪後3：ひまわりの葉序
- ⑫後4：寿命、人口
- ⑬後5：ファレイ数列、連分数
- ⑭後6：定期保険
- ⑮後7：葉序の折り紙

生活の中の統計技術

【担当】樋口 三郎

【開講】後期 水3

■サブタイトル

使える統計!

■講義概要

インターネットや携帯電話の通信記録、株価や為替レートの変動、通販サイトの購買履歴など、世の中には大量のデータがありますが、そこから「法則」を読み取ること、その「法則」を他の人に納得してもらうこと、「法則」を役立てることは簡単ではありません。この科目では、これらのための技術の集合体である統計を学びます。授業は数学のりです。高等学校1年程度の数学の予備知識を期待します。統計の予備知識は前提としません。統計ではPC特にExcelやその他の統計ソフトがよく利用されますが、この授業では、授業形式の制約から、ソフトウェアの使用方法についてはごく限られた範囲しか説明できません。

■到達目標

1変数または2変数の統計データを理解するためにグラフを描いたり平均や分散や相関係数などの量を求めたりすることができる。統計データに関する「法則」の候補を考え、それが「正しいかどうか判定」することができる。

■講義方法

週に1回の講義からなる授業です。授業時間内に演習を、授業時間外にeラーニングシステムを利用した学習を行うことがあります。

■系統的履修

本科目は、統計入門、社会統計学、数量的方法入門、確率統計・演習、確率・統計、統計学概論などの科目と内容が重なります。というか、これらの科目の内容に含まれてしまう部分もあります。これらの科目を履修済、あるいは履修予定の方は、本科目の履修を思いとどまった方がいいかもしれません。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回自主的に復習を行うことを期待します。必要な予習は、授業時間内および授業サポート hig3.net で直前の回に指示します。特に必要な復習は、eラーニングシステム上で行います。授業サポート hig3.net にリンクがあります。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 予習復習、授業時間内の演習、アンケートやquizへの反応などの合計です。

小テスト (30%) プチテストとよんでいます。1回。

定期試験 (50%) ファイナルトライアルとよんでいます。1回。スコアレポートはeラーニングシステムReLSで表示します。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

2011年度以前とは内容が異なります。授業の情報は授業サポート hig3.net でPC/携帯向けに提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①L01：度数分布
- ②L02：平均・分散・標準偏差
- ③L03：2変数の度数分布
- ④L04：相関係数
- ⑤L05：回帰と最小2乗法
- ⑥L06：2項分布
- ⑦L07：確率密度
- ⑧T01：プチテスト
- ⑨L08：正規分布
- ⑩L09：点推定
- ⑪L10：区間推定
- ⑫L11：平均の検定
- ⑬L12：分散の検定
- ⑭L13：独立性と適合度の検定
- ⑮L14：分散分析

■サブタイトル

身の回りの物理と科学技術

■講義概要

身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題の一つ取り上げ、ビジュアルな資料提示の手段を採り入れたりすることにより、その物理的現象に興味を持ち注目することから始めて、その物理的仕組みについて理解していく。文化系、理科系の履修にかかわらず、身の回りの物理現象に対する直観的な理解を促進し、科学に対する興味を刺激するようなわかり易い講義を行う。

■到達目標

身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。同時に、物理は数少ない基本法則から、論理的に物理現象を解明したり説明したりすること、さらに応用として人に役立つ便利で確実に動作する機械を作るところに特長があるとわかることが講義目標とも言える。

■講義方法

授業計画に示すように、毎回一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、直観的な理解が深まるような授業を行う。

■系統的履修

一般に物理関係の科目を受講すると効果的であるはずであるが、論理的に考えることを訓練する科目はすべて役に立つ。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義計画に示したテーマについて、講義の前後に関連する資料（本、新聞・雑誌、インターネットなど何でも可）でもっと詳しく調べて、自分の興味を膨らませていくこと。

■成績評価の方法

平常点（100%）講義を頭と耳と目を使って聴いているか、さらに講義内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。原則として毎回実施する。

平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。能力テストではありません。従って、問いに対して、講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。理由が何であれ、講義を聴いていないのですから、遅刻者は小テストを受ける資格はありません。注意する必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト

講義において、主としてPowerPointにより示す内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

■参考文献

藤城敏幸 『『生活の中の物理』』 東京教学社 1800円
広く科学分野の出版物、書籍から科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言

出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった理科と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■講義計画

- ①振り子の原理…位置エネルギーと運動エネルギー
- ②てこの原理…支点、力点、作用点
- ③ロケットの仕組み…アポロからスペースシャトル、はやぶさまで
- ④引力と遠心力…人工衛星の話（宇宙ステーションから静止衛星まで）
- ⑤モータと発電機…電気はどこで作られる。電車の話。
- ⑥電波の利用…ラジオ、テレビの話
- ⑦電子レンジの原理…なぜ温まるか
- ⑧楽音の周波数の規則、音階、和音…十二平均率音階、純正調音階、和音
- ⑨ギターの弦の振動、たいこの皮の振動…波の伝搬と反射の話
- ⑩温度と熱…物の温まり方、熱の伝わり方
- ⑪トランジスタと半導体…エレクトロニクスの話
- ⑫粒子と波動の2重性…量子力学と特殊相対性理論
- ⑬地球と宇宙…気候変動、オーロラの話
- ⑭電話とインターネット、コンピュータの話
- ⑮携帯電話の仕組みと中身

政治学入門

【担当】山崎 充彦

【開講】前期 木3

■サブタイトル

議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要

今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称だが）なるものを生み出した「大衆的熱狂」と、反面、低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。

「小泉劇場」に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレベルを如実に反映する」、「国民の知的レベルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できないのである。選挙期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！ この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標

この講義では、龍谷大学建学の理念たる「共生」の精神に則り、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体を支持・宣伝しないのはもちろん、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚らない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を持つことが絶対に必要であるからだ。仮に、講義の内容に関して、特定政党・特定団体に関係する学生諸君から苦情が呈せられるような事態が生じたとしても、当該学生諸君との「共生」をめざし、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で話し合うであろう。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、共生の精神に基づき、いかなる圧力にも屈することなく、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なるものであっても、非難・抗議・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、それは一般社会人としても高い評価を受けることにもなるだろう。"Nobody is Right"！

■講義方法

通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修

法学入門、日本国憲法など

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示する

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%) 論述式試験。
その他 (0%)

例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画

- ①はじめに ～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
- ②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
- ③参議院の選挙制度①～過去：全国区
- ④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
- ⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
- ⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
- ⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
- ⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
- ⑨「五五年体制」の実態
- ⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
- ⑪連立政権時代の到来とその特質
- ⑫自民党政権の崩壊と民主党政権の成立 一政権交代
- ⑬民主党政権の功罪
- ⑭衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
- ⑮まとめー現代日本政治の諸問題

■サブタイトル

議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要

今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称だが）なるものを生み出した「大衆的熱狂」と、反面、低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。

「小泉劇場」に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレベルを如実に反映する」、「国民の知的レベルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できないのである。選挙期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！ この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標

この講義では、龍谷大学建学の理念たる「共生」の精神に則り、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体を支持・宣伝しないのはもちろん、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚らない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を持つことが絶対に必要であるからだ。仮に、講義の内容に関して、特定政党・特定団体に関係する学生諸君から苦情が呈せられるような事態が生じたとしても、当該学生諸君との「共生」をめざし、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で話し合おうであろう。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、共生の精神に基づき、いかなる圧力にも屈することなく、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なるものであっても、非難・抗議・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、それは一般社会人としても高い評価を受けることにもなろう。”Nobody is Right”！

■講義方法

通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修

法学入門、日本国憲法など

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示する

■成績評価の方法

平常点（0%）
小テスト（0%）
レポート（0%）
定期試験（100%）論述式試験
その他（0%）

例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画

- ①はじめに ～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
- ②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
- ③参議院の選挙制度①～過去：全国区
- ④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
- ⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
- ⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
- ⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
- ⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
- ⑨「五五年体制」の実態
- ⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
- ⑪連立政権時代の到来とその特質
- ⑫自民党政権の崩壊と民主党政権の成立 一政権交代
- ⑬民主党政権の功罪
- ⑭衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
- ⑮まとめ－現代日本政治の諸問題

生命と科学

【担当】宮武 智弘

【開講】前期 金1

■講義概要

生体の中に含まれる様々な化学物質は生命活動において重要な役割を果たしている。私たちはそれら生体物質の構造と機能を理解し生活の向上のために巧みに利用しており、物質生産や医療など様々な分野で生体由来の材料が利用されている。一方で、こうした分子生物学の進歩はクローン技術など生命倫理に関わる問題も引き起こしている。本講義では生体内で活躍している分子のすがたを解説し、それらと私たちの生活との関わりについても紹介したい。

■到達目標

生体物質についての知識を得ることによって、それらが私たちの生活に与える影響について考えることができるようになる。

■講義方法

参考書の内容に準じながら、適時資料を配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示

生命科学に関する基礎的な知識を積み上げ式に講義するので、参考書やその他の生物化学の書籍を用いながら復習することが重要である。また、次週の講義内容についても講義の最後に指示するので、関連する内容を予習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

レポート (20%)
定期試験 (80%)

■テキスト

特になし

■参考文献

柳田充弘, 佐藤文彦, 石川冬木編 『生命科学』 東京化学同人 2400円

■履修上の注意・担当者からの一言

生体に含まれる化学物質は複雑なものが多いが、できるだけ平易に説明するよう努めたい。よって、高校や大学で化学を履修していなくても、生物に興味がある学生の受講を薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 瀬田学舎 1号館207号室 オフィスアワー (月) 5 講時、(木) 4 講時

■講義計画

- ①生命と化学物質
- ②生命科学と私たちの生活
- ③アミノ酸とタンパク質
- ④タンパク質のはたらき
- ⑤酵素のはたらき
- ⑥遺伝子とDNA
- ⑦遺伝情報の伝達
- ⑧細胞と生殖
- ⑨生命倫理
- ⑩バイオテクノロジー
- ⑪脂質と脂肪
- ⑫糖質の科学
- ⑬生命科学と環境
- ⑭光合成と生命のエネルギー
- ⑮まとめ

中国語ⅠA

【担当】張 健同

【開講】前期 月1

■講義概要

中国語ⅠAは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標

中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法

講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合がありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修

中国語ⅠB、ⅠCとⅠD及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
小テスト (20%)
定期試験 (60%)
その他 (10%) 宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト

竹山相哲 [ほか] 共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献

※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画

講義時に指示します。

■講義概要

中国語IDは、会話や文章の表現を中心に学びます。発音の練習はもちろん、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も取り入れていきたいと思っています。また、自己紹介文の書き方も学ぶことができます。

■到達目標

中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、日常会話、そして特に自己紹介の仕方を身につけることを目標としています。

■講義方法

講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合がありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。ショウテストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (50%)
定期試験 (50%)

■テキスト

内田慶市ほか『中国語への道』金星堂 2380円

参考文献

特になし

■講義計画

- ①第7課 会話と要点
- ②第7課 練習
- ③第8課 会話と要点
- ④第8課 練習
- ⑤第9課 会話と要点
- ⑥第9課 練習
- ⑦第10課 会話と要点
- ⑧第10課 練習
- ⑨第11課 自己紹介文の書き方
- ⑩第11課 自己紹介文の読み方
- ⑪第12課 会話と要点
- ⑫第12課 練習
- ⑬第13課 会話と要点
- ⑭第13課 練習

中国語 I D

【担当】張 健同
【開講】後期 水3

■講義概要

中国語 I Dは中国 I Cの引き続きです。

■到達目標

正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法

繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習と宿題をしっかりとってください。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (70%)
出席 (10%)、宿題 (20%)、小テスト (70%) 合計100点満点
で評価します。

■テキスト

劉穎（ほか）『1冊めの中国語（会話クラス）』 白水社
2415円

参考文献

参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言

中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんは積極的勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画

- ①中国語ⅠＣの復習
- ②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ⅰ
- ③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“給”
- ④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
- ⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
- ⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
- ⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
- ⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
- ⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
- ⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
- ⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
- ⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
- ⑬まとめ

哲学入門

【担当】 渡邊 華月

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

「今ここにいる」ことからの出発

■講義概要

経済状況を含め、世界各国は大きく曲がり角を迎え、国内でも海外でも向かうべき方向がますます不透明で見えにくくなってきている。「打開したい」との思いは、それぞれが自分の立ち位置に応じて抱いているものと思われる。哲学は目の前の問題をてっとり早く解決する特効薬ではない。むしろ「今ここに自分がある」という当たり前のことに改めて驚きを覚え、存在そのものへの驚きや、不思議に感じる気持ちを原動力として、私へと、そして世界へと目を向けていくものである。本講義では自らをリフレッシュするそうした原動力として哲学に触れることにトライする。その際、有力な手掛かりとなるものは、数百年、数千年を経ても風化することのない先哲の軌跡である。

■到達目標

すぐに「正解」を求めず、違った意見も受け入れて、自ら考える姿勢

■講義方法

板書中心に講義を進める。講義に関連した資料は専用ホームページ「せたなべ」に掲載する。特にこちらから配布はしないので、資料は必要に応じて各自ダウンロードやプリントアウトするのがのぞましい。講義中3回程度、自らの考えをまとめるミニレポートを実施する。ミニレポートの実施日は初回の講義で指示し、その後ホームページにも詳細を記載する。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自興味のある哲学関係の書籍等読んでおくのがのぞましい。

■成績評価の方法

レポート（30%）

定期試験（70%）

記述式の定期試験が評価の中心だが、ミニレポートを期間中一回も提出していない生徒には、仮に期末試験のみを受験しても単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

ホームページ<http://moon-the.biz/>（「せたなべ」で検索）に必要な情報は随時記載する。ホームページの閲覧だけでは不明な点や質問はkatsuki6_6@yahoo.co.jp宛に受け付ける。

■講義計画

- ①導入：自分はどこにいる？
- ②すべては移ろいゆく－ソフィストたち
- ③「勝つ」とは何－ソクラテス①
- ④「快楽」のはてにあるもの－ソクラテス②
- ⑤疑うことが幸せ？－古代懐疑主義
- ⑥多人数の幸福こそが大事？－功利主義
- ⑦こんな性格なのは自分のせい？－アリストテレス
- ⑧究極の自由－プロティノス～アウグスティヌス
- ⑨疑い得ない「自分」－デカルト①
- ⑩「私」は明日も「私」なのか－デカルト②
- ⑪神は死んだ！－ニーチェ
- ⑫世界の果てはどこか－カント①
- ⑬動機なき行為こそ道徳的－カント②
- ⑭私の成功は私の力？－ロールズ
- ⑮まとめ・期末試験の説明

哲学入門

【担当】 鷲見 淳之

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

こころと環境の時代の世界観を探究する

■講義概要

哲学は世界に関する極めて包括的な見解と人生に対する知的な態度を目指すものです。本講義では、まず近代における知見の増大が、知識を獲得し、信念をテストする探究方法にどのような根本的な変化を与えるのかを考えます。そして、近代西洋における自然観のはらむ困難な問題を明らかにした上で、今日の私たちが求めるべき「生きた自然」を開く世界観の骨格について考えてみたいと思います。なお、哲学の歴史を時代順に開設することはしませんが、具体的な問題の局面との関連において伝統的な学説のいくつかを紹介します。

■到達目標

論理的な物事の見方と考え方を身につけ、哲学・思想関係の著作を「理解しようとする努力」のできる、各人の知的に真摯な態度を養うことを目標とします。

■講義方法

哲学・思想関係の文献に慣れて頂くために、なるべく邦語の原典資料にあたりつつ講義を進めます。皆さんからの意見や感想も講義の中で取り上げたいと思います。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の時間に指示します。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席を平常点とします

レポート（70%）テーマの絞り方と議論のまとまりを重視します

■テキスト

特になし

■参考文献

ウィル・デューラント『西洋哲学物語』講談社学術文庫7234

■履修上の注意・担当者からの一言

哲学と言えば「実生活に関係ない難解な空論」というイメージを持たれることが多いですが、なるべく日常の出来事と関連づけて分かりやすく解説したいと思います。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

なるべく講義終了に連絡をとるように心掛けて下さい。

■講義計画

- ①哲学の役割
- ②人類の思考の進歩
- ③論理学のはじまり
- ④古代ギリシアの自然観
- ⑤古代ギリシアの靈魂観
- ⑥古典的世界観の限界
- ⑦近代思想のはじまり（1）
- ⑧近代思想のはじまり（2）
- ⑨ルネッサンスから近代へ
- ⑩デカルト－ゼロからの出発
- ⑪機械論的唯物論とその問題点（1）
- ⑫機械論的唯物論とその問題点（2）
- ⑬こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（1）
- ⑭こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（2）
- ⑮まとめ

哲学入門

【担当】 渡邊 華月

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

「今ここにいる」ことからの出発

■講義概要

経済状況を含めて世界各国とも大きく曲がり角を迎え、国内でも海外でも向かうべき方向がますます不透明で見えにくくなってきている。「打開したい」との思いは、それぞれが自分の立ち位置に応じて抱いているものと思われる。哲学は目の前の問題をつとて早く解決する特効薬ではない。むしろ「今ここに自分がある」という当たり前のことに改めて驚きを覚え、存在そのものへの驚きや、不思議に感じる気持ちを原動力として、私へと、そして世界へと目を向けていくものである。本講義では自らをリフレッシュするそうした原動力として哲学に触れることにトライする。その際、有力な手掛かりとなるものは、数百年、数千年を経ても風化することのない先哲の軌跡である。

■到達目標

すぐに「正解」を求めず、違った意見も受け入れて、自ら考える姿勢

■講義方法

板書中心に講義を進める。講義に関連した資料は専用ホームページ「せたなべ」に掲載する。特にこちらから配布はしないので、資料は必要に応じて各自ダウンロードやプリントアウトするのがのぞましい。講義中3回程度、自らの考えをまとめるミニレポートを実施する。ミニレポートの実施日は初回の講義で指示し、その後ホームページにも詳細を記載する。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自興味のある哲学関係の書籍等読んでおくのがのぞましい。

■成績評価の方法

レポート (30%)

定期試験 (70%)

記述式の定期試験が評価の中心だが、ミニレポートを期間中一回も提出していない生徒には、仮に期末試験のみを受験しても単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

ホームページ<http://moon-the.biz/> (「せたなべ」で検索)に必要な情報は随時記載する。ホームページの閲覧だけでは不明な点や質問はkatsuki6_6@yahoo.co.jp宛に受け付ける。

■講義計画

- ①導入：自分はどこにいる？
- ②すべては移ろいゆくーソフィストたち
- ③「勝つ」とは何ーソクラテス①
- ④「快楽」のはてにあるものーソクラテス②
- ⑤疑うことが幸せ？ー古代懐疑主義
- ⑥多人数の幸福こそが大事？ー功利主義
- ⑦こんな性格なのは自分のせい？ーアリストテレス
- ⑧究極の自由ープロティノス〜アウグスティヌス
- ⑨疑い得ない「自分」ーデカルト①
- ⑩「私」は明日も「私」なのかーデカルト②
- ⑪神は死んだ！ーニーチェ
- ⑫世界の果てはどこかーカント①
- ⑬動機なき行為こそ道徳的ーカント②
- ⑭私の成功は私の力？ーロールズ
- ⑮まとめ・期末試験の説明

ドイツ語 I A

【担当】 呉 春吉

【開講】 前期 月3

■講義概要

この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象とし、ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味をもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみよう。

■到達目標

「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法

各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

定期試験 (60%)

出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点 (40%)と期末試験 (60%)を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト

小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社
辞書等については授業中に紹介します。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画

- ①ドイツ語の発音アウトライン
- ②挨拶表現
- ③動詞の現在人称変化
- ④sein と haben
- ⑤名詞の性、冠詞
- ⑥定冠詞と名詞の格変化
- ⑦不定冠詞と名詞の格変化
- ⑧不規則動詞の現在人称変化
- ⑨人称代名詞の格変化
- ⑩命令形
- ⑪名詞の複数形
- ⑫不定冠詞類、定冠詞類
- ⑬前置詞の格支配
- ⑭分離動詞
- ⑮前期のまとめ

ドイツ語 I C

[担当] 永井 達夫

[開講] 前期 水4

■サブタイトル

テキスト、インターネット、DVDなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（前半部分）

■講義概要

語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。

■到達目標

ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。

■講義方法

一人一台のPCが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。

■系統的履修

必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に随時指示します。

■成績評価の方法

小テスト（30%）中間テストとして5月に予定しています
レポート（30%）3回の小レポートがあります。これが平常点になります

定期試験（40%）試験期間に行うペーパーテストです
総得点で60%以上が合格です。3分の2以上の出席が必要です。遅刻2回につき欠席1回に換算しますので、注意してく

ださい。

■テキスト

清野智昭 『ドイツ語の時間 改訂版』 朝日出版社 2200円

■参考文献

必要があれば、授業のなかで紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

ほんとうにドイツ語が身につく講義にしていくつもりです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

開講時に連絡方法を言います。

■講義計画

- ①イントロダクション DVDによるドイツへの仮想旅行1
- ②Lektion 1 動詞の人称代名詞／ドイツへの仮想旅行2
- ③Lektion 1 語順／ドイツへの仮想旅行3
- ④Lektion 2 名詞の性と格変化／ドイツへの仮想旅行4
- ⑤Lektion 2 重要な動詞／もう一つの大国オーストリア1
- ⑥Lektion 3 不規則動詞／もう一つの大国オーストリア2
- ⑦Lektion 3 複数形／もう一つの大国オーストリア3
- ⑧中間テストを予定
- ⑨Lektion 4 前置詞／もう一つの大国オーストリア4
- ⑩Lektion 4 副文／ドイツ語圏の文化1
- ⑪Lektion 5 人称代名詞／ドイツ語圏の文化2
- ⑫Lektion 5 再帰代名詞／ドイツ語圏の文化3
- ⑬Lektion 5 名詞の2格／ドイツ語圏の文化4
- ⑭Lektion 6 冠詞類／前期の総復習
- ⑮学期末試験対策

ドイツ語 I D

[担当] 松口 春美

[開講] 後期 水3

■サブタイトル

聞いて話すドイツ語の習得

■講義概要

ドイツ語の基礎的会話力を習得する。ドイツ語の基礎的表現力を高めて、総合的運用力を養うためには、文法の構造を、理論的に理解することが大切である。

■到達目標

文法の基礎知識を習得しながら、実際の留学生活に必要な最低限度の会話力を身につける

■講義方法

各課の最初に掲げられている二人の会話を、繰り返し音読して暗唱する

■系統的履修

ドイツ語IA、IB・ドイツ語セミナーA、Bの受講

■授業時間外における予・復習等の指示

授業終了後、次回の授業に備え、予習の課題を提供する

■成績評価の方法

平常点（40%）予習・復習、宿題、出席に基づく評価
定期試験（60%）学期末の筆記試験の点数
特になし

■テキスト

清野智昭 『ドイツ語の時間』 朝日出版 2600円

特になし

■参考文献

佐藤和弘、Heike Pinnau他 『新ドイツへ行ってみませんか』
郁文堂 2500円
辞書等については授業中に紹介する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業後の時間を質疑応答に当てる

■講義計画

- ①不定詞は主語や目的語として使われる
- ②動詞の中には、2つの部分（前つづりと本体）に分離する動詞がある
- ③話法の助動詞は不定詞と結びつき、話者の気持ちを表現する
- ④助動詞とwerdenで構成される「未来形」は推量を表す
- ⑤過去基本形をもとに過去形が作られ、書き言葉として使われる
- ⑥seinとhabenの助動詞を使って、現在完了形が作られる 現在完了形は過去を表現する話し言葉に使われる
- ⑦werden を助動詞と本動詞の過去分詞で受動文が作られる
- ⑧形容詞が名詞を修飾する付加語形容詞の場合、修飾される名詞が定冠詞類のときは形容詞は弱変化する
- ⑨修飾される名詞が無冠詞類のとき、もしくは不定冠詞類のときは形容詞は強・混合変化する
- ⑩原級に -er を最上級に -st を付けて比較・最上級を作る
- ⑪定関係代名詞は、2格および複数3格を除いて定冠詞と同じ格変化を持つ
- ⑫命令形は、du/ihrに対しては、不定詞の語幹に -e/-t を付けて、Sieに対しては疑問文と同じ形で作る
- ⑬ある事柄を、単に考えたり、言われた事として表現する
- ⑭過去基本形をもとにして作られる
- ⑮実際にはないことを単に仮定して表現する

統計入門

【担当】長命 洋佑

【開講】後期 金5

■サブタイトル

数字に騙されるな！アレルギーを克服しよう！

■講義概要

新聞、テレビ、インターネットなどさまざまなメディアを通して日常生活の中から得られるデータ、社会現象の調査や自然現象の観察・実験などを通して得られるデータなど多種多様なデータが我々のまわりに溢れています。そうした大量の情報が氾濫している現代社会において、「何が正しく、何が誤っているか」を自分自身で判断する力がないと思われ落とし穴に陥ることになります。「わっ、騙されたっ!」という状態になりかねません。また、数値(データ)の持つ意味を理解していないと「数値に振り回される」ことにもなります。この講義では、そうした数値(データ)を正しく理解する力を養い、数値(データ)に振り回されないように生きていくためのコツについて学びます。講義では、出来る限り、我々の日常生活の中の現象を例に取り上げ講義を行います。数学の知識がなくても(中学レベル、 $+$ $-$ $\times$ $\div$ で充分)、世の中の様々なことが見えてくるようになると思います。また、毛嫌いな人が多い確率についても簡単な計算で、日常生活に役立つ考え方が身に付くように心がけます(担当者の実体験を含め)。本講義で学ぶ内容(統計学)は、今後の学生生活や社会人になった時でも必ず必要となるでしょう。この講義では、皆さんが近い将来、必要となる(身につけておく)大きな力となる)客観的な物の見方を学びます。

■到達目標

新聞、テレビ、インターネット、調査や実験などの数値(データ)の意味が理解できるようになる。日常生活において、数値への恐怖心(アレルギー)がなくなる。

■講義方法

3つの学部が共通して受講するため、個人差がかなりあるかと思いますが・・・講義形式で行い、日常生活の中の話を題材に例題も解きながら、統計を学んでいただけるよう心がけます。

■授業時間外における予・復習等の指示

日常生活の中で、数値に慣れてください。

■成績評価の方法

平常点(40%)

定期試験(60%)

■テキスト

特になし。講義資料を配布します。ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

統計学は数字を扱い、数式などもでてくるため、毛嫌われる部分があります。しかし、日常生活を見渡してみると数字を見ない日なんてないと思います(一部除く)。そうした数字の意味がわかりだしてくると「おっ!そーゆうことか。なかなかオモロイな～」と思うようになってくると思います。統計は、毛嫌いな人が多いからこそ、逆に身につければ大きな武器となると思います。授業中、私語が多い場合、他の学生の迷惑になりますので退出をお願いいたします。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②記述統計①: さまざまな指標(中学までの数学でこんなにもわかる)
- ③記述統計②: 分布とその特性①(集団の特性を知ろう)
- ④記述統計③: さまざまな指標がもたらす日本社会の現状(えっ? そうなの?)
- ⑤記述統計④: 分布と特性②(偏差値の恐怖からの開放)
- ⑥記述統計⑤: これまでの復習
- ⑦確率①: 確率の基本(コイン投げで5回連続「表」がでたら、次は・・・?)
- ⑧確率②: 期待値とは?(なぜ人は淡い期待をいだくのか)
- ⑨確率③: 母集団と標本(賭け事で負けないようにするには?)
- ⑩確率④: これまでの復習(偶然はそんなに偶然にはおこらない)
- ⑪日常の中の統計①: これまでの講義でこんなことがわかる?
- ⑫日常の中の統計②: 当たり前を当たり前のように疑う
- ⑬日常の中の統計③: われわれは意図的に誘導されている?(アンケートのお話)
- ⑭日常の中の統計④: 統計のその後・・・
- ⑮これまでの復習

日本国憲法

【担当】時本 義昭

【開講】前期 木3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的(立憲的)意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

1回生は受講できない。1回生は後期の日本国憲法(月・1、月・3、木・3)を受講すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験(100%)学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下の平等
- ⑨精神的自由Ⅰ(内心の自由)
- ⑩精神的自由Ⅱ(表現の自由)
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本 義昭

【開講】後期 月1

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

前期に法学入門を受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本 義昭

【開講】後期 月3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

前期に法学入門を受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育A

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 水2

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達とは何か（序論）
- ②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
- ③発達と自我、それをめぐる教育について
- ④対人関係と自己の発達
- ⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
- ⑥ピアジェの発達理論・概説
- ⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
- ⑧発達と教育の接点
- ⑨学習・日常認知
- ⑩知能とは何か
- ⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
- ⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
- ⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
- ⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
- ⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】 松島 恵介

【開講】 後期 水1

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達と教育を学ぶ意義（序論）
- ②自己意識と発達課題
- ③学習と自律性
- ④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
- ⑤論理構成力と発達過程
- ⑥社会的問題行動
- ⑦遊びと発達・教育
- ⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
- ⑨学校文化と発達
- ⑩隠れたカリキュラムをめぐって
- ⑪個性化の教育
- ⑫教育と現代的諸問題
- ⑬発達と現代的諸問題
- ⑭まとめと今後の課題
- ⑮質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島 恵介

【開講】後期 水2

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達と教育を学ぶ意義（序論）
- ②自己意識と発達課題
- ③学習と自律性
- ④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
- ⑤論理構成力と発達過程
- ⑥社会的問題行動
- ⑦遊びと発達・教育
- ⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
- ⑨学校文化と発達
- ⑩隠れたカリキュラムをめぐって
- ⑪個性化の教育
- ⑫教育と現代的諸問題
- ⑬発達と現代的諸問題
- ⑭まとめと今後の課題
- ⑮質疑応答（総括的議論）

フランス語 I A

【担当】瓜生 濃世

【開講】前期 水3

■サブタイトル

すぐに使えるフランス語

■講義概要

この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげ、同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されていますので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を用いてフランスの文化についても解説し、多様な広がりを持つ授業としていきます。

■到達目標

平易なフランス語が理解できるようになること。

■講義方法

文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストや課題の提出等がありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。

■成績評価の方法

平常点（20%）課題の提出等
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト

藤田裕二『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!）』朝日出版社 2500円

■参考文献

仏和辞典を入手して下さい。次の3点を特に勧めます。『デニコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言

初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②第0課
- ③第1課
- ④第2課
- ⑤第3課
- ⑥第3課
- ⑦第4課
- ⑧第4課
- ⑨第5課
- ⑩第5課
- ⑪第6課
- ⑫第6課
- ⑬第7課
- ⑭第7課
- ⑮まとめと復習

フランス語 I B

【担当】 瓜生 濃世

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

すぐに使えるフランス語

■講義概要

フランス語 I A の内容を引き継ぎます。この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげ、同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されているので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を利用してフランスの文化についても解説を行い、多様な広がりを持つ授業としていきます。

■到達目標

平易なフランス語が理解できるようになること。

■講義方法

文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストや課題の提出等がありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 課題の提出等
小テスト (20%)
定期試験 (60%)

■テキスト

藤田裕二 『パリのクール・ジャパン (Le Japon, c'est cool!)』
朝日出版社 2500円

■参考文献

仏和辞典を入手して下さい。次の3点を特に勧めます。『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言

初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。

■講義計画

- ①前期の復習
- ②第8課
- ③第9課
- ④第9課
- ⑤第10課
- ⑥第10課
- ⑦第11課
- ⑧第11課
- ⑨第12課
- ⑩第12課
- ⑪第13課
- ⑫第13課
- ⑬第14課
- ⑭第14課
- ⑮まとめと復習

フランス語 I C

【担当】 森部 卓

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。

■到達目標

①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などでもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席点

定期試験 (50%) 受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社 2000円

■参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトは日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
- ②フランスとフランス語に親しむ
- ③挨拶する
- ④発音と綴り字の説明
- ⑤名前、国籍、職業を言う
- ⑥年齢を言う、家族を語る
- ⑦好きなものを言う
- ⑧持ち物を言う
- ⑨友達について話す
- ⑩疑問詞を使ってたずねる
- ⑪近い未来、近い過去のことを言う
- ⑫時間、天候を言う
- ⑬数量を表す
- ⑭パリで出会う日本文化
- ⑮レストランに行く

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分でき軽に受講して下さい。なお、授業自体はICの続きです。

■到達目標

- ①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするように配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などでもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

- 平 常 点 (50%) 出席点
定期試験 (50%) 受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社 2000円

参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ICの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
- ②一日を語る
- ③頼む、命令する
- ④店で買い物をする
- ⑤未来のことを語る
- ⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
- ⑦バカンスに行く
- ⑧フランス語でメールを出す
- ⑨人や物について語る
- ⑩美術館に行く
- ⑪大人気のジャパン・エキスポ
- ⑫フランス留学と学生生活について
- ⑬乗り物に乗る
- ⑭感情を表現する
- ⑮日仏文化交流の昨今

フランス語 I D

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】後期 月3

■サブタイトル

さらに楽しいフランス語

■講義概要

フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。後期はとくにコンピュータ教材、インターネットによる演習の比率を増やしていく予定です。

■到達目標

きれいな発音による、役立つフランス語の習得。

■講義方法

CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。

■系統的履修

後期完結の授業ですが、前期に開講されるフランス語ICもできれば受講しておいてください。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のCD教材などを通じて自宅での復習を繰り返し行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。

■成績評価の方法

- 平常点 (80%) 出席を重視します。
定期試験 (20%)

■テキスト

中川努、中井珠子、曾我祐典 『フランス語2020』 白水社 2415円

参考文献

仏和辞典を使用します。次の3点を特に勧めます。『デスコム仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。

■講義計画

次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。Tell Me More (Auralog) その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語 I D

【担当】 森部 卓
【開講】 後期 木3

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はICの続きです。

■到達目標

①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席点
定期試験 (50%) 受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社 2000円

■参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ICの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more (フランス語版教材) の全体の構成の提示
- ②一日を語る
- ③頼む、命令する
- ④店で買い物をする
- ⑤未来のことを語る
- ⑥過去のことを語る (直説法複合過去)
- ⑦バカンスに行く
- ⑧フランス語でメールを出す
- ⑨人や物について語る
- ⑩美術館に行く
- ⑪大人気のジャパニ・エキスポ
- ⑫フランス留学と学生生活について
- ⑬乗り物に乗る
- ⑭感情を表現する
- ⑮日仏文化交流の昨今

フランス語セミナーA

【担当】 嶋崎 陽一
【開講】 前期 木4

■サブタイトル

フランス語を楽しく深める

■講義概要

1年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテキストとCALL教材を併用して、前年の学習内容を復習しつつ、その上に新しい知識を付け加えて、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、フランス各地の食文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。

■到達目標

平易なフランス語の文章が読めるようになるまでの文法の知識、基本語彙の習得。

■講義方法

CALL教室で、視聴覚教材を用いると同時に、教科書を講読しながら、文法を学びます。

■系統的履修

前期完結の授業ですが、つづけてフランス語セミナーBも受講されることをすすめます。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの講読を中心に宿題を課します。

■成績評価の方法

平常点 (80%) 出席を重視します。
定期試験 (20%) 内容については受講生と相談の上決定します。

■テキスト

藤田裕二 『彼女は食いしん坊！2 フランス美味探訪の旅』 朝日出版社 2500円

■参考文献

仏和辞典を持つことが望ましい。次の2点を特に勧めます。

『ディコ仏和辞典』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的な参加を望みます。

■講義計画

教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More (Auralog) を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

フランス語セミナーB

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 後期 木4

■サブタイトル

フランス語・フランス文化の理解を楽しく深める。

■講義概要

1年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテキストとCALL教材を併用して、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。セミナーBでは、コンピュータ教材を利用して、会話練習をする一方、フランス映画から数本を選んで学生諸君に事前学習をしてもらい、フランスの歴史・文化について学ぶことに重点を置きます。

■到達目標

フランス語応用のための基礎的な語学力、現代のフランス文化についての知識を身に付ける。

■講義方法

CALL教室を利用します。引き続き中級文法を学ぶと同時に、視聴覚教材を通じてフランスの文化・歴史を学びます。また、希望により実用フランス語検定受験のための学習も用意します。

■系統的履修

後期完結の授業ですが、内容的にはフランス語セミナーAと共通しています。継続した受講を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの講読を中心に宿題を課します。

■成績評価の方法

平常点(80%)出席を重視します。

定期試験(20%)内容については受講生と相談の上決定します。

■テキスト

藤田裕二 『彼女は食いしん坊！2 フランス美味探訪の旅』
朝日出版社 2500円

■参考文献

『ディコ仏和辞典』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的な参加を望みます。

■講義計画

教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More (Auralog)を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

仏教の思想

「仏教の思想 A・B」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想 A・B」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想 A・B」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想 A・B」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗り越えさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

- ① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。
- ② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探究する。
- ③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころになっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

宗教は民族宗教と世界宗教に大きく分類されるが、世界宗教としての仏教の特質には次のような点があげられる。

- ・創造主なる神を想定しない
- ・人間を含むあらゆるいのちに重きを置く

仏教がめざしたのは生きとし生けるものの幸せ・平等・平和である。講義を通して自己を内省し、悲しみや苦しみに立ち向かう勇気と、他者に対する慈愛と感謝と寛容さを培う。

4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。

一つの固定的なものの見方を離れ、柔軟で、幅広い考え方や生き方が開かれるように、「仏教の思想」を学ぶ。

5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

戦争・差別・貧困・犯罪など、世界の各地で現実に行き起きている問題と向きあい、どのように解決したらよいかについて考える。

6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。

いのちに関わる現代の諸問題－生命倫理や地球環境など－を積極的に見つめる。仏教は、一つひとつの存在が無限の意味と尊さをもって輝いていると伝えてきた。さまざまな執着や偏見をとりはらい、相手の幸せを願い、相手の痛みをともに分かちあおうとする共感を養う。

7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

龍谷大学は、シルクロードコレクションなどの世界的に貴重な古典籍を有する大学である。1639年創設以来からの、龍谷大学の仏教の先進性と歴史的伝統を、建学の精神を学ぶことを通して理解し、龍谷大学を愛する学生を育てる。

講義の概要

「仏教の思想 A」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアム、研究展示施設パドマの展示や視聴覚教材を活用して講義を展開します。

「仏教の思想A」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

人間と宗教——カルトや原理主義・宗教の意義

神々と仏——民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

あるがままに見る眼——智慧・如実知見・四諦・三法印

いのちあるものすべてへの慈愛——慈悲・非暴力

自己中心的に考える人間存在——煩惱・我執・四苦八苦

支えあってつながっている宇宙——縁起の理法・空・無我

仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している釈尊の生涯と思想に関する現物資料（ガンダーラ仏、仏伝浮彫など）を教材として、以下の日程（予定）で龍谷ミュージアムにて授業を行います。龍谷ミュージアム教員から展示資料に関する講義を受けるとともに、展示を観覧することで講義内容の習得を深めます。

＜予定日＞ 以下のいずれか1日の午後（90分）で実施します。日程は、学部ごとに指定します。

6 月 30 日 (土)

7月7日(土)

7月14日(土)

※各学部の受講日時や集合場所等の詳細は、別途お知らせします。

※日程は変更する場合があります。

仏教の思想A

【担当】道元 徹心

【開講】前期 水2

■講義方法

特にテキストは定めず、毎回配布するレジюмеに沿って授業を進める。また適宜視聴覚教材を使用する。受講生は担当者が講義時に示したテーマについてのコメントシートを提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況と受講態度
定期試験（50%）

■テキスト

特に定めない。

■参考文献

講義時に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養ってほしい。

■講義計画

- ①龍谷大学の沿革と建学の精神
- ②宗教の意義
- ③釈尊以前のインド
- ④釈尊の生涯－誕生から出家
- ⑤釈尊の生涯－苦行から成道
- ⑥釈尊の生涯－伝道から入滅
- ⑦釈尊の思想－煩惱と苦
- ⑧釈尊の思想－四諦
- ⑨釈尊の思想－四法印
- ⑩釈尊の思想－縁起の理法
- ⑪部派仏教とその思想
- ⑫大乘仏教の興起とその理念
- ⑬大乘仏教の思想－經典
- ⑭仏教の伝播
- ⑮総括

・龍谷ミュージアムでの授業：

＜予定日＞以下のいずれか1日の午後(90分)で実施します。
日程は、学部ごとに指定します。

6月30日（土）

7月7日（土）

7月14日（土）

講義の概要

「仏教の思想 B」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアム、研究展示施設パドマの展示や視聴覚教材を活用して講義を展開します。

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

鎌倉仏教の位置と特質——法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

真実の探求——老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

自己を徹底的に見つめる——悪人正機・煩惱具足の凡夫・罪惡深重

現実世界への凝視と安らぎへの願い——火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安穏なれ

あるがままで受け容れられる世界——摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

あらゆるものは輝いている——白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している親鸞の生涯と思想に関する現物資料（絵伝、仏像、書籍など）を教材として以下の日程（予定）で授業を行います。龍谷ミュージアム教員から展示資料に関する講義を受けるとともに、展示を観覧することで講義内容の習得を深めます。

＜予定日＞以下のいずれか1日の午後（90分）で実施します。日程は、学部ごとに指定します。

12月8日(土)

12月15日(土)

12月22日(土)

※各学部の受講日時や集合場所等の詳細は、別途お知らせします。

※日程は変更する場合があります。

■講義方法

特にテキストは定めず、毎回配布するレジюмеに沿って授業を進める。また適宜視聴覚教材を使用する。受講生は担当者が講義時に示したテーマについてのコメントシートを提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況と受講態度
定期試験（50%）

■テキスト

特に定めない。

■参考文献

講義時に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養ってほしい。

■講義計画

- ①中国仏教について
- ②中国浄土教
- ③日本浄土教①
- ④日本浄土教②
- ⑤日本浄土教③
- ⑥法然の生涯と思想
- ⑦親鸞の生涯①
- ⑧親鸞の生涯②
- ⑨親鸞の思想①
- ⑩親鸞の思想②
- ⑪親鸞の思想③
- ⑫蓮如の生涯と思想
- ⑬歎異抄①
- ⑭歎異抄②
- ⑮総括

・龍谷ミュージアムでの授業：

<予定日>以下のいずれか1日の午後(90分)で実施します。
日程は、学部ごとに指定します。

12月8日（土）

12月15日（土）

12月22日（土）

文学入門

【担当】大槻 志郎

【開講】前期 水3

■サブタイトル

物語の逆襲

■講義概要

ある物語が面白く感じられ、ある言葉が魅力的に思えるのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と、文学に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組みを紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにするのが狙い。その過程で、道具となる考え方はもちろん、ときに専門用語も導入し、また例として学生にとって面白いのではないかと諸作品をも紹介したい。対象は日本文学に限らず広く翻訳も含める。詩も取り上げるものの、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。映画など、文学以外の物語形式にも多く言及することになる。

■到達目標

文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける 文学という広く豊かな世界への意識を養う

■講義方法

受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の最初にミニクイズ、終わりに感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回講義で解説予定の作品等をあらかじめ配るので、指示に従って自分なりに読んで考えてみる。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容
定期試験 (60%) 講義内容に関する選択問題、論述問題など
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として評価は0点とする。

■テキスト

使用せず。適宜プリント配布。

■参考文献

中条省平 『小説の解剖学』 筑摩書房（ちくま文庫） 798円

廣野由美子 『批評理論入門―「フランケンシュタイン」解剖講義』 中央公論社（中公新書） 780円

■履修上の注意・担当者からの一言

文学の世界をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きい収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取ればいいだけの人には向かない。よく話を聞いて、じっくり考え深く味わって欲しい。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画

- ①序説—文学は死んだか？
- ②詩の言葉、言葉の詩
- ③ジャンル・タイプ・intertextuality
- ④幻想という名の真実
- ⑤言葉の裏を読む
- ⑥象徴の成立
- ⑦構造と対立
- ⑧アイロニー
- ⑨作者・作品・読者
- ⑩曖昧と解釈の問題
- ⑪文学と時間
- ⑫名前の文化論
- ⑬旅のモチーフ
- ⑭実践分析批評 1
- ⑮実践分析批評 2

* 以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容というわけではない。1-13の項目に14,15を絡めてゆくのが基本スタイルである。

文学入門

【担当】嶋崎 陽一

【開講】前期 木3

■サブタイトル

ブンガクはなぜあんなにつまらないか？あるいはなぜこんなに面白いのか？

■講義概要

宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくつもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか？それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標

ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法

毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席による
レポート (80%) 1600～2000字程度

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画

- ①～⑮以下に挙げる作家を採り上げる予定である。(順不同)
- ・ダニエル・キイス
 - ・高橋源一郎
 - ・銀林みのる
 - ・舞城王太郎
 - ・谷川俊太郎
 - ・ジェイムズ・ジョイス
 - ・筒井康隆
 - ・村上春樹
 - ・ミシェル・ビュトール
 - ・山田風太郎
 - ・恩田陸
 - ・ブルーム・ストーカー
 - ・入澤康夫
 - ・川崎洋
 - ・谷崎潤一郎

文学入門

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

ブンガクはなぜあんなにつまらないか？あるいはなぜこんなに面白いのか？

■講義概要

宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか？それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標

ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法

毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席による
レポート（80%）1600～2000字程度

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画

①～⑮以下に挙げる作家を採り上げる予定である。（順不同）

- ・ダニエル・キイス
- ・高橋源一郎
- ・銀林みのる
- ・舞城王太郎
- ・谷川俊太郎
- ・ジェイムズ・ジョイス
- ・筒井康隆
- ・村上春樹
- ・ミシェル・ビュートル
- ・山田風太郎
- ・恩田陸
- ・ブラム・ストーカー
- ・入澤康夫
- ・川崎洋
- ・谷崎潤一郎

文学入門

【担当】 坂本 輝世

【開講】 後期 水4

■サブタイトル

古典を読もう！

■講義概要

「文学」なんて読まない人、「文学」って何の役に立つんだと思っている人、「文学」は理解できないと敬遠している人、－それでも、「物語」は好きですか？ このクラスでは、英文学の古典といわれる作品の中から3つ（17世紀初頭の『ハムレット』、19世紀半ばの『ジェイン・エア』、19世紀末の『闇の奥』）を中心に、英語で書かれた短編小説や詩の翻訳にも触れながら、「ことば」の面白さと「物語」の力について考えます。

■到達目標

「文学」とは何かについて、自分なりの理解をする。あるいは理解を深める。古典とされる作品を読むことで、大学生に相応しい教養の一部を身につける。

■講義方法

毎週、宿題としてテキストを読み、内容について要約・感想・疑問点などを提出してもらいます。また、学期末にレポートを提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内で指示する。

■成績評価の方法

平常点（50%）毎回のクラスで、読んできたテキストについての課題を答えてもらいます。
レポート（50%）授業で取り上げたトピックの中から自分で選択し、期末レポートを書いてもらいます。
一学期を通してかなりの量を読み、ほぼ毎回課題を提出することになるので、その覚悟をして受講すること。

■テキスト

ウィリアム・シェイクスピア 『新訳ハムレット』 角川書店 500円
シャーロット・ブロンテ 『ジェイン・エア（上・下）』 光文社 1780円
ジョセフ・コンラッド 『闇の奥』 光文社 620円

■参考文献

授業内で指示する。

■講義計画

- ①はじめに
- ②『ハムレット』とシェイクスピアの世界（1）
- ③『ハムレット』とシェイクスピアの世界（2）
- ④『ハムレット』とシェイクスピアの世界（3）
- ⑤シェイクスピア・ヴァリエーション
- ⑥一人称小説『ジェイン・エア』（1）
- ⑦一人称小説『ジェイン・エア』（2）
- ⑧一人称小説『ジェイン・エア』（3）
- ⑨一人称小説『ジェイン・エア』（4）
- ⑩「植民地文学」と「恋愛小説」
- ⑪『闇の奥』の奥にあるもの（1）
- ⑫『闇の奥』の奥にあるもの（2）
- ⑬『闇の奥』の奥にあるもの（3）
- ⑭他者を描く物語としての文学
- ⑮まとめ

法学入門

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

日常生活と法

■講義概要

わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといつてよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといつても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイレ六法平成24年版』 三省堂

※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①基礎知識（法の種類）
- ②日本国憲法の基本原理
- ③日本国憲法の保障する人権
- ④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
- ⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
- ⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
- ⑦日常生活とアクシデント
- ⑧雇用と法
- ⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
- ⑩家族関係Ⅱ（相続）
- ⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
- ⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
- ⑬行政と法
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

法学入門

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

日常生活と法

■講義概要

わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといつてよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといつても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要であれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイレ六法平成24年版』 三省堂

※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①基礎知識（法の種類）
- ②日本国憲法の基本原理
- ③日本国憲法の保障する人権
- ④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
- ⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
- ⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
- ⑦日常生活とアクシデント
- ⑧雇用と法
- ⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
- ⑩家族関係Ⅱ（相続）
- ⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
- ⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
- ⑬行政と法
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門

■講義概要

●「倫理学（道徳哲学）」に関心のある学生に「倫理学の基本知識」をわかりやすく解説する。また、現在の日本の社会には「医療・技術に関する倫理問題が多い」という面がある。わたしは、このことは、受講者が「倫理学入門」でどのようなことを学ぶのがよいかということにとって重要だと思う。「現代社会の医療・技術の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理的なアプローチは医療・技術の問題にどのような提案をすることができるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。

●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらに君が授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。

●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことから」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きつと、君が「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、さまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法

●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」や「読書資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。君は、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。

●配布する読書資料はときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、君にやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の復習・課題提出が求められる機会は少ないだろう。

■成績評価の方法

平常点（50%）

定期試験（50%）

平常点は、おもに「積極的な授業参加（たんに出席日数があればよいというのではなく、遅刻、出席しているだけで参加姿勢が著しく消極的な場合などは当然減点する）」と「小テスト・課題などの成績」からなる。簡潔に言えば、秋学期をとおした「総合的」評価である。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。

●とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業のなかで、連絡用メールアドレスを知らせるから、遠慮なく使ってください。

■講義計画

1～2回目：ガイダンス

3～5回目：「現在の社会ですでに実現している（こどもがほしいひとがときにその利用を求める）生殖医療・技術」にはどのようなものがあるかを正確に知り、それらに関して「倫理的に」考えよう

6～7回目：「倫理の基礎」について理解を深めよう

8回目：調整日

9～10回目：「正義」および「自由」について理解を深めよう

11～13回目：（生殖医療・技術も含む）今後の医療・技術のありようを規制するのに重要なことは何か、「倫理的に」考えよう

14～15回目：授業で取り上げた範囲で君がもっとも関心のあ「医療・技術の倫理問題」について、徹底的に考えよう

以上、順不同。

倫理学入門

【担当】 菊地 建至

【開講】 後期 水5

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門

■講義概要

- 「倫理学（道徳哲学）」に関心のある学生に「倫理学の基本知識」をわかりやすく解説する。また、現在の日本の社会には「自由な社会（リベラリズムの社会）」という面がある。わたしは、このことは、受講者が「倫理学入門」でどのようなことを学ぶのがよいかということにとって重要だと思う。「自由な社会の倫理学は、どのような特徴をもつか」と「自由な社会の倫理学には、どのような困難があるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。
- この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらに君が授業をおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
- この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、君が「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、さまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

- 現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法

- 「講義」形式だが、多くの授業のなかで「(映画を中心とする)映像資料」や「テキスト」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。君は、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
- テキストは「入門書」ではあるが、簡単に読めるものではないだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにたくさんアドバイスするから、君にやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいたいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの予復習が求められる機会が多い。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

定期試験 (50%)

平常点は、おもに「積極的な授業参加（たんに出席日数があればよいというのではなく、遅刻、出席しているだけで参加姿勢が著しく消極的な場合などは当然減点する）」と「小テスト・課題などの成績」からなる。簡潔に言えば、秋学期をとおした「総合的」評価である。

■テキスト

D.ミラー 『1冊でわかる 政治哲学』 岩波書店

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

- 継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。
- とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、(知的に) 楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業のなかで、連絡用メールアドレスを知らせるから、遠慮なく使ってください。

■講義計画

後期

1～2回目：ガイダンス

3～5回目：「自由」とは、どのようなことか

6回目：なぜ「政治的権威（政府）」なき生活は、悲惨か

7回目：調整日

8～10回目：「正義」、「平等」、「幸福」などについて理解を深めよう

11～12回目：「〈デモクラシー〉においてマイノリティの声はいかに聞かれるのか」、「マイノリティの権利はどのようにして確保されるのか」など

13回目：「倫理に関する文化相対主義」について

14～15回目：「グローバルな」政治・経済の問題について「倫理的に」考えよう

以上、順不同。

歴史入門

【担当】西村 昌洋

【開講】前期 水3

■サブタイトル

ヨーロッパの歴史入門

■講義概要

本講義は「歴史入門」であるが、限られた時間の中で歴史全体を扱うことは土台不可能であるため、ここではヨーロッパの歴史に絞って講義をしたい。ヨーロッパに迫っていくことを目標としてきた20世紀が過ぎ、21世紀の今、もはやヨーロッパに追従する時代ではないと思うかもしれない。だがそれはヨーロッパを、特に過去のヨーロッパのことを、知らなくてもよいことを意味しない。今私たちが生きる社会の枠組みや価値観の基になっているものは多くがヨーロッパに由来しており、大学で学ぶ学問もほとんどはヨーロッパで生まれたものである。私たちの生活にも物の考え方にも、好むと好まざるとにかかわらず、ヨーロッパ的な要素は強く入り込んでおり、今後もそれが急激に変わることはないだろう。ヨーロッパを時代遅れとして退けるのではなく、むしろ、なぜこれまでそれを重視してきたのか、それにどんな意味があるのか、なによりそのヨーロッパの要素をもってこれからどうするべきなのか、こうした点を意識して考えることが重要である。そのためにはヨーロッパの歴史を理解しておかなければならない。それは大学を出た一人の社会人が身につけておくべき重要な教養でもある。本講義では、各回ごとにヨーロッパ史の主なトピックに焦点を当てて説明することで、ヨーロッパの歴史の流れをおさえ理解を深めることを目指す。

■到達目標

ヨーロッパ史の主なトピックについて、一つ以上、自分の言葉で説明できる。過去のヨーロッパを知ることで、自分たち自身の生きている社会の枠組みや約束事を相対的にとらえる。今の社会のあり方や問題点、そして今後何をすべきかということを、歴史的に考える感覚を身につける。

■講義方法

受講者は大人数になることが予想されるため、資料を適宜配布しつつ、講義形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習:授業の終わりに、参考文献のうち次の授業に関係する部分をあらかじめ伝えるので、それに目を通しておく 復習:授業の後、内容を自分なりに整理し、関連する本を読んで、ノートにまとめておく（試験対策にもなる）

■成績評価の方法

定期試験(100%) 試験期間中の定期試験(論述式)によって評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

服部良久他『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』 ミネルヴァ書房 2800円
 小山哲他『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』 ミネルヴァ書房 2800円
 中井義明他『教養のための西洋史入門』 ミネルヴァ書房 2500円
 講義全体に関連する参考文献。あくまで参考文献なので必携ではない。これらの文献のうち次の授業に関係する部分を予習のためにあらかじめ伝えることにする。個々のテーマに関わる参考文献については別途講義中に案内する。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義中は静かにすること。私語による講義の妨害を繰り返す者は速やかに退室するように。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②世界で最初の民主主義
- ③古代アテネの民主政と裁判
- ④剣闘士競技とローマ帝国
- ⑤すべての道が通ずる都ローマ
- ⑥帝国の後継者
- ⑦中世地中海の多文化共存
- ⑧十字軍運動
- ⑨ヨーロッパの東と西と
- ⑩宗教改革
- ⑪異端審問と民衆の世界
- ⑫植民地が本国にもたらすもの
- ⑬植民地とヨーロッパ人
- ⑭他民族社会と東ヨーロッパ
- ⑮近代のギリシア人の創り方

歴史入門

【担当】佐野 東生

【開講】後期 金2

■サブタイトル

西アジアの歴史と文化

■講義概要

西アジアは多様な民族・宗教・文化が交流する地域として長い歴史を有している。この講義では、史料を主体とした歴史学の基礎を理解した上で、古代から近現代に至る西アジア史について概観する。まず、古代オリエン文明を基としたギリシア・ペルシア文明のあり様について述べ、アレクサンダー大王の遠征に起因するヘレニズム文化の成立と仏教にも影響を与えた発展について理解を深める。次いで中世イスラーム世界の大規模な交流について解説する。その上で、近現代史について西洋の進出とそれへの対応の視野から見ていく。

■到達目標

中東とも呼ばれる西アジア地域の現代の情勢を考察する上で、歴史的理解の必要性を認識すること。

■講義方法

講義形式で、日本語に訳された史料を配布し、講読する。ビデオなど視覚教材を適宜使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布された史料を批判的に評価できるように復習すること。

■成績評価の方法

平常点(20%) 質問票(出席票にもなる)を数回提出。
 小テスト(20%) 1回実施する。
 定期試験(60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

前嶋信次『イスラームの時代』 講談社学術文庫 1365円

■履修上の注意・担当者からの一言

西アジア史に関する書籍は多いので、講義とともに読む習慣を身につけてもらいたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義中に指示

■講義計画

- ①歴史学の方法1
- ②歴史学の方法2
- ③古代の西アジア1
- ④古代の西アジア2
- ⑤古代の西アジア3
- ⑥古代の西アジア4
- ⑦中世イスラーム史1
- ⑧中世イスラーム史2
- ⑨中世イスラーム史3
- ⑩近代1
- ⑪近代2
- ⑫現代1
- ⑬現代2
- ⑭現代3
- ⑮まとめ

論理学入門

【担当】中谷 隆雄

【開講】前期 月3

■サブタイトル

練習して身につく論理学

■講義概要

講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまな形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標

弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。

■講義方法

推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけでなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

評価は主として定期試験によって評価する。定期試験約 80 点 (80%)、平常点約 20 点 (20%)

■テキスト

飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂 2000円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画

- ①論理とは何か
- ②推論の最小単位としての命題(文)・命題を否定する語(ない)
- ③命題と命題を結ぶ語(そして)
- ④命題と命題を結ぶ語(あるいは)
- ⑤命題と命題を結ぶ語(ならば)
- ⑥命題と命題を結ぶ語(双条件)
- ⑦常に真な命題；表による判定
- ⑧常に真な命題；図による判定
- ⑨推論の妥当性；表による判定
- ⑩推論の妥当性；図による判定(その基本)
- ⑪推論の妥当性；図による判定(その応用)
- ⑫ルールによる推論の証明(1)(そして)
- ⑬ルールによる推論の証明(2)(ならば)
- ⑭ルールによる推論の証明(3)(ない)
- ⑮総復習

論理学入門

【担当】中谷 隆雄

【開講】後期 月3

■サブタイトル

練習して身につく論理学

■講義概要

講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまな形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標

弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。

■講義方法

推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけでなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

主として定期試験によって評価する。定期試験約 80 点 (80%)、平常点約 20 点 (20%)

■テキスト

飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂 2000円

改定の予定があるので、テキストは後期になってから購入すること

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画

- ①論理とは何か
- ②推論の最小単位としての命題(文)・命題を否定する語(ない)
- ③命題と命題を結ぶ語(そして)
- ④命題と命題を結ぶ語(あるいは)
- ⑤命題と命題を結ぶ語(ならば)
- ⑥命題と命題を結ぶ語(双条件)
- ⑦常に真な命題；表による判定
- ⑧常に真な命題；図による判定
- ⑨推論の妥当性；表による判定
- ⑩推論の妥当性；図による判定(その基本)
- ⑪推論の妥当性；図による判定(その応用)
- ⑫ルールによる推論の証明(1)(そして)
- ⑬ルールによる推論の証明(2)(ならば)
- ⑭ルールによる推論の証明(3)(ない) 総復習
- ⑮総復習

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

（総 合 科 目）

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
ア	アジアの文化	徐 光輝	前期 木 4	167
	アジアの文化	松井 智子	後期 水 2	167
	アジアの文化	舟橋 健太	後期 木 4	168
オ	欧米の文化	青山 豊	前期 木 4	168
	欧米の文化	瀧口 順也	前期 月 4	169
	欧米の文化	大槻 志郎	後期 水 3	169
	欧米の文化	サルズ・ジョーナ・I	後期 木 4	170
カ	科学技術史	林 久夫	前期 月 1	170
	科学技術史	岩本 太郎	後期 月 3	171
	環境と人間 A	竺 文彦	前期 月 4	171
	環境と人間 A	河合 富佐子	後期 月 4	172
	環境と人間 B	西江 仁徳	前期 木 4	172
	環境と人間 B	鈴木 滋	後期 水 2	173
	環境と倫理	柿本 佳美	前期 木 4	173
キ	教養教育科目特別講義 A（里山学入門） ／共同開講科目特別講義	宮浦 富保／近藤 倫生／ 須藤 護／田中 滋／ 帖地 孝人／林 珠乃／ 朴 炫国／丸山 徳次／ 遊磨 正秀／横田 岳人	前期 月 3	174
	教養教育科目特別講義 B （西洋近現代史入門）	山中 聡	前期 水 3	174
	教養教育科目特別講義 B （西洋近現代史入門）	山中 聡	後期 水 3	175
	教養教育科目特別講義 C （アジアの映画）	李 相哲	前期 月 3	175
	教養教育科目特別講義 D （アジアの歴史と社会）	野呂 靖	前期 水 3	176
	教養教育科目特別講義 D （アジアの歴史と社会）	野呂 靖	後期 水 3	176
	教養教育科目特別講義 E （アジアの途上国と社会開発）	佐藤 彰男	前期 木 3	177
	教養教育科目特別講義 F （現代社会と栄養）	宮川 尚子	前期 木 3	177
ケ	健康とスポーツ	渡辺 英児	後期 月 1	178
	現代社会と宗教	辻 虎志	前期 月 3	178
	現代社会と宗教	辻 虎志	後期 月 3	179
	現代社会とスポーツ	辻 延浩	前期 金 1	179
	現代社会とスポーツ	辻 延浩	後期 金 1	180
	現代社会と福祉	岡野 英一	前期 木 3	180
	現代社会とマス・メディア	中野 有	前期 月 4	181
	現代社会とマス・メディア	中野 有	後期 木 4	181
	現代社会とマス・メディア	西村 敏雄	後期 水 2	182
	現代の技術	吉川 恒夫／池田 昌彦	後期 月 3	182
コ	国際社会と日本 A	池尾 靖志	前期 金 1	183
	国際社会と日本 B	佐藤 一進	後期 水 1	183
	国際社会と日本 C	中根 智子	前期 金 2	184

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
シ	ジェンダー論	山下 明子	前期 月 1	184
	ジェンダー論	山下 明子	前期 月 2	185
	ジェンダー論	山下 明子	前期 月 3	185
	自然観察法	宮浦 富保／遊磨 正秀	前期 金 2	186
	情報社会とメディア	外村 佳伸／曾我麻佐子	前期 月 3	186
	情報社会とメディア	外村 佳伸／曾我麻佐子	後期 木 3	187
	情報と人間	小堀 聡	後期 木 3	187
	情報倫理	野村 竜也／芝原 努	前期 月 4	188
	人権論 A	松本 城洲夫	前期 月 2	188
	人権論 A	松本 城洲夫	前期 月 3	189
	人権論 A	原口 剛	前期 水 3	189
	人権論 A	原口 剛	前期 水 5	190
	人権論 A	中川 ユリ子	前期 月 3	190
	人権論 A	岸 衛	前期 水 3	191
	人権論 A	金 光敏	前期 水 3	191
	人権論 A	金 光敏	前期 水 4	192
	人権論 B	松本 城洲夫	後期 月 2	192
	人権論 B	松本 城洲夫	後期 月 3	193
	人権論 B	中川 ユリ子	後期 月 3	193
ス	人権論 B	岸 衛	後期 水 3	194
	人権論 B	金 光敏	後期 水 3	194
	人権論 B	原口 剛	後期 水 3	195
セ	人権論 B	金 光敏	後期 水 4	195
	人権論 B	原口 剛	後期 水 5	196
	人権論 B	原口 剛	後期 水 5	196
タ	スポーツ文化論	松下 唯夫	前期 水 3	196
	スポーツ文化論	松下 唯夫	後期 水 3	197
	世界の福祉	太谷 亜由美	前期 水 3	197
ニ	生活の中の宗教	辻 虎志	前期 月 2	198
	生活の中の宗教	辻 虎志	後期 月 2	198
	生命と共生	田村 公江	前期 木 3	199
ハ	生命と共生	田村 公江	後期 木 3	199
	歎異抄の思想 I	殿内 恒	前期 水 2	200
	歎異抄の思想 II	殿内 恒	後期 水 2	200
メ	日本の文化	泉 文明	前期 月 3	201
	日本の文化	泉 文明	前期 木 5	201
	日本の文化	泉 文明	後期 木 5	202
ヘ	人間と社会と法	時本 義昭	前期 木 4	202
	平和学入門	清水 耕介	前期 木 3	203
	平和学入門	宮崎 寛	後期 木 3	203
ロ	メディアにみる福祉	高田 敏司	後期 月 2	204
	メディアにみる福祉	幸重 忠孝	後期 木 3	204

教養教育科目
共同開講（共通）
総合科目

アジアの文化

【担当】徐 光輝

【開講】前期 木4

■サブタイトル

中国歴史文化概説

■講義概要

考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。このような先史文明を土台に、夏・商(殷)・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器(青銅器、鉄器)文化、郡県制度が注目される。後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。

■到達目標

隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。

■講義方法

時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。

■系統的履修

アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点(10%)出席率や受講態度等を重視する
小テスト(20%)点数により評価する
レポート(20%)内容により評価する
定期試験(50%)点数により評価する

■テキスト

特になし

■参考文献

尾形勇・岸本美緒編『中国史(新版世界各国史3)』山川出版社 1998 3500円
小澤正人・谷豊信・西江清高著『中国の考古学(世界の考古学7)』同成社 1999 3200円

■講義計画

- ①はじめに
- ②中国文明のあけぼの(黄河流域)
- ③中国文明のあけぼの(長江、淮河流域)
- ④中国文明のあけぼの(西遼河流域)
- ⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
- ⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
- ⑦春秋戦国時代の百家思想
- ⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
- ⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
- ⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
- ⑪南北朝時代の民族大融合
- ⑫宗教文化の発展と伝播
- ⑬隋唐帝国の成立と繁栄
- ⑭隋唐時代の文化交流
- ⑮まとめ

アジアの文化

【担当】松井 智子

【開講】後期 水2

■サブタイトル

タイの文化と社会

■講義概要

タイの文化について様々な角度から学ぶ。授業の前半では、「アジアの文化」がどのように捉えられてきたかを、主要な文献の読解を通じて学ぶ。後半では、1990年代以降大きく変貌を遂げたタイに焦点を当て、その文化を王室、宗教、家族、ジェンダー、都市等、多面的に解説する。特に、近代化・グローバル化の中で変容する農村社会とそこに生きる女性たちの経験について具体的な事例を引きつつ解説する。

■到達目標

「アジアの文化」に関する文献の読解を通じて、アジアに対する公平な見方ができるようになることを目指す。また、タイの文化を多面的に学んだ上で、特に、変容する文化の最中を生きる農村女性の経験を理解することを通じて、近代化・グローバル化のもたらす文化変容とその問題について考え、自らとの関わりを問い直すことを目標とする。

■講義方法

パワーポイントおよびレジュメによる講義。映像資料等も使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

課題とされる文献は必ず読んでくること。

■成績評価の方法

平常点(40%)
定期試験(60%)

■テキスト

鶴見良行『東南アジアを知る：私の方法』岩波新書 780円

■参考文献

梅棹忠夫『文明の生態史観』中公文庫 780円

ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』書籍工房早山 2100円

その他、授業中に適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

無欠席が原則。

■講義計画

- ①ガイダンス:「アジアの文化」をどう捉えるか
- ②梅棹忠夫『文明の生態史観』と文明史観の限界
- ③鶴見良行『東南アジアを知る』と民衆学の視座
- ④B.アンダーソン『想像の共同体』と国民文化の形成
- ⑤E.W.サイード『オリエンタリズム』と表象としてのアジア
- ⑥タイの王室
- ⑦タイの宗教
- ⑧タイの家族・親族
- ⑨タイの都市社会
- ⑩タイのジェンダー
- ⑪タイに関する地域研究
- ⑫タイの農村社会(1):伝統的な仕事観と工場労働
- ⑬タイの農村社会(2):農村女性の文化変容
- ⑭タイの農村社会(3):セックスワーカーという経験
- ⑮まとめ

アジアの文化

【担当】 舟橋 健太

【開講】 後期 木4

■サブタイトル

南アジアの宗教と文化

■講義概要

南アジア社会に暮らす人びとにとって、「宗教」は生活の中心に位置するきわめて重要なものである。本講義においては、インドを中心とした南アジア社会を対象に、人びとの暮らしの軸にある宗教、ならびに、背景となる当該地域の文化について、映像や画像を多用しつつ、特に人びとの日々の生活の様相に重点を置いた講義を行っていく。そこには、日本における宗教をめぐる風景とはまた異なる地平が広がっている。

■到達目標

南アジア地域社会、またその宗教と文化ならびにそこに住まう人びとについて学び考察することから、「異文化」を理解すること、さらには了解することの必要性と重要性について認識し、「他者」と接する際の視角のありようについて、受講生が自省的に思考することを目標とする。

■講義方法

基本的に講義形式で行うが、受講生の人数や希望に応じて、受講生の発表の場や、ディスカッションの場を設けていく。

■系統的履修

文化人類学

■授業時間外における予・復習等の指示

各自で諸媒体を有効に用いて、毎回の授業のテーマについて振り返るとともに、次回テーマについて予備的知識を得ておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席、ならびにコメントの内容を考慮する。
レポート (30%) 南アジアの宗教と文化に関わるレポートを課する。

定期試験 (50%) 記述式で行う。詳細は講義において通達。
出席 (原則として無遅刻・無欠席)、ならびに、質疑や討議といった面での積極的な参加を高く評価する。

■テキスト

特にテキストは指定しないが、必要に応じて、適宜資料を配布する。

■参考文献

辛島昇他 (監修) 『南アジアを知る事典』 平凡社 8400円
田中雅一・田辺明生 (編) 『南アジア社会を学ぶ人のために』
世界思想社 2520円

その他、講義ごとに、テーマに沿った参考文献を提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

南アジア社会 (あるいは「異文化」というもの) への関心を有する方々の受講、ならびに、質疑・討議という点からの講義への積極的な参加を期待します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

基本的に、電子メール (アドレス: kfunama43[at]ybb.ne.jp [at] は@に変換) でのコンタクトとする。

■講義計画

- ① ガイダンス
- ② 南アジア社会概説「宗教」とは
- ③ 南アジア史概説
- ④ ヒンドゥー教①
- ⑤ ヒンドゥー教②
- ⑥ イスラーム
- ⑦ シク教
- ⑧ 仏教
- ⑨ ジャイナ教
- ⑩ キリスト教、その他の宗教
- ⑪ 儀礼と祭礼
- ⑫ カースト制度
- ⑬ 「不可触民」とされる人びと
- ⑭ 映画にみる宗教
- ⑮ 「異文化」を学ぶということ

欧米の文化

【担当】 青山 豊

【開講】 前期 木4

■サブタイトル

ドイツの文化を中心に

■講義概要

この講義は「欧米の文化」という名称であるが、欧州つまりヨーロッパをあつかう。現代の若い日本人にとっては、ヨーロッパはアメリカほど身近ではないという印象があるかもしれないが、実はヨーロッパの歴史や文化はアメリカよりずっと大きな影響を日本にもたらしてきた。特に明治時代以降、日本は当時の先進地域としてのヨーロッパから日本の国や社会をどのようにしてつくり上げていくのかを学んだことは疑いがない。大まかな言い方が許されるなら、イギリスからは近代資本主義を、フランスからは自由と平等の精神を、ドイツからは様々な分野の学術と芸術を取り入れた結果、今の日本があるということが出来る。また一方で現在のヨーロッパ連合 (EU) に目を向けてみると、これからの日本とヨーロッパのかかわりが今後どのようになるのかも非常に興味深いところである。この授業では、EUの牽引役といわれるドイツの文化を素材に、新しい時代のヨーロッパを探ってみたい。

■到達目標

グローバル化する世界で日本がこれからどうあるべきかを考えるきっかけを得る。

■講義方法

プリント・映像などを用いてわかりやすい講義にしたい。
テキストの内容を取り上げるが、講義計画とは異なることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

ヨーロッパに関するニュースや情報に関心をむける。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)
定期試験に場合によっては出席点を加えて評価する。

■テキスト

高橋 憲 『新 ドイツの街角から』 郁文堂 1300円

■参考文献

授業中に必要に応じて紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

メールアドレス SNA 05617@nifty.com

■講義計画

- ① プロローグ
- ② ドイツという国
- ③ 日本の近代化はドイツから
- ④ もっと光を
- ⑤ 環境問題
- ⑥ 大学と大学生
- ⑦ ドイツの街道と都市の歴史
- ⑧ シンドラーのリストと杉原千蔵
- ⑨ キリスト教と宗教改革
- ⑩ 外国人労働者
- ⑪ ドイツ再統一以後
- ⑫ ヒトラー回帰
- ⑬ アウシュビッツの記憶
- ⑭ ヨーロッパ連合
- ⑮ 多民族国家になるドイツ

欧米の文化

【担当】 瀧口 順也

【開講】 前期 月4

■サブタイトル

文化を学ぶまなざしー西洋文化史

■講義概要

本講義は、「文化史」というアプローチを用いて欧米圏および日本のさまざまな文化の成り立ちと変容を考察します。現在のわれわれが日常で経験・体験している行為の多くは、近現代の中で誕生し異文化との接触や異なる地域に伝達されるなかで変化を遂げてきました。本講義が扱う「文化」の領域は、物質文化、芸術文化、身体文化、日常文化と、きわめて幅広いものです。普段の生活で何気なく接している行為や文化にも、由来があり歴史があります。講義で扱う事例の多くは欧米圏のものですが、それらの多くは日本の文化様式にも影響及ぼしています。それぞれのキーワードとトピックを軸に、われわれの現在への理解を深め、これからを考えるための手掛かりとして、文化の歴史を紐解く試みです。

■到達目標

1. 「文化史」の視点や方法論への理解を深める。
2. 21世紀の現代が行っている様々な文化様式の変遷を知り、現代文化を洞察する見識を養う。
3. 欧米圏と日本の文化接触への知見を深め、日本文化への理解を促進させる。

■講義方法

パワーポイント用いて講義を進める。適宜プリントを配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に多くの参考文献や映像資料を紹介しします。ひとつでも多くの本や映画・ドキュメンタリーなどに触れ、歴史を体感するよう心掛けて下さい。

■成績評価の方法

- 平常点 (10%)
レポート (30%)
その他 (60%) 学期末レポート
二度 (中間・学期末) のレポートにより評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

ピーター・バーク 『文化史とは何か』 法政大学出版局
個別のトピックについては、講義内で随時紹介します。「文化史」への総体的な理解を深めるものとしては、上記の文献を挙げておきます。

■講義計画

- ①イントロダクション:「文化史」というアプローチ
- ②食物と消費文化 I:砂糖
- ③食物と消費文化 II:塩
- ④食物と消費文化 III:飲料(茶、酒)
- ⑤スポーツと現代文化 I:フットボール
- ⑥スポーツと現代文化 II:ボクシング
- ⑦文化としての音楽 I:ハイカルチャーとしての音楽
- ⑧文化としての音楽 II:ロックンロールの歴史
- ⑨儀礼とフェスティヴァル I:日常生活と儀礼
- ⑩儀礼とフェスティヴァル II:政治文化のフェスティヴァル
- ⑪消費文化とファッション I:スーツの歴史
- ⑫消費文化とファッション II:肌着の文化史
- ⑬メディアと記憶 I:戦争を記憶する
- ⑭メディアと記憶 II:歴史の記憶化、記憶の歴史化
- ⑮まとめ:文化の歴史と現代文化

欧米の文化

【担当】 大槻 志郎

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

テーマで斬る欧米文化

■講義概要

文化を学ぶということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端に触れるものから、観光ガイドに近いものまで、その幅は広い。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。その際、歴史をはじめ、世界の状況に関する基本的な知識が土台となるが、そうした知識は日本の教育からしばしば欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。

■到達目標

未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法

授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の基礎知識について的小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

とくに最初の西洋史通史の段階では、テキストの該当箇所を講義の前夜によく読んで理解を深めることが望ましい。また講義中いろいろ新しい概念、用語などを示すので、なるべくその日のうちに内容を思い起こして自分なりに整理しておくといよい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。
定期試験 (60%) 講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として評価は0点とする。

■テキスト

綿引弘 『一番大切なことがわかる「世界史」の本』 三笠書房 (知的生きかた文庫) 619円
OCSシラバス、教科書の扱い: なおテキストは、これについて学ぶというよりも、講義内容

の土台となる西洋史の知識をサポートする副読本として使用する。したがって、講義前に一度通読し、講義期間中も折にふれて読むことが望ましい。

■参考文献

講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言

欧米の文化をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きい収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。テキストはあらかじめ読んでおくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜4講時。但しいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画

- ①「欧米」の誕生 (西洋史通史1)
- ②「欧米」の誕生 (西洋史通史2)
- ③聖書と神話
- ④時間をめぐる話
- ⑤移動としての歴史
- ⑥風土と文化
- ⑦旅の物語の伝統
- ⑧土地と家族の問題
- ⑨労働と階級
- ⑩理性と野性、文明と自然
- ⑪言語の歴史、言葉の重さ
- ⑫言葉、シンボル、数字
- ⑬人間主義、個人主義
- ⑭名前と個人主義
- ⑮見えないもの

*以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

欧米の文化

【担当】サルズ・ジョーナ・I

【開講】後期 木4

■サブタイトル

映画で見るアメリカの現代社会 Contemporary American Society through Film

■講義概要

アメリカ映画はその初期から大衆芸術としてあり、劇的な場面や生き生きとした見せ場を通して、同時代のさまざまな問題に取り組んできた。なかには議論を呼ぶような深いテーマを扱う映画もあり、それらは重要な文化的アイコンとなったり、各世代のアイデンティティや心性を探るための窓となっているものもある。この講義は、映画を通して1980年代以降のアメリカの主要な社会問題について議論することを目的とする。具体的には、人種差別や「アメリカン・ドリーム」という根強い神話、フロンティアの開拓者たち、青年セクスと暴力、孤高の人物やアウトサイダーたち、資本主義の危機に関する問題である。これらの映画は、同時代の社会問題をどの程度正確に反映しているのだろうか？そして、これらの映画が与えた影響は、アメリカ人の自己へのまなざしや世界の見方をどのように変えたのだろうか？

■到達目標

この講義では、過去30年間にアメリカで生じた社会的・政治的な問題を取り上げる。

■講義方法

毎週、まず有名なハリウッド映画又テレビ番組（英語版、日本語字幕付き）を1本取り上げて、その物語の戦略と問題点を紹介する。次に、映画の受容とその影響について議論する。その後、授業内にその映画を鑑賞して、感想の意見交換する。授業で鑑賞する作品の多くは、映画の道を切り開いてきたものである。たとえば、物語の構成方法は、暗示的なメッセージと同様に影響を及ぼしている。講義では、こうした先駆的な映画制作のテクニックを論じていく。

■系統的履修

アメリカの生活と政治文化、映画技術の文化の共通テーマを探る。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義での映画の関連、延長線として他のアメリカの映画たくさん鑑賞する事。

■成績評価の方法

平常点（20%）参加程度
小テスト（20%）感想レポート（毎週の課題）
レポート（20%）作品の比較分析レポート（授業で見た映画以外のアメリカ映画の文化としての分析）
定期試験（40%）授業で見た映画の内容について又はエッセイ

レポートでは、授業中に鑑賞した映画作品以外のアメリカの作品を感想、「アメリカの文化のメッセージ」を探る 剽窃と判明した際、0点にする。

■テキスト

なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。

■参考文献

井上一馬 『ブラック・ムービー—アメリカ映画と黒人社会（講談社現代新書）』（新書）
八尋 春海 『映画の中の星条旗—厳選映画100本で見る現代アメリカ社会 by』
図書館、Tsutayaなどで現代のアメリカ（他の国も道論！）文化を描いている映画沢山みてみましょう。

■履修上の注意・担当者からの一言

なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。
授業で英語を聞き取れない場合各自で振替版を又見に来なさい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

jonahATworld.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①映像の基本の見方 アメリカ社会の最近20年
- ②『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ③『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ④『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ⑤『The Simpsons』1
- ⑥『Bowling for Columbine』『ボウリングフォー・コロンバイン』：アメリカの銃への欲望
- ⑦『Bowling for Columbine』
- ⑧『Bowling for Columbine』
- ⑨『Juno』— 少女妊娠コメディ
- ⑩『Juno』
- ⑪『Juno』—
- ⑫『The Simpsons』『ザ・シンプソンズ』2
- ⑬『真実の噂：Wag the Dog』
- ⑭『真実の噂：Wag the Dog』
- ⑮まとめ

科学技術史

【担当】林 久夫

【開講】前期 月1

■サブタイトル

将来の科学技術を客観的に考えるために

■講義概要

20世紀は科学技術の時代と言われた。石炭・石油をエネルギーとして、18世紀から産業革命が始まり、高度な物質文明を築き上げてきた。しかし、同時にこのことが、地球環境問題を引き起こしている。石器時代から人類は道具を作り始めたが、ギリシア時代にもものや現象に対する科学的な思考を始め、中世を経て近代の科学技術を基礎とした社会を作り上げてきたと言える。本講では、ギリシア・ローマ時代の科学技術、アラビアの科学、中世の錬金術、12世紀ルネッサンス、産業革命以降の近代科学技術の発展について概観する。また、とくに物理学の分野においてはエネルギー観の変遷に、化学の分野においては物質観の変遷に着目し、これらの分野における先駆者たちの発見のきっかけや思考過程について、科学者たちのエピソードなども交えて解説する。この講義を受講することによって、現在私たちが教育によって当然と考えている科学の基本的な概念の成り立ちを理解し、今後の科学技術の発展に対して客観的な判断が下せるようになることを期待する。

■到達目標

科学技術の発展を5つ程度の時代に分け、それぞれの発達した地域・国家を説明できる。各時代の科学技術の特性を、それぞれ3人程度の科学哲学者の業績と関連付けて説明できる。各時代の科学技術の相互関係を、経済的・政治的・宗教的背景と関連付けて説明できる。

■講義方法

プリント、DVD、PowerPointなどの視覚的教材を活用しながら、視覚に訴え、興味の持てる授業にしたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布資料のPowerPointなどの視覚的教材は未完成なので、授業中に完成させたものを用いて予習と復習を行うこと。推薦・指定DVDなどは、締め切り間際には混雑するので、時間の余裕を持って視聴すること。

■成績評価の方法

レポート（40%）
定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

渋谷一夫ら 『科学史概論』 ムイスリ出版 2400円
八杉龍一 『図解 科学の歴史』 東京教学社 2000円

■講義計画

- ①環境問題と科学技術
- ②古代の科学技術
- ③ギリシアの宇宙観
- ④ギリシアの物質観
- ⑤ローマの科学技術
- ⑥アラビアの科学
- ⑦中世の科学技術
- ⑧ガリレオ、デカルト、ニュートン
- ⑨錬金術と元素観
- ⑩フロギストン仮説の崩壊
- ⑪原子論の復活
- ⑫永久機関への夢
- ⑬産業革命と熱機関
- ⑭近代科学技術
- ⑮持続可能な社会のための科学技術と技術者倫理

■講義概要

現在の科学や技術は過去の長い期間にわたる真理の追及や技術改良の限らない努力の上に成り立っている。科学技術の発展の歴史を学ぶことは、現代の科学技術をより深く理解し、次への発展の手掛りを得ることにつながる。たとえば、製鉄の技術は文明の発展に寄与した。蒸気機関の発明は産業革命を推進し、近代文明への発展のきっかけを作った。現代の便利な社会はコンピュータの発明の恩恵を多大に受けていることは言うまでもない。数多くの技術が相互に影響を与えながら発展してきたのであるが、時系列的に見て科学技術の発展に大きな影響を与えた要素を大づかみする一方、個々の技術について注目し、その技術の発展について論述する。科学技術史は人と時と技術で構成されている。この講義では技術の内容に立ち入り、それがどう変わっていったのかを中心に、それに関わった人のエピソードを交えながら話をしたい。私の専門の関係から、内容が機械に偏ると思われるが、その点はご容赦願いたい。

■到達目標

社会に大きな変革を及ぼした主要な科学技術について説明ができ、その技術内容のポイントについてもある程度説明ができる。

■講義方法

パワーポイントを主体的に使用し、補足的に配布資料を使用する。パワーポイントなどで全てをメモすることはできないが、キーワードや要点はメモすることが望ましい。

■系統的履修

直接関連する科目は無いが、時代背景を理解するために世界史/日本史をおさらいしておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の後、当日の講義内容の要点をまとめておくこと。興味のある点、さらに詳しく知りたい点についてはインターネットや図書館で調べておくこと。このようにして作成したノートが学習の成果になる。

■成績評価の方法

小テスト (30%) 出席確認と学習効果の把握を兼ねる。小テストの評価は合計して評価に用いる。
レポート (30%) 学習が進んだ段階で、課題を出す。オリジナリティを重視し、コピーは人数分の1にする。
定期試験 (40%) 授業で必ず触れている主要技術あるいはキーパーソンについての知識を問う。

■テキスト

特になし

■参考文献

山崎正勝他 『科学技術史概論』 ムイスリ出版 1995円
中山秀太郎 『機械発達史』 大河出版 2100円
三津間秀彦他 『新・機械技術史』 日本機械学会 2800円
L・T・C・ロルト著、磯田浩訳 『工作機械の歴史』 平凡社 3600円
ここに書ききれないが、参考図書はたくさんあり、記述内容もさまざまである。気に入ったものを探して読んでみるとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義は落語ではない。受け身でなく、自ら知識を学び取っていく姿勢で臨むこと。疑問点があれば授業中あるいは授業後に聞くこと。ただ漫然と聞き流すことなく、重要な点はノートに書き留めておくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは定めないが、基本的に在室時は質問等に応じる。1号館315号室の扉に予定表を掲げている。参考図書を試読したいときは申し出ること。

■講義計画

- ①世界を変えた技術 (古代からルネサンス)
- ②世界を変えた技術 (産業革命)
- ③世界を変えた技術 (産業革命以降)
- ④世界を変えた科学 (古代から中世)
- ⑤世界を変えた科学 (近世から現代)
- ⑥製鉄の歴史
- ⑦紡績機械の歴史
- ⑧工作機械の歴史
- ⑨蒸気機関車の歴史 (世界)
- ⑩蒸気機関車の歴史 (日本)
- ⑪日本の鉄道の歴史
- ⑫自動車の歴史
- ⑬電気の歴史
- ⑭計算機の歴史
- ⑮これからの科学技術

■サブタイトル

環境をいかに学び、いかに対処するか。

■講義概要

かつては、公害問題が環境問題であったが、公害問題については、法的な対応や行政的な対応によって、一応社会的には対応がなされたといえる。しかし、その後、ダイオキシン問題などの微量汚染物質が問題となったり、地球温暖化というような社会のエネルギーの使用を根本的に考え直さなければならぬような大きな環境問題が出現してきている。これらのさまざまな環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて、説明する。

■到達目標

さまざまな環境問題を理解し、基本的な考え方を確立する。

■講義方法

テキストおよびパワーポイント等を使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを用いるので、テキストによる予習、復習を行うこと。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

石川宗孝 『環境読本』 電気書院 2500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

広く世界の環境の問題に目を向けてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室を訪問してほしい。

■講義計画

- ①環境と社会づくり
- ②大気、水圏、土壌、森林
- ③地球温暖化、オゾン層
- ④酸性雨、森林破壊、砂漠化
- ⑤大気汚染
- ⑥水質汚濁
- ⑦廃棄物
- ⑧大気汚染防止技術
- ⑨水質汚濁防止技術
- ⑩化学物質、車社会
- ⑪温暖化、エネルギー
- ⑫CSR
- ⑬環境マネジメント、環境会計
- ⑭グリーン購入、LCA
- ⑮生活と環境

環境と人間A

【担当】河合 富佐子

【開講】後期 月4

■サブタイトル

未来社会へのメッセージ

■講義概要

1990年頃から地球環境問題に世界的な関心が集まり、大きく取り上げられるようになった。しかし、それ以前から環境問題は存在し、ほとんどの先進国が何らかの公害問題の歴史を有している。このような負の歴史が人類共通の教訓とならず、発展途上国は先進国の歴史をなぞっているとみえる。現在では先進国と発展途上国の環境をめぐる対立が世界的な重要課題となっている。現代の地球環境問題を正しく認識し、理解を深めるとともに、過去の公害の歴史を振り返ることは先進国に生きる人間の責任であり、現代人の必須教養である。環境問題は自然科学から社会科学にまたがる問題であるとともに、文化とも密接な関係がある。このような観点から、直面する地球環境問題～過去の公害問題を紹介し、より良い未来への道を探る手がかりとしたい。

■到達目標

現代教養人として環境問題を正しく理解し、判断力を身につける。また、自分の頭で考えるための基礎知識を学ぶ。

■講義方法

毎時、レジメを配布する。必要に応じてパソコンで映像を紹介する。

■系統的履修

基本的な化学および生物学の知識は必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

ニュース、新聞などをできるだけ読んで、今の日本及び世界で発生している環境問題を認識するように努めること。中間および最終レポートもこれらから出題する可能性が高い。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

レポート (80%)

出席票には要望や講義に対する意見を書いてもよい。簡単な質問の答えを要求することもある。

■テキスト

テキストは使用しない。

■参考文献

荻野和子、竹内茂彌、柘植秀樹 『環境と化学』 東京化学同人 2300円

谷山鉄郎 『地球環境保全概論』 東京大学出版会 2800円

石 弘之 『地球・環境・人間』 岩波科学ライブラリー 1200円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時間前後の直接連絡

■講義計画

①イントロダクション

②地球環境問題 1

③地球環境問題 2

④地球環境問題 3

⑤公害・環境問題の歴史 1

⑥公害・環境問題の歴史 2 中間レポート課題出題

⑦エネルギーと資源

⑧資源と環境 中間レポート提出

⑨生態系と生物多様性

⑩化学物質と環境：海洋汚染

⑪化学物質と環境：ごみ問題、有害廃棄物の越境移動

⑫リサイクルと循環型社会の構築 最終レポート課題の出題

⑬中国その他の環境問題

⑭環境時事問題

⑮まとめ 最終レポート提出

環境と人間B

【担当】西江 仁徳

【開講】前期 木4

■サブタイトル

ヒトの進化史からみた人間と自然の関係

■講義概要

生態人類学的な観点から人と自然の相互関係について探求する。具体的には、1. 霊長類の特徴と人類の進化について学ぶ。2. 狩猟採集民社会を中心にさまざまな民族や文化を概観し、人間社会の多様性を理解する。

■到達目標

人類学的な視点を習得するとともに、グローバル・ローカルの双方向から人と自然の関係を考える力を養う。

■講義方法

パワーポイントのスライドを用いた講義形式で進める。必要に応じてビデオを利用する。

■系統的履修

環境と倫理、環境と人間A

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で紹介する参考文献などに目を通して、講義内容を復習することが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 講義に対する質問や意見

レポート (60%) 期末レポート1回

■テキスト

特になし

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

受講者からの質問やコメントにもとづき、受講者の興味と理解度に合わせて柔軟に内容を変更する。平常点が評価の一定の割合を占めるので、積極的に参加する意欲のない人、簡単

に単位を取得したい人には向いていない。

■講義計画

①講義ガイダンス：環境とはなにか？

②霊長類としてのヒト：進化論的視点から

③人類の進化1：初期人類

④人類の進化2：ホモ属の出現と出アフリカ

⑤人類の進化3：現生人類の起源

⑥人種と環境

⑦生活史からみたヒト

⑧異文化理解とフィールドワーク

⑨狩猟採集民の生活と社会

⑩狩猟採集民の現在

⑪農耕・牧畜のはじまり

⑫環境の持続的利用

⑬人口問題

⑭映像鑑賞

⑮まとめ：人間と自然の共生

環境と人間B

【担当】鈴木 滋

【開講】後期 水2

■サブタイトル

人類史からみた自然と人間の関係

■講義概要

環境問題に関心のある学生は多いが、人間が自然環境に依存して生きていくとはどういうことか、具体的な関係についての理解はごくかぎられている。この授業では、生態人類学的な視点を中心に、ヒトという動物の特徴を、人類進化史から抽出し、人間と環境の基本的な関係を概観する。自然環境に強く依存した生活、とくに人類史の99%以上を占める狩猟採集生活についての研究成果をもとに、人間の環境利用の特徴を検討する。そして、狩猟採集や農耕などの生業活動が自然環境にもたらした影響を、進化史のかつ人類学的に考察する。また、ヒトによる持続的な環境の利用について、とくに人口増加と森林破壊をめぐる問題について検討する。この授業で扱う環境とは、森林などの自然をおもに対象としており、地球環境問題についての授業ではない。

■到達目標

環境問題の根源として、ヒトという生物の特徴と時代や生業や環境との関連を見渡す視点。

■講義方法

パワーポイントのスライドで資料を提示しながら講義をする。ビデオも利用し、スライド資料はWEBで公開する。情報メディアセンターの携帯による出欠確認システムを利用予定。授業時間中に小テストを実施し、また宿題レポートの提出をもとめる。

■系統的履修

環境と倫理、環境と人間A

■授業時間外における予・復習等の指示

授業スライドの資料をダウンロードして予復習に活用すること。わからなかった用語・事項などをウェブや文献で調べること。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 携帯出欠確認システムによる質問や意見
小テスト (40%) 授業時間中の小テスト
レポート (40%) 授業期間中に提出する課題レポート

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この授業をきっかけに、人間と自然に対する根本的な興味をもってもらいたい。そのために、自分で調べ、考えるレポートなどの課題を重視する。よって簡単に単位をとりたい学生には向いていない。学生アンケートによる満足度の最高値は4.1

■講義計画

- ①人類学からみる環境の視点
- ②霊長類の多様性とヒト
- ③人類の進化と環境
- ④ヒト化と出アフリカ
- ⑤新人の起源と世界進出
- ⑥人種と環境
- ⑦生活史
- ⑧人口
- ⑨中間まとめと小テスト
- ⑩狩猟採集生活 1
- ⑪狩猟採集生活 2
- ⑫農耕の起源と帰結
- ⑬環境の収容力と持続性
- ⑭里山と環境の持続性
- ⑮レポートの返却と講評

環境と倫理

【担当】柿本 佳美

【開講】前期 木4

■サブタイトル

環境問題と科学技術

■講義概要

環境倫理は、社会と技術のかかわり、土地利用の問題、南北の格差の問題、資源利用の問題など、人間社会のあり方に大きく関わる学際領域である。次世代のために守るべき自然環境とは何か、自然やそこに生息する生物の多様性とは何か、それを守るためには何をすべきか、という課題は、深刻な環境破壊が発生したときに浮かび上がる。福島第一原発事故は、避難を余儀なくされた住民への賠償と生活保障、放射線に汚染された土壌の除染、原発の受け入れ地域と原発によって得られる電力を消費する地域との間の不均衡という問題とともに、私たちに、科学技術の社会的効用と、その発展に伴う環境へのリスクのバランスをどのように取るかという問題も突きつけている。ところで、科学技術は、人間社会において生み出され、そこで共有される価値規範から影響を受けているため、どのような利害関係からも中立なままで発展するとは言いがたい。そうすると、環境に負荷をもたらす技術を生産活動に取り入れるにあたっては、予測される環境破壊の予防と、それによって不利益を受けるであろう人々の権利を守るシステムを構築する必要がある。そこで、この授業では、環境に関わる基礎理論を学ぶとともに、人間の福利と科学技術という点から環境をめぐるさまざまな問題を取り上げ、そこに見ることのできる倫理的な課題を考察する。

■到達目標

環境倫理と環境問題についての知識を得ることで、多角的な思考が可能になることを目的とする。

■講義方法

プリントと映像資料を使用し、講義形式で行う。数回のミニレポートあり。これをもとに授業を進めることもある。

■系統的履修

「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。新聞等による報道に注意し、環境に関わる記事については読んでおくこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

欠席遅刻はないこと。通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■テキスト

特になし

■参考文献

加藤尚武編 『環境と倫理 (新版)』 有斐閣アルマ 1890円
関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著 『環境の社会学』 有斐閣アルマ 1900円
上記のほか、参考となる文献については授業中に挙げる。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。なお、授業開始30分後以降の入室はお断りすることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜日13:00～13:30、講師室

■講義計画

- ①はじめに：二つの原発事故と環境破壊
- ②エネルギー問題と環境：持続可能な社会とは？
- ③科学技術と社会
- ④環境問題のはじまり：公害と環境汚染権利という視点
- ⑤環境倫理のキーワード：世代間倫理
- ⑥環境倫理のキーワード：環境的正義
- ⑦環境倫理のキーワード：技術倫理と企業の社会的責任
- ⑧環境倫理のキーワード：「自然」「動物」に権利はあるか？
- ⑨環境問題と私たち：消費社会と経済成長神話
- ⑩環境資源と人間：水
- ⑪環境資源と人間：温暖化
- ⑫生活のなかの環境問題：自然保護という思想
- ⑬生活のなかの環境問題：土地倫理
- ⑭生活のなかの環境問題：里山と持続可能な発展
- ⑮まとめ：技術発展と未来世代

教養教育科目特別講義A（里山学入門）（2008年度以降入学生）
共同開講科目特別講義（2003～2007年度入学生）

宮浦 富保、近藤 倫生、須藤 護、田中 滋、帖地 孝人、林 珠乃、
朴 炫国、丸山 徳次、遊磨 正秀、横田 岳人【開講】前期 月3

■サブタイトル

里山学入門 地域の自然と文化

■講義概要

里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では、里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、複数の教員が講義する。

■到達目標

里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。

■講義方法

複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回、レポートを課す。人間と自然の関係についての自分の考えを整理すること。

■成績評価の方法

レポート（100%）

■テキスト

講義時間内に教員ごとに指示する。

■参考文献

丸山徳次・宮浦富保 『里山学のすすめ』 昭和堂 2310円
丸山徳次・宮浦富保 『里山学のまなざし』 昭和堂 2310円
講義時間内に教員ごとに指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。

■講義計画

- ① 4月 9日(月) 里山の歴史と現状
- ② 4月 16日(月) 里山の自然と恵み1 山菜の種類
- ③ 4月 21日(土) 里山の自然と恵み2 山菜の利用
- ④ 4月 23日(月) 里山の環境倫理
- ⑤ 4月 28日(月) 里山の自然と恵み3 山菜の評価
- ⑥ 5月 7日(月) 里山の生物多様性1 動植物の多様性
- ⑦ 5月 14日(月) 水辺環境と里山
- ⑧ 5月 28日(月) 里を歩く1 里山と地域社会
- ⑨ 6月 2日(土) 里を歩く2 里山利用の歴史
- ⑩ 6月 4日(月) 環境社会学からみた里山
- ⑪ 6月 9日(土) 里を歩く3 里山と湖
- ⑫ 6月 11日(月) 里山の保全1 里山保全の歴史
- ⑬ 6月 16日(土) 里山の保全2 里山保全の手法
- ⑭ 6月 23日(土) 里山の保全3 里山保全の問題点
- ⑮ 6月 18日(月) 里山の生物多様性2 多様性のメカニズム
- ⑯ 6月 25日(月) 里山と山の神<日本編>
- ⑰ 7月 2日(月) 里山と山の神<韓国編>
- ⑱ 7月 9日(月) 人と自然の関係～森からの思想
- ⑲ 7月 23日(月) 総合考察

教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）

【担当】 山中 聡

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

西洋近現代史入門

■講義概要

大航海時代（15世紀）から第二次世界大戦後（20世紀半ば）までの西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の歴史を学ぶ。基本的な事実の解説と並行して、近年の研究動向を踏まえた新しい視点・議論も適宜紹介する。

■到達目標

西洋近現代史の知識を習得することで、現代世界の動向を理解するための基本的な教養を身に付ける。

■講義方法

毎回レジュメを配付し、それを解説しながら、補足事項を口頭で紹介する。また、映像資料も用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（40%） 毎回出席カードを配布し、講義の内容に関する質問の答えをその裏面に記入する。正解を記入してはじめて出席扱いとなる。

レポート（60%） 内容、枚数は講義開始時に指示

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

西洋の近現代史を勉強することが、現代の日本を生きる私たちにとって、どんな意味があるのか？ 本講義では、基本的な知識の習得と共に、この点について、皆さんにじっくり考えてもらおうつもりです。評価においては出席とレポートの内容

を重視しますが、単に単位を取ることを目的に参加するのではなく、西洋近現代史を学ぶことの意義を、講義の中で自らに問いかけてもらいたいと思います。意欲的な参加をお待ちしております。

■講義計画

- ① ガイダンス講義
- ② 大航海時代
- ③ ルネサンスと宗教改革
- ④ 絶対王政の時代
- ⑤ ヨーロッパ主権国家体制の展開
- ⑥ イギリスとアメリカの革命
- ⑦ フランス革命
- ⑧ ナポレオン帝国、ウィーン体制、19世紀のフランスとイギリス
- ⑨ 19世紀のドイツ、イタリア、アメリカ
- ⑩ 帝国主義の時代
- ⑪ 第1次世界大戦とロシア革命
- ⑫ ヴェルサイユ体制、世界恐慌
- ⑬ ナチス・ドイツの台頭と第2次世界大戦
- ⑭ 特集講義1
- ⑮ 特集講義2

教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）

【担当】 山中 聡

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

西洋近現代史入門

■講義概要

大航海時代（15世紀）から第二次世界大戦後（20世紀半ば）までの西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の歴史を学ぶ。基本的な事実の解説と並行して、近年の研究動向を踏まえた新しい視点・議論も適宜紹介する。

■到達目標

西洋近現代史の知識を習得することで、現代世界の動向を理解するための基本的な教養を身に付ける。

■講義方法

毎回レジュメを配付し、それを解説しながら、補足事項を口頭で紹介する。また、映像資料も用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（40%） 毎回出席カードを配布し、講義の内容に関する質問の答えをその裏面に記入する。正解を記入してはじめて出席扱いとなる。

レポート（60%） 枚数、内容は講義時に指示

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

西洋の近現代史を勉強することが、現代の日本を生きる私たちにとって、どんな意味があるのか？ 本講義では、基本的な知識の習得と共に、この点について、皆さんにじっくり考えてもらうつもりです。評価においては出席とレポートの内容

を重視しますが、単に単位を取ることを目的に参加するのではなく、西洋近現代史を学ぶことの意義を、講義の中で自らに問いかけてもらいたいと思います。意欲的な参加をお待ちしております。

■講義計画

- ①ガイダンス講義
- ②大航海時代
- ③ルネサンスと宗教改革
- ④絶対王政の時代
- ⑤ヨーロッパ主権国家体制の展開
- ⑥イギリスとアメリカの革命
- ⑦フランス革命
- ⑧ナポレオン帝国、ウィーン体制、19世紀のフランスとイギリス
- ⑨19世紀のドイツ、イタリア、アメリカ
- ⑩帝国主義の時代
- ⑪第1次世界大戦とロシア革命
- ⑫ヴェルサイユ体制、世界恐慌
- ⑬ナチス・ドイツの台頭と第2次世界大戦
- ⑭特集講義1
- ⑮特集講義2

教養教育科目特別講義C（アジアの映画）

【担当】 李 相哲

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

映画で語るアジアの歴史と文化

■講義概要

映画はその国の歴史や特定の時代を背景にしている。また、その空間に生きる人々の生活を題材にしている。映画は我々に過去の出来事を再現し、未知の世界を見せてくれたり、遠い昔の歴史を再現してくれたりもする。この講義は、アジアの映画を通してアジアの近現代の出来事を映像でみながら、映画に映し出される場所、人物、物語が、その国の歴史や文化、人々の普通の生活とどうつながっているのかを考えながら、映画に取り上げられる時代、国、歴史について理解を深めることを目的とする。

■到達目標

アジアの映画を通して、受講生にその国の歴史や文化を理解してもらう。具体的に、この授業は映画という芸術を理解するためのものではない。映画に映し出されるアジアの国々の歴史、生活、文化を理解し、未知の世界を理解する方法、歴史の見方を身につける。

■講義方法

講義形式：映画を見る、映画を語る、映画を解説する、という形式ですすめる。具体的にアジア（特に日・中・韓）の近現代歴史と関連のある映画、人々の生活を題材にした映画を鑑賞しながら、その映画ができるまでの背景、その映画に取り上げられる時代、主人公について、場合によっては役者について解説するという方法です。

■系統的履修

アジアの文化、欧米の文化

■授業時間外における予・復習等の指示

その都度指示する

■成績評価の方法

平常点（10%） 講義中に取り上げる映画をみたか
小テスト（0%）

レポート（20%） 映画に関する感想文

定期試験（70%）

出席はとらない。ただし、試験は授業中の内容（映画の内容を含む）が中心となる。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日12時30分～13時30分 連絡方法：
cieli@soc.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①講義の進め方について：スケジュール、講義方法を知ってもらう（必ず出席すること）
- ②韓国映画と朝鮮半島の歴史：韓国と北朝鮮映画について
- ③韓国映画（1）：分断国家の悲劇を知る
- ④韓国映画（2）：韓国の文化事情、映画産業について
- ⑤韓国映画（3）：韓国人の家族愛、映画芸術の今を知る
- ⑥韓国映画から韓国の近代を読む：韓国の近代
- ⑦韓国映画から韓国文化を知る：韓国の文化
- ⑧中国映画（1）：中国の近代
- ⑨中国映画（2）：中国の文化
- ⑩中国映画（3）：中国の現代
- ⑪中国映画で社会を読む：中国の現代
- ⑫中国映画のなかの中国と中国文化：経済発展の裏に潜む社会問題、中国の現在
- ⑬日本映画：日本の映画は中国、韓国映画とどう違うか
- ⑭映画で語るアジアの歴史：現代アジアの家族、英雄像
- ⑮映画で語るアジアの文化：アジア映画にみる日中韓関係

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂 靖

【開講】前期 水3

■サブタイトル

近江（滋賀）の仏教文化

■講義概要

豊かな水をたたえた琵琶湖や、古来より続く主要な街道を有する近江（滋賀県）の地。その風景は多くの歌に詠まれるなど、日本文化の中心地の一つとされてきました。また近江には、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在し、さまざまな仏像や絵画、文献など多くの文化財が現在にまで伝わっています。この講義では、歴史とともに紡がれてきた近江の豊かで固有の文化を、宗教・仏教との関連のなかで紐解き、近江の魅力に迫ります。

■到達目標

近江の歴史と文化を宗教との関わりの中で総合的に理解することを目標とします。

■講義方法

毎講義時に配布するプリント、板書、映像資料により講義を行います。また、滋賀県内の古寺社や博物館などでの現地実習を予定しています（詳細は初回講義時に説明）。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習は必ずしも必要としませんが、各自、講義時に紹介した参考文献の通読、博物館の拝観などにより、知識を深めることが望めます。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
レポート（50%）講義時に指示したテーマにもとづくレポートの内容により評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある滋賀県には、どのような文化と歴史があるのでしょうか。仏教との関わりを見ることが、滋賀県の魅力がより一層明らかになってきます。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②近江の歴史と宗教① 古代
- ③近江の歴史と宗教② 中世
- ④比叡山の仏教—天台宗の歴史を紐解く—
- ⑤比叡山の修行—いまに生きる回峰行—
- ⑥比叡山の神と仏—山王信仰の世界—
- ⑦現地実習（滋賀県内の寺社や博物館等を予定）
- ⑧近江の山岳信仰・修験道と甲賀の忍者伝承
- ⑨戦国武将たちの仏教信仰
- ⑩近江商人の信仰と浄土真宗
- ⑪近江の観音信仰と西国巡礼
- ⑫近江に伝わる文化財—仏像と経典—
- ⑬仏教説話に登場する近江
- ⑭現代に息づく近江の仏教文化（現地実習を予定）
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂 靖

【開講】後期 水3

■サブタイトル

近江（滋賀）の仏教文化

■講義概要

豊かな水をたたえた琵琶湖や、古来より続く主要な街道を有する近江（滋賀県）の地。その風景は多くの歌に詠まれるなど、日本文化の中心地の一つとされてきました。また近江には、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在し、さまざまな仏像や絵画、文献など多くの文化財が現在にまで伝わっています。この講義では、歴史とともに紡がれてきた近江の豊かで固有の文化を、宗教・仏教との関連のなかで紐解き、近江の魅力に迫ります。

■到達目標

近江の歴史と文化を宗教との関わりの中で総合的に理解することを目標とします。

■講義方法

毎講義時に配布するプリント、板書、映像資料により講義を行います。また、滋賀県内の古寺社や博物館などでの現地実習を予定しています（詳細は初回講義時に説明）。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習は必ずしも必要としませんが、各自、講義時に紹介した参考文献の通読、博物館の拝観などにより、知識を深めることが望めます。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
レポート（50%）講義時に指示したテーマにもとづくレポートの内容により評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある滋賀県には、どのような文化と歴史があるのでしょうか。仏教との関わりを見ることが、滋賀県の魅力がより一層明らかになってきます。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②近江の歴史と宗教① 古代
- ③近江の歴史と宗教② 中世
- ④比叡山の仏教—天台宗の歴史を紐解く—
- ⑤比叡山の修行—いまに生きる回峰行—
- ⑥比叡山の神と仏—山王信仰の世界—
- ⑦現地実習（滋賀県内の寺社や博物館等を予定）
- ⑧近江の山岳信仰・修験道と甲賀の忍者伝承
- ⑨戦国武将たちの仏教信仰
- ⑩近江商人の信仰と浄土真宗
- ⑪近江の観音信仰と西国巡礼
- ⑫近江に伝わる文化財—仏像と経典—
- ⑬仏教説話に登場する近江
- ⑭現代に息づく近江の仏教文化（現地実習を予定）
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義 E（アジアの途上国と社会開発）

【担当】佐藤 彰男

【開講】前期 木3

■講義概要

本講義では、貧困問題を基点にアジアの途上国におけるいくつかの社会問題を取りあげ、それらの問題がどのようにして先進社会と関係しているのかを明らかにしていく。またそのような問題を克服するために行われてきた先進諸国からの開発援助について検討し、効果や限界を明らかにしていく。

■到達目標

アジアの途上国に目を向けることによって視野を広げ、社会を理解するための新たな方途を獲得する。

■講義方法

基本的には音声と板書による講義であるが、必要に応じて映像資料等を用いる

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に適宜指示する。

■成績評価の方法

定期試験（100%）学期末に論述式の試験を実施する。

■テキスト

授業中に適宜指定する。

■参考文献

恩田守雄 『開発社会学-理論と実践』 ミネルヴァ書房
3800円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②途上国の社会問題
- ③グローバリゼーションと貧困の構造
- ④植民地化の歴史と社会構造のひずみ
- ⑤農村の困窮と膨張する都市貧困層
- ⑥教育と階層間格差
- ⑦宗教・ジェンダー・人権問題
- ⑧「後進性」と環境汚染
- ⑨公害の域外転嫁
- ⑩社会開発の目的と理念
- ⑪途上国援助の歴史
- ⑫開発援助における住民参加とエンパワーメント
- ⑬NGOの役割
- ⑭マイクロファイナンスの試み
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義 F（現代社会と栄養）

【担当】宮川 尚子

【開講】前期 木3

■講義概要

栄養は人体を構成する重要な要素であるが、情報過多の現代において基本的知識を持たずに栄養に関する正しい情報を取捨選択することは甚だ困難である。そこで本講義では、正しい栄養情報を選び取る視点を養うことを目的として、3つの大きなテーマについて学習する。(1) 古今東西の栄養疫学研究より栄養についてマクロな視点を学ぶ (2) 個人が摂取するエネルギーと栄養素について基本を学ぶ (3) 現代社会の健康問題の1つである生活習慣病と食事の関連についてマクロとミクロな視点から学ぶ。

■到達目標

栄養について疫学的、生態学的視点から学ぶことにより、正しい栄養情報を選び取る視点を養う

■講義方法

講義形式を基本とするが、履修人数により小グループによるディスカッションや作業を行う場合がある

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の時に指示する

■成績評価の方法

平常点（40%）授業後の小レポートを出席点とする
定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

中村丁次 『栄養学』 医学書院 1995円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②食を通して見えるもの①
- ③食を通して見えるもの②
- ④食を通して見えるもの③
- ⑤栄養素とは何か
- ⑥食べ物の消化・吸収と代謝
- ⑦何をどれだけ食べたら良いのか①
- ⑧何をどれだけ食べたら良いのか②
- ⑨青年期・妊娠期の食事
- ⑩生活習慣病と食事①
- ⑪生活習慣病と食事②
- ⑫生活習慣病と食事③
- ⑬生活習慣病と食事④
- ⑭最近の栄養疫学研究
- ⑮まとめ

■講義概要

テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。(1) 現代社会におけるスポーツ・運動と健康 (2) スポーツ・運動と身体的な健康 (3) スポーツ・運動と心の精神的健康 (4) 食生活とスポーツ

■到達目標

現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。

■講義方法

講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外に講読できる文献を講義の時に紹介する。

■成績評価の方法

定期試験 (100%) 大学が定める定期試験中に試験を実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

最初の講義で紹介する。

■講義計画

- ①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
- ②①スポーツや運動への参加状況
 - ②運動は寿命を長くするか。
- ③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
- ④健康に関する体力要素
- ⑤エネルギー供給システムの違いについて
- ⑥①運動処方について
 - ②運動によるウェイトコントロール
- ⑦レジスタンストレーニング
- ⑧①ストレスと運動
 - ②行動パターンと運動
- ⑨①スポーツ・運動と精神的健康
 - ②運動の実践による心理的効果
- ⑩①運動により心理的効果のメカニズム
 - ②運動の実践による自己概念の向上
- ⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
- ⑫スポーツ栄養学について
- ⑬スポーツの実践によるライフスキルの獲得
- ⑭スポーツ科学の基礎知識
- ⑮まとめ

現代社会と宗教

■講義概要

現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%)
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

- ①はじめに ― 現代における宗教
- ②宗教と物語 (1)
- ③宗教と物語 (2)
- ④宗教と原理主義 (1)
- ⑤宗教と原理主義 (2)
- ⑥宗教と悪 (1)
- ⑦宗教と悪 (2)
- ⑧宗教と寛容 (1)
- ⑨宗教と寛容 (2)
- ⑩宗教と生命 (1)
- ⑪宗教と生命 (2)
- ⑫宗教と死刑 (1)
- ⑬宗教と死刑 (2)
- ⑭宗教と死刑 (3)
- ⑮まとめ

■講義概要

現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (0%)

小テスト (0%)

レポート (0%)

定期試験 (100%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 現代における宗教

②宗教と物語 (1)

③宗教と物語 (2)

④宗教と原理主義 (1)

⑤宗教と原理主義 (2)

⑥宗教と悪 (1)

⑦宗教と悪 (2)

⑧宗教と寛容 (1)

⑨宗教と寛容 (2)

⑩宗教と生命 (1)

⑪宗教と生命 (2)

⑫宗教と死刑 (1)

⑬宗教と死刑 (2)

⑭宗教と死刑 (3)

⑮まとめ

現代社会とスポーツ

■サブタイトル

現代のスポーツ文化

■講義概要

現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化・ビジネス化・グローバル化という3つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標

スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。

■講義方法

プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ (DVD、VHS) を使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席状況および受講態度

小テスト (20%) 毎授業後のプリント

レポート (20%) 中間試験・講義内容 (前半) をもとに出題する。記述式。

定期試験 (40%) 講義内容 (後半) をもとに出題する。記述式。

その他 (0%)

出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。

■テキスト

受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献

井上俊・亀山佳明編 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2415円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業プリントは一人1枚受け取る。枚数に限りあり。

■講義計画

①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。

②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。

③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。

④ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。

⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科 (保健体育科) の目標と内容を中心に考えます。

⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。

⑦中間試験

⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。

⑨「メディアと競技スポーツの商品化」、「勝利至上主義とドーピング」、「競技スポーツと環境問題」、「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。

⑩これからの社会とスポーツと題して、ニュースポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。

⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。

⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。

⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最新の睡眠の科学的知見を学びます。

⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠6か条および補足6か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。

⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。

⑯定期試験

現代社会とスポーツ

【担当】辻 延浩

【開講】後期 金1

■サブタイトル

現代のスポーツ文化

■講義概要

現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化・ビジネス化・グローバル化という3つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標

スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つめることができる。

■講義方法

プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ（DVD、VHS）を使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況および受講態度
小テスト（20%）毎授業後のプリント
レポート（20%）中間試験。講義内容（前半）をもとに出題する。記述式。
定期試験（40%）講義内容（後半）を中心に出题する。記述式。
その他（0%）
出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。

■テキスト

受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献

井上俊・亀山佳明編 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2415円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業プリントは一人1枚受け取る。枚数に限りあり。

■講義計画

- ①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。
- ②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。
- ③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。
- ④ホイジンガとカイヨウのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。
- ⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科（保健体育科）の目標と内容を中心に考えます。
- ⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。
- ⑦中間試験
- ⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。
- ⑨「メディアと競技スポーツの商品化」、「勝利至上主義とドーピング」、「競技スポーツと環境問題」、「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。
- ⑩これからの社会とスポーツと題して、ニュースポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。
- ⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。
- ⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。
- ⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最近の睡眠の科学的知見を学びます。
- ⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠6か条および補足6か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。
- ⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。
- ⑯定期試験

現代社会と福祉

【担当】岡野 英一

【開講】前期 木3

■サブタイトル

現代社会における社会福祉の意味を考える

■講義概要

社会福祉のありようについて可能な限り包括的かつ体系的に展望する。

■到達目標

社会福祉を通じた科学的な社会認識力を養うとともに、社会福祉専門職取得における最低限の知識習得を目指す。

■講義方法

基本テキストに沿って、計画的に講義を進めます。

■系統的履修

でき得れば地域福祉論の履修を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回基本テキストの内容について予習を求めます。

■成績評価の方法

平常点（40%）
小テスト（10%）前期中間時に実施します。
レポート（20%）1回のレポート課題を出します。
定期試験（30%）
欠席を5回すると、単位認定いたしません。

■テキスト

社会福祉士養成講座編集委員会 『現代社会と福祉』 中央法規 2600円

■参考文献

山縣文治・岡田忠克 『よくわかる社会福祉』 ミネルヴァ書房 2400円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

携帯電話 09015897992に連絡ください、時間を調整して相談に応じます。

メール ying1-g@docomo.ne.jp またはying1-g@nike.eonet.ne.jpへ連絡ください。

■講義計画

- ①視点と枠組み：社会福祉の新たな展開と福祉政策理解の枠組みを学ぶ
- ②社会の変化と福祉：現代社会の変化と福祉について、歴史的変遷から学ぶ
- ③福祉と福祉政策：社会福祉政策の動向を学び、社会福祉士の役割を考察する
- ④福祉の思想と哲学：福祉の底流にある思想と哲学を学ぶ
- ⑤社会政策と福祉政策：福祉政策を社会政策の観点から捉えなおす
- ⑥福祉政策の発展過程：福祉政策の歴史的変遷を学ぶ
- ⑦少子高齢化時代の福祉政策：近年の福祉政策の動向を学ぶ
- ⑧福祉政策における必要と資源：ニーズを通じた福祉政策のありようを学ぶ
- ⑨福祉政策の理念・主体・手法：福祉政策の考え方、政策決定過程・評価手法について学ぶ
- ⑩福祉政策の関連領域：福祉を取り巻く関連領域の政策とその連動性を学ぶ
- ⑪社会福祉制度の体系：社会福祉制度の構造と福祉サービスのありかたを学ぶ
- ⑫福祉サービスの提供：福祉サービスの供給・提供体制と利用システムを学ぶ
- ⑬福祉サービスと援助活動：ソーシャルワーク手法と地域福祉への連動を学ぶ
- ⑭福祉教育の国際比較：福祉政策の在り方を世界的視野で学ぶ
- ⑮福祉政策の課題と展望：今日の社会動向と福祉政策上の課題を総括的に学ぶ

■サブタイトル

メディア・リテラシー

■講義概要

マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。 テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に接しながら考える能力を向上させる。 国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標

メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法

時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席重視。

レポート (30%) 講義で習得したことを1400字でまとめる。
最終講義かその前の講義時にレポートを提出。

■テキスト

李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房 1575円

オリエンテーションにて説明。

■参考文献

参考文献はオリエンテーションにて説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言

世界に通用する教養を楽しく学ぼう。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②講義概要の目的に従いながらも時勢の変化を考慮してタイムリーな講義を行う。
- ③同上
- ④同上
- ⑤同上
- ⑥同上
- ⑦同上
- ⑧同上
- ⑨同上
- ⑩同上
- ⑪同上
- ⑫同上
- ⑬同上
- ⑭総括
- ⑮総括

■サブタイトル

メディア・リテラシー

■講義概要

マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。 テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に触れながら考える能力を向上させる。 国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち、世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標

メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法

勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。

■系統的履修

毎週放送しているラジオカフェ・シンクタンクジャーナルをインターネットを通じて聴く。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席、積極的発言を重視。

レポート (30%) 講義で習得し分析したことを1400字でまとめる。講義の最終日かその前の講義中に提出。

■テキスト

李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房 1575円

オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■参考文献

オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的かつ真剣に授業に参画して欲しい。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。豊かな人生を謳歌するための教養(リベラル・アーツ)を学ぶことができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②講義概要の目的に従いながらも時勢の変化を考慮してタイムリーな講義を行う。
- ③同上
- ④同上
- ⑤同上
- ⑥同上
- ⑦同上
- ⑧同上
- ⑨同上
- ⑩同上
- ⑪同上
- ⑫同上
- ⑬同上
- ⑭総括
- ⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】西村 敏雄

【開講】後期 水2

■サブタイトル

メディアを監視、メディアの発信する情報から真実を読み取る

■講義概要

情報社会の中で、新聞やテレビ、インターネットなど情報は多様化している。その情報を発信するメディアは「記者や編集者のフィルターがかけられている」。その中からいかに真実を見抜くか。イラク戦争ではアメリカの攻撃する側からの情報が多く、被害者の観点からの報道は少なかった。3・11の東北震災では政府や東電の情報を踊らされた。それらの情報から「真実」を見抜く視点を養うことが求められている。

■到達目標

いかに多様な情報から「真実」を見つめる視点を養うか。マスコミ志願者にはその心構えを学ぶ機会としたい。

■講義方法

①新聞読み比べ②個人の研究発表③レジュメに沿った授業の3形式で行う、新聞、ビデオを見る。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の前には前の週のから新聞やテレビで何が世の中で起きているかを考えてくること。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席3回まで、4回になると自動的に受講資格なしになる。

小テスト (60%) 小レポートを3回 (各1200字)

■テキスト

『超ジャーナリズム入門』 晃洋書房

毎回、レジュメを作成して渡す。

■参考文献

『メディアコントロール』 集英社新書

■履修上の注意・担当者からの一言

欠席は4回で授業の受講資格を失うので注意。忌引きや病気などは必ず連絡すること

■オフィスアワー・教員への連絡方法

toshi_bozu_1949@yahoo.co.jpのパソコンに連絡する。

■講義計画

- ①ガイダンス：授業の進め方
- ②メディアリテラシー：この授業の意義や意味
- ③メディアが発信する情報の作られ方：新聞が読者に届くまで
- ④メディアの現場：新聞記者の一日
- ⑤人権と報道①：オウム松本サリン事件
- ⑥人権と報道②：同上
- ⑦人権と報道③：神戸連続殺人事件
- ⑧プライバシー報道：サカキバラセイ事件から
- ⑨戦争とメディア①：ベトナム戦争
- ⑩戦争とメディア②：イラク戦争
- ⑪戦争とメディア③：同上
- ⑫冤罪報道①：痴漢報道
- ⑬冤罪報道②：選挙違反
- ⑭冤罪報道③：自白の強要
- ⑮小レポート：14回分の授業の確認

現代の技術

【担当】吉川 恒夫、池田 昌彦

【開講】後期 月3

■サブタイトル

現代社会を支える先進技術

■講義概要

本講義の前半では、現代社会を支える基盤技術の概要について講義する。その内容は以下の通りである。まず技術の歴史を手短かに紹介した上で、現代技術の概要を解説する。ついで現代技術の代表的分野の中から、コンピュータ技術、輸送技術、エネルギー技術、微細技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎知識、技術の現状、および今後の課題などについてわかりやすく講述する。

後半の講義は明治以後の産業技術論が中心である。現在の日本の多くの産業・技術の源は約150年前のわずかに約50年の間に立ち上げられたものである。本講義では明治初期の技術シーズが如何に構築され社会ニーズに対応したか、明治50年間の広い産業技術分野での発展過程とその背景を整理する。その中で、環境・公害問題それに伴う企業理念や技術者理念の変化の背景をも見ることができる。これからのポスト産業主義時代に求められているパイ型人間（多くの分野に判断できる能力を有する人）の1つの要件は、知識の整理と社会に対する行動力である。本講義は社会と産業技術の関連を解析し行動するための技術論である。さらに実例として第2次世界大戦後の社会ニーズに対応した最近の分析装置・技術の開発での体験も交え講義を行う。

■到達目標

現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。

■講義方法

プリントを配布し、それに準じて講義する。

■系統的履修

「生活の中の物理」(教養教育科目)

■授業時間外における予・復習等の指示

現代技術に関する新聞、TVなどの報道記事に関心を持つことが好ましい。

■成績評価の方法

レポート (15%)

定期試験 (50%)

その他 (35%) 中間試験

前半は、授業途中で課すレポートの成績 (15点満点) と中間試験の成績 (第8回目授業時に実施、35点満点) によって評価する (合計50点満点)。

後半は定期試験 (100%) を50点とする。

前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。

■テキスト

特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。 中間試験は持ち込み不可。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

特に設けない。

■講義計画

- ①現代技術序論 (技術略史、現代技術概説)
- ②コンピュータ技術 (アナログとデジタル、計算機の歴史、計算機的应用)
- ③輸送技術 (自動車、鉄道、飛行機、ロケット)
- ④エネルギー技術 (エネルギー概説、各種発電法、地球環境問題)
- ⑤微細技術 (マイクロマシン、ナノ技術)
- ⑥ロボット技術1 (ロボット技術の歴史、産業用ロボット)
- ⑦ロボット技術2 (ヒューマノイドロボット、ロボット技術の将来)
- ⑧中間試験・復習
- ⑨幕末・明治への科学技術情報と社会構造の変化
- ⑩明治政府の産業基盤整備・殖産興業政策と富国強兵
- ⑪産業各論 1 (化学、造船)
- ⑫産業各論 2 (機械、通信・鉄道)
- ⑬産業各論 3 (金属・電力・その他)
- ⑭分析機器の発展と社会ニーズ (環境高感度無機計測技術)
- ⑮まとめ

国際社会と日本A

【担当】池尾 靖志

【開講】前期 金1

■サブタイトル

日本の安全保障のあり方を考えよう。

■講義概要

今年は、アメリカから沖縄の施政権が返還されて40年の節目の年である。「核抜き、本土並み」が謳われながら、今なお、在日米軍基地（専用施設）の約74%は沖縄に集中している。そこで、この講義では、日本の安全保障政策がこれまでどのようにして立案されてきたのかを振り返りながら、今後の日本の安全保障のあり方について考えてみることにしたい。

■到達目標

1) 新聞の「政治」「国際」欄について、関心を持ってみるようになる。 2) 沖縄と本土との関係性を考えると同時に、日本の近隣の国々との関係性を問い直すことによって、「平和」のあり方を考えることができるようになる。

■講義方法

講義中心だが、視聴覚教材を併用する。

■系統的履修

平和学入門

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞を毎日チェックすること。できれば、複数紙を読み比べて、記述内容の違いに目配りをする。e-ラーニングシステムを活用して、掲示板などに書き込みをして、政治・社会に関する質問などを積極的に行うこと。受講生同士の議論ができればなおよい。

■成績評価の方法

小テスト (0%)
レポート (10%) 中間レポートを課す
定期試験 (90%) 論述2題である。持ち込み自由 (コピー不可)。自分の考えを論理的に説明できているかが評価基準である。
その他 (0%)
定期試験の成績に、中間レポートの点数を加点する。

■テキスト

安斎育郎、池尾靖志編 『日本から発信する平和学』 法律文化社

■参考文献

池尾靖志、伊波洋一、井原勝介 『地域から平和をさぐく』 晃洋書房

■履修上の注意・担当者からの一言

e-ラーニングシステムを使用する。講義でのパワーポイントは、e-ラーニングシステムからダウンロードできるようにする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

担当者のHPにあるメールアドレスがある。また、e-ラーニングシステムに質問を書き込めるスペースをつくるので、積極的に活用すること。

■講義計画

- ① ガイダンス、国際関係の基本構造について
- ② 日本の安全保障の実際 (1)
- ③ 日本の安全保障の実際 (2)
- ④ 日米安保体制の成立
- ⑤ 沖縄の施政権返還と日米密約
- ⑥ デタント期における日米安保
- ⑦ 第2次冷戦と日米安保
- ⑧ 日本の国際貢献論
- ⑨ 有事法制の成立
- ⑩ 米軍再編にともなう地域の対応 (1): 本土の場合
- ⑪ 少女暴行事件とSACO合意
- ⑫ 米軍再編にともなう地域の対応 (2): 沖縄の場合
- ⑬ 核の傘に依存した日米安保体制
- ⑭ 脱軍事化をめざして: 北東アジアに安全保障共同体をつくることは可能か
- ⑮ これからの日米関係とアジア
- ⑯ 期末試験

国際社会と日本B

【担当】佐藤 一進

【開講】後期 水1

■サブタイトル

思想課題としての「西欧近代」と日本

■講義概要

本講義では「西欧近代」を日本にとっての思想課題としてとらえ、その衝撃によって生じた葛藤について政治、経済、社会、科学、芸術などの側面から思想的な分析と考察を行ないます。東日本大震災と原発事故を経験した日本は多くの困難を抱えていますが、それらの起源をたどれば黒船来航以来、日本がつねに葛藤してきた「近代性」の問題へといたります。日本にとって国際化とは何よりもまず「近代化」であり、それはすなわち「西欧化」を意味してきました。しかし近代化の問題と限界は現在、いっそう切迫した状況として私たちの眼前に広がっています。したがって、日本社会に山積する数々の問題を克服していくことはただ政策的、技術的なテーマではなく、「西欧近代」を支える思想と対峙しながら、いかにして日本は日本であろうとするのかという思想的な問いを問うことにほかなりません。

■到達目標

・「西欧近代」と「近代性」の原理をつかむ。・「西欧近代」との出会いのなかで日本が経験した葛藤について知る。・現代的な諸問題を展望するための思想的な視座を築く。

■講義方法

基本的に講義形式で行ないますが、状況に応じてディスカッションの形式をとることもあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に取ったノートを整理してください。講義で示した文献にもできるだけアクセスしてください。

■成績評価の方法

定期試験 (100%) 論述形式をとります。

試験への持ち込みは自筆ノートのみ認め、書籍や他人のノートのコピー、ワープロ入力した文書を印刷したものなどは持ち込み不可とします。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示します。

■講義計画

- ① はじめに
- ② 「国際化」と「グローバル化」
- ③ 西欧近代とは何か (1)
- ④ 西欧近代とは何か (2)
- ⑤ 西欧近代とは何か (3)
- ⑥ 西欧近代とは何か (4)
- ⑦ 西欧近代とは何か (5)
- ⑧ 近代性の三つの波 (1)
- ⑨ 近代性の三つの波 (2)
- ⑩ 近代性の三つの波 (3)
- ⑪ 明治維新と武士道
- ⑫ 文明開化と個人主義
- ⑬ 近代美術と東洋の美
- ⑭ 「近代の超克」と太平洋戦争
- ⑮ おわりに

■講義概要

「2012年現在の世界は平和ですか？」と問われたら、多くの人が「平和ではない」と答えるでしょう。紛争や戦争、暴力や人権侵害がまだ地球上から絶えていないからです。では「日本は平和ですか？」と問われたらどう答えますか？平和だと言えるかどうか迷う人も多いかもしれません。なぜなら日本は現在、直接的な戦争状態にないとは言っても、年間の自殺者数が3万人を超え、相対的貧困率も15%近くにのぼるからです。この授業は、こうした世界および日本の現実（の一端）を国際関係論の視点から知るための試みです。私たちの日常生活に関わる細かな出来事も実は、世界規模で動く大きな流れの中で進展しています。その繋がりに気付くことが大切です。

■到達目標

1. 世界および日本の現実（の一端）を国際関係論の視点から知る
2. 自らの日常生活が、世界の潮流とどのように結びついているのかを理解する

■講義方法

レクチャー形式で授業を進めますが、受講生からの積極的な発言や質問を歓迎します。授業ではパワーポイント等の視聴覚資料を使いますが、それらのスライドを印刷・配布することはありません。授業中は各自でノートをとってください。補足資料（新聞記事など）は、必要に応じて印刷・配布しますが、翌週以降の再配布はしません。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストをもとに授業を進めますので、各自で予習復習を欠かさないようにしてください。また、類似したトピックに関する新聞記事に日頃から注目しておくなどすると、より学びが深まります。

■成績評価の方法

定期試験（100%）持ち込み不可

出席は成績に含まれませんが、定期試験の内容は授業を受講していないと解くのが難しい問題がほとんどです。

■テキスト

中村 都 『国際関係論へのファーストステップ』 法律文化社 2500円

■参考文献

授業時に適宜紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

理論などの抽象的な話や行ったことがない外国の話も多く登場します。日頃から、抽象的な思考や想像力を養うトレーニングしておきましょう。

■講義計画

- ①イントロダクション 受講のルールおよび到達目標の確認
- ②テキスト1-1 グローバル化と格差
- ③テキスト1-2 途上国の貧しさ・先進国の貧しさ①
- ④テキスト1-2 途上国の貧しさ・先進国の貧しさ②
- ⑤テキスト1-4 多発する紛争と資源収奪
- ⑥テキスト1-5 安全保障と軍事
- ⑦テキスト2-8 持続可能な社会をめざして
- ⑧中間リフレクション 私たちにできること
- ⑨テキスト3-12 異文化交流・理解の試み
- ⑩テキスト4-16 人間の安全保障
- ⑪テキスト5-18 NGOによる開発支援の変化
- ⑫テキスト5-19 社会的企業の可能性
- ⑬テキスト5-20 グローバル化と社会福祉の変容
- ⑭テキスト5-23 グローバル市民社会の可能性
- ⑮リフレクション まとめ

ジェンダー論

■サブタイトル

グローバル化とジェンダー

■講義概要

「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながるができるかについて考えたい。

■到達目標

ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法

講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に指示する。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況およびミニテスト
定期試験（80%）論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

山下明子 『戦争とおんなの人権』 明石書店 1800円

山下明子 『アジアの女たちと宗教』 解放出版社 1700円

「大峰山女人禁制」の解放を求める会編 『現代の「女人禁制」－性差別の根源を探る』 解放出版社 2400円

授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画

- ①オリエンテーション：性差を考える
- ②ジェンダーとは何か（1）：セックス、ジェンダー、セクシュアリティの関係と内容
- ③ジェンダーとは何か（2）：性の多様性について
- ④ジェンダーとは何か（3）：LGBTとジェンダーの関係
- ⑤国際化する女性問題：貧困の女性化について
- ⑥国際化する女性運動：世界女性会議とその歴史
- ⑦性と生殖（1）：リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
- ⑧性と生殖（2）：妊娠・中絶・出産を考える
- ⑨男性解放の思想：メンズ・リブとは何か
- ⑩男性解放の運動：ドメスティック・バイオレンスをなくすために
- ⑪セクシュアル・ハラスメント：セクハラはなぜ起きるのか
- ⑫戦時下の性暴力：日本軍「慰安婦」問題を考える
- ⑬人身売買と性産業：トラフィッキングについて
- ⑭企業とジェンダー：日本の変化と現状
- ⑮経済のグローバル化とジェンダーのまとめ：ジェンダーの再編について

ジェンダー論

[担当] 山下 明子

[開講] 前期 月2

■サブタイトル

グローバル化とジェンダー

■講義概要

「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながるができるかについて考えたい。

■到達目標

ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法

講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席状況およびミニテスト

定期試験 (80%) 論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

山下明子 『戦争とおんなの人権』 明石書店 1800円

山下明子 『アジアの女たちと宗教』 解放出版社 1700円

「大峰山女人禁制」の解放を求める会編 『現代の「女人禁制」－性差別の根源を探る』 解放出版社 2400円

授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画

- ①オリエンテーション：性差を考える
- ②ジェンダーとは何か (1)：セックス、ジェンダー、セクシュアリティの関係と内容
- ③ジェンダーとは何か (2)：性の多様性について
- ④ジェンダーとは何か (3)：LGBTとジェンダーの関係
- ⑤国際化する女性問題：貧困の女性化について
- ⑥国際化する女性運動：世界女性会議とその歴史
- ⑦性と生殖 (1)：リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
- ⑧性と生殖 (2)：妊娠・中絶・出産を考える
- ⑨男性解放の思想：メンズ・リブとは何か
- ⑩男性解放の運動：ドメスティック・バイオレンスをなくすために
- ⑪セクシュアル・ハラスメント：セクハラはなぜ起きるのか
- ⑫戦時下の性暴力：日本軍「慰安婦」問題を考える
- ⑬人身売買と性産業：トラフィッキングについて
- ⑭企業とジェンダー：日本の変化と現状
- ⑮経済のグローバル化とジェンダーのまとめ：ジェンダーの再編について

ジェンダー論

[担当] 山下 明子

[開講] 前期 月3

■サブタイトル

グローバル化とジェンダー

■講義概要

「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながるができるかについて考えたい。

■到達目標

ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法

講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席状況およびミニテスト

定期試験 (80%) 論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

山下明子 『戦争とおんなの人権』 明石書店 1800円

山下明子 『アジアの女たちと宗教』 解放出版社 1700円

「大峰山女人禁制」の解放を求める会編 『現代の「女人禁制」－性差別の根源を探る』 解放出版社 2400円

授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画

- ①オリエンテーション：性差を考える
- ②ジェンダーとは何か (1)：セックス、ジェンダー、セクシュアリティの関係と内容
- ③ジェンダーとは何か (2)：性の多様性について
- ④ジェンダーとは何か (3)：LGBTとジェンダーの関係
- ⑤国際化する女性問題：貧困の女性化について
- ⑥国際化する女性運動：世界女性会議とその歴史
- ⑦性と生殖 (1)：リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
- ⑧性と生殖 (2)：妊娠・中絶・出産を考える
- ⑨男性解放の思想：メンズ・リブとは何か
- ⑩男性解放の運動：ドメスティック・バイオレンスをなくすために
- ⑪セクシュアル・ハラスメント：セクハラはなぜ起きるのか
- ⑫戦時下の性暴力：日本軍「慰安婦」問題を考える
- ⑬人身売買と性産業：トラフィッキングについて
- ⑭企業とジェンダー：日本の変化と現状
- ⑮経済のグローバル化とジェンダーのまとめ：ジェンダーの再編について

自然観察法

【担当】 宮浦 富保、遊磨 正秀

【開講】 前期 金2

■講義概要

瀬田学舎の近くには比較的豊かな自然環境が残されています。この講義では、瀬田学舎周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習します。身近な動植物の名前を知るのみでなく、行動や生態、進化的な観点から、観察し、記録し、簡単な分析を行う方法を学びます。

■到達目標

身近な自然環境を観察するための基本的な項目を体得する。

■講義方法

スライドや板書による講義とともに、実際にキャンパス内外の身近な自然を観察し、記録、分析する方法を体験学習する。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時間中に学習した観察手法を、身近な環境で実践することにより、確実に身につけるとともに、自然の多様な側面を理解していただきたい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 3回以上の欠席で不合格とする
レポート (50%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①野外における観察とは (ガイダンス)
- ②地形図の見方と野外での観察記録
- ③自然の恵み
- ④覚えよう身近な樹木
- ⑤「昆虫の飛び方を探る」(チョウやハチの飛翔)
- ⑥田圃の生き物
- ⑦植物と動物の関係
- ⑧ホタルの観察
- ⑨動物の餌探し
- ⑩生物による造形 (巣作り)
- ⑪生物の形の数理
- ⑫「生き物のだましを見抜こう」(擬態)
- ⑬カワニナの観察
- ⑭樹木の形
- ⑮まとめ

情報社会とメディア

【担当】 外村 佳伸、曾我 麻佐子

【開講】 前期 月3

■講義概要

本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標

・メディアの基本的な特性と役割を理解している。・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法

主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画

- ①現代情報化社会： 情報社会の問題点と背景
- ②生活とメディア： デジタルな生活考
- ③コミュニケーション・メディア論： 電話からつぶやきまで
- ④ビジネスとメディア： ビジネス・モデルはメディアと共に
- ⑤文化とメディア： 日本文化、アーカイブ
- ⑥安心・安全社会とメディア： 情報化時代のリスク論
- ⑦社会秩序とメディア： ネット時代の生き方
- ⑧情報の基本概念： 情報・メディア・伝達
- ⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
- ⑩情報システムと情報ネットワーク
- ⑪メディアの諸相 (1)： 音メディアが伝える情報
- ⑫メディアの諸相 (2)： 映像メディアが伝える情報
- ⑬人間によるメディア処理： 視覚と聴覚によるメディア処理
- ⑭芸術とメディア： デジタルアート、デザイン
- ⑮総括： 情報社会を哲学する

■講義概要

本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標

・メディアの基本的な特性と役割を理解している。・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法

主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画

- ①現代情報化社会： 情報社会の問題点と背景
- ②生活とメディア： デジタルな生活考
- ③コミュニケーション・メディア論： 電話からつぶやきまで
- ④ビジネスとメディア： ビジネス・モデルはメディアと共に
- ⑤文化とメディア： 日本文化、アーカイブ
- ⑥安心・安全社会とメディア： 情報化時代のリスク論
- ⑦社会秩序とメディア： ネット時代の生き方
- ⑧情報の基本概念： 情報・メディア・伝達
- ⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
- ⑩情報システムと情報ネットワーク
- ⑪メディアの諸相 (1)： 音メディアが伝える情報
- ⑫メディアの諸相 (2)： 映像メディアが伝える情報
- ⑬人間によるメディア処理： 視覚と聴覚によるメディア処理
- ⑭芸術とメディア： デジタルアート、デザイン
- ⑮総括： 情報社会を哲学する

情報と人間

■講義概要

我々の社会生活に不可欠な「情報」というものを、主として科学・技術的な側面から学習する。まず、情報の性質や特徴を明らかにするとともに、コンピュータ、インターネットのしくみを学ぶ。また、情報という観点から、人間の特質、機械と人間の違いなどにも触れ、情報と人間の関係や情報社会のしくみや在り方を考える。そこから、人間にとって情報とは何なのかを導き出す。

■到達目標

情報の表現や伝達方法、通信、コンピュータ、インターネットのしくみとこれを利用するのに必要な知識を習得することを目指す。

■講義方法

原則としてパソコンによる提示と板書にそって講義を進める。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

講義ノートは本授業のサイトで公開しているので、PDFを各自ダウンロードして予習・復習に活用すること。なお、講義ノートはプリントアウトして授業に持参することを強く推奨する。

■成績評価の方法

小テスト (100%)

授業中の筆記テスト (100点満点) の成績により評価する。

■テキスト

なし

■参考文献

川合 慧 『情報』 東京大学出版会 1900円

回陽 博史 『情報と人間』 オーム社 2200円

その他の参考書などについては、授業の中で随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

本講義で学ぶ情報、メディア、コンピュータ、インターネットに関する知識は、文系、理系を問わず、これからの社会を生き抜くには必要

不可欠の知識です。好き嫌いではなく、大学生の基礎知識として理解し、習得してください。単に授業に出てノートを取るだけでなく、自分でよく考えながら講義を聴くようにしてほしいと思います。

なお、本科目は瀬田学舎の全学部・全年次を対象としたものですが、理工学部の学生には推奨しません。本来、理工学部固有の科目において学習すべき内容 (と理工学部生として当然身につけているはずの教養) を講義するからです。すでに学習した内容、もしくは今後学習する内容を聴くことになるので、本科目により新たな知識を得ることはないと思います。教養教育科目の総合科目については、他の科目 (理工系でない科目) を受講することを強く推奨します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

理工学部電子情報学科の教員の週間予定については、学科のWebサイトで参照することができます。スケジュールを確認して、1号館4階の研究室を訪問してください。

■講義計画

- ①情報とは何か
- ②情報の表現と性質 1
- ③情報の表現と性質 2
- ④情報の伝達と通信
- ⑤問題の表現と解き方
- ⑥コンピュータのしくみ
- ⑦インターネットのしくみ
- ⑧まとめ
- ⑨感覚系と記憶系
- ⑩脳の情報処理
- ⑪遺伝子と進化
- ⑫インタフェース
- ⑬情報技術と社会
- ⑭筆記テスト
- ⑮まとめと質疑応答

■サブタイトル

情報社会における心理・技術・法

■講義概要

情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。

■到達目標

人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。

■講義方法

講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

インターネット上での心理に関連する新聞コラム、事件報道等に常に注目しておくこと。講義内容を理解する上で必須かつ有用。

■成績評価の方法

平常点 (20%)
小テスト (10%)
レポート (40%)
定期試験 (30%)

■テキスト

特になし

■参考文献

A.N.ジョインソン 『インターネットにおける行動と心理』
北大路書房 2800円
Deborah G. Johnson 『コンピュータ倫理学』 オーム社
2500円
名和小太郎 『情報の私有・共有・公有 ユーザーからみた著作権』 NTT出版 2500円

■講義計画

第1～5回：インターネットにおける行動と心理（担当：野村）
第6～9回：コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理（担当：野村）
第10回：確認のための小テスト（担当：野村）
第11～14回：関連法律、現行法の問題点および今後の動向（担当：芝原）
第15回：総括（担当：野村）

人権論A

■サブタイトル

「人権侵害・未保障」問題から人権を考える

■講義概要

「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Aでは「差別」「市民的自由・権利」「人権文化」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切に、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標

「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法

講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修

法学、社会学、歴史学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義時に配布するテキストを復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)・講義時に前期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める (3回) …30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート (60%) 全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める

■テキスト

講義時に配布

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画

①オリエンテーション ○人権とは何か（人権の総論）
②「差別」からのアプローチ ○部落差別について①概論
③「差別」からのアプローチ
○部落差別について②同和対策審議会答申を読む
④「差別」からのアプローチ
○部落差別について③自治体の啓発活動から
⑤「差別」からのアプローチ ○偏見と社会意識 (1)
⑥「差別」からのアプローチ ○偏見と社会意識 (2)
⑦「市民的自由・権利」からのアプローチ
○アメリカ独立宣言とフランス人権宣言
⑧「市民的自由・権利」からのアプローチ ○日本国憲法 (1)
⑨「市民的自由・権利」からのアプローチ ○日本国憲法 (2)
⑩「市民的自由・権利」からのアプローチ
○人権行政について (1)
⑪「市民的自由・権利」からのアプローチ
○人権行政について (2)
⑫「人権の文化」からのアプローチ
○世界人権宣言について
⑬「人権の文化」からのアプローチ
○人権教育・啓発について
⑭「人権の文化」からのアプローチ ○アメリカの公民権法 (1)
⑮「人権の文化」からのアプローチ ○アメリカの公民権法 (2)

人権論A

【担当】松本 城洲夫

【開講】前期 月3

■サブタイトル

「人権侵害・未保障」問題から人権を考える

■講義概要

「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Aでは「差別」「市民的自由・権利」「人権文化」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切に、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標

「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法

講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修

法学、社会学、歴史学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義時に配布するテキストを復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)・講義時に前期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める (3回) …30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート (60%) 全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める

■テキスト

講義時に配布

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画

- ①オリエンテーション ○人権とは何か（人権の総論）
- ②「差別」からのアプローチ ○部落差別について①概論
- ③「差別」からのアプローチ
○部落差別について②同和対策審議会答申を読む
- ④「差別」からのアプローチ
○部落差別について③自治体の啓発活動から
- ⑤「差別」からのアプローチ ○偏見と社会意識 (1)
- ⑥「差別」からのアプローチ ○偏見と社会意識 (2)
- ⑦「市民的自由・権利」からのアプローチ
○アメリカ独立宣言とフランス人権宣言
- ⑧「市民的自由・権利」からのアプローチ ○日本国憲法 (1)
- ⑨「市民的自由・権利」からのアプローチ ○日本国憲法 (2)
- ⑩「市民的自由・権利」からのアプローチ
○人権行政について (1)
- ⑪「市民的自由・権利」からのアプローチ
○人権行政について (2)
- ⑫「人権の文化」からのアプローチ
○世界人権宣言について
- ⑬「人権の文化」からのアプローチ
○人権教育・啓発について
- ⑭「人権の文化」からのアプローチ ○アメリカの公民権法 (1)
- ⑮「人権の文化」からのアプローチ ○アメリカの公民権法 (2)

人権論A

【担当】原口 剛

【開講】前期 水3

■サブタイトル

釜ヶ崎と人権

■講義概要

釜ヶ崎とは、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域である。釜ヶ崎の日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、その労働や生活は、さまざまな面で差別され、人権を奪われてきた。本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を捉え、考えていく。

■到達目標

本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を考えることをつうじて、釜ヶ崎についての正しい知識を習得すると同時に、わたしたちはどのような社会を生活しているのかという問いを、受講生ひとりひとりの課題として考えてもらいたい。

■講義方法

教科書をもとに講義を進めていく。また、映像等の資料も適宜活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

しっかり復習をし、自分なりの問題意識を培うようにすること。

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%)

■テキスト

原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓 『釜ヶ崎のスヌメ』
洛北出版 2520円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②釜ヶ崎とはどこか①
- ③釜ヶ崎とはどこか②
- ④釜ヶ崎とはどこか③
- ⑤寄せ場とはなにか①
- ⑥寄せ場とはなにか②
- ⑦寄せ場とはなにか③
- ⑧釜ヶ崎の歴史①
- ⑨釜ヶ崎の歴史②
- ⑩釜ヶ崎にみる人権①
- ⑪釜ヶ崎にみる人権②
- ⑫映像でみる寄せ場と人権①
- ⑬映像でみる寄せ場と人権②
- ⑭映像でみる寄せ場と人権③
- ⑮まとめ

人権論A

【担当】原口 剛

【開講】前期 水5

■サブタイトル

釜ヶ崎と人権

■講義概要

釜ヶ崎とは、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域である。釜ヶ崎の日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、その労働や生活は、さまざまな面で差別され、人権を奪われてきた。本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を捉え、考えていく。

■到達目標

本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を考えることをつうじて、釜ヶ崎についての正しい知識を習得すると同時に、わたしたちはどのような社会を生活しているのかという問いを、受講生ひとりひとりの課題として考えてもらいたい。

■講義方法

教科書をもとに講義を進めていく。また、映像等の資料も適宜活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

しっかり復習をし、自分なりの問題意識を培うようにすること。

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%)

■テキスト

原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓 『釜ヶ崎のススメ』
洛北出版 2520円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②釜ヶ崎とはどこか①
- ③釜ヶ崎とはどこか②
- ④釜ヶ崎とはどこか③
- ⑤寄せ場とはなにか①
- ⑥寄せ場とはなにか②
- ⑦寄せ場とはなにか③
- ⑧釜ヶ崎の歴史①
- ⑨釜ヶ崎の歴史②
- ⑩釜ヶ崎にみる人権①
- ⑪釜ヶ崎にみる人権②
- ⑫映像でみる寄せ場と人権①
- ⑬映像でみる寄せ場と人権②
- ⑭映像でみる寄せ場と人権③
- ⑮まとめ

人権論A

【担当】中川 ユリ子

【開講】前期 月3

■サブタイトル

現在の被差別部落・入門

■講義概要

日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言えない。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。

■到達目標

たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。

■講義方法

初回から4、5回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかを理解できるような題材を用いて、講義を行う。

■系統的履修

特になし。

■授業時間外における予・復習等の指示

社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える(文章を作る)という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

読んで欲しい本、興味をひかれるだろう本等は、講義時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡用のemailを講義時に知らせることを考えている。

■講義計画

- ①部落問題とは何か
- ②今日の差別事象ー結婚差別を考える
- ③被差別部落の実態ー統計資料より
- ④被差別部落の実態ー統計資料より
- ⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
- ⑥古い問題、新しい問題
- ⑦部落の新しい世代
- ⑧ある頃から部落を見る①
- ⑨ある頃から部落を見る②
- ⑩賤民の歴史ー中世・近世
- ⑪部落の歴史ー近代(水平社、戦争中、同和対策事業)
- ⑫部落の歴史ー近代(水平社、戦争中、同和対策事業)
- ⑬部落の人々が語ること
- ⑭部落とは何か
- ⑮予備日(ビデオの上映など)

人権論A

【担当】岸 衛

【開講】前期 水3

■サブタイトル

自分を見つめ・差別を見つめ・世間を見つめる

■講義概要

- 1 差別は人と人との関係の中で起こる。人との関係の中で「自分」をどうとらえるかという課題を考える。自分と他人との関係の結び方、「まなざし」と差別、「アイデンティティ」について考える。
- 2 被差別部落に対する差別意識を中心に、自分の中の差別する心を見つめる。
- 3 日本人の差別意識の根底で生き続ける「世間」について考えを深めていきたい。世間における人と人との関係を明らかにしながら、日本人の「原風景」や生活意識の中の「ケガレ意識」や「畏れ・怖れ」の視点から日本における部落差別の根底を探る。

■到達目標

- *今の「世の中」を見る目を身につける。
- *自分との関係でものをとらえる習慣を身につける。
- *本を読む習慣を身につける。

■講義方法

受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。

■系統的履修

人権論B

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の講義内容を予告し、あらかじめ「自分の考え・意見」をまとめておく。

■成績評価の方法

平常点(30%)講義ごとのコミュニケーションカードの提出
レポート(20%)講義の中でテーマを課し、レポートを提出する
定期試験(50%)

■テキスト

岸 衛 『自分・差別・世間 第2版』 反差別国際連帯解放
研究所しが 700円

■参考文献

遠藤周作 『ほんとうの私を求めて』 集英社文庫 457円
阿部謹也 『「教養」とは何か』 講談社現代新書 750円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②知ってもらいたい「自分」
- ③「まなざし」と差別
- ④まとめ：「自分を見つめる」
- ⑤被差別部落を「なぜ、差別するのか」という問題
- ⑥畏れながら遠ざける「差別」
- ⑦賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて①
- ⑧賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて②
- ⑨日本人の「原風景」と差別
- ⑩結婚をめぐる
- ⑪まとめ：「部落差別の根底にあるもの」
- ⑫世間とは何か
- ⑬世間の中の「自分」
- ⑭「世間」の中でどう生きるか
- ⑮まとめ：「自分・差別・世間」

人権論A

【担当】金 光敏

【開講】前期 水3

■サブタイトル

社会的スキルとしての人権アプローチ

■講義概要

「人権」「人権問題」とは、とかく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連による1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題ではなく、すべての人々に保障されるべきものと語られています。この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとに、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない社会的スキルとしての「対話力」に着目し、「人権」「人権問題」へのアプローチが社会的スキル向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。

■講義方法

講義では、プリント、新聞(雑誌)、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点(40%)出席

定期試験(40%)全授業終了後に試験を実施します。

その他(20%)授業中に上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思います。

■講義計画

- ①この授業のねらいとガイダンス
- ②国際人権①～戦争と人権～
- ③国際人権②～世界人権宣言～
- ④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
- ⑤性差別の現実②～女性は家事、子育てに専念すべきか～
- ⑥性差別の現実③～夫婦別姓は賛成か反対か～
- ⑦在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見る日本社会の多様性～
- ⑧在日外国人の人権②～在日コリアンの人権と共生社会～
- ⑨在日外国人の人権③～在日ブラジル人と多文化共生のいま～
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪日本映画の中の在日コリアン
- ⑫働くことと人権～非正規雇用の現実～
- ⑬ハンセン病患者たちの記憶
- ⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
- ⑮しめくり～試験～

人権論A

【担当】金 光敏

【開講】前期 水4

■サブタイトル

社会的スキルとしての人権アプローチ

■講義概要

「人権」「人権問題」とは、とく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連における1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題であるとは説明されていません。「人権」とは、すべての人々に保障されるべきものと語られています。この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチが「対話力」向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。

■講義方法

講義では、プリント、新聞(雑誌)、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点(40%)出席

定期試験(40%)全授業終了後に試験を実施します。

その他(20%)授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思います。

■講義計画

- ①この授業のねらいとガイダンス
- ②国際人権①～戦争と人権～
- ③国際人権②～世界人権宣言～
- ④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
- ⑤性差別の現実②～女性は家事、子育てに専念すべきか～
- ⑥性差別の現実③～夫婦別姓は賛成か反対か～
- ⑦在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見る日本社会の多様性～
- ⑧在日外国人の人権②～在日コリアンの人権と共生社会～
- ⑨在日外国人の人権③～在日ブラジル人と多文化共生のいま～
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪日本映画の中の在日コリアン
- ⑫働くことと人権～非正規雇用の現実～
- ⑬ハンセン病元患者らの記憶
- ⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
- ⑮しめくり～試験～

人権論B

【担当】松本 城洲夫

【開講】後期 月2

■サブタイトル

「人権自己認識」問題から人権を考える

■講義概要

「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Bでは「日本の近代化と人権」「個人の確立」「パブリック・モラル」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切に、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標

「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法

講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修

文学、哲学、社会学、歴史学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義時に配布するテキストを復習すること。

■成績評価の方法

平常点(40%)・講義時に後期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める(3回)…30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート(60%)全講義終了後に後期テーマに即したレポートの提出を求める

■テキスト

講義時に配布

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性(モラル)を考えながら受講してほしい。

■講義計画

- ①オリエンテーション ○「人権」とは何か(人権の総論)
- ②「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○人権概念の翻案について
- ③「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○福沢諭吉が見た近代ヨーロッパ
- ④「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○自由民権運動について
- ⑤「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○文学者たちの近代化論(1)
- ⑥「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○文学者たちの近代化論(2)
- ⑦「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○哲学者たちの近代化論(1)
- ⑧「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○哲学者たちの近代化論(2)
- ⑨「個人の確立」からのアプローチ
○黒澤明監督の目ざしたもの
- ⑩「個人の確立」からのアプローチ ○世間と個人について(1)
- ⑪「個人の確立」からのアプローチ ○世間と個人について(2)
- ⑫「個人の確立」からのアプローチ ○音楽と人権について
- ⑬「パブリック・モラル」からのアプローチ
○パブリックと社会について
- ⑭「パブリック・モラル」からのアプローチ
○日本の倫理思想と人権について
- ⑮「パブリック・モラル」からのアプローチ
○様々な日本人論から

人権論B

【担当】松本 城洲夫

【開講】後期 月3

■サブタイトル

「人権自己認識」問題から人権を考える

■講義概要

「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Bでは「日本の近代化と人権」「個人の確立」「パブリック・モラル」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切にし、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標

「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法

講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修

文学、哲学、社会学、歴史学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義時に配布するテキストを復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%) ・講義時に後期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める (3回) …30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート (60%) 全講義終了後に後期テーマに即したレポートの提出を求める

■テキスト

講義時に配布

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画

- ①オリエンテーション ○「人権」とは何か（人権の総論）
- ②「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○人権概念の翻案について
- ③「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○福沢諭吉が見た近代ヨーロッパ
- ④「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○自由民権運動について
- ⑤「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○文学者たちの近代化論 (1)
- ⑥「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○文学者たちの近代化論 (2)
- ⑦「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○哲学者たちの近代化論 (1)
- ⑧「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○哲学者たちの近代化論 (2)
- ⑨「個人の確立」からのアプローチ ○黒澤明監督の目ざしたもの
- ⑩「個人の確立」からのアプローチ ○世間と個人について (1)
- ⑪「個人の確立」からのアプローチ ○世間と個人について (2)
- ⑫「個人の確立」からのアプローチ ○音楽と人権について
- ⑬「パブリック・モラル」からのアプローチ
○パブリックと社会について
- ⑭「パブリック・モラル」からのアプローチ
○日本の倫理思想と人権について
- ⑮「パブリック・モラル」からのアプローチ
○様々な日本人論から

人権論B

【担当】中川 ユリ子

【開講】後期 月3

■サブタイトル

「生」と「性」

■講義概要

女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・と言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と言う大人たちは、少ないとは言えない。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、そのタレントに違和感を感じる人はどのぐらいいるのだろうか。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。社会の入口の就職活動では、企業の対応にあからさまな差別はなくなったものの、男子学生の方が就職の決定が一般的に早い。現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。「らしさ」の呪縛から解放放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。

■到達目標

常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。

■講義方法

まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

■参考文献

おもしろい本などは、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

希望があればemailを使用する。

■講義計画

- ①差別問題を考える意味
- ②世間は女と男をどう扱うのか
- ③新聞で気付くこと
- ④女の子、男の子はつくられるー性の認識
- ⑤どこで「らしさ」を学んだのかー絵本
- ⑥どこで「らしさ」を学んだのかー学校
- ⑦どこで「らしさ」を学んだのかー学校
- ⑧どこで「らしさ」を学んだのかーTVのCM、アニメ、漫画など
- ⑨どこで「らしさ」を学んだのかーTVのCM、アニメ、漫画など
- ⑩どこで「らしさ」を学んだのかー抗議の歴史
- ⑪常識を疑え！
- ⑫女人禁制ー伝統をどう考えるか
- ⑬多様な性のあり方ー同性愛
- ⑭多様な性のあり方ー同性愛
- ⑮まとめ (ビデオ鑑賞など)

人権論B

【担当】岸 衛

【開講】後期 水3

■サブタイトル

「差別問題」から「生きられた経験」の世界へ
－ ライフストーリー・インタビューへの招待 －

■講義概要

- 1 ライフストーリー・インタビューは、文字として記録には残らなかったけれども「あった」ひとり一人の生活史の「語り」である。滋賀県内でのライフストーリーインタビューを紹介しながら、被差別の「声」に学ぶ。
- 2 今まで、部落問題を差別問題として描いてきた。ここでは、「語り」を中心に「生きられた経験」として紹介する。

■到達目標

- * 今の「世の中」を見る目が身につく。
- * 自分との関係でものをとらえる習慣が身につく。
- * 本を読む習慣が身につく。
- * 「いかに生きるか」を問う姿勢ができる。

■講義方法

受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。実際の聞き取り調査にもとづく映像や写真、資料も紹介しながら、進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの次章を、事前に読み込んでくる。

■成績評価の方法

平常点 (15%) 講義ごとにコミュニケーションカードを提出する
レポート (35%) 講義の中で課した章ごとのまとめをするためのノートをつくる。
定期試験 (50%) 全体から、提出する

■テキスト

岸 衛・桜井厚著 『差別問題から「生きられた経験」の世界へ』 せりか書房 2500円

■参考文献

桜井厚 『境界文化のライフストーリー』 せりか書房 2500円
桜井厚・岸衛 編 『屠場文化…語られなかった世界…』 創土社 2520円
反差別国際連帯解放研究所しが編 『語りのちから』 弘文堂 2415円

■講義計画

- ① ライフストーリーインタビューとは何か
- ② ライフストーリーの聞き方
- ③ 宮本常一の世界
- ④ 戦中・戦後を生きる 生活のための仕事
- ⑤ 解放への願い
- ⑥ 部落を横切る人たち 部落外に住んで
- ⑦ 親から子に「部落を伝える」
- ⑧ 伝統の技に生きる 靴職人の世界
- ⑨ 「嫁盗み」の物語
- ⑩ 「屠場文化」
- ⑪ 屠畜をめぐる
- ⑫ 滋賀から「皮革の技」を持って東京へ
- ⑬ 差別を越えて 若者たちの「自己認識」
- ⑭ 若者世代の新たな動き
- ⑮ 「生きられた経験」としての部落問題

人権論B

【担当】金 光敏

【開講】後期 水3

■サブタイトル

対論の中からさぐる人権

■講義概要

人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り返られるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反省派に分かれて論じ合う場面が、繰り返し報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第4の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像などを活用して、実際に行われている対論を見せながら、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見せながら、その上で意見交換したいと思います。授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席
定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。
その他 (20%) 授業中に取り上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思っています。

■講義計画

- ① 意思表示することの大切さ この授業のねらいとガイダンス
- ② 夫婦別姓は賛成か、反対か？①～家族観をめぐる対論～
- ③ 夫婦別姓は賛成か、反対か？②～女性の人権をめぐる～
- ④ 定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①～住民の権利とは何かをめぐる～
- ⑤ 定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②～多文化共生をめぐる～
- ⑥ 高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か①～なにか問題視されたのか～
- ⑦ 普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か～沖縄と戦争、基地～
- ⑧ 上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
- ⑨ 日本映画の中の在日コリアン
- ⑩ 日本映画の中の在日コリアン
- ⑪ 公権力による人権侵害
- ⑫ 日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか？②～メディアスクラムの恐怖～
- ⑬ 日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか？③～記者クラブ制度は必要か～
- ⑭ しめくくり～試験～

人権論B

【担当】原口 剛

【開講】後期 水3

■サブタイトル

ホームレスと人権

■講義概要

1990年代以降、大都市では「ホームレス」が社会問題化した。野宿生活者をめぐるさまざまな問題への取り組みは、現代の人権を考えるうえできわめて重要な課題といえるだろう。本講義では、まず日本の「ホームレス」に関して概説をする。それを踏まえて次に、公共空間と社会的排除の事例を取り上げ、その問題性を考える。

■到達目標

日本の「ホームレス」の概要を理解する、公共空間と社会的排除の問題性を理解する。

■講義方法

通常の講義形式で授業を進める(ビデオ視聴なども活用する)。

■授業時間外における予・復習等の指示

しっかり復習をし、自分なりの問題意識を培うこと。

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%)
その他 (0%)

■テキスト

特になし

■参考文献

原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓 『釜ヶ崎のスヌメ』
洛北出版 2520円

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②寄せ場とホームレス①
- ③寄せ場とホームレス②
- ④寄せ場とホームレス③
- ⑤寄せ場とホームレス④
- ⑥「ホームレス」とは誰か①
- ⑦「ホームレス」とは誰か②
- ⑧「ホームレス」とは誰か③
- ⑨「ホームレス」とは誰か④
- ⑩公共空間と社会的排除①
- ⑪公共空間と社会的排除②
- ⑫公共空間と社会的排除③
- ⑬公共空間と社会的排除④
- ⑭公共空間と社会的排除⑤
- ⑮まとめ

人権論B

【担当】金 光敏

【開講】後期 水4

■サブタイトル

対論の中からさぐる人権

■講義概要

人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り返られるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反省派に分かれて論じ合う場面が、繰り返し報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第4の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法

講義では、プリント、新聞(雑誌)、映像などを活用して、実際に行われている対論を見てもらい、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見てもらい、その上で意見交換したいと思います。授業終了際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席
定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。
その他 (20%) 授業中に取り上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思います。

■講義計画

- ①意思表示することの大切さ この授業のねらいとガイダンス
- ②夫婦別姓は賛成か、反対か? ①～家族観をめぐる対論～
- ③夫婦別姓は賛成か、反対か? ②～女性の人権をめぐる～
- ④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①～住民の権利とは何かをめぐる～
- ⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②～多文化共生をめぐる～
- ⑥高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か①～なにが問題視されたのか～
- ⑦普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か①～沖縄と戦争、基地～
- ⑧上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
- ⑨日本映画の中の在日コリアン
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪公権力による人権侵害
- ⑫日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか? ②～メディアスクラムの恐怖～
- ⑬日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか? ③～記者クラブ制度は必要か～
- ⑭しめくり～試験～

■サブタイトル

ホームレスと人権

■講義概要

1990年代以降、大都市では「ホームレス」が社会問題化した。野宿生活者をめぐるさまざまな問題への取り組みは、現代の人権を考えるうえできわめて重要な課題といえるだろう。本講義では、まず日本の「ホームレス」に関して概説をする。それを踏まえて次に、公共空間と社会的排除の事例を取り上げ、その問題性を考える。

■到達目標

日本の「ホームレス」の概要を理解する、公共空間と社会的排除の問題性を理解する。

■講義方法

通常の講義形式で授業を進める（ビデオ視聴なども活用する）。

■授業時間外における予・復習等の指示

しっかり復習をし、自分なりの問題意識を培うこと。

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%)
その他 (0%)

■テキスト

特になし

■参考文献

原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓 『釜ヶ崎のスヌメ』
洛北出版 2520円

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②寄せ場とホームレス①
- ③寄せ場とホームレス②
- ④寄せ場とホームレス③
- ⑤寄せ場とホームレス④
- ⑥「ホームレス」とは誰か①
- ⑦「ホームレス」とは誰か②
- ⑧「ホームレス」とは誰か③
- ⑨「ホームレス」とは誰か④
- ⑩公共空間と社会的排除①
- ⑪公共空間と社会的排除②
- ⑫公共空間と社会的排除③
- ⑬公共空間と社会的排除④
- ⑭公共空間と社会的排除⑤
- ⑮まとめ

スポーツ文化論

■サブタイトル

文化人類学の立場から、スポーツは「誰のためのものか」を考え、学ぶ

■講義概要

スポーツは人類の発展史と共にあり、その過去の歴史から、ナショナリズム・プロパガンダ・ビジネス化・アマチュアリズム・人種差別など明らかにしながら「誰のためのスポーツか」を受講学生とともに考える。

■到達目標

スポーツ文化の理解を深める。

■講義方法

板書、配布資料、ビデオ

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

その他 (100%)
平常点80%（講義中のミニレポート）、期末の課題レポート20%

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①映画「スパルタカス」「ベンハー」から古代スポーツを見る
- ②々
- ③近代スポーツの発展史（イタリアの古式サッカーと1600年～1900年代のスポーツ事情）
- ④々
- ⑤日本の戦前・戦後のスポーツ事情
- ⑥々（人見・古橋から学ぶ）
- ⑦アマチュアリズムとフェアプレー
- ⑧テレビ支配
- ⑨ビジネス化
- ⑩スポーツとプロパガンダ
- ⑪スポーツの市民参加
- ⑫イタリア・シエナのパリオ（競馬）とコミュニケーション
- ⑬まとめ1
- ⑭まとめ2
- ⑮まとめ3

■サブタイトル

文化人類学の立場から、スポーツは「誰のためのものか」を考え、学ぶ

■講義概要

スポーツは人類の発展史と共にあり、その過去の歴史から、ナショナリズム・プロパガンダ・ビジネス化・アマチュアリズム・人種差別など明らかにしながら「誰のためのスポーツか」を受講学生とともに考える。

■到達目標

スポーツ文化の理解を深める。

■講義方法

板書、配布資料、ビデオ

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

その他（100%）
平常点80%（講義中のミニレポート）、期末の課題レポート20%

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①映画「スパルタカス」「ベンハー」から古代スポーツを見る
- ②々
- ③近代スポーツの発展史（イタリアの古式サッカーと1600年～1900年代のスポーツ事情）
- ④々
- ⑤日本の戦前・戦後のスポーツ事情
- ⑥々（人見・古橋から学ぶ）
- ⑦アマチュアリズムとフェアプレー
- ⑧テレビ支配
- ⑨ビジネス化
- ⑩スポーツとプロパガンダ
- ⑪スポーツの市民参加
- ⑫イタリア・シエナのパリオ（競馬）とコミュニケーション
- ⑬まとめ1
- ⑭まとめ2
- ⑮まとめ3

世界の福祉

■サブタイトル

子供の貧困と子育て支援政策を考える

■講義概要

少子化が進行する日本の状況は、他の先進国と比較すると一層その深刻さが克明となる。やはり、欧米諸国との比較において、日本では子供に関する政策が遅れていることは明白である。少子化対策の必要性が論じられる一方で、他の先進国と比べると、その対策は統計上も不十分である。少子化対策だけでなく、子供に対する支援も見劣りがするのが現状だ。このような日本の少子化の状況は我々の社会にどのような影響を及ぼすのか、またなぜ少子化が進行する要因なのかを、本講義では分析し一緒に考えていきたい。その上で、どのような政策が実現可能か考えていきたいが、日本と同じような経済体制の下、中程度の負担、中程度の福祉を行う、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアを取り上げ、こうした国々ではどの程度の負担によって、どの程度の政策が行われているかを考察したい。また、アメリカで見られる子供の貧困についても考え、子供が幸福に暮らせる社会を考えたい。

■到達目標

日本ではあまり詳しく紹介されていない3ヶ国とアメリカの状況を理解し、日本の状況と比較し、どうした政策が望ましいか各受講者が考え、身近な問題として意識づけできるように取り組んで頂きたい。

■講義方法

主として、教員による講義とそれを元に受講者に意見を求め、考察して頂く。

■授業時間外における予・復習等の指示

各国の状況と制度について、復習を適宜行っていただきたい。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席などの状況を勘案します。
定期試験（90%）論述式筆記試験
リアクション・ペーパーをほぼ毎回、配布し出席をとります。
一度も出席のないものは不可といたします。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に追って紹介いたします。

■履修上の注意・担当者からの一言

成績評価の方法でも記載しましたが、一度も出席のない受講生は不可と致しますので、ご注意ください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義後、ご質問ください。

■講義計画

- ①日本の少子化の状況：日本の少子化の状況 - OECD加盟各国との比較 -
- ②日本のこどもをめぐむ状況：日本の子供の貧困
- ③日本の子育て支援1：日本における実際の子育て支援政策の紹介
- ④日本の子育て支援2：日本の子育て支援政策の問題点
- ⑤イギリスの子供の貧困と支援1：イギリスの子供の貧困と対策
- ⑥イギリスの子育て支援1：イギリスの実際の子育て支援政策の紹介1
- ⑦イギリスの子育て支援2：イギリスの実際の子育て支援政策の紹介2
- ⑧予備：講義予備日
- ⑨ニュージーランドの子供の貧困と支援：ニュージーランドの子供にかんする状況
- ⑩ニュージーランドの子育て支援1：ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介1
- ⑪ニュージーランドの子育て支援2：ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介2
- ⑫アメリカの子供の貧困：アメリカの子供の貧困の現状
- ⑬オーストラリアの子育て支援1：オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介1
- ⑭オーストラリアの子育て支援2：オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介2
- ⑮予備日：講義予備日

生活の中の宗教

【担当】 辻 虎志

【開講】 前期 月2

■講義概要

我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることとは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

現代社会と宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (0%)

小テスト (0%)

レポート (0%)

定期試験 (100%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 生活の中の宗教

②宗教とお金 (1)

③宗教とお金 (2)

④宗教と食

⑤宗教と医療 (1)

⑥宗教と医療 (2)

⑦宗教と経済 (1)

⑧宗教と経済 (2)

⑨宗教とアート

⑩宗教と文学

⑪宗教と政治

⑫宗教とインターネット

⑬宗教とおひとりさま

⑭宗教と性愛

⑮まとめ

生活の中の宗教

【担当】 辻 虎志

【開講】 後期 月2

■講義概要

我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることとは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

現代社会と宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (0%)

小テスト (0%)

レポート (0%)

定期試験 (100%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 生活の中の宗教

②宗教とお金 (1)

③宗教とお金 (2)

④宗教と食

⑤宗教と医療 (1)

⑥宗教と医療 (2)

⑦宗教と経済 (1)

⑧宗教と経済 (2)

⑨宗教とアート

⑩宗教と文学

⑪宗教と政治

⑫宗教とインターネット

⑬宗教とおひとりさま

⑭宗教と性愛

⑮まとめ

生命と共生

【担当】 田村 公江

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

生命倫理の諸問題

■講義概要

医療技術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか？」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもよいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか？「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか？すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることができます。この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。

■到達目標

生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法

授業計画に沿って講義形式で進めます。毎回、授業時間内に200字のミニレポ（感想、質問など）を書いてもらいます。

■系統的履修

教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回、次のテーマについての予習資料を指示します。予習資料は主にテキストから選びます。復習に役立つプリントを配布します。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。定期試験（50%）

■テキスト

伏木信次・桎則章・霜田求 [編] 改訂2版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂 2500円

加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社 1998 2300円

■参考文献

欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室（2号館300-1）連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp 件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前（フルネーム）と学籍番号を書くこと。

■講義計画

- ①生命倫理とは何か
- ②自分のことは自分で決める —医師と患者の関係—
- ③人工妊娠中絶に関する基礎知識
- ④人工妊娠中絶の問題点
- ⑤人工妊娠中絶に関する法律
- ⑥出生前診断
- ⑦優生思想と選択的中絶
- ⑧不妊治療をめぐる問題点
- ⑨出生に関する諸問題のまとめ
- ⑩臓器移植
- ⑪脳死は人の死か
- ⑫臓器移植、脳死判定の問題点
- ⑬自己決定原理とは
- ⑭安楽死・尊厳死の問題点
- ⑮死と終末期に関する諸問題のまとめ

生命と共生

【担当】 田村 公江

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

生命倫理の諸問題

■講義概要

医療技術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか？」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもよいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか？「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか？すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることができます。この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。

■到達目標

生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法

授業計画に沿って講義形式で進めます。

■系統的履修

教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回、次のテーマについての予習資料を指示します。予習資料は主にテキストから選びます。復習に役立つプリントを配布します。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。定期試験（50%）

■テキスト

伏木信次・桎則章・霜田求 [編] 改訂2版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂 2500円

加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社 1998 2300円

■参考文献

欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室（2号館300-1）連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp 件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前（フルネーム）と学籍番号を書くこと。

■講義計画

- ①生命倫理とは何か
- ②自分のことは自分で決める —医師と患者の関係—
- ③人工妊娠中絶に関する基礎知識
- ④人工妊娠中絶の問題点
- ⑤人工妊娠中絶に関する法律
- ⑥出生前診断
- ⑦優生思想と選択的中絶
- ⑧不妊治療の問題点
- ⑨出生に関する諸問題のまとめ
- ⑩臓器移植
- ⑪脳死は人の死か
- ⑫臓器移植、脳死判定の問題点
- ⑬自己決定原理とは
- ⑭安楽死・尊厳死の問題点
- ⑮死と終末期に関する諸問題のまとめ

歎異抄の思想Ⅰ

【担当】 殿内 恒

【開講】 前期 水2

■サブタイトル

親鸞のことば

■講義概要

『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解していきたい。

■到達目標

誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。

■講義方法

『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。

■系統的履修

「仏教の思想A・B」の履修を前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）

定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。

■テキスト

『歎異抄 現代語訳付き』 本願寺出版社

■参考文献

梯實圓 『聖典セミナー 歎異抄』 本願寺出版社

林智康（他）『歎異抄事典』 柏書房

■履修上の注意・担当者からの一言

龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。

■講義計画

- ①『歎異抄』とは：伝えられる親鸞の言葉
 - ②第1条：本願のはたらき－摂取不捨－
 - ③第2条：念仏との出会い－往生極楽の道－
 - ④第3条：悪人正機の意味－いわんや悪人をや－
 - ⑤第4条：本当の慈悲とは－浄土の慈悲－
 - ⑥第5条：縁の中にある命－世々生々の父母兄弟－
 - ⑦第6条：仏の前の平等性－弟子一人も持たず－
 - ⑧第7条：信心の行者のあり方－無碍の一道－
 - ⑨第8条：念仏の意味するもの－非行・非善－
 - ⑩第9条：煩惱を持って生きる－浄土は恋しからず－
 - ⑪第10条：他力のあるがまま－無義をもって義とす－
- 上記は1回又は2回を予定

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】 殿内 恒

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

誤解をただす

■講義概要

『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解していきたい。

■到達目標

誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。

■講義方法

『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。

■系統的履修

「仏教の思想A・B」の履修を前提とする。「歎異抄の思想Ⅰ」も履修していることが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）

定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。

■テキスト

『歎異抄 現代語訳付き』 本願寺出版社

■参考文献

梯實圓 『聖典セミナー 歎異抄』 本願寺出版社

林智康（他）『歎異抄事典』 柏書房

■履修上の注意・担当者からの一言

龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。

■講義計画

- ①「異義」とは：親鸞思想への誤解
 - ②第11条：本願と念仏の関係
 - ③第12条：学問の持つ意義
 - ④第13条：人間にそなわる悪
 - ⑤第14条：罪を滅ぼす行い
 - ⑥第15条：この世で開くさと
 - ⑦第16条：回心するということ
 - ⑧第17条：本願を疑っての往生
 - ⑨第18条：布施の意義と利益
 - ⑩後 序：信心は一つ－たまわりたる信心－
 - ⑪後 序：自身が対象－親鸞一人がため－
 - ⑫後 序：虚仮と真実－念仏のみぞまこと－
- 上記は1回又は2回を予定

■サブタイトル

京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には「小京都」と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

レポート (70%)

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

ISBN 978-4-7710-2345-1

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

堀井令以知 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方
- ③京都の歴史
- ④京都の世界遺産・国宝・重要文化財
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞
- ⑥前回（第5回）の解説と分析
- ⑦京都の四大大行事1
- ⑧京都の四大大行事2
- ⑨京ことば1
- ⑩京ことば2
- ⑪京都の伝統芸能・茶花香道
- ⑫京都の伝統工芸
- ⑬京都人物列伝
- ⑭小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑮総論

■サブタイトル

京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には「小京都」と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

レポート (70%)

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

ISBN 978-4-7710-2345-1

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

堀井令以知 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方
- ③京都の歴史
- ④京都の世界遺産・国宝・重要文化財
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞
- ⑥前回（第5回）の解説と分析
- ⑦京都の四大大行事1
- ⑧京都の四大大行事2
- ⑨京ことば1
- ⑩京ことば2
- ⑪京都の伝統芸能・茶花香道
- ⑫京都の伝統工芸
- ⑬京都人物列伝
- ⑭小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑮総論

■サブタイトル

京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には「小京都」と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点（30％） 平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

レポート（70％）

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円
ISBN 978-4-7710-2345-1
授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方
- ③京都の歴史
- ④京都の世界遺産・国宝・重要文化財
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞
- ⑥前回（第5回）の解説と分析
- ⑦京都の四大大行事1
- ⑧京都の四大大行事2
- ⑨京ことば1
- ⑩京ことば2
- ⑪京都の伝統芸能・茶花香道
- ⑫京都の伝統工芸
- ⑬京都人物列伝
- ⑭小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑮総論

人間と社会と法

■サブタイトル

現代日本における人権

■講義概要

日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけではなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははどめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること。

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①人権の歴史と分類
- ②憲法訴訟Ⅰ
- ③憲法訴訟Ⅱ
- ④日本国憲法の成立
- ⑤戦後史Ⅰ
- ⑥戦後史Ⅱ
- ⑦戦後史Ⅲ
- ⑧幸福追求権と新しい人権
- ⑨プライバシーの権利
- ⑩知る権利
- ⑪環境権
- ⑫自己決定権Ⅰ
- ⑬自己決定権Ⅱ
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

■サブタイトル

暴力、文化、そしてアイデンティティー

■講義概要

想像してください。人口の爆発的な増加によって私たちは地球とそっくりの他の星に移住することになりました。数万光年離れたその星に行くにはワープするしか方法がありません。しかしそこにはひとつの問題があります。このワープの途中であなたはあなた以外の誰かになる可能性があるのです。意識は基本的にあなたのままですが、様々な部分で微妙な変化が起きるかもしれません。例えば、ルックス、性別、身体的な特徴、性的な指向、使用する言語、住む場所、所得。あなたはあなたのままで他人になることとなります。貧困地帯に住むことになるかも知れませんが、そこでは内戦が起きているかも知れません。あなたは少数者として差別に直面することもあるでしょう。その場合、あなたのような生活環境、社会状況、政治経済をその星に求めますか？そのためには何が必要だと思いますか？この講義では、様々な側面から「平和」について考えていきたいと思います。具体的に取り上げる事象は時間の関係から、ルワンダ、ホロコーストおよびパレスチナ／イスラエルに限られますが、これらの問題を通して現代の世界における平和について考え始めてもらえればと思います。大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通してみなさんとの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。

■到達目標

自分なりの平和概念を持てるようになること、もしくはそのための研究を始めること。

■講義方法

主として講義形式となる予定ですが、映画・ビデオなどの教材をできるだけ使っていくつもりです。

■系統的履修

特にありません。

■授業時間外における予・復習等の指示

いくつかの映像資料については授業で放映しますが、「シンドラー

のリスト」については上映時間の関係から前もって観てもらう必要があります。この講義を受講される前に観ておいてください。

■成績評価の方法

小テスト（100%）In-class test ×2

■テキスト

特になし

■参考文献

授業の中で適宜指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

ビデオ教材などを使用する予定です。上映中の出入りは他の受講生の迷惑になる場合もありますので、できるだけ遅刻しないようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の中でお知らせします。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②「人」の「権利」と平和
- ③ルワンダ1
- ④ルワンダ2
- ⑤暴力1
- ⑥暴力2
- ⑦中間試験
- ⑧ホロコーストとは何だったのか：シンドラーのリスト
- ⑨平和を享受すべき「人間」とは誰なのか？
- ⑩パレスチナとイスラエル
- ⑪パレスチナとイスラエル2
- ⑫9.11同時多発テロ
- ⑬イラク戦争と政治経済
- ⑭まとめ1
- ⑮まとめ2

■サブタイトル

「ここ」と「あそこ」を繋ぐ思考

■講義概要

平和学は様々な学問が重なり合っている分野です。また、何が「平和な状態」であるかについても、統一見解があるわけではありません。本講義では、政治学（政治哲学）・国際関係論・グローバル市民社会論といった視点から平和と暴力について考えていきたいと思います。授業では映画や音楽などの教材も使いながら、核・ヒバクシャ、冷戦、ホロコースト、パレスチナ・イスラエル、イラク戦争などの事象を中心にとりあげていきます。同時に、これらの問題・暴力と私たちの日常生活とがどのような関係にあるのかについてもできる限り受講生のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。決まった「答え」がないからこそ、皆さんの自由な思考で自分なりの「平和」概念を磨いてください。大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通じて皆さんとの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。

■到達目標

自分なりの「平和」概念を追究し始めること。普段の会話の中で、授業で扱った題材をはじめ時事問題を意識することになること。

■講義方法

主として講義形式ですが、時々、映画・音楽などの視聴覚資料も使っていく予定です。

■系統的履修

日本と国際社会A、日本と国際社会Bなど

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で扱った内容やニュースで知った内容で気になった点があったら、積極的にメモを書きためてください。気になった点・質問をコミュニケーション・ペーパーやメールなどでお知らせしてもらえれば、できるだけ次の授業などで議論する時間を確保したいと思います。

■成績評価の方法

レポート（50%）1500文字程度
定期試験（50%）論述形式

■テキスト

必要に応じて授業中にお知らせします。

■参考文献

必要に応じて授業中にお知らせします。

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的にはリラックスして受講してもらおうのが一番です。ただし、多数の受講生が一つの教室を共有しますので、そのことを意識し、他の受講生の学習の妨げとならないような行動・発言を心がけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の中でお知らせします。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②ヒバクシャ1
- ③ヒバクシャ2
- ④暴力とは何か
- ⑤冷戦と「核」の問題
- ⑥冷戦（後）と原子力「平和」利用
- ⑦暴力と思考
- ⑧ホロコーストとは何だったのか1
- ⑨ホロコーストとは何だったのか2
- ⑩思考と「現れる」こと
- ⑪パレスチナとイスラエル1
- ⑫パレスチナとイスラエル2
- ⑬サイド「イラク戦争を語る」
- ⑭イラク戦争と世界経済
- ⑮まとめ

メディアにみる福祉

【担当】高田 敏司

【開講】後期 月2

■講義概要

世界に例を見ない高齢化と少子化で、日本は人口の減少が進んでおり、「超高齢・人口減少社会」に突入しています。右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。そこで政治や行政、医療・福祉関係者、住民の中からはさまざまな動きが起こっています。本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、社会保障について介護保険や医療、年金、雇用、少子化対応、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。

■到達目標

福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知り、社会生活に向けて、最低限は必要な社会保障の教養が身につくようにしたいと考えます。さらには自分の問題として考えられる手がかりを示したいと思っています。

■講義方法

新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。

■授業時間外における予・復習等の指示

できるだけ新聞に目を通し、社会保障関連の動向に関心を持ってください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）（人数によってはミニレポートを課すこともあります。その場合は試験90点、ミニレポート10点とします）

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜、紹介します

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問あれば、気軽にメールで連絡下さい
(taka8@mvd.biglobe.ne.jp)

■講義計画

- ① 超高齢・人口減少社会の到来
- ② 介護保険創設の背景と仕組み
- ③ 介護保険の課題
- ④ すすむケアの工夫
- ⑤ 障害者福祉の今とこれから
- ⑥ 日本の医療の特徴
- ⑦ 医師不足の深層
- ⑧ がん医療、先端医療のトピック
- ⑨ 患者が医療を変える
- ⑩ 年金のいま
- ⑪ 生活保護と雇用保険
- ⑫ 少子化への対応
- ⑬ 福祉の軸となる雇用と教育
- ⑭ 負担と給付の選択肢
- ⑮ 政治、経済、国のかたちと社会保障

メディアにみる福祉

【担当】幸重 忠孝

【開講】後期 木3

■サブタイトル

身近なメディアから福祉を感じる

■講義概要

学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。この講義では、学生にとって身近なメディア（新聞、テレビ、インターネット、小説、コミックス、映画など）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていくこととする。

■到達目標

・福祉とは身近なテーマであることを知る・様々なメディアから福祉課題や福祉サービスを知る・メディアによる福祉の表現の問題を学ぶ

■講義方法

講義の前半は、各回ごとのメディア教材（映画、ドラマ、コミックス、小説、インターネットなど）を紹介 ※過去の講義で活用した題材 映画「誰も知らない」「レインマン」「ジョゼと虎と魚たち」「ウイニング・パス」 TVドラマ「だいすき!!」「瞳」「どんまい」「僕と彼女と彼女の生きる道」「エンジン」 コミック・自叙伝『リアル』『ヘルプマン』『Flower』『ツレがうつになりまして。』『ホームレス中学生』 他各種ドキュメンタリー番組、新聞記事、ホームページ 講義の後半は、使った教材による福祉課題が何なのかと福祉サービスの解説を行う 講義終了後、課題レポートによって学生自身の考察を深める

■授業時間外における予・復習等の指示

ブログを使い前回のレポートについて他の受講者の意見を知り、それに対しての再レポートを行う。 課題コミック、映画・ドラマの視聴とレポート

■成績評価の方法

レポート（100%） 講義時のミニレポートか講義終了後に自宅での課題レポートを選択

■テキスト

特になし

■参考文献

二通論 『映画で学ぶ特別支援教育』 全国障害者問題研究会 1785円
講義では使いませんが、講義で使う以外の映画もたくさん紹介解説している文献です。

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 視覚教材の視聴中に他者への迷惑になる行為を行った場合は厳しく対処します。 2. 課題で指定された映画やドラマ、コミックなどは各自でレンタルなどをして視聴してもらいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

教員のホームページやブログを活用

■講義計画

- ① オリエンテーション
- ② 身体障がい
- ③ 知的障がい
- ④ 精神障がい
- ⑤ 高齢者介護
- ⑥ 介護従事者
- ⑦ 子どもの貧困
- ⑧ 子ども虐待
- ⑨ 施設で生活する子ども
- ⑩ ひとり親家庭
- ⑪ 生活困窮
- ⑫ 発達障がい
- ⑬ 災害における福祉
- ⑭ 世界の福祉
- ⑮ まとめ

学部内共通科目

(数理情報学科)

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
エ	MOT演習	長谷 智弘	後期	月 1	207
	MOT概論	長谷 智弘／安藤 信行／加藤 正浩／佐藤 研司／神野友香子／谷口 清志	前期	火 5	207
カ	海外キャリア実践教育及び実習 A	大柳 満之／木村 睦／塩見 洋一／宮武 智弘	前期	集中	208
	海外キャリア実践教育及び実習 B	大柳 満之／木村 睦／塩見 洋一／宮武 智弘	前期	集中	209
	化学概論 I	綱島 良祐	前期	水 3	210
	化学概論 II	堀井 文敬	後期	月 1	210
	科学技術英語	飯田 晋司／池田 勉／國府 宏枝／阪井 一繁／高橋 隆史／中野 浩／樋口 三郎／馬 青／松本平淳太／松本和一郎／森田 善久／四ツ谷晶二	通年	集中	211
	科学思想史	但馬 亨	前期	月 1	211
	学外実習(キャリア実践実習)／学外実習	阪井 一繁	前期	集中	212
	環境科学	糟野 潤	前期	月 3	212
キ	キャリアデザイン	瀧井 智美／湯口 恭子	前期	水 1	213
	キャリアプランニング	矢野 隆子／山崎 聡子	前期	火 1	214
ケ	計算機基礎実習 I	中野 浩	前期	金 4・金 5	215
	計算機基礎実習 II	宇土 顯彦	後期	金 4・金 5	215
コ	工学概論	泉田 信也	前期	月 5	216
	工業経済	五百井 正樹	後期	金 4	216
シ	資源エネルギー論	白神 達也	後期	金 2	217
	自然観察実習／生物多様性実習B	横田 岳人／丸山 敦／林 珠乃	前期	水3・水4・水5	217
	情報学概論	杉山 久佳	前期	木 5	218
	情報と職業	北林 雅俊	前期	集中	218
セ	生態学概論	丸山 敦	後期	月 2	219
	生体情報概論	梶崎 弘幸	前期	金 2	219
	生物学概論 I	土井田 幸郎	前期	木 1	220
	生物学概論 II	土井田 幸郎	後期	木 1	220
ソ	総合演習	樋口 三郎	前期	水 5	221
チ	地域環境概論	竺 文彦／遊磨 正秀	前期	木 2	221
	地学概論 I	桑原 希世子	前期	月 3	222
	地学概論 II	島田 充彦	後期	水 2	222
	地球環境概論	宮浦 富保／市川 陽一	後期	月 1	223
	知的財産概論	藤河 恒生	後期	水 3	223
ニ	人間工学	橋本 正治	前期	水 1	224
フ	物理実験／理工学基礎実験 A	金子 康智	後期	火3・火4・火5	224

■講義概要

本演習は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の習得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計および労務・組織、(3) 情報管理、(4) 生産管理などを中心に、演習を通じて応用を重視した実践的なManagement of Technology (MOT: 技術経営) 教育を身に付ける。

■到達目標

技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法

各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■系統的履修

MOT (技術経営) 概論

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

レポート (50%)

各講師より出される課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

前期開講の「MOT (技術経営) 概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT (技術経営) 概論」の単位合格者に限る。

■講義計画

①総論

②マーケティング・戦略論

③マーケティング・戦略論に関する事例演習 (1) 概論、SWOT

④マーケティング・戦略論に関する事例演習 (2) 戦略、戦術

⑤財務・会計および労務・組織

⑥財務・会計および労務・組織に関する事例演習 (1) 簿記、B/S、P/L

⑦財務・会計および労務・組織に関する事例演習 (2) 経営分析

⑧情報管理

⑨情報管理に関する事例演習 (1) インターネットショッピング

⑩情報管理に関する事例演習 (2) SE

⑪生産管理

⑫生産管理に関する事例演習 (1) 在庫管理

⑬生産管理に関する事例演習 (2) 生産計画

⑭ビジネスプランの作成方法

⑮まとめ

MOT 概論

■サブタイトル

技術経営入門

■講義概要

本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の習得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計、(3) 労務・組織、(4) 生産管理・情報管理・流通管理など、(5) 法務・知財 (特許)・標準化 (品質管理など) を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology (MOT: 技術経営) 教育プログラムの構成とする。

■到達目標

技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法

各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

レポート (100%)

講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

後期開講の「MOT演習」を受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画

①総論

②企業経営理論 (1) 企業形態・株式会社

③企業経営理論 (2) 経営計画・マーケティング

④企業経営理論 (3) 経営戦略

⑤企業経営理論 (4) 競争戦略

⑥財務・会計 (1) 概論・会計原則

⑦財務・会計 (2) 損益計算書・貸借対照表

⑧財務・会計 (3) 安全性・収益性・生産性分析

⑨財務・会計 (4) 損益分岐点分析

⑩人事・労務・組織

⑪運営管理: 生産・販売・流通・在庫・情報化

⑫法務: 会社設立・運営

⑬知的所有権: 特許

⑭標準化動向 (品質・環境・労務)

⑮まとめ: ビジネスプランの作成方法

海外キャリア実践教育及び実習A

【担当】大柳 満之、木村 睦、塩見 洋一、宮武 智弘

【開講】前期 集中

■サブタイトル

事前学修～実習前半まで

■講義概要

【地域産学連携キャリアセミナー】

理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーや小クラス編成のマナー講座を開講する「地域産学連携キャリアセミナー」を実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修します。

【海外での実習】

社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にあります。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加しています。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施します。現地には理工学部の教員も同行してサポートするため、比較的参加しやすいプログラムです。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しています。こうした企業への就職を希望している人は奮って受講して下さい。

＜日程＞夏期休暇中のうち、2週間程度

＜募集人数＞16名程度

＜費用(予定)＞40万円程度（主に航空運賃と宿泊代です。航空運賃はサーチャージ等により変動することがあります。）

＜実習先企業(予定)＞住友電工、富士通コンピュータ、Senju Comtek、Tech Dreamなど

＜応募方法＞科目の事前登録

■到達目標

働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。

海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

【実習に向けての事前学修】

- ・「地域産学連携キャリアセミナー」
- ・海外での実習に向けた実践的な英語学修や海外生活に関する講習を実施します。

【実習】

- ・実習は現地の日系企業にて実施しますので、主に日本語での実習となりますが、英語を使う場面も当然あります。内容は実習先の計画によります。
- ・実習中の滞在はホームステイを基本とします。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできます。
- ・渡航には理工学部教員が同行します。

【帰国後の事後学修】

- ・実習報告などの事後学修を実施します。
- ・学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。

※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

ホームステイでは自分から積極的に英語で話すように心がけること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。

説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画

- ①オリエンテーション・本科目の目的等の説明
- ②経営者・実務家による講義1
- ③経営者・実務家による講義2
- ④ビジネスマナー講座（講義・実技）
- ⑤実践英語
- ⑥海外生活に関する特別講習
- ⑦実習先による

（2週間程度の実習期間の内、前半）

海外キャリア実践教育及び実習B

【担当】大柳 満之、木村 睦、塩見 洋一、宮武 智弘

【開講】前期 集中

■サブタイトル

実習後半～事後学修まで

■講義概要

【地域産学連携キャリアセミナー】

理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーや小クラス編成のマナー講座を開講する「地域産学連携キャリアセミナー」を実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修します。

【海外での実習】

社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にあります。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加しています。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施します。現地には理工学部の教員も同行してサポートするため、比較的参加しやすいプログラムです。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しています。こうした企業への就職を希望している人は奮って受講して下さい。

＜日程＞夏期休暇中のうち、2週間程度

＜募集人数＞16名程度

＜費用(予定)＞40万円程度（主に航空運賃と宿泊代です。航空運賃はサーチャージ等により変動することがあります。）

＜実習先企業(予定)＞住友電工、富士通コンピュータ、Senju Comtek、Tech Dreamなど

＜応募方法＞科目の事前登録

■到達目標

働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。

海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

【実習に向けての事前学修】

- ・「地域産学連携キャリアセミナー」
- ・海外での実習に向けた実践的な英語学修や海外生活に関する講習を実施します。

【実習】

- ・実習は現地の日系企業にて実施しますので、主に日本語での実習となりますが、英語を使う場面も当然あります。内容は実習先の計画によります。
- ・実習中の滞在はホームステイを基本とします。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできます。
- ・渡航には理工学部教員が同行します。

【帰国後の事後学修】

- ・実習報告などの事後学修を実施します。
- ・学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。

※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

ホームステイでは自分から積極的に話すように心がけること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期

間中に必ず事前登録をすること。

説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画

①実習先による

（2週間程度の実習期間の内、後半）

②報告書作成指導等

③参加者による実習報告①（1人目～6人目）

④参加者による実習報告②（7人目～12人目）

⑤参加者による実習報告③（13人目～16人目）、報告会発表者決定

⑥実習総括

⑦学外実習（キャリア実践実習）と合同の報告会

化学概論Ⅰ

【担当】 綱島 良祐

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

原子、分子の性質とその応用

■講義概要

化学は自然科学で重要な位置を占めている。諸物質の性質や機能・変化などを統一的に理解するには、原子や分子に関する知識が不可欠になる。化学はこの知識の源である。また、化学の進歩は現代の物質文明を支える各種材料・機器を社会に提供し、高度生活環境を是とする人々にのみ有利な環境を生み出してきた。しかしそれは同時に種々の人間生活環境・自然環境を破壊し、地球の自己再生サイクルを狂わし、世界人類を破滅に導くまでに至らしめている。この現状を正しく掌握・理解し、希望ある未来社会・地球環境・宇宙環境を構築していくには化学の知識の獲得とその実践が必要である（知とは受身の知（知識）だけではなく、能動の知（実践）の両方を意味する）。本講義ではこの観点に立って、理工学部の学生諸君に化学の基礎知識を講述する。

■到達目標

化学概論Ⅱと合わせて、化学の原理を知りその考え方を身につけることによって、種々の現象を化学的に理解し判断する能力が育成できる。本講義の受講により、有機化学、生化学、高分子化学、分析化学など広範な化学分野に共通する考え方と理解力が蓄えられる。

■講義方法

教科書およびプリント資料により講義する。

■系統的履修

化学概論Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中、予告なしにミニテストを行うことがあるので、復習は十分にしておくこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）自由記載の項を参照
小テスト（5%）講義中に行う（4回生以上）
レポート（5%）宿題を出す。（数回以上）
定期試験（80%）自由記載の項を参照

平常点を10%とするが、出席数が7%以下では定期試験をたとえ受験しても「不可」とすることがある。要するに平常出席していれば、定期試験は容易に解けるように講義する。

■テキスト

渡辺啓著 『現代の科学 サイエンスライブラリ化学』 サイエンス社 1480円
講義範囲（試験範囲）はテキストの最初から129ページまで。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

楽しく講義したい。現代における種々の社会現象の基本も判るようにする

■講義計画

- ①宇宙の誕生と物質の起源、天体の起源とその一生
- ②宇宙の広さとその構造、膨張宇宙の未来、ダークマターと宇宙観測
- ③太陽系の誕生とその構造、地球の誕生とそれ以後の変遷
- ④海の歴史、陸の歴史、人間と地球温暖化、環境異変
- ⑤原子説の確立と原子構造、原子番号、質量数、同位体、分子
- ⑥周期律、元素の性質と内部構造
- ⑦4つの力、その起源と時間的分離、統一理論
- ⑧究極の素粒子、量子力学の骨組み、量子論と相対性理論
- ⑨アルカリ金属、核分裂と核融合
- ⑩アルカリ土類金属、シンクロトロン放射、加速器、希土類元素
- ⑪アルミニウム、炭素、ケイ素と半導体、光エレクトロニクス
- ⑫窒素と大気汚染、リンと筋肉、酸素、硫黄、ハロゲン、希ガス
- ⑬金属結合と電子雲、液晶、光と色
- ⑭鉄、銅、亜鉛、水銀、貴金属、日本の鉱山
- ⑮金属のイオン化傾向、一次電池と二次電池、太陽電池、コンピュータの内部表現

化学概論Ⅱ

【担当】 堀井 文敬

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

環境に優しい日常の化学

■講義概要

「化学概論Ⅰ」に続いて、テキスト「現代の化学」の後半について講義する。すなわち、有機化合物、界面活性剤、化粧品・香料、医薬、天然および合成高分子、ゴム・繊維などの重要なものについて、それらの実際例とともに説明する。また、環境化学として、環境汚染物質、特に大気汚染物質について説明するとともに、バイオエタノールや有機太陽光発電などの新しい発展についても分かりやすく述べる。

■到達目標

本講義は、一言でいうと「デイリーライフ・ケミストリー」すなわち「日常生活の化学」であり、環境・エネルギー問題を意識した実生活に結びついた化学物質の基礎知識を与える。「環境に優しい衣食住の化学」と言い換えてもよいかも知れない。食品、プラスチック、衣料材料、洗剤、化粧品、防腐剤、医薬品、環境汚染物質あるいはエネルギー代替品などについて、より良い生活をするための指針を与える。

■講義方法

配布資料を中心に講義する。

■系統的履修

化学概論

■授業時間外における予・復習等の指示

区切り区切りで、小テストをしたりあるいは小レポートを提出してもらうので、配布プリントの復習や、関連事項の調査をすること。

■成績評価の方法

平常点（40%）
定期試験（60%）
定期試験（60%）、平常点・レポート（40%）とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

渡辺啓 『現代の化学』 サイエンス社
配布資料を中心に講義する。

■履修上の注意・担当者からの一言

実益と教養を兼ねた話として興味を持って聞いて下さい。実生活に重要な基礎知識を与えるとともに、新聞・テレビなどでの最先端の化学情報を理解する力も養えるようにしく思っています。

■講義計画

- ①「化学概論Ⅱ」の展望
- ②化学結合の基礎
- ③有機化合物Ⅰ（炭化水素、アルコール）
- ④有機化合物Ⅱ（カルボン酸、エステル、油脂）
- ⑤有機化合物Ⅲ（芳香族化合物）
- ⑥洗剤、化粧品
- ⑦生理活性物質と医薬品
- ⑧合成高分子Ⅰ（高分子化学の基礎：合成と構造）
- ⑨合成高分子Ⅱ（ポリエチレン、ナイロン、ポリエステルなど）
- ⑩繊維、高機能繊維、ゴム
- ⑪天然高分子（炭水化物：糖、デンプン、セルロース）
- ⑫生体高分子（タンパク質、DNA）
- ⑬環境化学Ⅰ（大気環境）
- ⑭環境化学Ⅱ（バイオエタノール、太陽光発電）
- ⑮まとめ

科学技術英語

【担当】飯田 晋司、池田 勉、國府 宏枝、阪井 一繁、高橋 隆史、中野 浩、樋口 三郎、馬 青、松木平 淳太、松本 和一郎、森田 善久、四ツ谷 晶二 【開講】通年 集中

■サブタイトル

実社会で使える英語を

■講義概要

英語で書かれた研究論文や技術資料を通して、論文の読みかたや科学技術英語の読解力を養う。また、英作文やコミュニケーションなどの素養を身につける。

■到達目標

現在のような国際化の時代にあって科学技術英語は不可欠である。この科目では特に実践的な英語力を養う。

■講義方法

担当教員毎に異なる。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）取り組みの姿勢や課題の達成度を担当教員が評価する。

■テキスト

担当教員毎に異なる。

■参考文献

担当教員毎に異なる。

■講義計画

担当教員毎に異なる。

科学思想史

【担当】但馬 亨

【開講】前期 月1

■サブタイトル

ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要

現代世界において、科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう。しかし、このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのだろうか。当講義では、発展過程でその本質の意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説していく。なお、扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいいわゆる自然科学分野であるが、その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため、適宜取り上げる。

■到達目標

各時代ごとの自然科学・技術の様態について適切な歴史的認識を得ること、さらには理論的な科学発展の経過についての理解を得ること。

■講義方法

プリントなどの資料の配布に加えて、映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する。

■系統的履修

自然科学の論理

■授業時間外における予・復習等の指示

参考図書等の指示をするが、課題の考察については各自図書館の蔵書等を利用して調査してもらう場合もある。

■成績評価の方法

平常点（15%）小テストと合算で30点

小テスト（15%）平常点と合算で30点

定期試験（70%）授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて、その理解を問う。

テストでは論述が主体となります。

■テキスト

特になし

■参考文献

トーマス・クーン著 中山 茂訳 『科学革命の構造』 みすず書房 2730円

■履修上の注意・担当者からの一言

携帯電話や私語などには厳しく対処し、場合によっては単位を取り消す可能性もあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業開始時にe-mailアドレスをお伝えします。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②古代ギリシャ（1）：前ソクラテス期
- ③古代ギリシャ（2）：プラトン以降
- ④ヘレニズム期と古代精密科学
- ⑤アラビアと中世の科学
- ⑥初期近代（1）：万能人の思想
- ⑦初期近代（2）：印刷術、近代解剖学
- ⑧前半内容の確認
- ⑨科学革命の世紀（1）：理論
- ⑩科学革命の世紀（2）：個別事例
- ⑪18世紀の科学
- ⑫19世紀（1）：科学の組織化、制度化
- ⑬19世紀（2）：近代生物学の誕生
- ⑭現代の科学：科学の巨大化
- ⑮総括

学外実習（キャリア実践実習）（2009年度以降入学生）
学外実習（2008年度以前入学生）

【担当】 阪井 一繁
【開講】 前期 集中

■サブタイトル

インターンシップで自分のキャリアプランを充実！

■講義概要

キャリア教育の一環である選択科目です。3年次のすべての学生に受講を奨めます。

原則として夏期休暇中の約2週間、学外の企業・研究所・公共機関・非営利団体等で、実務を体験するインターンシップを行います。前期授業期間中に、各自のキャリアプランに応じたインターンシップ先の調査・選定・応募、インターンシップ先の実務内容に応じた事前学習を行います。

実習先は担当教員と相談の上で決定します。ただし、龍谷大学協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム、自己応募インターンシップなどに適切なものがあればそちらに応募することを推奨します。

■到達目標

現場でプロフェッショナルとして活動できる。インターンシップの体験に基づいてキャリアプランを築ける。

これまで大学で学んだことを現場で使ってみて理解を深めることができる。

■講義方法

事前学習に続いて企業・研究所・公共機関・非営利団体等でインターンシップを行います。

■系統的履修

1・2年次でキャリアデザイン、キャリアプランニングなどの科目を履修しておくといよいでしょう。履修していない場合も、総合演習（必修科目）で、学外実習の準備をすることができます。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自でインターンシップ先の調査や事前学習の予復習をしっかりとやっておきましょう。

■成績評価の方法

その他（100%）

実習前の事前学習の実施状況・実習先での取組・実習先に提出する学外実習報告書・学外実習報告会への参加等により総合的に合否を判定します。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

不定期にミーティングを行ったり、担当教員と打ち合わせを行ったりしますので、掲示や電子メールによる連絡に注意してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは追って掲示があります。メールでの連絡の際は、Subject を学外実習とし、本文には学籍番号と氏名を必ず書いてください。

■講義計画

- ①各種インターンシップの説明会に参加します。事前学習を行います。龍谷大学協定型インターンシップに応募します。
- ②事前学習を行います。大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムに応募します。
- ③事前学習を行います。自己応募インターンシップに応募します。理工学部学外実習を希望する人は実習先を決定します。
- ④事前学習を行います。
- ⑤原則として8月末から9月初めの2週間、実習に行きます。
- ⑥中旬に行われる学外実習報告会に参加します。学外実習報告書を提出します。

環境科学

【担当】 糟野 潤
【開講】 前期 月3

■講義概要

地球環境問題が大きな社会問題となっており、これには経済、政治、住民運動など、さまざまな社会要因が関連しているが、基本的には科学・技術の発展を背景とした工業化社会の問題であるといえる。地球環境問題の提起した課題は、石油という膨大なエネルギーを手に入れた人類が、効率や生産性のみを追い求めてきたことにあり、自然システムと調和した生産・生活システムを模索し、確立していくことが求められている。本講義では、これらの問題を理解していくために必要な自然科学的な基礎的事項、環境に関する化学・物理および生物・生態学に関することについて述べる。さらに、これらの問題に対処するための生活様式の検討について言及する。

■到達目標

地球規模での広がりを持って、身の回りの環境問題を考えられるようになる。

■講義方法

教科書および配布資料により講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート提出や資料収集など、適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点（20%）
レポート（20%）
定期試験（60%）

■テキスト

山口勝三、菊池 立、斉藤絃一 『環境の科学』 培風館
1950円
適宜、資料を配布する。

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①環境問題について
- ②地球の自然と物質：宇宙の中の地球
- ③地球の自然と物質：大気
- ④地球の自然と物質：水
- ⑤地球の自然と物質：土壌
- ⑥大気汚染と酸性雨
- ⑦水質汚濁と汚染物質
- ⑧地球温暖化
- ⑨分解されにくい物質による汚染
- ⑩エネルギー資源
- ⑪人口増加と食糧問題
- ⑫廃棄物処理
- ⑬都市環境
- ⑭化学物質の分析法
- ⑮まとめ

■サブタイトル

willから始める大学生活

■講義概要

キャリアデザインへの1回生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。自らの判断と創造が要求される、つまり責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。このキャリアデザイン論では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」が必要であり、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることが重要であるかを理論的・体験的に学ぶ。

<理工学部キャリア教育の取り組み>

http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標

- ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であることを学ぶ
- ・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

■講義方法

授業の中では、積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワークを行いながら解説を試みる。グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分自身で、体験の中から発見・再発見・再認識し、自分の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。また互いの意見を発言、聞く、伝えるスタイルはコミュニケーションの訓練にもなる。

自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノート記入を要求する。

■系統的履修

キャリアプランニング（2年次・前期）

■授業時間外における予・復習等の指示

講師からの指示により、自己紹介の準備やプレゼンテーション授業時の資料準備がある。

また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

■成績評価の方法

平常点（50%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う

その他（50%）決められた提出物を何種類か提示する。

試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。

テキストの中にワークシートが組み込まれているため、授業時のテキスト忘れは要注意すること。

平常点に影響する。

■テキスト

東田晋三著 『自分デザイン・ブック I』 ネットスクール株式会社 1600円

生協にて販売。部数品切れの可能性あり、早めに確保すること。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

3年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めたい。今年で8年目になるキャリア教育、学生による授業評価は、毎回受講して良かった90%以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待している。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

キャリア講師は8名で火曜日・水曜日・木曜日に授業を行っている。授業の合間には講師控え室にて待機。

■講義計画

- ①オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説）
高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
- ②自己紹介とは何かを考えてみよう
- ③何のために大学にきたのだろうか（目的）
- ④大学生活がこうなればいいなあ（目標）
- ⑤伝えたい（コミュニケーション）
- ⑥自分を表現しよう
- ⑦協調性とは何かを知ろう
- ⑧好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
- ⑨失敗は成功へ向けての授業料
- ⑩キャリアマインドをもとう
～2つの軸が君の未来をつくる～
- ⑪ディスカッションの大切さを学ぼう
- ⑫勉強・仕事の土台となるものと考えてみよう
- ⑬プレゼンテーションにチャレンジ
- ⑭w i l l から始まる大学生活
- ⑮w i l l から始まる大学生活発表会

■サブタイトル

自らの意志と責任で考え、キャリアを開発しよう。

■講義概要

1年次では、自分の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。2年次、キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出すことの意識を自らが自覚をしよう。自分らしさを活かして大学生活を充実させる為に、自分は何者か、どこへ行こうとしているのか、そんな自分を見つめる事から、この授業は展開する。その一つの手段として、自己理解及び自己現状把握・分析を行うが、自分の人生を可能な限り自分で納得のいくものにしていく為にも、大切なことは、最終的な目的地やそこにいたる筋道を明確にすることだけではなく、「なぜそこを目指そうとしているのか」という理由や自分にとっての意味を明確にしていこうことである。変化の激しい時代であるがゆえに、自分の考えも変わることもあるが、判断に迷った時の拠り所となる「理由や意味」を明確にしていくことは、キャリア開発には欠かせない重要なことである。その為にも、マニュアル的な発想や行動ではなく、「自分で考える力」や「自分の中身」を鍛える授業とし、これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的計画を立てよう。目標を達成するために自分でプロセスを楽しめる状態に持っていく力、それは、「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。

<理工学部キャリア教育の取り組み>

http://www.rikouryukoku.ac.jp/career_support/index.html

※今年度よりプロジェクト型学習を取り入れるため、再度検討する事もあり、一部講義計画の順番及び内容等が変更となる可能性があります。

■到達目標

自分の考えをしっかりと持ち、自分の意見を発表することができ、議論ができること。その為に必要な事を考え、気づき、自分の中身が鍛えられ、成長できたと思えること。具体的には、
・コミュニケーション能力がつくこと・課題解決能力がつくこと・何事も後回しにせず、自発的に取り組める自立心が身に付くこと。

■講義方法

自分のキャリアを考える為のワークやグループでの学習がメインである。今年度より、一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、共に学び合うプロジェクト型学習を取り入れる。プロジェクトチームでの学習や行動する具体的な例として

1. テーマに沿って、達成するための自分たちの考えを出し合う。ブレインストーミングをする。
2. 必要な情報収集や調査を行い、企画書を作成し、プレゼンテーションをする。
3. 皆に評価してもらい、実現可能な企画書にするための行動計画を立てる。役割を決める。
4. 実際に行動し実行する。管理する。中間報告を行う。
5. 更に知恵を出し合い、より良い成果を上げる方法を考え、最終成果報告とする。
6. 自らが振り返り、キャリアプランニングへと結びつけて行く。ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。
また、授業のなかで複数（3名～5名）の講師による「はたかちカード」を使って、自分の価値観を探っていくワークを行い、自己理解を深めていく。

■系統的履修

1年次キャリア授業：キャリア・デザイン

※1年次のキャリア・デザインを履修していなくても、履修登録は可能である。

■授業時間外における予・復習等の指示

講師からの指示により、宿題及び下調べとしてするべきことや資料準備等がある。（毎回ではない）具体的には

- ・自己紹介シート作成（随時）
- ・ワークシート作成（必要授業時に指示）
- ・グループとしての協同作業（次回授業までに消化しておくべきことの指示）等がある。

また、授業内ではワークシート作成があり、欠席した者は必ず、次回までに完成しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う

その他（70%）決められた提出物を何種類か提示する。

試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするワークシート理解が不可能であり、注意を要する。（どのように対処すべきか自分で考える、大人度をアップさせること）

今年度より、プロジェクト型学習で行う成果物の種類により個人評価とグループ単位で評価されることになる。

■テキスト

1. 授業時に使用する「はたかちカード」の購入。金額は¥400授業時に徴収。
2. 授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅3センチ以上の2穴綴じ仕様のA4サイズバインダーを必ず用意すること。

※特に注意すべきこととして、授業時にワークシートの取り外し等を行う為、押さえ込み式のバインダーは購入しないこと。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーとし、身に付けられることが必要である。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが求められる。つまり、授業を通して、日常生活や大学生活で大人度をアップさせる行動や態度を常に意識し、大人の常識を身に付け社会性を高めること。このことは、2年後に控えた就職活動に役立ち、就活を左右するものでもある。今年度より導入するプロジェクト型学習で多くのことを学び、働く理由や意味を少しでも明確にできるよう成長した自分になってもらいたい。従って、この授業では、エントリーシートの書き方、模擬面接等、手法を学ぶ授業ではない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

2年次キャリア講師は5名。前期授業は火曜・水曜・木曜。授業の合間は、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画

- ①オリエンテーション 自分について考える
- ②私の勤労観と職業観
自分の勤労観・職業観を探り、ベースにあるものに気づき、発展させる。
- ③自己理解：能力について
自分のことを知りたい。
- ④自己分析：価値観について
～はたかちカードワーク その1～
- ⑤自己理解：価値観について
～はたかちカードワーク その2～
- ⑥グループディスカッション
- ⑦働くを考える：その1
職種・職業・業界・企業を知る
やりたいことがわからなければ、やりたくないことから考えてみる
- ⑧働くを考える：その2
ブレインストーミング
- ⑨働くを知る：その1
- ⑩ビジネスマナー
社会でのマナーを身につけよう
- ⑪働くを知る：調査1
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑫働くを知る：調査2
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑬働くを理解する
調査結果最終報告
評価・振り返り
- ⑭キャリアプラン作成
- ⑮キャリアプランニング発表：プレゼンテーション

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】中野 浩
【開講】前期 金4・金5

■サブタイトル

Windows・インターネット・プログラミング入門

■講義概要

計算機（パソコン）を道具として利用するために必要な基本的事項を、実習を通して体得するのがこの科目のねらいです。まずは、Windows の計算機環境やインターネットの基本的な利用法を学び、その後、C言語というプログラミング言語によるプログラミングの入門を行います。

■到達目標

計算機の使い方に慣れるとともに、プログラミングを行う上での基本的な考え方が身につくことを期待します。

■講義方法

毎週、180分（2 講時）の授業を、適宜、講義と実習に分けて行います。毎回、実習の時間に課題が出ますから、計算機実習室でティーチングアシスタントの助言を得ながら、これに取り組んで頂きます。

■授業時間外における予・復習等の指示

科目のWebページから前年度の配付資料が入手できますので、予習をしておくとお効果的な学習ができるはずです。毎回の授業で課される課題は、授業時間内で完成するとは限りません。ほとんどすべての課題の締め切りは、次の回の授業開始時間までですから、セルフラーニング室などを利用して取り組んでください。

■成績評価の方法

その他（100%）自由記載欄を参照して下さい。
期末試験（100点満点）、提出された課題で評価します。期末試験が x 点、課題の得点率が $y\%$ のとき、総合的な成績は $x + (100 - x) y / 400$ （端数切り捨て）となります。

■テキスト

特になし

■参考文献

宇土顕彦 『効率よく学ぶCプログラミング』 コロナ社 2100円

■履修上の注意・担当者からの一言

何でも自分で試してみることが重要です。積極的にセルフラーニング室（情報処理実習室）を利用してください。

■講義計画

- ①Windows の基本操作、電子メール、ワープロの基本操作
- ②ワープロによる文書作成、著作権入門、WWWと情報検索
- ③プログラミング言語とは
- ④Cプログラムの基本、実行の流れと整数の四則演算
- ⑤変数の宣言、代入、参照
- ⑥Cプログラムの文、場合分けの処理、プログラムの字下げ
- ⑦繰り返しの処理入門
- ⑧関数、条件の組み合わせ
- ⑨最小値や最大値の計算、二重の繰り返し
- ⑩文字列を使った入出力
- ⑪フラグと繰り返しの途中終了
- ⑫いろいろな演算子、いろいろな制御構造
- ⑬大量のデータの格納
- ⑭ゲームを作ろう
- ⑮プログラミングを楽しもう

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】宇土 顕彦
【開講】後期 金4・金5

■サブタイトル

C言語による計算機プログラミング入門

■講義概要

計算機プログラミングの基礎をC言語を用いて学習するとともに、将来において実際のプログラムの開発を効率良く行うための方法論を習得する。プログラムの基本的制御構造－接続、選択、反復から始めて配列や関数について多くの演習課題に取り組み、構造化プログラミングを体験的に学習し、プログラミングスタイルを身に付ける。

■到達目標

プログラミング能力、論理的思考力を身に付ける。それとともに、「答えは1つとは限らない」ということをいろいろな面で認識できるようになること。

■講義方法

2コマ連続の時間割りの前半を教室での講義とし、そこで説明された内容について後半に演習室で演習問題に取り組む。実習に際しては数名のTAが配置され、個人的な指導を行う。講義では黒板とパワーポイントを併用する。

■系統的履修

計算機基礎実習Ⅰ。プログラミングの全科目につながる。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書を読んで用語を頭に入れておくこと。自由課題にもできるだけ取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）
定期試験（90%）
（1）期末試験の成績（100点）（2）演習課題の評価（12点）を加算（上限100点）。（2）の配点は大きくないが、6回以上欠席すると期末試験を受験できない。

■テキスト

宇土顕彦著 『効率良く学ぶCプログラミング』 コロナ社 2000円

■参考文献

カーニハン、リッチー著、石田晴久訳 『プログラミング言語C』 共立出版

■履修上の注意・担当者からの一言

出題された課題は、必ず自分の力で解くこと。課題は例のプログラムの考え方に基づいて解くものであり、いきなり演習に取り掛かるのではなく、必ず例のプログラムを入力し、動作を確認することが「急がば回れ」で早道である。プログラミングの学習については「習うより慣れる」と言われる。一定の時間を掛けることが必要である。失敗にめげず頑張ってはじめて実力をつけることができるし、そこでは誤った方法が別のプログラムでは有効なこともある。

■講義計画

- ①Linuxの使い方
- ②C言語の入門：基本的な出力と変数
- ③C言語の入門：プログラムの基本と数学関数
- ④構造化プログラミングとPAD
- ⑤選択のプログラミング
- ⑥選択のプログラミング（多分岐）
- ⑦反復のプログラミング（While, do-while型反復）
- ⑧反復のプログラミング（パラメータ型反復）
- ⑨配列の概念
- ⑩配列に関する基本的な処理
- ⑪配列を使う基本的な統計処理
- ⑫関数の概念
- ⑬配列処理の関数
- ⑭ポインタ（試験の範囲外）
- ⑮全体の復習、傾向と対策

■講義概要

世の中の技術革新はめざましく、我々の身の回りに普及し、社会、経済の営みを大きく変えようとしている。技術革新で人々の暮らしは便利になった。しかし、その根底にはエネルギーという大事な問題があることも事実で、昨年の東日本大震災で身近な問題となった。この講義では、まず電力とエネルギーに関連した工学技術の基礎から始め、次に、主に電気、エレクトロニクスが関係する身近にある技術革新やその原理を紹介する。また、これらの技術は、電気、機械などハード技術だけでなくソフトや材料技術など、いろいろな学問や異なる分野の技術が融合した成果であること、また、ものづくりの現場の絶え間ない開発・改良技術、量産化の技術、低コスト化技術、製品の信頼性を高める技術など、工場の生産技術も非常に重要であることを紹介し、エネルギーや物づくりの重要性を知ってもらう機会を与えることがこの講義の目的である。

■到達目標

何気なく使っている身の回りの製品にも、すごい技術が秘められていることを理解する。現代の工学技術の奥深さを知り、その根底にある電力とエネルギーの重要性を知る。また自分の将来の進路を考える参考とする。

■講義方法

毎回の授業が「読みきり」となる形で、昨今の新しい技術の流れを主に、様々な話題を取り上げ、講義を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習、予習をしておくこと

■成績評価の方法

平常点 (30%)

定期試験 (70%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

講義中は私語を慎み、まず、人（講師）の話聞く。そして疑問、質問あれば遠慮なく質問する。これは社会人になっても同様で、人とコミュニケーションする上で大事なことです。

■講義計画

- ①日本が直面している大問題、電力とエネルギーの基礎
- ②電気とは。電気ができ、家庭に届くまでの仕組み
- ③太陽電池、太陽光発電の現状
- ④風力、波力、潮力、電気自動車、クリーンエネルギーの新しい創生と蓄電技術
- ⑤いろいろな波（光、電波、音波、地震波、津波）の性質、現象、その関連技術
- ⑥ますます薄くなるディスプレイ、その原理と構造
- ⑦携帯やデジカメの中はどうなってる？、電子機器の軽薄短小化の技術
- ⑧ハイテク製品の陰にレアメタルあり。材料による製品の技術革新
- ⑨現代の通信はどのような原理で成り立っているか、そのしくみと歴史
- ⑩ランプからLED、有機EL照明まで。光の革命技術
- ⑪身近なすごい技術、レーザー。CDからレーザー兵器まで、その原理
- ⑫身の回りのいろいろな電磁気、電磁誘導、その応用技術
- ⑬家庭に普及したパソコンやインクジェット、その原理と進歩
- ⑭半導体って何？、どうやって作る？、工場の中は？
- ⑮まとめ

工業経済

■サブタイトル

技術の発達とそれに伴う社会および環境の変化

■講義概要

私たちの住む国の工業化は明治維新以降であり、工業社会と呼ばれる状態となったのは、諸説はあるが、1970年頃であろう。いずれもさほど古い出来事ではない。

この日本近代は激動の時代であり、家族、人のありよう、景観に至るまで、根こそぎと言いたいほどの変化を続けてきた。この過程を概観し、変化を引き起こすに至った要因、また変化を可能にした諸条件について考える。

なにゆえに、敗戦後の急速な工業化と“経済大国化”が可能であったか、その結果、社会と環境はどのように変化したか。また、その結果としてどのような課題に直面するに至ったか…。これらを具体的データをもとに考えてゆくことにする。

■到達目標

日経新聞を楽しく読めるようになること

■講義方法

PCによるプレゼンテーション。レジュメ、参考資料を配付する。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の1面3面、つまり政治や経済、技術に関する記事に日々目を通すよう心がけること。

■成績評価の方法

小テスト (40%)

レポート (60%)

質問は大いに歓迎する。私語はお断りする。

■テキスト

特になし

■参考文献

関連図書などは、レジュメ等に記載する。

■講義計画

- ①バブルと経済：元手なしに富豪になる方法
- ②ひとと技術：ヒトはいかにして人となるか
- ③商品の誕生：市場の拡大と世界の変容
- ④ものの値段：経済「学」との考え方
- ⑤貿易と地域、国家：「国民」の誕生と国際基準
- ⑥近代の衝撃：遅れたヨーロッパと進んだアジア
- ⑦戦争への道：植民地の拡大と破綻
- ⑧新規まき直し：日本の敗戦とその後
- ⑨工業化への長い道：カメラと半導体
- ⑩運も実力のうち：自動車産業と神風
- ⑪規格と公差：工学との考え方
- ⑫光と影：工業化で得たもの、失ったもの
- ⑬環境の値段：持続可能社会とは
- ⑭市民と社会：地域と民主主義
- ⑮技術の評価と選別：買い物は世界を変えるか

■サブタイトル

22世紀以降も持続可能な社会を目指した技術

■講義概要

われわれの生活を支え、産業を発展させるには資源の消費が不可欠であるが、先進国における大量消費に加えて、近年は中国やインドといったアジアの人口大国での消費量が飛躍的に伸びていて、このままの持続的な社会発展は悲観的な見方が強い。それゆえ資源についてよく知り、その利用について今まで以上に深く考えねばならない。資源はその使用目的により大きく分けて物質資源とエネルギー資源とがある。本講義ではエネルギー資源を中心に、その相互の変換、特に発電についてや、将来伸びていくであろう新エネルギーについて説明する。さらに原発事故を踏まえ、原子力発電とその未来について考察する。また、物質資源としては特に金属資源およびセメントを取り上げ、リサイクルが資源の確保に果たす役割についても述べる。

■到達目標

われわれの生活を支えているエネルギー資源の状況とその将来の動向についての知識。金属資源の循環過程についての理解。

■講義方法

配布プリント、板書、プロジェクタによるパワーポイントや動画を中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。出席は何らかの形で毎回取る。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート課題などを通して、各分野の予習や復習を指示する。

■成績評価の方法

平常点 (11%)
レポート (30%) 10点×3回
定期試験 (59%) 上記の得点なしでテストだけ受けても合格しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

世羅力 『資源・エネルギー工学要論 第2版』 東京化学同人 2400円

これらの参考文献はテキストの代わりに使用することがある。

■履修上の注意・担当者からの一言

資源・エネルギーに関する問題が解決しなければ、人類が22世紀まで存続できるかどうかおぼつかない。講義以外に日々発せられる情報にも関心を持ち、その行く末を考えてみて下さい。少々過激ではあるが、目からうろこが落ちる体験が待っているかも？

■講義計画

- ①エネルギーの基礎
- ②化石エネルギー (1) - 石炭、石油 -
- ③化石エネルギー (2) - 天然ガス -
- ④化石エネルギー (3) - その他 -
- ⑤電力 (電気エネルギー) (1) - 火力発電 -
- ⑥電力 (電気エネルギー) (2) - その他の発電方法 -
- ⑦自然エネルギー (1) - 水力、地熱 -
- ⑧自然エネルギー (2) - 太陽、風力、バイオマス、その他 -
- ⑨核エネルギー (1) - 核分裂反応 -
- ⑩核エネルギー (2) - 原子力発電 -
- ⑪核エネルギー (3) - 未来の原子力 -
- ⑫省エネルギー
- ⑬金属資源と精錬・リサイクル
- ⑭セメントの概要
- ⑮まとめ

自然観察実習 (2007年度以降入学生) 生物多様性実習B (2006年度以前入学生)

【担当】 横田 岳人、丸山 敦、林 珠乃 【開講】 前期 水3・水4・水5

■講義概要

環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では、比較的身近にある自然環境を対象に、主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。

■到達目標

野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。

■講義方法

実習は3つの班に分かれ、概ね4回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認する事。

■授業時間外における予・復習等の指示

初回のガイダンス時に、授業時間以外で実施する実習内容について説明するので、指示にしたがう事。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 実習参加状況
レポート (40%) レポート、スケッチを評価。
その他 (20%) 積極性、自発性、協調性を総合評価。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。また野外での実習には、思いがけない危険が伴う。入学時に配布された安全のてびきを熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので、事前の掲示に十分注意すること。

■講義計画

- ①実習ガイダンス
- ②3つのテーマについて実習を行う
- ③陸上生物を中心とした自然観察 (横田岳人)
- ④水域生物を中心とした自然観察 (丸山敦)
- ⑤人間生活と自然 (林 珠乃)
- ⑥博物館 (動物園・植物園) での実習
- ⑦実習まとめ

■講義概要

コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する。まずコンピュータの発展の歴史を延べ、現代および将来の応用分野を示す。次にコンピュータシステムの基盤となる2進数と論理回路などの諸要素について解説する。情報ネットワークに関しては、その基盤となる符号化とデジタル信号処理などの要素技術を解説する。

■到達目標

コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに、これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする。

■講義方法

指定した参考書を中心として進める。授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (20%)
小テスト (20%)
定期試験 (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

三井田他 『情報工学概論』 森北出版 2100円

■講義計画

- ①コンピュータの歴史1
- ②コンピュータの歴史2
- ③コンピュータの歴史3
- ④2進数の基礎
- ⑤2進数の演算1
- ⑥2進数の演算2
- ⑦小テスト
- ⑧2進数の内部表現
- ⑨ブール代数と演算回路1
- ⑩ブール代数と演算回路2
- ⑪コンピュータの構成1
- ⑫コンピュータの構成2
- ⑬ネットワークの基礎
- ⑭コンピュータネットワーク1
- ⑮コンピュータネットワーク2

情報と職業

■サブタイトル

情報化の進展が及ぼす社会生活の変容

■講義概要

情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。

■到達目標

情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。

■講義方法

テキストや資料を用いて授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの内容を把握しておくこと。
授業の終了時に次回の授業に必要な事項について指示するときは、事前に調べて説明できるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
レポート (30%)
定期試験 (40%)
試験、レポート、学習状況等を総合して評価する。

■テキスト

駒谷昇一 辰己丈夫 楠元範明 共著 『I T Text 情報と職業』 オーム社 2500円

■参考文献

文部省 『高等学校学習指導要領解説 情報編』 開隆堂出版株式会社 221円

■履修上の注意・担当者からの一言

高等教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画

- ①ガイダンス 科目「情報と職業」について
- ②情報化の進展と学校教育 (1) 情報化の進展
- ③情報化の進展と学校教育 (2) 情報教育
- ④情報化の進展と学校教育 (3) 情報科教員に求められる資質・能力
- ⑤情報化の進展と学校教育 (4) 校務の情報化の推進
- ⑥情報化の進展と職業 (1) 情報化社会と情報システム
- ⑦情報化の進展と職業 (2) 働く環境の変化と労働観
- ⑧情報化の進展と職業 (3) 企業の情報化と求められる人材の変化
- ⑨企業における情報活用
- ⑩情報化社会における犯罪と法律
- ⑪情報化社会における危機管理
- ⑫産業構造の変化 (1) 産業をとりまく環境
- ⑬産業構造の変化 (2) 産業の動向
- ⑭学校現場と著作権
- ⑮情報と職業のまとめ

■講義概要

環境問題への関心が高まり、「エコ」の語は世間に溢れる。しかし、生態学(ecology)の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の方角や時空間スケール、研究手法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。本講義では、生態学の基礎(共通)概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。

■到達目標

生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の発展諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。

■講義方法

プロジェクトを中心に行う。プロジェクトで示す内容はダウンロード可能だが、教科書の購入および事前学習は必須である。随時小テストを行い、習得状況を確認する。

■系統的履修

生物学序論、生物学概論、または高校「生物II」

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■成績評価の方法

平常点(0%) 講義終了時の課題に正答すれば計30点まで加算する/資料持込禁止
小テスト(40%) 用語の理解度を試す選択式試験を2回実施/資料持込禁止
レポート(0%) 復習・確認テストを公欠の場合にはレポートで補うことが出来る(申し出ること)
定期試験(60%) 記述式の試験を実施する/教科書(書込可)のみ持込可
その他(0%) 講義中の発言によって10点まで加算する

■テキスト

日本生態学会 『生態学入門』 東京化学同人 2940円

教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■参考文献

日本生態学会 『生態学事典』 共立出版 13650円
マッキンジー、ボール、バーディー 『生態学キートン』 シュプリンガー・フェアラーク東京 3360円
ベゴン、タウンゼント、ハーバー 『生態学—個体・個体群・群集の科学』 京都大学学術出版会 12600円

■履修上の注意・担当者からの一言

パワーポイントを併用し、その内容はダウンロード可能にしているが、教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業直後、もしくは環境研究室12(瀬田学舎7号館1階)にて連絡が可能である。

■講義計画

- ①生態学概観、自然史
- ②進化生態学の基礎
- ③分子進化と生態学
- ④生活史の適応
- ⑤性の意義
- ⑥生理生態特性の適応
- ⑦行動の適応
- ⑧社会の適応、復習テスト
- ⑨種内競争と個体群
- ⑩種間競争と個体群
- ⑪被食・寄生と個体群
- ⑫種間相互作用と生物群集
- ⑬生態系と機能
- ⑭応用生態学
- ⑮環境問題と生態学、復習テスト

生体情報概論

■サブタイトル

遺伝情報の伝達メカニズム

■講義概要

組換えDNA技術の発展を背景に、塩基配列レベルでの遺伝情報の解析が飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとより、ヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では組換えDNA技術の基礎となる原核生物の遺伝情報の伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて分子レベルで追及した研究成果を紹介する。

■到達目標

遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように講義を進めていく。

■講義方法

毎回授業計画のテーマに関するプリントを配布し、パワーポイントを用いて講義を進めていく。
プリントの内容はpdfとして提供も可能。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業開始時に配布するプリントのキーワードについて、授業内容の理解を深めるため復習をしておくこと。

■成績評価の方法

定期試験(100%) 筆記試験により成績を評価する。
第1学期試験期間に筆記試験をおこなう。試験に参考資料(本や配布資料など)の持ち込みを許可する。

■テキスト

特になし

■参考文献

J.D. Watson et al. 『遺伝子の分子生物学』 トッパン
B. Alberts et al. 『細胞の分子生物学』 教育社
B. Lewin 『遺伝子第8版』 東京化学同人
いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。一回目の授業時に配布するプリントに入門書を挙げおく。一読することを勧める。

■履修上の注意・担当者からの一言

参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。最初の講義の時に読める本を紹介し、生物科学を専攻したいと考えている人は参考文献の一読を薦める。

■講義計画

- ①遺伝物質の化学的本姓
- ②遺伝物質の構造
- ③遺伝物質の自己複製
- ④遺伝物質の組換え
- ⑤遺伝情報の発現と制御(1) - 原核生物における転写のメカニズム
- ⑥遺伝情報の発現と制御(2) - 真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム
- ⑦蛋白質の構造と機能
- ⑧遺伝情報の発現と制御(3) - 翻訳のメカニズム
- ⑨遺伝子系の保存
- ⑩組換えDNAとバイオテクノロジー
- ⑪トピックス紹介(1) がん遺伝子
- ⑫トピックス紹介(2) 免疫系におけるゲノムの再編成
- ⑬トピックス紹介(3) シグナル伝達
- ⑭トピックス紹介(4) 細胞周期の制御
- ⑮トピックス紹介(5) 生物の形と遺伝子

生物学概論Ⅰ

【担当】 土井田 幸郎

【開講】 前期 木1

■講義概要

生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。とはいえ、生きているということを定義することはむずかしい。本講義では、まず生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。以下、生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなどについて、一年を通して論じるので、生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、両方を選択されるのが望ましい。

■到達目標

学習・教育目標：D1 (◎)

昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして、生命という不思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法

講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、トピカルなことも取り上げる。

■系統的履修

状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学の講義の一時間には二時間の予習と復習の時間が課されている。従って、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

石川統編 『生物学 第2版』 東京化学同人社

近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献

その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

私への連絡は、講義終了時、または水曜日（後期のみ）の午後、もしくは、生物学実験の時間中または後にしてください。

■講義計画

- ①講義に先立って、生物学の学問的位置
- ②生物の階層構造について
- ③生体構成物質1：水、糖質、脂質
- ④生体抗生物質2：タンパク質、核酸、その他
- ⑤細胞生物学1：細胞と細胞構造
- ⑥細胞生物学2：細胞膜の構造と機能
- ⑦細胞生物学3：リソソーム・ペルオキシソーム
- ⑧細胞生物学4：ゴルジ体
- ⑨細胞生物学5：小細胞とタンパク質合成
- ⑩細胞生物学6：ミトコンドリア・エネルギー代謝
- ⑪細胞生物学7：葉緑体・光合成
- ⑫細胞生物学8：細胞骨格
- ⑬細胞生物学9：核・核酸の複製と転写
- ⑭発生生物学1：細胞分裂
- ⑮発生生物学2：細胞周期

生物学概論Ⅱ

【担当】 土井田 幸郎

【開講】 後期 木1

■講義概要

生物学概論Ⅰの講義内容に続き、生物個体はどのような調節機構のもとで成体になるのか、また、それぞれの種の生物の形体や機能の特異性や変異性はどのようにして生じ、維持されるのか、その物質的基礎は何か。生物体の恒常性は、どのようなシステムのもとで維持されているのか。生命の誕生とその後の発展はどのようにして起ったと考えられているのか。動物の行動のもつ意義は何かなど、広範な分野について概観し、解説する。

■到達目標

学習・教育目標：D1 (◎)

昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして生命という不思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法

講義毎にテーマを決め、そのことを中心にして論じる。

■系統的履修

状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学の講義の一時間には二時間分の予習と復習の時間が課されている。したがって、私は講義時間身大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

石川統 『生物学 第2版』 東京化学同人社 2520円

近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献

その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

私への連絡は、講義終了時、または水曜日（後期のみ）の午後、もしくは、生物学実験の時間中または後にしてください。

■講義計画

- ①講義に先立って、前期講義のまとめ
- ②発生生物学3：配偶子形成
- ③発生生物学4：受精の機構と初期発生
- ④発生生物学5：初期発生に基づく動物の分類
- ⑤発生生物学6：情報発現の調節
- ⑥遺伝生物学1：メンデル遺伝学
- ⑦遺伝生物学2：集団遺伝学の基礎
- ⑧遺伝生物学3：形質転換・形質導入・溶原変換
- ⑨遺伝生物学4：突然変異
- ⑩遺伝子工学入門
- ⑪恒常性の維持機構1：神経系の発達・構造・機能
- ⑫恒常性の維持機構2：内分泌系
- ⑬恒常性の維持機構3：免疫学
- ⑭生物進化の考え方
- ⑮動物の行動の生物学的意識

■サブタイトル

プロフェッショナルとして今後60年生き延びる方法

■講義概要

大学生活も半分が過ぎました。ここまでで自分が達成したことを再確認して、次のステップの準備を始めましょう。自分は卒業後にどのような立場で社会に参加するか（60年間ぐらい参加し続けるわけですが、とりあえず最初の10年分ぐらいでもいいです）を考え、それに応じて大学生活後半の計画を立てましょう。

■到達目標

自分の専門性・特技・長所を説得力をもって説明できる。各業種の企業・団体およびそこに存在する職種を取り巻く状況を調査・分析し説明することができる。卒業までの1.5年間の活動計画を立てることができる。

■講義方法

担当教員のレクチャーだけでなく、ゲストによるレクチャー、受講者による課題文書の作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどからなります。

■系統的履修

キャリアデザイン、キャリアプランニングと重複する部分がありますが、この科目では学科の専門性を念頭においた考察を行います。この科目は、学外実習を効果的にするのに役立ちます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の授業内の指示に従い、授業時間外の作業によって課題を完成する必要があります。

■成績評価の方法

平常点（60%） 授業内・外での取り組みや提出した課題の内容を評価します。

その他（40%） 総合演習発表会への参加とプレゼンテーションの内容を評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

時間割上は前期水曜日5講時の科目ですが、6,7月の土曜日に3回分、9月中旬（履修指導期間中）に3回分を実施するので、あらかじめスケジュールを調整してください。

また、教室も講義室・計算機実習室・その他など、回によって変更されます。最新の予定は授業サポート hig3.net を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①興味ある職種・業種を知ろう
- ②自己分析を知ろう・インターンシップを知ろう
- ③自己PR文を作ろう（ワードプロセッサ）
- ④ゲストレクチャー・採用担当者の立場から
- ⑤採用情報を分析しよう
- ⑥企業会計情報を分析しよう（表計算）
- ⑦企業の全体像を語ろう（プレゼンテーション）
- ⑧ゲストレクチャー・企業経営者の立場から
- ⑨ゲストレクチャー・ビジネスマナーを知ろう[講義]
- ⑩ゲストレクチャー・ビジネスマナーを知ろう[実技]
- ⑪企業分析プレゼンテーション・分析およびスライド作成
- ⑫企業分析プレゼンテーション・リハーサル
- ⑬企業分析プレゼンテーション・総合演習発表会
- ⑭企業分析プレゼンテーション・相互アドバイス
- ⑮プレゼンテーションと総合演習を改善しよう（ディスカッション）

地域環境概論

■講義概要

一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これらの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。たとえば、琵琶湖においては、流域の様々な汚濁物質、汚染物質が河川を通じて湖に流入し、琵琶湖の水質を形成していくため、陸域の汚濁源が問題となる。これらの琵琶湖に関連する環境を中心に解説していく。

■到達目標

地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法

パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容に関連する新聞記事、雑誌記事、ウェブニュースを熟読し、その内容について日常を通じて理解を深める努力をする。

■成績評価の方法

平常点（20%） 受講状況等による
定期試験（80%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①地域環境とは何か
- ②流域における水質汚濁源
- ③湖への汚濁源流入プロセス
- ④琵琶湖の水質変化
- ⑤湖内での水質形成プロセス
- ⑥地域での有機物発生源
- ⑦廃棄物処理・循環プロセス
- ⑧流域における水環境の縦断方向の連続性
- ⑨流域における水環境の横断方向の連続性
- ⑩流域における生物多様性（河川）
- ⑪流域における生物多様性（湖沼）
- ⑫流域における水環境の連続性と栄養塩回帰
- ⑬流域における水資源開発（水道用水）
- ⑭流域における水資源開発（農業用水）
- ⑮地域環境を科学する

地学概論Ⅰ

【担当】桑原 希世子
【開講】前期 月3

■講義概要

人間や社会に歴史があるように、自然界にも長い歴史がある。地学の中でも特に自然界を歴史科学的観点から理解しようとする分野がある。自然史学・古生物学・地史学などの分野がこれに相当する。この講義では原始地球から現在までの自然史を、主に生物進化の跡をたどって概観する。生物進化と地球環境の関係、生物界における人類の位置を変えることを狙いとする。

■到達目標

自然の歴史を概観することで、現在の地球環境をグローバルな視点で考える能力を身につける。
そして人類の産業活動と今後の地球環境保全について、洞察力を高めることを目的とする。

■講義方法

ビデオ教材、パワーポイントを使用して進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後にノートを見直し、わからなかった点があれば調べておいてください。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業中に課すプリント問題により評価する。
定期試験 (70%) 点数を評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

川上紳一・東條文治 『地球史がよくわかる本』 秀和システム 1900円
丸山茂徳・磯崎行雄 『生命と地球の歴史』 岩波書店 660円
木庭元晴 『宇宙 地球 地震と火山』 古今書院 2600円
小出良幸 『早わかり地球と宇宙』 日本実業出版社 1400円

大谷栄治・掛川武 『地球・生命 その起源と進化』 共立出版 2200円
J.L.パウエル 『白亜紀に夜がくる』 青土社 2800円
池谷仙之・北里洋 『地球生物学』 東京大学出版会 3000円
この他、授業中に紹介する。

■講義計画

- ①講義概要の紹介
- ②編年と相対年代
- ③数値年代, 古環境の復元方法
- ④太陽系と地球地球形成のシナリオ
- ⑤生命の誕生, 光合成生物の活動が大気組成を変化させた
- ⑥スノーボールアース仮説, カンブリア大爆発: 多様な動物の爆発的進化
- ⑦オゾン層の形成と植物・動物の陸上への進出
- ⑧パンゲア大陸の分裂と生物大量絶滅
- ⑨恐竜の繁栄
- ⑩白亜紀の温室地球、石油の形成
- ⑪中生代／新生代の境界の絶滅のシナリオ
- ⑫ほ乳類の繁栄
- ⑬周期的気候変動とミランコビッチサイクル
- ⑭人類はどのように進化してきたのか
- ⑮地球環境問題・総まとめ

地学概論Ⅱ

【担当】島田 充彦
【開講】後期 水2

■サブタイトル

地球内部の構造と運動

■講義概要

現在、人類は、宇宙の彼方まで見る事が可能となっているが、我々が生存している地球の足下については見る事が不可能である。しかしながら、地球の内部や、そこでの運動（例えば、地震の発生、火山活動、地磁気存在など）は、かなりの程度明らかにされている。どのようにして、見ることでできない地下とそこでの運動が分かってくるかを、過去から現在の考え方への発展と共に解説する。具体的には、地球の形や地表の重力の値から地球の内部の推定、地震学や地球内部を再現する室内実験によって明らかにされてきた地球内部の物理的構造と物質構造並びにそこでの運動について解説する。

■到達目標

学習・教育目標: D 1 (◎)
地球の内部に起因する地震や火山活動は、大きな被害を伴うことから、一般社会においてしばしば報道される。しかしながら、それらは必ずしも正しく理解されているとはいえない。本講義により、正しい知識が得られる。

■講義方法

講義概要の図や表のプリントを配布し、それに基づき板書およびOHCにより講義を進める。

■系統的履修

地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストを数回実施するので、それまでの授業の復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (70%)

■テキスト

プリント使用

■参考文献

日本材料学会編 『岩の力学—基礎から応用まで— 1～6章』 丸善 1993 20600円
山中高光編 『宇宙・地球: その構造と進化』 学術図書 1990 2060円
杉村新他編 『図説地球科学』 岩波書店 1988 3600円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中、講義に集中している者への迷惑（私語、携帯電話、飲食など）を慎むこと。
緊急に必要な場合は退席すること。講義に対する疑問質問は大いに歓迎する。

■講義計画

- ①序 (宇宙における地球、地質時代、地球内部のダイナミクス、プレートテクトニクス)
- ②地球の形
- ③重力
- ④重力の測定と重力異常
- ⑤地震計と地震波
- ⑥震度とマグニチュード
- ⑦地震と断層
- ⑧地震波の伝播と地球内部
- ⑨地球内部の物理的性質
- ⑩地球内部の物質構造
- ⑪高温高压実験 (地球内部の実験室での再現Ⅰ)
- ⑫地球の磁気
- ⑬岩石の変形破壊実験 (地球内部の実験室での再現Ⅱ)
- ⑭リソスフェアの変形
- ⑮ホットスポット・マントルブリューム・ブリュームテクトニクス

地球環境概論

【担当】宮浦 富保、市川 陽一

【開講】後期 月1

■講義概要

近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。

■到達目標

学習・教育目標：B1 (◎), A (○)

地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。

■講義方法

板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかり易く講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で学んだことを理解するために、ネットや図書館を利用して事例研究を行うとともに、様々な観点から地球環境問題の議論が行われていることを確認し、理解を深めていただきたい。

■成績評価の方法

レポート (30%)

定期試験 (70%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①講義の進め方
地球環境とは？
- ②地球の歴史
- ③地球の気候変動
- ④地球の生態系 - 起源と進化
- ⑤地球の生態系 - 生物多様性
- ⑥人類の来歴と環境問題
- ⑦生態系に与える人間の影響
- ⑧地球環境の持続可能性
- ⑨環境汚染 - 陸上
- ⑩環境汚染 - 大気
- ⑪環境汚染 - 海洋
- ⑫地球温暖化
- ⑬エネルギーと地球環境
- ⑭環境問題の対策と見通し
- ⑮まとめ

知的財産概論

【担当】藤河 恒生

【開講】後期 水3

■講義概要

本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、特許書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。特許庁が提供している産業財産権情報、特に特許電子図書館 (I P D L) を活用するため、それをアクセスする基本操作から学ぶこととし、I P D L の操作に関する時間もかなり取っている。本講座を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要性を感じ取ることも目的としている。

■到達目標

産業財産権 (特許、実用新案、意匠、商標) の取得、活用についての全体像を理解する。

特許制度について、全体にわたった基礎的な知識を習得する。将来、産業財産権の制度を利用できるよう実用的な知識を習得する。

■講義方法

配布する資料を使って講義をするとともに、インターネットを用いて実例を参照又は調査したり、電子出願ソフトを用いた特許出願書類作成の練習をしたりする。

講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。また、ゲストスピーカーによる講義もはさむ予定である。

■授業時間外における予・復習等の指示

パソコンの基本的な操作はできるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

レポート (50%)

レポートの課題は、最終講義の2回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①知的財産権 (産業財産権) とは？特許制度とは？
- ②出願から特許権取得までⅠ (特許出願書類)
- ③出願から特許権取得までⅡ (公報、産業財産権情報)
- ④出願から特許権取得までⅢ (審査請求以降)
- ⑤I P D L で特許情報にアクセス／演習
- ⑥発明とは？特許になる発明とは？
- ⑦特許を受けることができる者とは？職務発明とは？
- ⑧発明発掘から特許出願まで
- ⑨特許出願書類を書いてみようⅠ (特許請求の範囲)
- ⑩特許出願書類を書いてみようⅡ (明細書他)
- ⑪外国での特許取得 外国の特許情報にアクセス
- ⑫特許以外の産業財産権制度／実用新案・意匠
- ⑬特許以外の産業財産権制度／商標
- ⑭I P D L で意匠・商標情報にアクセス／演習
- ⑮企業における知的財産権の位置づけ

■サブタイトル

製品設計への人間工学的アプローチ

■講義概要

人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的な方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。

■到達目標

人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる。

機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる。

■講義方法

ノート講義を中心に進めますが、適時OHP等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへの記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習：次のテーマに応じたキーワードの調べ、授業開始時に指定用紙に記入し提出

■成績評価の方法

平常点 (30%) 予習課題の提出をもって平常点とします。
レポート (10%)
定期試験 (60%) 60%の正答率をもって合格とします。
平常点 (30%) とレポート (10点)、定期試験 (60%)、合計100点満点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

長町三生 『現代の人間工学』 朝倉書店 3885円

■履修上の注意・担当者からの一言

解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いないからです。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるように一緒に学んでいきましょう。

■講義計画

- ①人間工学の定義（歴史的背景、人間工学をとりまく研究分野）
- ②人間の生理的特性と心理的特性（感覚器全般）
- ③人間の生理的特性と心理的特性（色の研究の歴史）
- ④人間の生理的特性と心理的特性（色を感じるメカニズム）
- ⑤人間の生理的特性と心理的特性（視覚と色覚特性）
- ⑥人間の生理的特性と心理的特性（色の表現法）
- ⑦人間の生理的特性と心理的特性（聴覚）
- ⑧生理的機能の測定法（筋電、心拍、呼吸、発汗）
- ⑨心理的機能の測定法（官能検査、アンケート調査）
- ⑩動作分析・動作解析（動作分析）
- ⑪動作分析・動作解析（動作解析）
- ⑫動作分析・動作解析（運動計測）
- ⑬マンマシンシステム（フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能）
- ⑭マンマシンインターフェイス（歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ）
- ⑮インターフェイスの最新事例（人工現実感）

物理実験（2007年度以降入学生）

理工学基礎実験A（2006年度以前入学生）

■サブタイトル

理工学基礎実験

■講義概要

理工学の全ての分野の基礎となる力学、光学、熱学、電磁気学、原子物理学の分野から選ばれた基本的で重要な11種の実験について実習する。数理工学の分野でも実験技術は非常に重要であり、将来卒業研究や大学院において、新しい方法を実験で検証したり、新しい実験装置や機器を製作したりすることが必要になるが、そのためのトレーニングになる。ノギス、マイクロメーター、サーキットテスター、デジタルボルトメーター、オシロスコープなどの簡単な道具や測定器をいつでも使えるようにすること、得られた実験データの誤差が評価できて、有効数字が分かること、重力加速度、波の波長、速度、振動数、温度、熱起電力、活性化エネルギー、電気抵抗、電圧、電流、ローレンツ力、ヤング率、光の波長、屈折率、波の干渉、回折などの概念について実験によって深く理解することを目標とする。プレゼンテーションの練習のため、最後に発表会も行う。

■到達目標

種々の実験の原理を理解する。ノギスなどの基礎的器具を使えるようになる。実験データの誤差を評価できる。積極的に質問し、自ら進んで勉強できるようになる。

■講義方法

実験指導書にそって、二人一組で、毎回1つのテーマの実験を行う。レポートを各自まとめて提出する。

■系統的履修

物理的基礎科目と物理実験を続けて履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

事前にテキストを良く読み、実験の内容を良く理解してから実験を開始すること。実験終了後は、参考書などを利用して実験中の疑問点などを調べ、レポートにまとめること。

■成績評価の方法

レポート (80%)
定期試験 (20%)
毎回のレポートを主体（約8割）にし、まとめの試験（約2割）を加味して総合的に評価する。

■テキスト

龍谷大学理工学部編 『物理実験』

テキストは初回に配布します。関数電卓とA4ノート1冊を各自用意して下さい。

■参考文献

小出昭一郎 『物理学（三訂版）』 裳華房 2100円

原 康夫 『物理学基礎』 学術図書出版社 2400円

■履修上の注意・担当者からの一言

初回のガイダンスとノギスの使い方の実験を無断欠席すると、今期履修しないものとみなすので注意して下さい。まず実験の原理、方法を自習して、考えても分からなかったことをTAに質問し、分からなかった理由を考えることにより力をつけて下さい。受講マナーにも気を付けて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

実験1テーマにつき1人のTAが配置された少人数教育であるので、3コマ連続の時間を有効に利用して物理の内容についても、どんどん教員およびTAに質問して下さい。

■講義計画

- ①ノギスの使い方
- ②振り子によるgの測定
- ③のびによるヤング率の測定
- ④弦の振動の実験
- ⑤分光器の実験
- ⑥レーザー光の回折実験
- ⑦テスターの使い方とパルス回路
- ⑧アナログ回路
- ⑨電気抵抗の温度変化
- ⑩熱起電力
- ⑪電子の比電荷の測定
- ⑫発表会準備と追加実験（公欠の人）
- ⑬発表会
- ⑭レポート総合指導
- ⑮まとめの試験及び解説

学科固有科目

(数理情報学科)

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
ア	アルゴリズム・演習／ アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	馬 青	後期 木2・木3	227
オ	応用アルゴリズム／ ネットワーク・アルゴリズム	宇土 顯彦	後期 月 2	227
	応用プログラミング演習／ プログラミングおよび実習Ⅱ	高橋 隆史／佐野 彰	後期 月4・月5	228
	応用数理B	國府 宏枝	前期 月 2	229
	オートマトン	植村 渉	前期 木 3	230
カ	確率統計・演習Ⅰ／ 確率・統計および演習Ⅰ	四ツ谷 晶二	後期 月 1	231
	確率統計・演習Ⅱ／ 確率・統計および演習Ⅱ	中野 裕治	前期 火 4	232
	関数解析	村井 実	前期 水 4	233
	関数論・演習／ 関数論および演習	森田 善久	前期 木2・木3	233
キ	記号処理	中野 浩	前期 木 4	234
	基礎セミナー	中野 浩	前期 火 5	234
	基礎セミナー	大西 俊弘	前期 火 3	235
	基礎セミナー	松本 和一郎	前期 木 2	236
	基礎セミナー	四ツ谷 晶二	前期 木 2	236
ク	グラフィックス基礎	高橋 隆史	前期 火 1	237
	グラフィックス基礎実習	高橋 隆史	前期 火 2	237
	グラフィックス基礎・演習	高橋 隆史	前期 火1・火2	238
ケ	計算科学Ⅰ	池田 勉	後期 月 2	239
	計算科学Ⅱ	樋口 三郎	前期 水 3	240
	計算科学演習Ⅰ／ 計算科学実習Ⅰ	池田 勉	後期 月 3	241
	計算科学演習Ⅱ／ 計算科学実習Ⅱ	樋口 三郎	前期 金 3	242
	計算機援用数学／ 固有値問題	四ツ谷 晶二	前期 木 1	242
	計算機システムⅠ／ 情報処理システムⅡ	佐野 彰	前期 木 3	243
	計算機システムⅡ／ 計算機アーキテクチャ	高橋 隆史	後期 金 4	243
	現象の数学A／ 現象の数学Ⅰ	四ツ谷 晶二	前期 月 3	244
	現象の数学B／ 現象の数学Ⅱ	樋口 三郎	後期 火 3	244
シ	集合と位相・演習／ 集合・位相および演習	國府 宏枝	前期 木1・木2	245
	情報処理の基礎／ 情報処理システムⅠ	中野 浩	後期 水 3	245
ス	数学序論	飯田 晋司／池田 勉／ 阪井 一繁	前期 金 3	246
	数値計算法	松木平 淳太	前期 金 1	246
	数値計算法演習／ 数値計算法実習	松木平 淳太	前期 金 2	247
	数理計画法	山下 信雄	後期 火 2	247

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
	数理情報演習	全教員	後期 月4・5 or 木4・5	248
ス	数理モデル基礎・演習Ⅰ／ 数理モデル基礎および演習Ⅰ	四ツ谷 晶二	前期 月 1	248
	数理モデル基礎・演習Ⅱ／ 数理モデル基礎および演習Ⅱ	山岸 義和	後期 水 1	249
セ	セミナー	全教員	前期 月4・5 or 木4・5	249
	線形代数・演習Ⅰ／ 線形代数および演習Ⅰ	池田 勉	前期 火4・火5	250
	線形代数・演習Ⅱ／ 線形代数および演習Ⅱ	松本 和一郎	後期 木1・木2	251
タ	大域解析	森田 善久	後期 火 2	251
	多様体と力学系	國府 宏枝	後期 月 2	252
テ	デジタル信号処理／ 信号処理	藤田 和弘	後期 木 3	252
	データ構造とアルゴリズム／ アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	馬 青	前期 月 4	253
	データベース／ データベースシステム	曾我 麻佐子	後期 月 3	253
	電気と磁気／電磁気学	飯田 晋司	前期 水 3	254
ト	特別研究	全教員	通年 集中	254
	特別講義	四ツ谷 晶二	通年 集中	255
ニ	認知科学と人工知能／ 人工知能	小堀 聡	後期 火 4	255
ネ	ネットワーク構成論	岡田 至弘	後期 火 2	256
ハ	パターン情報処理／ パターン認識	高橋 隆史	前期 金 2	256
ヒ	微積分・演習Ⅰ／ 微積分および演習Ⅰ	阪井 一繁	前期 木4・木5	257
	微積分・演習Ⅱ／ 微積分および演習Ⅱ	森田 善久	後期 月4・月5	257
	微分幾何／ 微分幾何入門	松本 和一郎	後期 水 3	258
フ	物理学序論	國府 宏枝／松木平淳太／ 松本 和一郎	後期 金 3	258
	物理数学・演習Ⅰ／ 物理数学および演習Ⅰ	飯田 晋司	前期 月4・月5	259
	物理数学・演習Ⅱ／ 物理数学および演習Ⅱ	松木平 淳太	後期 木4・木5	259
	プレゼンテーション演習	野口 昌子	前期 月 1	260
	プレゼンテーション演習	野口 昌子	前期 月 2	261
	プログラミング・演習／ プログラミングおよび実習Ⅰ	馬 青	前期 火2・火3	262
	ベクトル解析／ 応用ベクトル解析	阪井 一繁	前期 水 1	262
ヘ	偏微分方程式	松本 和一郎	前期 水 1	263
	メカトロニクス	渋谷 恒司	後期 金 2	263
リ	力学／力学Ⅰ	飯田 晋司	前期 月 2	264
	離散数学・演習	國府 宏枝	後期 金 2	264
	理論物理B／力学Ⅱ	大坂 寿之	後期 水 2	265

学科固有

アルゴリズム・演習（2007年度以降入学生）
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】馬 青
【開講】後期 木2・木3

■講義概要

与えられた問題をコンピュータで解くには、まずその問題を把握し、どのような手順で解いて行けばよいかを考え、その手順にそってプログラムを作成する必要がある。この問題解決の手順をアルゴリズムという。この講義では、ソートや探索などの基本的なアルゴリズムについて学ぶ。また、演習を通じて、学んだアルゴリズムについての理解を深めるとともに、それらをプログラムで実現する能力を養う。さらに、各種ソート法のプログラムを作成しそれらの性能（実行速度）を比較する実験を通してアルゴリズムの性能評価についても考える。

■到達目標

情報科学の分野における基礎知識を習得するとともに、コンピュータを利用した、基本的な問題解決能力を身につけることである。

■講義方法

毎週2講時（講義1講時と演習1講時）の授業が開講される。講義部分では、配布資料を使った解説の後、紙上演習を行い、内容理解を深める。演習部分では与えられた課題を、担当教員やティーチングアシスタントの助言を得ながら計算機上で完成させていく。

■系統的履修

計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱ、プログラミング・演習

■授業時間外における予・復習等の指示

次回授業の1週間前に、講義プリントと演習課題をWebに載せておくようにしているので、必ず予習しておくこと。また、毎回の授業後は、未完成の演習課題と復習に十分な時間をかけること。

■成績評価の方法

平常点（30%）演習課題の完成状況＋平常点
レポート（20%）
定期試験（50%）

■テキスト

プリントを配布（Webからもダウンロード可）

■参考文献

石畑清 『アルゴリズムとデータ構造』 岩波書店
小澤孝夫 『コンピュータ・アルゴリズム』 昭晃堂

■講義計画

- ①導入：アルゴリズムとは
- ②導入：アルゴリズムの評価
- ③選択ソート
- ④バブルソート
- ⑤ヒープソート：ヒープ、ヒープ化
- ⑥ヒープソート：ヒープソート
- ⑦クイックソート
- ⑧各種ソート法の比較実験（レポート課題）について
- ⑨線形探索法、二分探索法
- ⑩ハッシュ法：基本的な考え方、ハッシュ関数、衝突
- ⑪ハッシュ法：ハッシュ表の作成、ハッシュ探索
- ⑫比較実験（レポート課題）の解説
- ⑬文字列探索：C言語の文字列処理とファイルの入出力、力任せ法
- ⑭文字列探索：応用例
- ⑮復習・質疑応答

応用アルゴリズム（2007年度以降入学生）
ネットワーク・アルゴリズム（2006年度以前入学生）

【担当】宇土 顯彦
【開講】後期 月2

■サブタイトル

データ構造とアルゴリズムの知識を、ネットワーク関連を題材として深める

■講義概要

まず、通信網や電気回路網などのネットワークを抽象的に扱うための、グラフに関する基礎的な概念と用語について説明し、ついで、グラフにおける探索、さらに重み付きグラフにおける最小コスト木、最短路を求めるアルゴリズムなどを紹介する。直観的な説明と、的確な記号を使つての正確な記述の両面から理解を深める。

■到達目標

論理的思考力の向上、ソフトウェア開発の基本的能力の獲得

■講義方法

各回の授業では、まず一通り説明した後に演習問題を解いてもらい（出席確認を兼ねる）最後にその正解を示す。

■系統的履修

データ構造とアルゴリズムに関するまとめの科目である。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業に先だって前回の復習を確実にしておくこと。

■成績評価の方法

平常点（12%）
定期試験（88%）
（1）期末試験の成績（100点）（2）レポート点（各回0.8点：基準を満たした場合）の合計（上限100点）

■テキスト

プリントを適宜配布

■参考文献

小澤孝夫 『コンピュータアルゴリズム』 昭晃堂（絶版）

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の順序は講義計画のとおりであるが、実施日は多少前後に移動することがある。

■講義計画

- ①ネットワークとその抽象的扱いのためのグラフ
- ②アルゴリズムのPADによる記述、計算複雑度
- ③集合
- ④グラフに関する記述法と基本操作
- ⑤無向グラフ、有向グラフの要素と種類
- ⑥2分木とその探索、アルゴリズムの再帰的記述
- ⑦スタックとキュー、グラフにおける広さ優先探索
- ⑧グラフにおける深さ優先探索
- ⑨コスト最小木（Kruskal法）
- ⑩コスト最小木（Prim法）
- ⑪最短路アルゴリズム（アサイクリック）
- ⑫最短路アルゴリズム（Dijkstra法）
- ⑬最大フローアルゴリズム
- ⑭マッチングアルゴリズム
- ⑮全体の復習、傾向と対策

■講義概要

計算機プログラムは、本来「なにか」を計算機で高速に効率的に処理したいという目的があって作成されるものです。したがって、実用的なプログラムを作成する際には、現実の様々なデータ形式に応じた計算や入出力を行う必要があります。この科目では、C言語を用いて、画像データやネットワークデータなどの具体的なデータを処理するプログラムを作成することで、より実際のプログラミングの作法を学びます。

■到達目標

現実の多様なデータを処理するためのプログラミング作法を修得する。少し大きな規模のプログラムが作成できるようになる。

■講義方法

講義とその内容に沿ったプログラミング演習を行います。

■系統的履修

「プログラミング・演習／プログラミングおよび実習Ⅰ」の後を継ぎ、プログラミング能力のさらなる強化を目指します。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習ならびに演習課題に取り組むために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります。

■成績評価の方法

平常点（70%）主に演習の課題達成度（授業中のミニテストの得点率も含む）

レポート（30%）

■テキスト

プリントを適宜配布。必要に応じてウェブページで課題等を提示。

■参考文献

英語の読み書きを学ぶために辞書が必要なように、プログラミング言語を学ぶためにはその書き方をすぐに調べられる情報源を手元に用意しておくべきです。書店に行けば山ほどC言語の書籍がありますので、

辞書のように使える&自分の好みに合うものを手に入れておくことを強くおすすめします。講義でも幾つかの参考書を紹介する予定です。もちろん既に所有しているものが使えそうならそれでも構いません。使えそうなウェブページなどを自分で見つけておくのもよいでしょう。

■履修上の注意・担当者からの一言

この科目は、2007年度以降入学生にとっては「応用プログラミング演習」という名前であり、2006年度以前入学生にとっては「プログラミングおよび実習Ⅱ」という名前です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1号館5階に掲示される担当教員のオフィスアワーを確認してください。

■講義計画

- ①よりよい授業にするために、項目ごとの開始時期を前後にずらしたり順序を入れ替えたりすることがあります
- ②Linux環境でのプログラミングに必要な知識・操作法の復習と、C言語の復習（主に関数）
- ③画像を処理してみよう
- ④画像を処理してみよう
- ⑤画像を処理してみよう
- ⑥郵便番号簿の探索
- ⑦郵便番号簿の探索
- ⑧郵便番号簿の探索
- ⑨前半のまとめと後半の導入
- ⑩計算機ネットワークとプロトコル
- ⑪TCP/IPのしくみ
- ⑫サーバ・クライアントシステム
- ⑬サーバ・クライアントシステム
- ⑭サーバ・クライアントシステム
- ⑮ネットワークプロトコルの設計
- ⑯足し算プロトコル

■サブタイトル

解析力学+剛体の力学への応用

■講義概要

物理数学・演習や力学で、正しく運動方程式をたてるのって大変じゃありませんでしたか? 力や加速度はベクトルだから大きさだけじゃなくて向きも考えなきゃいけなかったし、座標軸をうまく選ばないとあとで大変になるし、極座標だったら合成微分をがんがん使って運動方程式を書き変えなきゃいけなかったし、運動が斜面上に限定されてたら抗力なんていう変な力を導入しなきゃいけなかったし、

この授業では、それらはすべて無駄な努力だったことを説明します(嘘です、たぶんそれらの努力をしてないとこの授業の内容は理解できません)。Newtonの運動方程式と等価だけどどんな座標系でも簡単に立てられる、ベクトルを使わないEuler-Lagrangeの運動方程式を導入します。そして、Newtonの運動方程式が世界の法則である理由を理解します。それは、宇宙が「作用」と呼ばれる量の最小値を見つけないといけないから(なぜ見つけようとしているか? そこは理論物理Bに丸投げ)。このような考え方による力学のことを解析力学と呼んでいます。後半では、この解析力学の考えを用いて、2年次の力学よりも進んだ剛体の力学を考えます。力学ではオープンに軸が固定されたバーベキューの串の運動を考えましたが、この科目では、バーベキューの串をひねりをいれて空中に投げた場合まで考えます。また、このような運動の数値計算をする(例えば3Dのゲームで)のに便利な表示についても説明します。この部分は、Lie群やLie代数という数学に広がっていきます。

■到達目標

運動方程式と言ったらNewtonでなくEuler-Lagrangeのものが思い浮かぶようになること、ひねりをいれて空中に投げたバーベキューの串をうまくキャッチできるようになること。

■講義方法

週1回の講義からなる科目です。講義資料と黒板を併用します。授業時間内に問題を解いてもらい添削することで、演習がないディスアドバンテージを補います。

■系統的履修

この科目は応用数理Aの続きではなく、2年次の力学の続きです。この科目に続いて、大域解析で変分法を深く学ぶことができます。理論物理B(量子力学)は、この科目で学ぶ解析力学の言葉を使うとよりよく理解することができます。

■授業時間外における予・復習等の指示

eラーニングシステム上での予習復習をしてもらいます。

■成績評価の方法

小テスト(70%)

定期試験(30%)

スコアレポートは龍谷大学eラーニングシステムReLSで表示します。

授業時間外の予習復習その他の活動に加点する場合があります。合計が100点以上になる場合は100点とみなします。

■テキスト

特になし

■参考文献

高木隆司『力学(Ⅱ)』裳華房 1900円

2009年度の力学の教科書なので再利用してください。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義方法・講義計画の詳細は、到達目標になるべく近づくために、その回までの授業での達成度に応じて随時変更することがあります。

■講義計画

- ①一般化座標と変数変換
- ②Euler-Lagrangeの運動方程式
- ③Euler-Lagrangeの運動方程式の応用
- ④Euler-Lagrangeの運動方程式の連成振動への応用
- ⑤Hamiltonの最小作用の原理
- ⑥正準変換
- ⑦対称性と保存量
- ⑧晩秋のプチテスト
- ⑨固定軸を持つ剛体の運動
- ⑩慣性テンソルと慣性主軸
- ⑪Eulerの運動方程式
- ⑫Eulerの運動方程式の解
- ⑬オイラー角と回転行列
- ⑭Quaternion表示
- ⑮ファイナルトライアル

■講義概要

オートマトン (Automaton) とは計算機システムの動作原理をシンプルに数学的に表記したものである。本科目では「オートマトンとはどのようなものか」から始めて、その数学的表現、基本的諸性質を具体例を通して説明する。さらに記号列の集合を定義する生成文法との関連について説明する。

■到達目標

状態遷移図が理解でき、言語とオートマトンの関係、決定性と非決定性の動作の関係等を理解すること。

■講義方法

基本的に教科書に従って進めるが適宜問題を出し演習も行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書をしっかりと読んでくること。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)
期末のテストで評価する。

■テキスト

富田悦次／横森貴 『オートマトン・言語理論 (基礎情報工学シリーズ5)』 森北出版株式会社

■参考文献

特になし

■講義計画

- ① オートマトンとは
- ② 状態と状態遷移
- ③ 順序機械
- ④ 有限オートマトン
- ⑤ オートマトンの等価性
- ⑥ 非決定性有限オートマトン
- ⑦ 言語演算
- ⑧ 正則表現
- ⑨ 正則表現と有限オートマトン
- ⑩ 演習の解説
- ⑪ 形式文法
- ⑫ 正則文法
- ⑬ 正則文法と有限オートマトン
- ⑭ 演習の解説
- ⑮ まとめ

■サブタイトル

データの解析、統計学

■講義概要

数字の誤用や悪用の例は枚挙にいとまがない。悪用にだまされたり、無意識に誤用することのないようにすることは、社会の中で生きていく上で非常に大切なことである。そのとき必要なのが統計学の知識である。

統計学は数学は使うが数学そのものではなく、社会科学的側面が大きい。数式ばかりに目を奪われていると、本来身に着けるべき統計学に特有の考え方の修得はさっぱりということになりかねない。とはいえ、数学なしにより深い理解は得られない。

この講義では、確率論にはできるだけ立ち入らずに統計学特有の考え方を丁寧に説明する。同時に、1年生で学んだ微積分・線形代数の知識を使い数学的な側面もしっかりおさえて、確率・統計の考え方の基礎がしっかり身につくような講義を行う。

■到達目標

- ・確率分布と確率変数の意味をしっかり理解する。
- ・正規分布・中心極限定理を理解し、応用できるようにする。
- ・推定・検定を基本的な問題が解け、応用できるようにする。
- ・相関係数・回帰分析の意味を理解し、応用できるようにする。

■講義方法

- ・適宜プリントを配布し、それに基づいて講義・演習を行う。
- ・統計に必要な数学の部分から、適宜、レポート課題を出す。
- ・理解を確認するため、2～3回、小テストを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりすること。

■成績評価の方法

小テスト（30%）2～3回実施する。

レポート（30%）5回程度課す。

定期試験（40%）

- ・レポートはA4用紙に書き、期限厳守のこと（期限を過ぎたものは受け取らない）。
- ・インフルエンザ・介護実習等のしかるべき理由で期限を過ぎた場合については、レポートにその旨を朱書き証明する書類を添えて提出すれば期限内提出レポートと同じ基準で評価する。
- ・インフルエンザ・介護実習等のしかるべき理由で小テストを受けることができなかった場合、レポート提出等で代替する。

■テキスト

特になし

■参考文献

笠原勇二『確率論入門』 数学書房 2100円

この本は、確率統計・演習Ⅱの教科書である。確率統計・演習Ⅰでは、この本の理論を抜粋して応用する。意欲のある学生は、購入していて損はない。

■履修上の注意・担当者からの一言

配布プリントは必ず持参して下さい。プリントのデータや、数表を利用するためです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

- ・オフィスアワーは講義の際に、お知らせします。
- ・緊急の場合等は shoji@math.ryukoku.ac.jp にメールを下さい。日時を調整します。

■講義計画

- ①データとその表現
- ②データの平均と分散
- ③相関係数 回帰直線
- ④基本的な確率分布
- ⑤正規分布の重要性
- ⑥推定の考え方
- ⑦平均値の推定（母分散既知）
- ⑧平均値の推定（母分散未知）
- ⑨比率の推定
- ⑩検定の考え方
- ⑪平均値の検定（母分散既知）
- ⑫平均値の検定（母分散未知）
- ⑬比率の検定 χ^2 検定
- ⑭確率空間・確率変数・確率分布
- ⑮全体のまとめ

■サブタイトル

確率論入門

■講義概要

確率・統計Ⅰでは、基本的な統計の検定を学びました。この講義では、確率論の考え方、方法を学び、今後の研究、他の分野との関連も考慮して話を進めます。近代確率論は、古典確率論の発展を受けて、20世紀に旧ソビエトのコルモゴロフにより確立されました。

確率論は、統計学の理論を支え、現代では数学の解析のみならず、物理学においては統計物理、気象学等、経済学では、金融工学に多大なる影響を与えています。講義では、まずさまざまな不確实现象（確率現象）について復習し、現象に付随する統計値の計算を学びます。一見規則性のない現象でも、大数の法則や中心極限定理といわれる法則が発見されており、さまざまな分野に応用されています。これを次に学びます。条件付き確率の考えは、気象の予報など広くその考え方は普及しており、独立性と合わせて大事な概念でこれらをきっちり理解する必要があります。花粉のジグザク運動から発見されたブラウン運動は、ランダムウォークからも導かれ、今日では金融工学の基本事象になっていて、ブラック・ショールズ方程式は“金融工学の金字塔”と言われています。講義では、これらを初等的な方法で導き、講義の後半は演習室で確率現象のシミュレーションを学びます。

■到達目標

1. 二項分布や正規分布などの確率現象の数学構造の把握
2. 大数の法則や中心極限定理、確率解析方法としての特性関数などの理解
3. 独立性、条件付き確率などの概念の理解と応用する力を身につけること
4. ランダムウォークやブラウン運動などの時間とともに変動する動きの理解
5. ブラック・ショールズ方程式などの確率論の応用モデルに興味を持つこと
6. 確率現象をシミュレーションする力を身につけること

■講義方法

教科書「明解 確率論入門」に沿って、授業を進めます。講義方法は、要点となる概念や教科書では省略されている計算を補いつつ、重要な定理の証明はきちんと説明します。演習では、TAに手助けしてもらってプログラムを作成したり、Excel や Mathematica によるシミュレーションや作図を行います。

■系統的履修

初等的な微積分, Excel などの計算技術

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で与えられた演習問題を、復習して理解してください。

■成績評価の方法

平常点（40%）習熟度によって判定します。

定期試験（60%）

実習には、必ず出席し、わからないことは TA に質問すること。

■テキスト

笠原勇二『明解 確率論入門』 数学書房 2100円

コンパクトにまとめた良書。講義の理論はこの本で学ぶ。

■参考文献

岡部靖憲『確率・統計－文章題のモデル解法－』 朝倉書店 2800円

山本浩ほか『シミュレーションによる確率論』 日本評論社 2900円

「確率・統計－文章題のモデル解法－」は、確率現象をどのようにして数学モデルとして構成していくかを示した、素晴らしい教科書です。確率論の考え方をやさしくしかも深く解説していて、確率論の体系的方法を得ることができます。「バイオサイエンスの統計学」は Excel を使って、さまざまな医学データの統計的検定を実践しています。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に使う数学は、必要最小限説明します。教科書は必ず持参して下さい。教科書のデータや、数表を利用するため。卓上計算機も持参が望ましい。わからないときは質問して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等は、y-nakano@biwako.shiga-u.ac.jpへメール下さい。

■講義計画

- ①基本の復習（1）確率変数
- ②基本の復習（2）いろいろな分布
- ③期待値
- ④分散
- ⑤ランダムウォーク
- ⑥ブラック・ショールズの公式
- ⑦条件付き確率と独立性
- ⑧特性関数
- ⑨演習室での実習（1）
- ⑩演習室での実習（2）
- ⑪演習室での実習（3）
- ⑫演習室での実習（4）
- ⑬演習室での実習（5）
- ⑭演習室での実習（6）
- ⑮演習室での実習（7）

■サブタイトル

無限次元の線形代数

■講義概要

ある条件を満たす関数全体をベクトル空間と見なすことができる場合があり、線形代数が展開できる。しかし、いわゆる「線形代数」として学習した時と異なる点は、これらの空間は無限次元で、そのために（部分）空間に基底が存在するかどうかが自明でなくなる。この点を克服して、有限次元で得られたすばらしい結果（特に、行列の対角化）を無限次元に拡張したい。それがヒルベルト空間であり、ヒルベルト空間上の自己共役作用素の固有関数展開である。残念ながら、例えば連続関数の全体はベクトル空間ではあるが、ヒルベルト空間ではない。それでは、どのような空間がヒルベルト空間になるのであろうか？

物理の美しい理論に現れる方程式はヒルベルト空間上の（非有界）自己共役作用素でありその固有関数系が完全系をなせば、初期値を固有関数展開することにより、解の固有関数展開もごく簡単に求まる。かくして、偏微分方程式がごく簡単に解ける。通常の偏微分方程式の解法には多大な計算と精緻な推論が必要であることに比べると、この理論のすばらしさが分かる。

この講義では、有限次元のユークリッド空間とヒルベルト空間の相違点と共通点を明確にしていく。80%は有限次元の場合と共通であるから、有限次元の「線形代数」をしっかり身につけて授業に臨むことが肝要である。

■到達目標

ヒルベルト空間が「無限次元ユークリッド空間」として理想的な性質を持つことを理解し、微分方程式の解法への応用の考え方を身につける。

■講義方法

座学中心であるが、講義中に適宜演習を行って、知識の定着を図る。

■系統的履修

「線形代数Ⅰ、Ⅱ」，「微積分および演習Ⅰ、Ⅱ」が基礎である。

■授業時間外における予・復習等の指示

抽象的な概念を取り扱うので、必ず復習をする。

■成績評価の方法

レポート（40%）

定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

加藤敏夫著 『位相解析』 共立出版株式会社 5300円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義終了後、質問を受け付ける。

■講義計画

- ①一般のベクトル空間
- ②ベクトル空間とその例
- ③内積とノルム
- ④ノルム空間とその例
- ⑤点列の収束と完備性
- ⑥ヒルベルト空間とその例
- ⑦有界集合とコンパクト集合
- ⑧中間まとめ
- ⑨ベッセルの不等式
- ⑩完全正規直交系
- ⑪完全正規直交系の存在
- ⑫有界作用素とその共役作用素
- ⑬コンパクト作用素
- ⑭有界な自己共役作用素と固有関数展開
- ⑮後半まとめ

関数論・演習（2007年度以降入学生） 関数論および演習（2006年度以前入学生）

【担当】森田 善久

【開講】前期 木2・木3

■サブタイトル

複素関数，正則関数の性質

■講義概要

まずは複素数，複素平面の扱いに慣れる。つぎに複素関数とはどういうものか，その導関数はどのように定義できるかを解説する。複素関数の正則性から，コーシーの積分定理や積分公式など非常にシンプルできれいな性質が導かれる。このような理論は実用的な計算に応用できることを演習問題を交えて解説する。

■到達目標

複素数の世界まで関数概念を広げることによって，新しい視野の獲得や数学的な発想を学ぶ。また応用として留数計算など新しい積分計算の方法をマスターする。

■講義方法

講義と演習を実施する。講義では複素関数の性質や計算方法をていねいに解説する。演習では基礎的問題を多数解くことに主眼をおく。

■系統的履修

微積分・演習Ⅰ，Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の演習プリントの残りは宿題となります。復習も兼ねてしっかりと解いてください。

■成績評価の方法

平常点（10%）

小テスト（30%）中間試験を1回実施する。

定期試験（60%）

■テキスト

原 惟行・松永秀章 『複素解析入門』 共立出版 1995円

概ねテキストに沿って重要ポイントを解説しながら進めてい

きます。

■参考文献

寺田文行・田中純一 『演習と応用 関数論』 サイエンス社 1680円

■履修上の注意・担当者からの一言

複素数の扱いが苦手な人が多いですが，この講義と演習を受講して複素数へのコンプレックスを克服し，複素関数の新しい世界を体験してください。数学の持つ自由な発想がいかにして応用に結びつくかを体験できる分野です。ただし，基礎的な事項から積み重ねていきますが，新しいことがたくさん出てくるので，油断しないよう気をつけましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

第一回目の授業のときに連絡する。

■講義計画

- ①複素数の性質：複素数計算，極形式，オイラーの公式
- ②複素平面と複素数列：複素平面，数列の収束
- ③複素関数：複素関数，写像
- ④複素関数の微分：コーシー・リーマンの関係式
- ⑤初等関数：指数関数，三角関数，対数関数
- ⑥前半の復習（中間試験）
- ⑦複素積分：曲線，領域
- ⑧コーシーの積分定理
- ⑨正則関数の積分表示：コーシーの積分公式
- ⑩関数の級数展開：テイラー展開，零点の位数
- ⑪特異点とローラン展開：ローラン展開，孤立特異点
- ⑫一般の関数のローラン展開
- ⑬留数の定理
- ⑭留数の定理の応用
- ⑮後半の復習

■サブタイトル

コンパイラ構築の実際

■講義概要

簡単な手続き型プログラミング言語を例として、コンパイラ構築の基本的事項について解説し、Cを用いたコンパイラの構築をしていきます。その中で、プログラムがどのように計算機アーキテクチャと関わっているのかについての理解を深めます。この講義のねらいは、1. コンパイラの内部構造を知ること、2. ある程度大きなソフトウェアの構成を知ること、3. 種々のプログラミング技法に触れることの3つです。受講者がCによるプログラミングに習熟していることを前提としています。

■到達目標

日頃お世話になっているコンパイラが、どのような仕組みで動いているのかが理解でき、それがプログラミング能力の向上につながってくれることを期待します。

■講義方法

配布したプリントに沿って講義を行います。概念的な話だけではなく、具体的なプログラムを提示しますので、受講者は自習時間にCを用いて実際にコンパイラを構築して行くことができます。

■系統的履修

「計算機アーキテクチャ」を履修していると内容の理解の助けになるはずです。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間以外の学習を前提に授業を進めます。第2回以降の授業の資料は事前に配布しますので、十分予習してください。ほぼ毎回演習課題が宿題に出ます。

■成績評価の方法

その他（100%）自由記載欄を参照して下さい。
期末試験（100点満点）と提出された課題等で評価します。期末試験が x 点、課題の得点率が $y\%$ の場合、総合的な成績は $x + (100 - x) y / 400$ （端数切り捨て）となります。

■テキスト

特になし

■参考文献

湯浅太一 『コンパイラ』 昭晃堂 3465円
R.ハンター 『コンパイラ構成論』 近代科学社 3360円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中は集中力が必要になると思います。それを覚悟して受講して下さい。

講義回数を確保するため補講を行うことがあります。

■講義計画

- ①コンパイラの内部構成
- ②BNF記法と構文木
- ③構文図
- ④構文図からのパーザの生成
- ⑤プログラミング言語Minimum C
- ⑥Minimum Cの字句解析
- ⑦Minimum Cの構文解析
- ⑧仮想計算機MVM
- ⑨MVMにおけるメモリ割り当て
- ⑩オブジェクトの管理1
- ⑪オブジェクトの管理2
- ⑫式に対するコード生成1
- ⑬式に対するコード生成2
- ⑭文に対するコード生成
- ⑮コンパイラの完成

基礎セミナー

■サブタイトル

大学対抗国際プログラミングコンテストに挑戦

■講義概要

3人のチームでプログラムを作り、制限時間内にいくつかの問題を解けるかを競う ACM/ICPC という国際コンテストに参加します。昨年度は、残念ながら国内予選を勝ち抜きアジア地区予選に進むことはできませんでしたが、今年度こそ雪辱を果たしたいと思います。プログラミングが好きな人、プログラミング能力を磨きたい人、とりあえず何でも挑戦してみたい人、いろいろな人が集まるのを期待しています。

■到達目標

プログラミングという知的活動の中に現れるいろいろな考え方に多く触れること、自分のアイデアを他の人に的確に伝えたり、他の人の説明に的確な質問をする能力を磨くこと、プログラミングを楽しむことの3つが目標です。

■講義方法

主に、過去のコンテストで出題された問題や模擬問題のプログラミングを繰り返すことが中心となります。適宜、いろいろな技法について解説を行います。講義計画は受講者に合わせて随時変更する予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示

多くの問題に挑戦するなど、授業時間外にもプログラミングの時間が必要となります。

■成績評価の方法

その他（100%）テーマに対する取り組みの姿勢や達成度を担当教員が評価します

■テキスト

特になし

■参考文献

秋葉 拓哉、岩田 陽一、北川 宜稔 『プログラミングコンテストチャレンジブック』 毎日コミュニケーションズ 3444円

■履修上の注意・担当者からの一言

基礎セミナーは、受講者の選んだテーマのもとに、少人数で密度の濃い学習を行うものです。そのため、テーマごとに受講人数の上限が設定されています。年度初めの履修説明会において、テーマごとの詳しい内容や運営形態、成績評価方法、受講定員、テーマ選択の予備調査の方法などについて説明がありますので、その指示にしたがって受講登録してください。

■講義計画

- ①プログラミング環境の構築
- ②最大、最小を扱う問題
- ③区間を扱う問題
- ④scanf 関数の応用
- ⑤多重ループによるしらみつぶし
- ⑥2次元領域を扱う問題
- ⑦文字列処理の基本
- ⑧倍数、約数、素数を扱う問題
- ⑨線分の交差、矩形の重なり判別
- ⑩状態遷移とシミュレーション
- ⑪再帰によるしらみつぶし
- ⑫構文解析を行う問題
- ⑬動的計画法を使った解法
- ⑭模擬トライアル
- ⑮反省会

■サブタイトル

中・高の数学を見つめ直し、大学の数学へつなげる ― 数学の教員を目指す人の基礎的素養

■講義概要

中学校や高等学校の数学の教員を目指す人には、数学に関する幅広い教養が必要になります。

例えば、問題を単に解ければそれでよいのではなく、その問題の背後に潜む数学的な構造や、その問題が生まれてきた歴史的な背景も知っておかないと、十分な指導はできません。

本セミナーでは、中学校や高等学校で学んできた数学の内容を別の視点から見つめ直し、諸君の数学に対する見方・考え方を、より広く、より柔軟にすることを目指しています。

また、中学校や高等学校の数学と大学の数学との関連についても述べたいと思います。

本セミナーは、数学の教員を目指している人を主たる対象としていますが、数学好きであれば、教員以外の進路希望の人にも歓迎します。

■到達目標

目標は中学校や高等学校で学んできた数学の内容を別の視点から見つめ直し、諸君の数学に対する見方・考え方を、より広く、より柔軟にすることです。

■講義方法

教科書は使用せず、毎回プリントを配布して、授業を進めます。講義だけでなく、問題演習や討論も行います。

時間的な余裕があれば、コンピュータ実習も行います。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

小テスト (80%) 2 ～ 3 回小テストを実施予定。

レポート (20%) 2 回程度レポートを課し、未提出の場合は単位を認定しない。

授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく 3 回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。

また、レポート未提出の場合も単位は認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の 3 講時である。但し、6 月中は出張している場合が多いので、別途相談すること。

連絡は電子メールにて行う。メールアドレスは、最初の講義で連絡する。

■講義計画

- ①オリエンテーション
(数学的な考え方について)
- ②色々な証明方法 (1)
(代数的な証明編)
- ③色々な証明方法 (2)
(図形的な証明編)
- ④別解を作ろう
(星形多角形の内角の和)
- ⑤自分で定理を発見しよう (1)
(九九の表の不思議)
- ⑥自分で定理を発見しよう (2)
(発見した定理の証明)
- ⑦模型で公式を説明しよう (1)
(展開の公式の模型を作る)
- ⑧模型で公式を説明しよう (2)
(数列の和の公式模型を作る)
- ⑨別解の探究 (1)
(見方を変えよう)
- ⑩別解の探究 (2)
(数学は互いに関連している)
- ⑪パスカルの三角形の拡張 (1)
規則性を読み取る
- ⑫パスカルの三角形の拡張 (2)
ニュートンの発想
- ⑬新問題を作ってみよう (1)
(問題条件を一部変更)
- ⑭新問題を作ってみよう (2)
(問題条件を一部変更)
- ⑮問題を拡張しよう
(2次元から3次元へ)

基礎セミナー

【担当】 松本 和一郎
【開講】 前期 木2

■サブタイトル

解析学の基礎知識

■講義概要

解析学は不等式と極限の科学です。その基本となる知識をなるべく直感的に理解することを目標とします。

■到達目標

解析学の基礎を身につける。

■講義方法

毎週ごとの課題に対するレポーターのレポートをもとにディスカッションし、より良い理解を獲得する。

■系統的履修

高等学校の数学が何となく良しとしてきたことを見直して、曖昧だったことを明確にする。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回の課題を前の週に提示するから、全員、本でもWEBでも自由に調べてくる。

■成績評価の方法

平常点（100%）自由に調べてきたことの内容、レポートにおける工夫、ディスカッションにおける熱意など

■テキスト

必要に応じてプリントを配布します。

■参考文献

必要に応じて指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

新学期になってから研究室のドアにOHの時間を掲示します。

■講義計画

- ①数のいろいろ
- ②有理数
- ③数学の世界の概観
- ④実数とは何か？
- ⑤ e が無理数であること
- ⑥「収束する」とはどういうことか？
- ⑦「収束する」ということの厳密な表現
- ⑧級数の収束
- ⑨一様収束と各点収束
- ⑩巾級数
- ⑪「連続」をどう表現するか？
- ⑫中間値の定理
- ⑬微分
- ⑭平均値の定理
- ⑮テーラー展開

基礎セミナー

【担当】 四ツ谷 晶二
【開講】 前期 木2

■サブタイトル

数学検定準1級をめざそう

■講義概要

数学検定準1級の問題集を題材にして、高校までに学んだ数学を全く異なった発想で見直す。

また、大学1年生で新たに得た微積分や線形代数の知識を使うことによりより高い観点からの見直しも行う。

例えば、多くの人が苦手とする、数列の漸化式を Σ 記号を一切使わず解く方法を説明する。

さらに、この解法を微分を含んだ方程式である、微分方程式の解法と比較することによりその本質的な同一性を認識し理解を深める。

他にも、2次関数の複雑にみえる問題を一瞬に解く方法、ユークリッド互除法。不定方程式の解法、楕円・双曲線のもついろんな性質等も解説する。

同時に、数式処理ソフトMapleを利用して、計算したり可視化して理解を深める。

これらをきっかけに、本質をついた簡潔な新しい解法を考えたり、さらに高度な数学的知識の獲得に繋げていく。しっかりとした数学力の修得や、中学・高校数学での教師をめざす学生向けのセミナーである。

なお、題材は教員採用試験問題集・数学の雑誌等からも、適宜、みつ付けてくることにする。

■到達目標

少人数での課題探求型の学習によって、数学検定準1級をめざすことを通じ、数理情報学科での学修の目的意識を明確にしていく。

■講義方法

毎回問題を提示するので、それについて考える。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりとすること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①多角形の面積
- ②因数定理とその一般化
- ③最大公約数とユークリッドの互除法
- ④多項式とユークリッドの互除法
- ⑤数列の和とその意味
- ⑥漸化式の解法
- ⑦連立1次方程式と行列式
- ⑧2次方程式の実数解の個数
- ⑨高次方程式の実数解の個数
- ⑩判別式
- ⑪3次方程式の解の公式
- ⑫4次方程式の解の公式
- ⑬微分方程式入門
- ⑭微分方程式の応用
- ⑮まとめ

グラフィックス基礎（2006年度以前入学生）

【担当】 高橋 隆史

【開講】 前期 火1

■サブタイトル

Java入門+グラフィックス入門

■講義概要

Java言語は、

- ・様々な環境で同一のプログラムを動作させることができる
- ・オブジェクト指向プログラミングの考え方に基づいている
- ・利用可能なライブラリが豊富である

といった特徴をもったプログラミング言語です。この科目では、Javaプログラミングの学習を通じて、オブジェクト指向の考え方に触れます。タートルグラフィックスを主な題材とする予定です。また、図形を描画する、マウスでボタンを押したりメニューを選択させる、というような、グラフィックスやGUI（グラフィカルユーザインターフェース）の扱いについても学びます。

■到達目標

Javaでプログラムが書けるようになる。オブジェクト指向の考え方を知る。Javaでグラフィックスを描画したりGUIを備えたプログラムを作成する方法を学ぶ。

■講義方法

教科書と配布資料に基づいた講義

■系統的履修

C言語プログラミングをある程度身につけている（「計算機基礎実習Ⅰ,Ⅱ」や「プログラミングおよび実習Ⅰ,Ⅱ」を受講している）ことを前提として授業を進めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習などのために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります。『履修上の注意』欄も参照してください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

立木秀樹、有賀妙子 『すべての人のためのJavaプログラミン

グ 第2版』 共立出版 2800円

必ず入手しておくこと

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

「グラフィックス基礎実習」と一体の授業です。同時に受講することを（たとえ実習の単位を既に修得していても）強く勧めます。やむを得ない事情でこちらの科目のみ受講する場合には、実習課題を自習するなどしてかなり努力をしないとついていけないでしょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

参考URLをたどると、高橋のメールアドレスや時間割（オフィスアワー）を知ることができます。

■講義計画

- ①よりよい授業にするため、以下の順序の入れ替えや内容の増減を行う場合があります。
- ②Javaとは
- ③オブジェクトを生成しよう、メソッドを呼び出そう
- ④クラス変数とクラスメソッド
- ⑤処理の流れ
- ⑥配列
- ⑦プリミティブ型と演算子
- ⑧クラスを作ろう：「クラスをつくるってどういうこと？」
- ⑨クラスを作ろう：「クラスをつくと何がうれしい？」
- ⑩まとめの演習
- ⑪GUIクラス(Swing)
- ⑫グラフィックスの描画
- ⑬イベント処理：「イベント処理のしくみ」
- ⑭イベント処理：「イベント処理いろいろ」
- ⑮アプレット
- ⑯まとめの演習

グラフィックス基礎実習（2006年度以前入学生）

【担当】 高橋 隆史

【開講】 前期 火2

■サブタイトル

Java入門+グラフィックス入門

■講義概要

Java言語は、

- ・様々な環境で同一のプログラムを動作させることができる
- ・オブジェクト指向プログラミングの考え方に基づいている
- ・利用可能なライブラリが豊富である

といった特徴をもったプログラミング言語です。この科目では、Javaプログラミングの学習を通じて、オブジェクト指向の考え方に触れます。タートルグラフィックスを主な題材とする予定です。また、図形を描画する、マウスでボタンを押したりメニューを選択させる、というような、グラフィックスやGUI（グラフィカルユーザインターフェース）の扱いについても学びます。

■到達目標

Javaでプログラムが書けるようになる。オブジェクト指向の考え方を知る。Javaでグラフィックスを描画したりGUIを備えたプログラムを作成する方法を学ぶ。

■講義方法

計算機室での演習

■系統的履修

C言語プログラミングをある程度身につけている（「計算機基礎実習Ⅰ,Ⅱ」や「プログラミングおよび実習Ⅰ,Ⅱ」を受講している）ことを前提として授業を進めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習ならびに演習課題に取り組むために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります。

■成績評価の方法

平常点（100%） 演習課題（一部授業時間中に小テストとして課すことがあります）の達成度を教員とティーチングアシスタントが評価します

■テキスト

立木秀樹、有賀妙子 『すべての人のためのJavaプログラミン

グ 第2版』 共立出版 2800円

必ず入手しておくこと

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

「グラフィックス基礎」と一体の授業です。同時に受講することを（たとえ講義科目の方の単位を既に修得していても）強く勧めます。やむを得ない事情でこちらの科目のみ受講する場合には、教科書や講義資料を熟読するなどしてかなり努力をしないとついていけないでしょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

参考URLをたどると、高橋のメールアドレスや時間割（オフィスアワー）を知ることができます。

■講義計画

- ①よりよい授業にするため、以下の順序の入れ替えや内容の増減を行う場合があります。
- ②Javaとは
- ③オブジェクトを生成しよう、メソッドを呼び出そう
- ④クラス変数とクラスメソッド
- ⑤処理の流れ
- ⑥配列
- ⑦プリミティブ型と演算子
- ⑧クラスを作ろう：「クラスをつくるってどういうこと？」
- ⑨クラスを作ろう：「クラスをつくと何がうれしい？」
- ⑩まとめの演習
- ⑪GUIクラス（Swing）
- ⑫グラフィックスの描画
- ⑬イベント処理：「イベント処理のしくみ」
- ⑭イベント処理：「イベント処理いろいろ」
- ⑮アプレット
- ⑯まとめの演習

■サブタイトル

Java入門＋グラフィックス入門

■講義概要

Java言語は、

- ・様々な環境で同一のプログラムを動作させることができる
- ・オブジェクト指向プログラミングの考え方に基づいている
- ・利用可能なライブラリが豊富である

といった特徴をもったプログラミング言語です。この科目では、Javaプログラミングの学習を通じて、オブジェクト指向の考え方に触れます。タートルグラフィックスを主な題材とする予定です。また、図形を描画する、マウスでボタンを押したりメニューを選択させる、というような、グラフィックスやGUI（グラフィカルユーザインターフェース）の扱いについても学びます。

■到達目標

Javaでプログラムが書けるようになる。オブジェクト指向の考え方を知る。Javaでグラフィックスを描画したりGUIを備えたプログラムを作成する方法を学ぶ。

■講義方法

教科書と配布資料に基づいた講義＋計算機室での演習

■系統的履修

C言語プログラミングをある程度身につけている（「計算機基礎実習Ⅰ、Ⅱ」、「プログラミング・演習」や「応用プログラミング演習」を受講している）ことを前提として授業を進めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習ならびに演習課題に取り組むために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります。

■成績評価の方法

平常点（50%） 演習課題（一部授業時間中に小テストとして課すことがあります）の達成度を教員とティーチングアシスタントが評価します

定期試験（50%）

$x = (\text{平常点の得点率})$ 、 $y = (\text{定期試験の得点率})$ とするとき、 $(x \text{ と } y \text{ の幾何（相乗）平均}) \times 100$ を最終成績とします。

■テキスト

立木秀樹、有賀妙子 『すべての人のためのJavaプログラミング 第2版』 共立出版 2800円

必ず入手しておくこと

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

参考URLをたどると、高橋のメールアドレスや時間割（オフィスアワー）を知ることができます。

■講義計画

- ①よりよい授業にするため、以下の順序の入れ替えや内容の増減を行う場合があります。
- ②Javaとは
- ③オブジェクトを生成しよう、メソッドを呼び出そう
- ④クラス変数とクラスメソッド
- ⑤処理の流れ
- ⑥配列
- ⑦プリミティブ型と演算子
- ⑧クラスを作ろう：「クラスをつくるってどういうこと？」
- ⑨クラスを作ろう：「クラスをつくと何がうれしい？」
- ⑩まとめの演習
- ⑪GUIクラス (Swing)
- ⑫グラフィックスの描画
- ⑬イベント処理：「イベント処理のしくみ」
- ⑭イベント処理：「イベント処理いろいろ」
- ⑮アプレット
- ⑯まとめの演習

■サブタイトル

フーリエ級数展開・力学的な運動の数値シミュレーション

■講義概要

最初に、Linux の基本的なコマンドを復習し、ファイルを分別することなどにより、Linux の利用環境を整えます。

信号処理に現れる三角波、ノコギリ波、パルス波などだけではなく、周期を持つ波（同じ形を繰り返す波）は、簡単なものも複雑なものも、単純な波（正弦波と余弦波）を足し合わせることによって近似できます。この作業を「周期関数をフーリエ級数展開によって近似する」といいます。2 番目にフーリエ級数展開の基礎との適用方法を学修します。

最後に、常微分方程式系の数値計算法を学びます。振り子などの力学的な運動は常微分方程式系によって表現されますから、数値計算を行うことによって現象をシミュレートすることができます。

■到達目標

1. Linux の利用環境を整備すること。
2. フーリエ係数の計算方法を習得し、フーリエ係数を計算するプログラムを作成すること。
3. 高速フーリエ変換のプログラムを適用することによって「音色」とエネルギースペクトルの関係を体験すること。
4. 常微分方程式系の数値計算法を学習し、解軌道の可視化などによってダイナミクスを理解するスキルを取得すること。
5. 数値計算によるアニメーションを体験すること。

■講義方法

「計算科学 I」は「計算科学演習 I」とペアで履修しなさい。「計算科学 I」では、担当教員が作成・配付する要点ノートに沿って解説・講義をします。実習とのペアで一回一回完結させる形で運営します。達成感が得られるように、例題を学生が黒板上で解くことなどによって講義を参加型のものにします。

■系統的履修

必ず「計算科学演習 I」と並行履修して下さい。「数値計算法」、「数値計算法演習」、「数理モデル基礎・演習 I」、「力学」の延長線上にある科目です。「数理モデル基礎・演習 II」を合わせて履修することが望ましいでしょう。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は、配布する講義資料およびサンプルプログラムを利用して、十分に予習・復習をすることが期待される。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 宿題型の小テスト
小テスト (15%) 小テスト (講義資料・ノートの持込可、担当教員への質問可)

レポート (5%)
定期試験 (60%) ウェブページに過去問と解答例を公開、筆記用具以外は持込不可

1. 最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します。
2. 出席を確認することがあります。出席の確認は、不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります。欠席の場合は、成績評価の際に減点します。

■テキスト

特になし

■参考文献

- 皆本晃弥・坂上貴之 『GIMP/GNUPLOT/Tgifで学ぶグラフィック処理』サイエンス社 2310円
大竹敢 『使いこなすGNUPLOT』テクノプレス 2625円
船越満明 『キーポイントフーリエ解析』岩波書店 2520円
藤原毅夫、栄伸一郎 『フーリエ解析＋偏微分方程式』裳華房 2625円
戸川隼人 『UNIXワークステーションによる科学技術計算ハンドブック』サイエンス社 3990円
川村哲也 『数値計算入門』サイエンス社 1680円
水島二郎 『理工学のための数値計算法』数理工学社 2100円
森口繁一 『C による算法通論』東京大学出版会 2625円

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 欠席などのため、講義・演習の資料を貰えなかった場合は、ウェブページからダウンロードして下さい。
2. 期末に実施される＜学生による授業評価調査＞の結果はウェブを通して公表します。【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてください】への記述内容もウェブを通して公表します。
3. 過去の定期試験問題と解答例、成績評価の分布などもウェブページに公開されています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1. オフィスアワーについては、掲示およびウェブページ (<http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml>) を通して理工学部数理情報学科から連絡されます。
2. 担当教員へは電子メール (tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp) によって連絡して下さい。

■講義計画

- ①コンソールを開く、基本的なコマンド、ファイルやディレクトリの名称、ファイルの分別、ワイルドカード、オンラインマニュアル
- ②三角関数のグラフ・加法定理・合成・積和公式・半角の公式、周期関数の周期・周波数
- ③正弦波と余弦波の正規直交性
- ④Grapes で聴く、波形エディタで聴く
- ⑤偶関数・奇関数、パルス波、三角波、正弦波の上半分、ノコギリ波
- ⑥台形則、周波数変調波
- ⑦離散データの三角関数による表現、高速フーリエ変換(FFT)
- ⑧楽器の音 (flute, harp, piano, tuba, violin)、猫の鳴き声、犬の鳴き声
- ⑨初期値問題とその数値解法 (4 次の Runge-Kutta 法)、自律系の平衡点・相図
- ⑩ロジステック方程式、C R 回路
- ⑪自律系のヌルクライン・平衡点・解曲線
- ⑫速度に比例する抵抗を受けるバネ-おもり系、L C R 回路、えじき-捕食者系
- ⑬単振り子、van der Pol 方程式
- ⑭バネ-おもり系、えじき-捕食者系、van der Pol 方程式
- ⑮単振り子、二重振り子

■サブタイトル

現象の確率モデル

■講義概要

この授業では、複雑な現象を確率を含んだルールを導入することで簡単にモデル化する、確率モデルのいくつかを紹介し、また、コンピュータで確率モデルのシミュレーションを行い、得られたデータを解析するための理論と技術を説明します。

■到達目標

現象の確率モデルとは何か、例をあげて説明できる。
離散、連続な確率変数の確率（密度）分布、期待値、平均、分散の意味を説明し、計算することができる。

■講義方法

計算科学Ⅱは週に1回の講義からなる授業ですが、計算科学演習Ⅱと一体の週2回授業として実施されます。

■系統的履修

並行して計算科学実習Ⅱを履修することを前提とします。予備知識として、数値計算法／演習、確率統計・演習Ⅰ程度の数学とコンピュータの知識を仮定します。計算科学／演習Ⅰ、現象の数学Aは深く関係する内容であり、あわせて受講を奨めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

必要な予習・復習は、この授業または計算科学演習Ⅱの時間内および授業サポート hig3.net で毎回指示します。

■成績評価の方法

平常点（20%）予習復習、授業時間内のquiz、アンケートへの反応などの合計です。

小テスト（30%）プチテストとよんでいます。1回。

定期試験（50%）ファイナルトライアルとよんでいます。1回。
スコアレポートはeラーニングシステムReLSで表示します。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の情報は授業サポート hig3.net でPC／携帯向けに提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①離散型確率変数と疑似乱数
- ②期待値・平均・分散
- ③確率過程と離散座標ランダムウォーク
- ④ラグランジュ表現オイラー表現
- ⑤確率分布関数の時間発展
- ⑥生成関数の方法
- ⑦拡散方程式の数値計算
- ⑧離散型確率変数としてのプチテスト得点
- ⑨連続型確率変数と連続座標ランダムウォーク
- ⑩確率密度関数の変数変換と連続値疑似乱数
- ⑪逆関数法による疑似乱数の生成
- ⑫中心極限定理
- ⑬統計誤差と区間推定
- ⑭棄却法による疑似乱数の生成
- ⑮疑似乱数を用いた数値積分

■サブタイトル

フーリエ級数展開・力学的な運動の数値シミュレーション

■講義概要

最初に、Linux の基本的なコマンドを復習し、ファイルを分別することなどにより、Linux の利用環境を整えます。信号処理に現れる三角波、ノコギリ波、パルス波などだけではなく、周期を持つ波（同じ形を繰り返す波）は、簡単なものも複雑なものも、単純な波（正弦波と余弦波）を足し合わせることによって近似できます。この作業を「周期関数をフーリエ級数展開によって近似する」といいます。2 番目にフーリエ級数展開の基礎との適用方法を学修します。最後に、常微分方程式系の数値計算法を学びます。振り子などの力学的な運動は常微分方程式系によって表現されますから、数値計算を行うことによって現象をシミュレートすることができます。

■到達目標

1. Linux の利用環境を整備すること。
2. フーリエ係数の計算方法を習得し、フーリエ係数を計算するプログラムを作成すること。
3. 高速フーリエ変換のプログラムを適用することによって「音色」とエネルギースペクトルの関係を体験すること。
4. 常微分方程式系の数値計算法を学習し、解軌道の可視化などによってダイナミクスを理解するスキルを取得すること。
5. 数値計算によるアニメーションを体験すること。

■講義方法

「計算科学演習 I」は「計算科学 I」とペアで履修して下さい。「計算科学演習 I」では、実習形式によるプログラム作成と講義形式による解説を行います。講義とのペアで一回一回完結させる形で運営します。達成感が得られるように、教員と学生、TA と学生、さらに、学生同士のディスカッションを推奨します。早くできた学生は他の学生を指導するよう期待され、ボランティア・ポイントという形で成績評価に反映されます。

■系統的履修

必ず「計算科学 I」と並行履修して下さい。「数値計算法」、「数値計算法演習」、「数理モデル基礎・演習 I」、「力学」の延長線上のある科目です。「数理モデル基礎・演習 II」を合わせて履修することが望ましいでしょう。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は、配布する講義資料およびサンプルプログラムを利用して、十分に予習・復習をすることが期待される。

■成績評価の方法

- 平常点 (20%) 演習・実習の達成状況（締切に遅れた場合もチェックして貰えます）
小テスト (15%) 講義・実習資料・ノートの持込可、TA への質問可
レポート (5%)
定期試験 (60%) プログラムを作成し、実行結果を提出する形で実施されます
1. 最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します。
 2. 出席を確認することがあります。出席の確認は、不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります。欠席の場合は、成績評価の際に減点します。

■テキスト

特になし

■参考文献

- 皆本晃弥・坂上貴之 『GIMP/GNUPLOT/Tgifで学ぶグラフィック処理』サイエンス社 2310円
大竹敢 『使いこなすGNUPLOT』テクノプレス 2625円
船越満明 『キーポイントフーリエ解析』岩波書店 2520円
藤原毅夫、栄伸一郎 『フーリエ解析＋偏微分方程式』裳華房 2625円
戸川隼人 『UNIXワークステーションによる科学技術計算ハンドブック』サイエンス社 3990円
川村哲也 『数値計算入門』サイエンス社 1680円
水島二郎 『理工学のための数値計算法』数理工学社 2100円
森口繁一ら 『C による算法通論』東京大学出版会 2625円

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 欠席などのため、講義・演習の資料を貰えなかった場合は、ウェブページからダウンロードして下さい。
2. 期末に実施される＜学生による授業評価調査＞の結果はウェブを通して公表します。【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてください】への記述内容もウェブを通して公表します。
3. 過去の定期試験問題と解答例、成績評価の分布などもウェブページに公開されています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1. オフィスアワーについては、掲示およびウェブページ (<http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml>) を通して理工学部数理情報学科から連絡されます。
2. 担当教員へは電子メール (tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp) によって連絡して下さい。

■講義計画

- ①コンソールを開く、基本的なコマンド、ファイルやディレクトリの名称、ファイルの分別、ワイルドカード、オンラインマニュアル
- ②三角関数のグラフ・加法定理・合成・積和公式・半角の公式、周期関数の周期・周波数
- ③正弦波と余弦波の正規直交性
- ④Grapes で聴く、波形エディタで聴く
- ⑤偶関数・奇関数、パルス波、三角波、正弦波の上半分、ノコギリ波
- ⑥台形則、周波数変調波
- ⑦離散データの三角関数による表現、高速フーリエ変換(FFT)
- ⑧楽器の音 (flute, harp, piano, tuba, violin)、猫の鳴き声、犬の鳴き声
- ⑨初期値問題とその数値解法 (4 次の Runge-Kutta 法)、自律系の平衡点・相図
- ⑩ロジステック方程式、CR 回路
- ⑪自律系のヌルクライン・平衡点・解曲線
- ⑫速度に比例する抵抗を受けるバネ-おもり系、LCR 回路、えじき-捕食者系
- ⑬単振り子、van der Pol 方程式
- ⑭バネ-おもり系、えじき-捕食者系、van der Pol 方程式
- ⑮単振り子、二重振り子

計算科学演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
計算科学実習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】樋口 三郎
【開講】前期 金3

■サブタイトル

コンピュータで確率モデル♪

■講義概要

計算科学Ⅱで扱う確率モデルを例に、確率モデルをコンピュータで解析する方法を学びます。

■到達目標

与えられた離散的・連続的な確率分布に従う疑似乱数を発生するプログラムをC言語で作成できる。確率的な現象を、疑似乱数を利用してシミュレートするプログラムをC言語で作成できる。シミュレーションで得られたサンプルを表計算ソフトウェアや統計計算ソフトウェアを利用して分析し、母分布のパラメータを推定することができる。

■講義方法

計算科学演習Ⅱは週に1回の演習からなる授業ですが、計算科学Ⅱと一体の週2回授業として実施されます。

計算科学演習Ⅱでは主に学生が個人またはグループで作業を進めます。計算機実習室で、Windows Vista, Visual C++ 2007, Excel 2007, R を主に使用し、TAからアドバイスを受けて作業を行います。一部の回では、学生の（2名以上の）グループ分けを指定し、グループ単位の活動と評価を行います。

■系統的履修

並行して計算科学Ⅱを履修することを前提とします。予備知識として、数値計算法／演習、確率統計・演習Ⅰ程度の数学とコンピュータの知識を仮定します。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習すべき内容は各回の計算科学Ⅱで指示します。各回の計算科学・演習Ⅱの課題を完成するためには、授業時間外にも、計算機実習室および自宅のコンピュータを用いての自習が必要です。

■成績評価の方法

平常点（30%）毎回の課題のquiz、時間外の課題で評価します。小テスト（70%）プッチテストとよんでいます。3回、資料参照制限下でプログラムを作成します。

レポート

定期試験

その他

■テキスト

特になし

■参考文献

平岡和幸、堀玄『プログラミングのための確率統計』オーム社 3150円

宇土顕彦『効率よく学ぶCプログラミング』コロナ社 2100円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の情報は授業サポート hig3.net でPC／携帯向けに提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①疑似乱数の生成
- ②ラグランジュ表示での離散ランダムウォークのシミュレーション
- ③期待値・平均・分散の推定
- ④春のプッチテスト
- ⑤オイラー表示での離散ランダムウォークのシミュレーション
- ⑥確率分布の可視化
- ⑦拡散方程式と1次元セルオートマトン
- ⑧連続値疑似乱数
- ⑨初夏のプッチテスト
- ⑩連続座標ランダムウォーク
- ⑪逆関数法による疑似乱数生成
- ⑫確率密度関数の可視化と中心極限定理
- ⑬区間推定と統計誤差
- ⑭真夏のプッチテスト

計算機援用数学（2007年度以降入学生）
固有値問題（2006年度以前入学生）

【担当】四ツ谷 晶二
【開講】前期 木1

■講義概要

ここ数年の間に厳密計算と曲線・曲面のグラフの描画の両方に長けた高性能の数式処理ソフトを日常的に利用できる状況になった。従来、計算の膨大さのために解決不可能と思われていた数学の問題でも、数式処理ソフトを利用することにより解決されてきている。もちろん、単に計算させただけでは收拾がつかない計算結果がでることがしばしばである。有効利用のために、古典的な代数学、楕円関数の知識、現代的なグレブナー基底の知識を巧みに組み合わせるといった工夫がいる。

本講義では、先ずユークリッドの互除法からはじめスツルムの零点定理・判別式・終結式といった古典的な代数学、楕円関数の初歩、さらには現在活発に研究・応用されているグレブナー基底の話題等について概観する。最後に、これらを基礎知識の上で、最新の計算機支援数学の研究成果である線形化固有値問題の固有値・固有関数の表示式、極限形状について簡潔に説明する。

なお、講義中に適宜、数式処理ソフトで実演し理解を確かめ深めてもらう。

■到達目標

- ・数式処理ソフトを用いて、微分・積分、代数計算、曲線・曲面のグラフの描画できるようになる。
- ・ユークリッドの互除法をはじめる古典的な代数学の知識を身につける。
- ・グレブナー基底の意味・それを求めるアルゴリズムを理解し、応用できるようになる。

■講義方法

講義が主で、適宜、数式処理ソフトで実演を行う。概念の説明は、まず、典型的な具体例を用いてイメージをつくってもらった上で、抽象的・一般的な形のものを説明する。レポート課題の形で、各自で数式処理ソフトは体験してもらうことにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりとすること。

■成績評価の方法

小テスト（30%）2～3回程度
レポート（50%）5回程度

定期試験（20%）

- ・レポートはA4用紙に書き、期限厳守のこと（期限を過ぎたものは受け取らない）。
- ・インフルエンザ・教育実習等のしかるべき理由で期限を過ぎた場合については、レポートにその旨を朱書き証明する書類を添えて提出すれば期限内提出レポートと同じ基準で評価する。
- ・インフルエンザ・教育実習等のしかるべき理由で小テストを受けることができなかった場合、レポート提出等で代替する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、講義時にお知らせします。
メールで shoji@math.ryukoku.ac.jp に連絡下さい。

■講義計画

- ①ユークリッドの互除法の原理
- ②多項式に対するユークリッドの互除法
- ③スツルムの零点定理
- ④終結式とその応用
- ⑤判別式とその応用
- ⑥環とイデアル
- ⑦グレブナー基底
- ⑧グレブナー基底の具体例
- ⑨楕円関数
- ⑩完全楕円積分
- ⑪スツルム・リュービルの固有値問題
- ⑫線形化固有値問題の固有値と固有関数の表示
- ⑬線形化固有値問題の固有関数の形状
- ⑭まとめ

計算機システムⅠ（2007年度以降入学生）
情報処理システムⅡ（2006年度以前入学生）

【担当】佐野 彰
【開講】前期 木3

■サブタイトル

CPUを設計する

■講義概要

計算機は0,1の2値デジタル情報を内部表現とし、論理回路と呼ばれるデジタル演算素子の組み合わせで実現されています。この講義の前半では、2値デジタル情報表現とその基礎となるブール代数やブール（論理）関数を学びます。また、ブール代数で定義される論理演算を、どのような電子回路（論理回路）として実現するのかを考えます。講義の後半では、これらの論理回路を用いて単純なCPUを設計していくことで、CPUの様々な構成要素として必要とされる組み合わせ論理回路などの構成や原理を考えていきます。

■到達目標

「2値デジタル表現によって計算機が実現されている」ということを知識として知っていても、計算機が多様になっている現在、それが具体的にどのように実現されているのかを知る機会はありません。単純な2値表現と論理回路によるデータの流れによって、CPU上の演算がどのように具体化され、皆さんの書くプログラムがどのように実現されているのかがイメージできるようになることを期待しています。

■講義方法

板書とプロジェクトを併用します。

■系統的履修

「情報処理の基礎」の内容を継承しています。「集合と位相・演習」も同時に履修していると理解が容易になるかもしれません。より実際の計算機システムの構成原理として「計算機システムⅡ」へと接続します。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の内容を積み上げる形式で講義を進めるので、毎回の講義内

容はきちんと復習して次回までに理解しておいて下さい。

■成績評価の方法

平常点（20%）講義中の発言なども評価したいと思います。

定期試験（80%）

講義を通して課題などを課した場合は、それらも評価に含めます。

■テキスト

必要に応じてプリントを配布します。

■参考文献

南谷崇『論理回路の基礎』サイエンス社 2100円

渡波郁『CPUの創りかた』毎日コミュニケーションズ 2800円

■履修上の注意・担当者からの一言

理解度や進行に合わせて講義内容や順序を変更することがあります。

■講義計画

- ① 2値符号と2進数
- ② 2進数の演算とn進数
- ③ ブール代数と基本論理回路
- ④ 論理関数と標準展開
- ⑤ 組み合わせ論理回路
- ⑥ トランジスタと基本論理回路
- ⑦ メモリ
- ⑧ CPUの構成と機械語
- ⑨ フリップ・フロップ
- ⑩ 1ビットCPU
- ⑪ レジスタとデータセレクト
- ⑫ 加算器とキャリーフラグ
- ⑬ プログラムカウンタ
- ⑭ 命令デコーダとカルノー図
- ⑮ CPUの処理速度とパイプライン

計算機システムⅡ（2007年度以降入学生）
計算機アーキテクチャ（2006年度以前入学生）

【担当】高橋 隆史
【開講】後期 金4

■サブタイトル

「計算機アーキテクチャ概論」+「オペレーティングシステム概論」

■講義概要

この科目の前半では、計算機システムの「建築学」、「建築様式」(architecture)を考えます。PCやゲーム機は言うにおよばず、携帯電話、自動車、炊飯器など、巷には複雑な計算や機械制御のための演算装置（プロセッサ）を内蔵した機器があふれていますが、これらのプロセッサはみな共通の構成原理に基づいて設計されています。前半の目標は、その構成原理を知り、これらのプロセッサが何をしているのか理解することです。特にPCなどの計算機の中核をなすプロセッサであるCPUをとりあげて、その動作のしくみを学びます。また、プロセッサに命令を与えるための言葉であるアセンブリ言語の初歩についても学びます。

後半は、オペレーティングシステム（OS）の役割・仕組みを考えます。Windows、Linux、Mac OS XといったOSの名前を聞くと、それらのOSと共に提供されるユーザインタフェースの部分、デスクトップ画面や操作性のことについて思い浮かべがちですが、それらは単なる見た目に過ぎません。後半の目標は、OSの中核部分の地味だけれど大切な機能について理解することです。

■到達目標

人がゲームしたりプログラム実行したりしてる裏でCPUやOSが何をしているのか、イメージが湧くようになると思います。身近な計算機が1秒間でどれだけのことができるのかを見積もって見て「イマドキの計算機はすごいねえ」と思ったり、単なる画面の見た目ではないOSの機能について思いをはせたりできるかもしれません。

■講義方法

配布資料に沿って講義を行ないます。

■系統的履修

「情報処理の基礎／情報処理システムⅠ」と「計算機システムⅠ／情報処理システムⅡ」のつづきです。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外の予復習等に多くの時間を費やす必要があります。「成績評価の方法」欄も参照してください。

■成績評価の方法

平常点（30%）ReLS（龍谷大学e-Learningシステム）を用いて毎週問題を出します

定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

この科目のウェブページに参考文献の情報が 있습니다。参考URLをたどってください。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外にも学習する必要があります。この科目は、2007年度以降入学の数理情報学科の学生にとっては「計算機システムⅡ」であり、2006年度以前入学の数理情報学科の学生にとっては「計算機アーキテクチャ」です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

参考URLをたどると、高橋のメールアドレスや時間割（オフィスアワー）を知ることができます。

■講義計画

- ① よりよい授業にするために、項目ごとの開始時期を前後にずらしたり順序を入れ替えたりすることがあります
- ② プロセッサのしくみ：内部構成と動作サイクル
- ③ プロセッサの言葉Ⅰ：命令の作り方（機械語・アセンブリ言語とアセンブラ）
- ④ プロセッサの言葉Ⅱ：プロセッサの気持ちになろう（アセンブリ言語プログラミング）
- ⑤ プロセッサの言葉Ⅲ：条件分岐
- ⑥ プロセッサの言葉Ⅳ：サブルーチン呼び出し
- ⑦ プロセッサの性能評価の仕方
- ⑧ 性能向上のための工夫Ⅰ：パイプライン処理
- ⑨ 性能向上のための工夫Ⅱ：キャッシュメモリ
- ⑩ 性能向上のための工夫Ⅲ：並列処理
- ⑪ オペレーティングシステムとは？
- ⑫ OSとユーザやプログラムのやりとり（カーネル、シェル、API）
- ⑬ プロセス管理とスケジューリング
- ⑭ メモリの管理
- ⑮ 仮想記憶
- ⑯ ファイルシステム

現象の数学A（2007年度以降入学生）
現象の数学I（2006年度以前入学生）

【担当】 四ツ谷 晶二
【開講】 前期 月3

■サブタイトル

熱伝導・拡散現象の数学

■講義概要

熱伝導・拡散現象を数理モデルで表現する。

主として、空間が連続な場合の偏微分方程式で表される拡散方程式（熱方程式）や反応拡散方程式について、その解法と解の性質を学ぶ。

■到達目標

自然現象を理解するための数理モデルの構築と、数学的な解析方法をマスターする。

■講義方法

講義の合間に演習を入れる。

■系統的履修

数理モデル基礎および演習IとII

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりとすること。

■成績評価の方法

小テスト（30%）2～3回小テストを行う

レポート（30%）5～6回レポート提出を課す

定期試験（40%）

■テキスト

特に無し。適宜、プリントを用意します。

■参考文献

E.クライツィグ著 岡部訳 『フーリエ解析と偏微分方程式』
培風館 1700円

■履修上の注意・担当者からの一言

線形代数と微積分のしっかりした基礎学力が必要です。

■講義計画

- ①フーリエ級数展開とは
- ②フーリエ級数展開の具体例
- ③フーリエ変換
- ④拡散現象
- ⑤拡散方程式の特殊解・変数分離
- ⑥境界値問題の解法・線形性とフーリエ級数
- ⑦拡散方程式の初期値問題の解
- ⑧拡散方程式の基本解
- ⑨拡散方程式の定常問題
- ⑩差分法で理解を深める
- ⑪反応拡散方程式の導出
- ⑫反応拡散方程式の初期値問題
- ⑬反応拡散方程式の境界値問題
- ⑭2次元領域の場合について
- ⑮まとめ

現象の数学B（2007年度以降入学生）
現象の数学II（2006年度以前入学生）

【担当】 樋口 三郎
【開講】 後期 火3

■サブタイトル

振動と波動の力学

■講義概要

地球の生命の源である太陽エネルギーは光（電磁波）で運ばれます。人間は視覚や聴覚を持っていますが、これは可視光（電磁波）や音（音波）が情報を運ぶことを利用したセンサーです。コンピュータはワイヤやワイヤレスでネットワークに接続しますが、これは電波（電磁波）や電子波を利用したコミュニケーションです。これらはすべて、波動方程式という2階偏微分方程式で記述される現象です。この科目では波動方程式の性質や解き方を学びます。

波動方程式は、物理数学・演習IIで学んだ単振動を無限個に集めて《組み合わせた》ものと見なせます。そこで、単振動の復習から始めて、次にばねでつながれた2個の物体の運動（連成振動）を考えます。ここでは数理モデル基礎・演習IIが役立ちます。さらに、N個の物体がばねで1列につながれている場合を考え、最終的に $N \rightarrow \infty$ の極限として波動方程式を導きます。波動方程式には専用の解法がいくつかあります。

パチンコメーカーに就職するとも限らないのに、なぜ、ばねの性質をそんなに勉強するのか、1年生の時には理不尽に感じたかもしれませんが、実は世の中の多くのものの背後には振動と波動があることがわかってもらえるものと思います。力学と微分方程式のインタープレイが楽しい科目です。

■到達目標

N自由度の連成振動の運動方程式が解ける。波動方程式が解ける。

■講義方法

週に1回の講義からなる授業です。講義の時間内にある程度の演習を行います。

■系統的履修

この科目は現象の数学Aの続きではありません。1年次の数学・物理系必修科目に加えて、数理モデル基礎・演習Iの内容はこの科目の前提です。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回自主的に予習・復習を行うことを期待します。

必要な予習は、授業時間内および授業サポート hig3.net で直前の回に指示します。特に必要な予習・復習は、eラーニングシステム上の問題を解くことで行います。

■成績評価の方法

平常点（20%）予習復習、授業時間内のquiz、アンケートへの反応などの合計です。

小テスト（30%）プチテストとよんでいます。1回。

定期試験（50%）ファイナルトライアルとよんでいます。1回。

上記以外に、追加点が得られるプロジェクトを行うことがあります。

合計が100点以上になる場合は100点とみなします。

スコアレポートはeラーニングシステムReLSで表示します。

■テキスト

特になし

■参考文献

小形正男 『振動・波動』 裳華房 2000円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の情報は授業サポート hig3.net でPC/携帯向けに提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①単振動－調和振動子
- ②複数のばねの力による振動
- ③微小振動－一般のポテンシャルの平衡点の近くでの振動
- ④2個の物体の連成振動
- ⑤連成振動－基準座標
- ⑥連成振動－固有周波数と固有モード
- ⑦うなり
- ⑧脳内振動－プチテスト
- ⑨3個の物体の連成振動－固有モードと基準座標
- ⑩N個の物体の連成振動
- ⑪ ∞ 個の物体の連成振動－波動方程式の導出
- ⑫波動方程式の固有モード
- ⑬波動方程式の初期値境界値問題
- ⑭波動方程式の初期値境界値問題のフーリエ級数解
- ⑮波動方程式のダランベール（進行波）解

集合と位相・演習（2007年度以降入学生）
集合・位相および演習（2006年度以前入学生）

【担当】 國府 宏枝
【開講】 前期 木1・木2

■サブタイトル

収束と連続の定義にこだわってみよう！

■講義概要

高校まで、数学の世界は数直線が広くても平面どまりでした。でもこれからは、ベクトル全体の空間とか、微分方程式の解全体の空間とか、関数全体の空間とか、大胆な空間をいろいろ考えていきたいのです。

1変数関数はグラフに書くとよくわかりました。しかし、2変数関数 $f(x, y)$ では、値の収束先が (x, y) の $(0, 0)$ への近づけ方によって変わるというショッキングなことがあるのです。平面にしてこれですから、もっと大胆な空間では何が起きるかわかったものではありません。その基礎をしっかりとするために、収束や連続の定義を考え直していきます。あわせて、数学的な（ちょっと抽象的な）考え方に会います。数学じゃなくて国語みたいでショック受ける人もいるかも？でもこれが数学。

■到達目標

ユークリッド空間の点列の収束や、ユークリッド空間上の関数の連続性が成立するかどうか直観的にビビッとわかり、証明もできるようにすること。証明が好きになることを目標にします。

■講義方法

1週間に講義演習を1講時ずつ行います。2009年度は木1が講義、木2が演習です。

■系統的履修

直接に必要な予備知識は日本語ですが、微積分や線形代数の例を使うこともあるので、その辺がよくわかっているのはプラスです。また、3,4年次の数学系科目の多くは、この科目で学んだ言葉を使って語られることになります。

■授業時間外における予・復習等の指示

演習の問題のうちいくつかを宿題とします。次の時間に提出できるように準備してください。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (30%)
定期試験 (40%)

上記以外、+点で、突発的な課題が出るかもしれません。合計が100点以上になる場合は100点とみなします。

■テキスト

鈴木晋一『集合と位相への入門：ユークリッド空間の位相』サイエンス社 1733円

■参考文献

鈴木晋一『理工基礎 演習集合と位相』サイエンス社 1943円

一楽重雄（監修）『集合と位相そのまま使える答えの書き方』講談社 2100円
1冊目はテキストと密接に対応した演習書。2冊目は別の視点から丁寧に解説した演習書+要点のまとめ。

図書館や書店で自分にあった本を探す場合は「(一般) 位相」「位相空間 (論)」を探しましょう。「位相幾何(学)」は名前は似てるけどとりあえず別の分野です。「トポロジー」はあたりの場合もはずれの場合もあります。

■履修上の注意・担当者からの一言

進路に合わせて、講義内容・講義計画の変更があるかもしれません。

■講義計画

- ①集合
- ②論理
- ③写像
- ④同値関係があったら同値類別しよう
- ⑤集合の大きさを測るのは濃度
- ⑥ユークリッド空間に慣れる
- ⑦前半まとめと小テストと解説
- ⑧開集合閉集合内点…
- ⑨境界点集積点触点
- ⑩「すべての」と「ある」を使い分けよう-収束の定義
- ⑪連続の定義
- ⑫いろいろな空間-コンパクト
- ⑬へんな距離で測ろう-三角不等式しなくてもダイジョーブ！
- ⑭位相って何。
- ⑮まとめ

情報処理の基礎（2007年度以降入学生）
情報処理システム I（2006年度以前入学生）

【担当】 中野 浩
【開講】 後期 水3

■サブタイトル

コンピュータは何をしているか？

■講義概要

いろいろな用途にコンピュータが使われています。Webブラウザを使ってネットサーフィンができるのも、家庭用ゲーム機で仮想世界を体験できるのも、洗濯機や炊飯器が簡単に使えるのも、コンピュータの働きのおかげです。ボタンを押した、マウスを動かしたといった現実の世界での出来事を、コンピュータはどのようにして知り、それをどのように処理し、どのように現実世界に反映させているのか、その仕組みを解説します。

■到達目標

日頃お世話になっているコンピュータがどのような仕組みで動いているのかを理解し、コンピュータを使うと何ができそうかといった事に関する感覚が養われることを期待しています。

■講義方法

配布した資料に沿って講義を行います。

■授業時間外における予・復習等の指示

第2回以降の授業の資料は事前に配布しますので、十分予習をしてください。

■成績評価の方法

その他 (100%) 自由記載欄を参照して下さい。
期末試験 (100点満点) と適宜行う小テストで評価します。期末試験が x 点、小テストの得点率が $y\%$ の場合、総合的な成績は $x + (100 - x) y / 200$ (端数切り捨て) となります。

■テキスト

特になし

■参考文献

久野靖『改訂2版 UNIXによる計算機科学入門』丸善 3570円

矢沢久雄『コンピュータはなぜ動くのか』日経BP 2520円

■講義計画

- ①計算機と情報
- ②アナログ情報とデジタル情報
- ③自然数の符号化
- ④文字列の符号化
- ⑤計算機の構成
- ⑥入出力装置の仕組み
- ⑦主記憶装置の仕組み
- ⑧補助記憶装置の仕組み
- ⑨論理素子
- ⑩演算装置の仕組み
- ⑪負の整数の符号化
- ⑫CPUの仕組み
- ⑬機械語プログラム
- ⑭プログラムとプロセス
- ⑮メモリ管理

数学序論

【担当】 飯田 晋司、池田 勉、阪井 一繁

【開講】 前期 金3

■サブタイトル

微積分・演習 I，線形代数・演習 I，物理数学・演習 I を理解しよう

■講義概要

数学序論は数学系の授業（微積分・演習 I，線形代数・演習 I，物理数学・演習 I）をサポートする科目です。

高校までの数学を十分には習得していない場合，自分だけの力で不足分を補いながら，微積分・演習 I，線形代数・演習 I，物理数学・演習 I に関して一定以上の理解レベルに到達するのは困難かも知れません。また，これらの授業は多くの学生を対象とした講義であり，授業での疑問がすぐに解決できるとは限りません。

数学序論では，授業時間に解決できなかった疑問を解決できるように，授業で出てくる演習問題や課題を自分で解けるように T A や教員が指導します。

数学序論の単位は「増加単位」であり，卒業要件単位ではないことに注意して下さい。

また，受講登録をしていない学生も参加できますから，疑問や質問があるときには随時お出下さい（受講登録をしていない学生には単位認定はできません）。

■到達目標

微積分・演習 I，線形代数・演習 I，物理数学・演習 I の授業での疑問を解決し，演習問題や課題を自分でしっかり解けるようになる。

■講義方法

数学序論は少数の学生を対象として演習形式で行います。

個々の学生のペースに沿って

高校での数学 I，II，III，A，B，C

微積分・演習 I

線形代数・演習 I

物理数学・演習 I で使われる数学

の内容を理解できるようにきめ細かにサポートします。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は，微積分・演習 I，線形代数・演習 I，物理数学・演習 I の講義などで配布される資料などを利用して，十分な予習・復習を行うことが期待される。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

微積分・演習 I，線形代数・演習 I，物理数学・演習 I のテキストやプリント

■履修上の注意・担当者からの一言

単に自習する時間として使ってもらっても構いません。分からないことが出てきたら質問するというような参加形態でも構いません。分からないことを貯めてしまわないように，「数学序論」を活用して下さい。

■講義計画

教員（飯田・池田・阪井が交代で担当）と T A が受講生からの質問に応じて指導します。

数値計算法

【担当】 松木平 淳太

【開講】 前期 金1

■講義概要

人工衛星の軌道計算、気象予測、金融におけるリスク計算、ロボットの制御、建築物の強度設計、宇宙の進化や銀河系の生成のシミュレーションなど、自然現象から工学、経済の分野に到るまで、数理モデルとコンピュータによる数値計算は非常に強力な解析ツールである。この講義では数値計算の基礎理論とそのプログラミング技法を学習する。プログラミング言語としては C 言語を使用する。

■到達目標

「数値計算法」、「数値計算法演習」を修得することによって、基本的な数値計算の能力が身につくはずである。この科目修得後、「計算科学 I」、「計算科学 I 演習」を学んでほしい。

■講義方法

教科書・教員作成の資料によって通常の講義形式で授業を行う。なお、この講義は「数値計算法演習」とペアで履修することを前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Web ページを有効に活用すること。

■成績評価の方法

平常点（10%）

定期試験（90%）

■テキスト

栗原正仁 『わかりやすい数値計算入門[第2版]』ムリスリ出版 2250円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この授業自体は他学科の学生でも履修可能であるが、この授業とペアになっている「数値計算法演習」は履修できないので、注意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡先：junta@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画

① C 言語の復習

② 数の表現と誤差（2 進数）

③ 数の表現と誤差（浮動小数点、誤差）

④ 漸化式

⑤ 打ち切り誤差（円周率、 e の計算）

⑥ 打ち切り誤差（テイラー展開）

⑦ 前半のまとめ

⑧ 非線形方程式の求根（ニュートン法）

⑨ 非線形方程式の求根（2 分法）

⑩ 数値積分（区分求積法、台形則）

⑪ 数値積分（シンプソン則、ロンバグ積分）

⑫ 統計計算（平均、分散、偏差値）

⑬ 統計計算（最小 2 乗法）

⑭ 連立一次方程式

⑮ 総まとめ

数値計算法演習（2007年度以降入学生）
数値計算法実習（2006年度以前入学生）

【担当】 松木平 淳太
【開講】 前期 金2

■講義概要

「数値計算法」の講義に基づく実習を行う。内容については「数値計算法」の項を参照せよ。

■到達目標

「数値計算法」、「数値計算法演習」を修得することによって、基本的な数値計算の能力が身につくはずである。この科目修得後、「計算科学Ⅰ」、「計算科学Ⅰ演習」を学んでほしい。

■講義方法

「数値計算法」の講義で学んだ内容をもとに、オンラインで提示される課題に対して、プログラム作成等を各自が行う。プログラム作成上の質問に対しては、教員・T.A.が個別に指導する。

■授業時間外における予・復習等の指示

予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Webページを有効に活用すること。

■成績評価の方法

平常点（100%）毎回出される課題に対して、教員とT.A.が達成度を評価し、その総合点を成績とする。

■テキスト

栗原正仁 『わかりやすい数値計算入門』 ムリスリ出版 2205円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

課題は授業時間内に完成できるとは限らないので、授業時間外も時間を割かれることを覚悟すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：
連絡先：junta@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①C言語の復習
- ②数の表現と誤差（2進数）
- ③数の表現と誤差（浮動小数点、誤差）
- ④漸化式
- ⑤打ち切り誤差（円周率、eの計算）
- ⑥打ち切り誤差（テイラー展開）
- ⑦前半のまとめ
- ⑧非線形方程式の求根（ニュートン法）
- ⑨非線形方程式の求根（2分法）
- ⑩数値積分（区分求積法、台形則）
- ⑪数値積分（シンプソン則、ロンバーク積分）
- ⑫統計計算（平均、分散、偏差値）
- ⑬統計計算（最小2乗法）
- ⑭連立一次方程式（掃出し法）
- ⑮総まとめ

数理計画法

【担当】 山下 信雄
【開講】 後期 火2

■サブタイトル

諸問題に対する最適な解決策を求めるためのモデル化とアルゴリズム

■講義概要

数理最適化とは、対象とする問題の最適な解決策を与えるため、問題の数理モデル（数理計画問題）を導出し、適切なアルゴリズムによってそのモデルの解を求めることである。講義では、まず、いくつかの現実の問題を題材にとり、その数理的特性から数理計画問題としてモデル化できることを見る。続いて、数理計画問題の重要な理論のひとつである最適性の理論について講義する。さらに最適性の理論に基づいて、最急降下法、ニュートン法、単体法、内点法などのアルゴリズムを紹介する。

■到達目標

さまざまな社会的、工学的問題を数理的に観察力を養い、それらの問題に対する合理的な解決策を導く手法を身につける。

■講義方法

ノート講義および演習問題を含むプリントの配布

■系統的履修

線形代数、解析

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書および配布資料をよく読み、予・復習すること。

■成績評価の方法

定期試験（100%）
学期末に試験を行う。試験問題に類似した問題を授業中に演習として与える。
レポートで成績に加点することもある。

■テキスト

山下信雄・福島雅夫 『数理計画法』 コロナ社

■参考文献

福島雅夫 『数理計画入門』 朝倉書店 3400円
茨木俊秀・福島雅夫 『最適化の手法』 共立出版 2884円

■履修上の注意・担当者からの一言

数理計画法は様々な分野で使われる道具であり、授業を通して「数理計画法」を使いこなせるようになってもらいたいです。そのためには、授業中の私語は慎み、わからないことがあれば講義中でも積極的に質問してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールにて質問に答える。

■講義計画

- ①数理計画法とは
- ②さまざまな問題のモデル化：生産計画等
- ③さまざまな問題のモデル化：ポートフォリオ最適化等
- ④数理計画法の基礎概念
- ⑤凸計画問題
- ⑥最適性の条件：制約なし最小化問題
- ⑦最適性の条件：KKT条件
- ⑧KKT条件の活用
- ⑨解法の基礎概念
- ⑩制約なし最小化問題の解法：直線探索法
- ⑪直線探索法の例：最急降下法、ニュートン法、準ニュートン法
- ⑫線形計画問題
- ⑬単体法
- ⑭内点法
- ⑮その他の解法

■サブタイトル

セミナー形式の専門的演習

■講義概要

学生を担当教員に配属し、少人数で輪講や実習を行う。演習の具体的内容と配属方法については、6月に説明会を開き詳しく説明する。説明会の日程は6月初旬に掲示する。

■到達目標

4年生の特別研究の準備となる演習である。ただし、内容的には特別研究と連動しないので、数理情報演習と特別研究で担当教員が異なっても構わない。今まで習ってきたことの検証と、より専門的な知識や技術を教員の直接の指導によって習得することができる。

■講義方法

担当教員毎に異なる。説明会の際に詳しい説明がある。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）テーマに対する取り組みの姿勢や課題の達成度を担当教員が評価する。

■テキスト

担当教員毎に異なる。

■参考文献

担当教員毎に異なる。

■講義計画

講義計画は担当教員毎に異なる。

数理モデル基礎・演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
数理モデル基礎および演習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】 四ツ谷 晶二
【開講】 前期 月1

■サブタイトル

微分方程式を作り・解こう

■講義概要

多くの自然界の法則は微分方程式で書かれている。ニュートンの力学の運動方程式、熱の伝播、波の振動などである。さらに、生物の分布や成長、経済現象なども微分方程式でかくことができる。したがって、微分方程式を解いて解の性質を調べると、現象を深く分析したり未来を予測することができる。それらの方程式はどういうふうにして導かれたのでしょうか？微分方程式を導くことを微分方程式を「立てる」という。さらに、現象に対応する（と見られる）微分方程式を立てることを《数理モデル》を作るという。現象の観測から得られた知見を基に数理モデルを作るわけであるが、必ずしも十分な知見がそろっているわけではなく、数理モデルを作り、解いて、解を分析してみて、観測から得られている知見を説明できるかどうかチェックしなければならない。現象を説明できないならばそのモデルは妥当でないということで、モデルを作り直すところからやり直さなければならない。この授業では、数理モデルのつくり方と独立変数が1つの、いわゆる「常微分方程式」の解法の初歩を学ぶ。特に、有限回の加減乗除・微分・積分などにより初等関数の範囲で解が求まるものをあつかう。

■到達目標

簡単な数理モデルが作れて、その性質を見て取れるようになる。
1階常微分方程式、2階線形常微分方程式の解き方が分かる。

■講義方法

週に1回の授業で講義主体であるが、適宜TAの方々の協力を受けつつ演習・小テストを行う。

■系統的履修

物理学・演習Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、Ⅱの内容を使う。また、同時に開講される電気・磁気、力学も履修しておくとう理解の幅が広がる。一方、計算科学Ⅰ・計算科学演習Ⅰは、この科目で出てくるものに似ている。しかし、初等関数等では解けない微分方程式を計算機を使って解こうというものです。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりとすること。

■成績評価の方法

小テスト（30%）適宜、小テストを行う。
レポート（30%）適宜、提出を求める。
定期試験（40%）

■テキスト

川野日郎・薩摩順吉・四ツ谷晶二（共著）『理工系の数理
微分積分+微分方程式』裳華房 2700円
不足する事項については、適宜、プリントを配付する。

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①複素数と複素平面
- ②生物や化学物質の増減を表す微分方程式
- ③微分方程式と解
- ④微分演算子
- ⑤定数係数の斉次線形微分方程式
- ⑥定数係数の非斉次線形微分方程式
- ⑦振動を表す微分方程式
- ⑧定数変化法と階数低下法
- ⑨線形化できる微分方程式
- ⑩変数分離形
- ⑪同次形・完全微分形
- ⑫ラプラス変換
- ⑬ラプラス変換による微分方程式の解法
- ⑭常微分方程式の解の存在定理と一意性定理
- ⑮まとめ

数理モデル基礎・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
数理モデル基礎および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】 山岸 義和
【開講】 後期 水1

■講義概要

さまざまな現象の数理モデルとして重要な常微分方程式系について講義する。その中でも特に2変数の常微分方程式に話題を絞り、線形微分方程式の解法、相平面を用いて微分方程式を定性的に調べる手法を解説する。

■到達目標

微分方程式について、単なる解法だけでなく、微分方程式がどのような現象の解析に役に立つのか、微分方程式の解を図形的にとらえることでどのようなことがわかるのか等々、微分方程式を学習する上で基本となる感覚を身につける。

■講義方法

板書を主体として講義する。演習の時間を設けることもある。受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することもある。

■系統的履修

微積分・演習Ⅰ・Ⅱ，線形代数・演習Ⅰ・Ⅱ，数理モデル基礎・演習Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示

eラーニングのページを利用してレポートを課す予定。

■成績評価の方法

その他（100%）
講義期間中の小テストおよびレポートと、期末試験を同程度に重視して評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①線形代数（行列の標準形）の復習
- ②1変数2階線形微分方程式の復習
- ③2階線形微分方程式の1階微分方程式系への変換とその解法
- ④1階微分方程式系の解法
（係数行列が対角化できない場合）
- ⑤1階微分方程式系の解法
（係数行列が複素固有値をもつ場合）
- ⑥1階微分方程式系の解法（これまでのまとめ）
- ⑦方程式の変換と解軌道
- ⑧相平面解析
（係数行列が対角化可能な場合の微分方程式の分類）
- ⑨相平面解析（その他の場合の微分方程式の分類）
- ⑩相平面解析（線形方程式の平衡点の安定性）
- ⑪非線形方程式（相平面解析）
- ⑫非線形方程式（平衡点の安定性）
- ⑬Hamilton系
- ⑭現象のモデルとしての微分方程式
- ⑮全体の復習

セミナー

【担当】 全教員
【開講】 前期 月4・5 or 木4・5

■講義概要

学生を担当教員（原則として特別研究と同じ）に配属し、特別研究の内容を補足する。輪講あるいは実験・実習などを行うが、担当教員によって内容および方法は異なる。

■到達目標

このセミナーを通して、特別研究を完成するための土台を造る。

■講義方法

担当教員毎に異なる。特別研究の履修説明会のときに詳しい説明がある。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）研究テーマに対する取り組みの姿勢、テーマに関する調査や発表の内容、課題の達成度などを担当教員が評価する。

■テキスト

担当教員毎に異なる。

■参考文献

担当教員毎に異なる。

■講義計画

講義計画は担当教員毎に異なる。

■サブタイトル

コンピュータ・グラフィックス, 2次曲線・2次曲面と線形代数

■講義概要

線形代数は, 情報科学や自然科学など, ほとんどすべての科学技術分野のみならず, 経済学などの社会科学分野においても必要とされる基礎知識であり, 単純で, 奥深く, 役に立つ道具です。しかしながら, この重要性を大学初年度の学生に分かりやすく伝えるのは容易ではありません。そこで, 「コンピュータ・グラフィックス」という, 学生が比較的なじみやすい視点から「線形代数」にアプローチします。コンピュータ・グラフィックスでは, 図形の回転, 拡大・縮小, 対称変換, 平行移動, 図形を傾ける操作などが必要ですが, その多くが, 数学で「線形変換」と呼ばれるものに対応します。線形変換は数を長方形に並べた「行列」によって表現されることを最初に学びます。線形代数はいろいろな場面で役に立ちますが, 最も有用であるのは「行列の固有値・固有ベクトルと対角化」であると思います。この有用性を2次曲線と2次曲面を例として採用し, ビジュアルに説明するよう計画しています。

■到達目標

空間3次元までの線形変換について, 固有値・固有ベクトル, 行列の対角化などの原理と利用方法を身に付けることが目標です。これにより, より高度な物理学や化学などの自然科学, 情報科学や経済学などの種々の社会科学の学修が可能になります。

■講義方法

週2回開講される, ひとかたまりの科目です。一方は講義形式で, 他方は演習形式で実施します。講義では, 基本的な考え方を説明し, 適切な例題を解きます。演習では, 講義内容の習得と応用力の育成を目指して課題を解きます。必要に応じてコンピュータを使った実習も行います。講義・演習(実習)を一回ごとに完結させる形で運営します。達成感が得られるように講義は受講生参加型にします。演習(実習)では, 教員と学生, TAと学生, さらに, 学生同士のディスカッションを推奨します。早くできた学生は他の学生を指導するよう期待され, ボランティア・ポイントという形で成績評価に反映されます。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は, 配布する講義資料を利用して, 十分に予習・復習をすることが期待される。

■成績評価の方法

平常点(20%) 演習・実習の達成状況(締切に遅れた場合もチェックして貰えます)

小テスト(20%) 講義資料・ノートの持込可, TAへの質問可

定期試験(60%) ウェブページに過去問と解答例を公開, 筆記用具以外は持込不可

1. 最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します。
2. 出席を確認することがあります。出席の確認は, 不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります。欠席の場合は, 成績評価の際に減点します。

■テキスト

特になし

■参考文献

桑村雅隆 『リメディアル線形代数』 裳華房 2520円
高橋大輔 『理工基礎線形代数』 サイエンス社 1680円

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 欠席などのため, 講義・演習(実習)の資料を貰えなかった場合は, ウェブページからダウンロードして下さい。
2. 期末に実施される<学生による授業評価調査>の結果はウェブを通して公表します。【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてください】への記述内容もウェブを通して公表します。
3. 過去の定期試験問題と解答例, 成績評価の分布などもウェブページに公開されています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1. オフィスアワーについては, 掲示およびウェブページ(<http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml>)を通して理工学部数理情報学科から連絡されます。
2. 担当教員へは電子メール(tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp)によって連絡して下さい。

■講義計画

- ① 2次曲線を表す式, 2次曲面を表す式
- ② ベクトルの表現, 内積, 行列の表現, 行ベクトル・列ベクトル, 正方行列, 転置行列, 行列のスカラー倍, 行列の和と差, 零行列・零ベクトル
- ③ 行列とベクトルの積, 行列と行列の積, 行列の積とベクトルの内積の関係, 行列のべき乗, 非可換性, 結合法則・分配法則
- ④ 直線のベクトル方程式, 平面から平面への写像, いろいろな線形変換(拡大・縮小, 対称移動, 回転移動, 傾ける変換), 線形性とは?, 合成変換と積の非可換性
- ⑤ 図形の拡大・縮小率と逆変換, ベクトルの線形独立・線形従属, 行列のランク, 逆行列
- ⑥ 変数消去法(掃き出し法), 連立1次方程式の行列表現, 拡大係数行列, 行基本変形による連立1次方程式の解法, 解の一意存在・存在・非存在, すべての解を求める
- ⑦ 階段行列, ランクの自動計算, 逆行列の自動計算
- ⑧ 固有方程式, 固有値・固有ベクトル, 行基本変形による固有ベクトルの計算, 対角化・三角化
- ⑨ 行列のべき乗, 数列の一般項, 複素数平面, ド・モアブルの公式
- ⑩ 直交行列, 正規直交系, 合同変換, 実対称行列とその対角化
- ⑪ だ円, 1点, 双曲線, 交差する2直線, 平行な2直線, 1直線, 放物線
- ⑫ 外積, スカラー三重積, 行列式と体積, 固有値・固有ベクトル
- ⑬ 直交行列, 正規直交系, 合同変換, 実対称行列とその対角化
- ⑭ だ円面, 1点, 単葉双曲面, 2次錐面, 双葉双曲面, だ円柱, 1直線, だ円放物面
- ⑮ 双曲柱, 交わる2平面, 双曲放物面, 平行2平面, 1平面, 放物柱

線形代数・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
線形代数および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】松本 和一郎
【開講】後期 木1・木2

■サブタイトル

「行列と行列式」から「線形代数学」へ

■講義概要

線形代数・演習Ⅰで、行列の作用が持つ図形的意味や固有値・固有ベクトルの有用性について学びました。Ⅱでは、「これらのことが何故うまくいくのか?」、「この仕組みは他の問題にも適用できるのか?」を考えます。この2つの問いかけは、線形代数に限らず、現代数学が常に持つ問題意識です。すなわち、同じような考察を問題ごとに繰り返すのではなく、ある問題でうまくいった「カラクリ」を分析し、別の問題にも広く使えるように、用語や概念を整備・一般化しておく姿勢です。線形代数学の知識とともに、「考え方」も修得して下さい。

■到達目標

「カラクリ」の解明と概念の整備・一般化は、将来、皆さんが社会に出たときに、数学以外の問題の解決においても、身に付けておくと役にたつ重要な「考え方」の1つです。

■講義方法

講義と演習の組み合わせです。演習は、事前に与えた問題を各自が自宅で解いてきて、演習の時間は板書等で各自の解答を報告・説明します。演習の時間は、10数名程度の小クラスに分かれます。

■系統的履修

線形代数・演習Ⅰの内容を理解していることを前提に講義を進めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の演習の時間に扱う問題を配付しますから、自宅で解いてきてください。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 活動点10、宅習点10、発表点10。活動点は、活動率2/3で0点、3/3で10点、0で-20点です。

定期試験 (70%)

講義・演習一体の評価です。講義・演習時の平常評価(レポートも含む)が30点、期末試験が70点です。期末試験のウェイトが大きいです、平常の演習で問

題の解法のトレーニングをしておかないと期末試験で良い点は取れません。

■テキスト

松本和一郎 『線形代数入門』 共立出版 3210円

講義の前に次回進む範囲の教科書を読んでください。どこまで分かって、どこから分からなくなるか、分からなくなる点をしっかり講義の時に聞いて下さい。90分間、均等な緊張は続きません。各自の「聞くべき山」を設定して下さい。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

数学は積み重ねの学問ですから、必ず講義に出席し、事前に配布する演習問題を自宅で解いてから演習に臨んで下さい。日頃の努力が肝心です。講義は教科書に沿って行いますから、ノートを取るより講義を聴いて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

学期が始まってから研究室の扉にオフィスアワーの時間を掲示します。

■講義計画

- ①はじめにスカラーありき、ベクトル空間
- ②部分空間と線形独立
- ③次元と基底
- ④線形写像
- ⑤カーネルとイメージ
- ⑥行列のランク
- ⑦基本変形による標準形と逆行列の求め方
- ⑧行列式はなぜ必要か?
- ⑨行列式の諸性質
- ⑩余因子展開
- ⑪固有値と固有ベクトル、行列の対角化
- ⑫対角化可能性のための条件
- ⑬対称行列、正規行列、直交行列
- ⑭正規行列の対角化
- ⑮行列の対角化の応用

大域解析

【担当】森田 善久
【開講】後期 火2

■サブタイトル

変分問題とその応用

■講義概要

幾何学や物理学において、ある量を最大にする、あるいは最小にする関数を求めるような問題がある。たとえば、長さが同じ曲線で囲まれる図形で、面積最大のものは決める問題や、2点を結ぶ曲線に沿って質点が降下する場合どのような曲線に沿って降下すると速度が最速になるか、などである。これらの問題の本質は、関数のあるクラスにおける最大・最小問題で、その基本的なアイデアは1変数関数の最大・最小問題に表れている。関数の空間は無限次元であるが、これまでの最大・最小問題の原理をどううまく無限次元の問題に乗せるかを、具体例を通してその本質的な考え方を理解してもらう。

■到達目標

Euler-Lagrange の方程式が導けること、および Lagrange の未定係数法の幾何学的な意味の理解が目標である。

■講義方法

参考テキストから話題をピックアップしながら講義を行い、必要に応じて問題演習を行う。

■系統的履修

1年次の微積分、微分方程式の解法に加え、関数解析の初等的な知識があれば大いに役立つ。

■授業時間外における予・復習等の指示

内容が高度なので予習と復習をしっかりするように。

■成績評価の方法

平常点 (60%) 授業中の課題の提出など。

定期試験 (40%)

■テキスト

特になし

■参考文献

高桑昇一郎 『微分方程式と変分法』 共立出版 2600円

■履修上の注意・担当者からの一言

講義中は質問時間を十分とるので、積極的に授業に取り組んで欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

初回の講義のときに決める。

■講義計画

- ①変分問題とは何か
- ②1変数関数の極値問題
- ③多変数関数の極値問題
- ④Lagrange の未定係数法と条件付き極値問題
- ⑤汎関数の第1変分
- ⑥Euler-Lagrange の方程式
- ⑦具体例 (1) 最速降下曲線
- ⑧具体例 (2) 測地線
- ⑨前半のまとめ
- ⑩安定条件と第2変分
- ⑪ラグランジュの運動方程式
- ⑫束縛条件を伴う変分
- ⑬固有値問題と変分法Ⅰ
- ⑭固有値問題と変分法Ⅱ
- ⑮後半のまとめと演習

■サブタイトル

力学系とその幾何学的方法

■講義概要

力学系は時間とともに変化する状態を記述するシステムであり、その変化の法則が決定論的に与えられているものをいう。本講義では、まず、力学系を扱うのに必要となる多様体の解説をする。その後で、力学系の一般的な定義を与え、いくつかの基本的な力学系を取り上げ、それらに共通する基本的性質について解説する。また、カオスなどの現象についてその数学的な扱いを解説する。

■到達目標

幾何学的な考え方を身につけてもらいたい。

■講義方法

板書による講義。練習問題をたくさん出したい。

■系統的履修

微積分および演習、線形代数。

■授業時間外における予・復習等の指示

各講義で出した問題から小テストレポート問題をだすので、しっかりと復習しておいてほしい。

■成績評価の方法

小テスト (60%) 2回ほど実施予定。
レポート (40%)

■テキスト

特になし

■参考文献

國府寛司・石井豊・新居俊作・木坂正史 『カオス力学系入門 第2版』 朝倉書店 5500円
坪井俊 『幾何学I 多様体入門』 東京大学出版会 2600円
一楽重雄 (監修) 『位相幾何学』 朝倉書店 3800円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1-514の前に掲示するので見てください。

■講義計画

- ①ユークリッド空間、距離空間多様体について
- ②位相空間
- ③ユークリッド空間の中の多様体－簡単な例
- ④多様体の定義－可微分多様体
- ⑤多様体の定義－座標変換接
- ⑥空間－接ベクトル空間
- ⑦多様体上の関数
- ⑧基本群と被覆空間－群
- ⑨単体と複体
- ⑩ホモロジー群－定義
- ⑪ホモロジー群－鎖複体と鎖写像
- ⑫ホモロジー群－閉曲面のホモロジー
- ⑬力学系の定義－基本的な力学系
- ⑭トーラス変換
- ⑮記号力学系、双曲型力学系、パイコネ変換・カオス

デジタル信号処理 (2007年度以降入学生)
信号処理 (2006年度以前入学生)

■サブタイトル

MIT OpenCourseWareを用いた「信号とシステム」に関する授業

■講義概要

デジタル信号処理は、情報通信技術の分野における基礎的な技術であり、電子情報通信以外の分野でも用いられる幅広い応用をもつ学問分野である。この講義では、「信号とシステム」の基礎理論および信号処理とその応用について議論する。基礎理論である信号のフーリエ級数表現と線形時不変システムに重点をおいた上で、信号処理において重要なサンプリング定理、離散フーリエ変換について詳しく議論する。

■到達目標

画像処理などの信号処理の基礎的な理論に関する知識を習得し、簡単な信号処理のプログラムが理解できるようになる。周期的信号のフーリエ級数表現を求めることができる。連続時間フーリエ変換、離散時間フーリエ変換の計算ができる。サンプリング定理を理解し、信号に対して適切なサンプリング周波数を求めることができる。

■講義方法

MIT OpenCourseWareを中心に授業を行い、適宜小テストを行う。2回程度レポートを提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業前に、e-Learning System上にアップロードしたテキストを印刷し予習しておくこと。
また、毎授業後、e-Learning System上の小テストを受験すること。

■成績評価の方法

小テスト (10%)
レポート (20%)
定期試験 (70%)

■テキスト

MIT OpenCourseWareを利用して授業を行います。

■参考文献

A.V.Openheim 『Signals & Systems』 Prentice Hall

■オフィスアワー・教員への連絡方法

基本的には、水曜日3限目ですが、出張や会議の場合もあります。情報メディアセンター Course Management System (Moodle) で、質問などが行えます。

■講義計画

- ①ガイダンス (授業の概要、履修の仕方、Course Management System (Moodle) の使い方、予習・復習)、信号処理の紹介
- ②システムの例と特性 (因果性、線形性、時不変性)
- ③信号の表現、線形時不変システムのたたみ込み和による表現
- ④連続時間信号の表現、連続時間線形時不変システムのたたみ込み積分による表現
- ⑤線形時不変システムの固有関数、連続時間周期信号のフーリエ級数表現
- ⑥連続時間フーリエ級数の特性、離散時間フーリエ級数
- ⑦フーリエ級数と線形時不変システム、周波数応答とフィルタリング
- ⑧連続時間フーリエ変換とその特性、周期信号のフーリエ変換
- ⑨連続時間フーリエ変換のたたみ込み特性、パーセバルの関係、離散時間フーリエ変換
- ⑩離散時間フーリエ変換の例と特性
- ⑪フーリエ級数とフーリエ変換の双対性
- ⑫線形位相、1次および2次の離散時間システム
- ⑬サンプリング、サンプリング定理
- ⑭連続信号の離散時間処理
- ⑮総括、レポートおよび小テストの解答

データ構造とアルゴリズム（2007年度以降入学生）
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】馬 青
【開講】前期 月4

■講義概要

効率的なアルゴリズムを作ろうとするときに処理の対象となるデータをコンピュータの内部でどのように表現するかは（場合によってはアルゴリズムそのものよりも）重要である。このようなデータ表現とそれに伴う機能を持つものがデータ構造である。この講義では、連結リスト、スタック、キュー、木など各種の基本的なデータ構造について学ぶ。また、「アルゴリズム・演習」で触れていなかった効率的な文字列探索アルゴリズムについても学ぶ。

■到達目標

情報科学の分野における基礎知識を習得するとともに、コンピュータを利用した問題解決手順を考える能力を身につけることである。

■講義方法

配布資料にそって講義する。講義と共に毎時間演習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

学習効果を上げるためには予習と復習がたいへん重要である。次回の授業内容を事前に知らせておくので、必ず予習しておくこと。また、復習にも参考書を使うなどして十分な時間をかけること。

■成績評価の方法

平常点（20%）
定期試験（80%）
期末試験の成績を主とし、これに演習の評価を加味する。

■テキスト

プリントを適宜配布

■参考文献

東野勝治ら著 『C言語によるアルゴリズムとデータ構造入門』 森北出版
湯田幸多・伊原充博共著 『アルゴリズムとデータ構造』 コロナ社
小澤孝夫著 『コンピュータ・アルゴリズム』 昭晃堂
石畑清 『アルゴリズムとデータ構造』 岩波書店

■講義計画

- ①導入
- ②基本的なデータ構造：セル、配列、連結リストの配列による実現
- ③連結リスト：基本準備（構造体、自己参照型構造体、malloc関数）
- ④連結リスト：連結リストの作成
- ⑤連結リスト：連結リストへの操作（探索、更新、追加、削除）
- ⑥スタック、スタックの応用例
- ⑦キュー：配列による実現、連結リストによる実現
- ⑧キューの応用例
- ⑨木、2分木、2分探索木
- ⑩2分探索木への操作：追加・削除
- ⑪平衡木：最適2分探索木
- ⑫平衡木：AVL木
- ⑬平衡木：B木（2-3-4木、赤黒木）
- ⑭文字列探索：KMP法
- ⑮文字列探索：BM法

学
科
固
有

データベース（2007年度以降入学生）
データベースシステム（2006年度以前入学生）

【担当】曾我 麻佐子
【開講】後期 月3

■サブタイトル

データベースの基本から設計、運用まで

■講義概要

データベースは様々な情報処理システムに必須の要素である。本講義では、データベースシステムに関して、基本的な概念から設計、プログラミング、運用論までを扱う。具体的には、最も基本的で普及しているリレーショナルデータベースを主な対象とするが、オブジェクト指向データベースやマルチメディアデータベースなど、最近の技術についても触れる。

■到達目標

データベースの基本概念と利用方法を理解し、簡単なデータベースシステムが設計できるようになる。

■講義方法

主として講義形式で行い、内容の理解度をチェックするために、適宜小テストや演習課題を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回配布する資料や小テストについて復習しておくこと。

■成績評価の方法

小テスト（20%）
レポート（10%）
定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

増永良文 『データベース入門』 サイエンス社 1900円
永田武 『データベースの基礎』 コロナ社 2400円

■講義計画

- ①ガイダンス（授業の概要、データベースとは）
- ②リレーショナルデータベースモデル
- ③リレーショナル代数とデータ操作
- ④SQL 1：単純質問
- ⑤SQL 2：結合質問
- ⑥データベース設計、実体関連図
- ⑦正規化
- ⑧データベース設計（実践）
- ⑨データベース管理システム
- ⑩トランザクション
- ⑪プログラムからのアクセス
- ⑫XMLデータベース
- ⑬オブジェクト指向データベース
- ⑭マルチメディアデータベース
- ⑮まとめ

電気と磁気（2007年度以降入学生）
電磁気学（2006年度以前入学生）

【担当】 飯田 晋司
【開講】 前期 水3

■サブタイトル

簡単な電気回路を表す微分方程式

■講義概要

最初に電気や磁気の関係する現象について簡単に紹介します。次に、電場や磁場、抵抗、電気容量、インダクタンスなど電気と磁気の現象を表すのに必要な用語を説明していきます。抵抗、コンデンサー、コイルで構成される交流回路を表す微分方程式を導き、その解を求めます。

■到達目標

抵抗、コンデンサー、コイルなどで構成される簡単な交流回路を表す微分方程式が書き下せ、解けるようになる。

■講義方法

適宜プリントを用いた通常の講義。

■系統的履修

物理数学・演習Ⅰ、Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ、Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

長岡洋介 『電磁気学Ⅰ（物理入門コース3）』 岩波書店
長岡洋介 『電磁気学Ⅱ（物理入門コース4）』 岩波書店
浦上澤之 『理工 基礎物理学』 裳華房
基礎物理教育研究会 『基礎物理』 森北出版

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時に連絡します。

■講義計画

- ①電気・磁気現象の紹介、電気素量、電流、電流密度、クーロンの法則
- ②複数の電荷からのクーロン力
- ③電場、電気力線
- ④電場と静電ポテンシャルの関係、簡単な電荷配置に対する静電ポテンシャル
- ⑤一様な電場と抵抗のある中での電子の運動1、オームの法則、電気伝導度、抵抗率
- ⑥一様な電場と抵抗のある中での電子の運動2、抵抗の消費する電力、ジュール熱
- ⑦交流と実効値、コンデンサーと電気容量、RC回路、コンデンサーに蓄えられる静電エネルギー
- ⑧抵抗とコンデンサーで構成される交流回路、複素インピーダンス
- ⑨磁場中を運動する荷電粒子に働く力、ローレンツ力
- ⑩サイクロトロン運動、電流が磁場から受ける力
- ⑪円電流が磁場から受ける力、モーターの原理、ビオ・サバールの法則
- ⑫直線電流の作る磁場、平行電流間にはたらく力、電流の作る磁場の例（平行電流、円電流、ソレノイド）
- ⑬電磁誘導の法則、コイルに発生する誘導起電力、インダクタンス
- ⑭LR回路、磁場に蓄えられるエネルギー、LCR回路の複素インピーダンス
- ⑮直列および並列回路の合成インピーダンス、キルヒホッフの法則

特別研究

【担当】 全教員
【開講】 通年 集中

■サブタイトル

卒業研究

■講義概要

4年次生を対象に配属された各教員のもとで特別研究を行う。3年次までに習得した学力を基に、特定の研究テーマについて研究を行う。履修した科目の応用能力を高め、新しいテーマに自主的に取り組み、研究成果をまとめて発表する能力を養成することを目的とする。
前年度後期に配属についての説明会が開かれ、そこで各教員の研究テーマについての詳しい説明がある。配属に際しては、定員以内であれば学生諸君の希望が優先される。担当教員のもとでなされた各自の研究は、年度末に諸君が卒業論文としてまとめ発表する。

■到達目標

4年間の勉学の総決算である。指導教員による個別指導により、研究方法や論文のまとめ方、発表方法を習得する。

■講義方法

担当教員毎に異なる。説明会のときに詳しい説明がある。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）卒業論文と特別研究審査会での各自の発表・質疑応答を総合して学科で判断する。

■テキスト

担当教員毎に異なる。

■参考文献

担当教員毎に異なる。

■講義計画

担当教員毎に異なる。説明会のときに詳しい説明がある。

■講義概要

数理学や情報科学に関連するテーマについて、学外から講師を招いて講義を行う。講師は幅広く大学や企業から人選し、社会や学術分野で活躍されている方の生の声を聞く機会を与える。大学での勉学がどのように研究や開発の第一線で生かされているか、また、社会に出たときどのような知識・能力が期待されているかなど、大学での勉学の指針となるようなテーマを選んで講義してもらう。

■到達目標

実際に第一線で活躍されている人たちの講演を聴くことによって、大学での勉学に大きな指針が与えられる。また就職活動の際の参考になる話も得られる。

■講義方法

学外から講師を数名招いて一回毎の講義をしてもらう。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりとすること。

■成績評価の方法

1～4年次の間に随時受講した上で、その都度指定される形式の評価に6回以上合格することで単位認定される。成績評価は、6回の合格で80点、7回で90点、8回以上で100点とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

内容は毎回異なり、常設科目には無い内容のものが多く、なるべく多く出席して欲しい。なお、登録は4年次の前期にすることになっているので、注意すること。

■講義計画

年に3ないし4回、主に水曜日の5講時に開講する。テーマや実施日・時間・場所はその都度掲示する。

認知科学と人工知能（2007年度以降入学生） 人工知能（2006年度以前入学生）

【担当】 小堀 聡

【開講】 後期 火4

■サブタイトル

人間と人工システムの比較

■講義概要

人工知能には、人間の知能を機械で実現しようとする工学的な立場と人間の知能のメカニズムを解明しようとする科学的な立場がある。前者が狭義の人工知能であり、後者は認知科学と呼ばれる。これらの範囲は基礎から応用まで多岐にわたるが、講義では特に重要な事項に限定する。まず、認知過程の基礎とそのモデル化について解説し、人間の記憶や学習、ニューラルネットワーク、知識表現、問題解決、探索、推論などについて述べるとともに、脳神経系や心のモデルなどについて触れ、最後にエキスパートシステムやロボットなどの応用分野にも言及する。

■到達目標

認知科学や人工知能についての基礎的な知識が得られるだけでなく、人間と計算機を比較しながら、それらの特徴について理解が深められる。

■講義方法

原則としてパソコンによる提示と板書にそって講義を進める。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

講義ノートは本授業のサイトで公開しているので、PDFを各自ダウンロードして予習・復習に活用すること。なお、講義ノートはプリントアウトして授業に持参することを強く推奨する。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

定期試験（100点満点）の成績により評価するが、期末までにレポートを提出することを定期試験の受験の条件とする。詳細については、授業において説明する。

■テキスト

使用しない

■参考文献

参考書などについては、授業の中で随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

単に授業に出てノートを取るだけでなく、自分でよく考えながら講義を聴くようにしてほしい。なお、Webページ（<http://milan.elec.ryukoku.ac.jp/~kobori/resume.html>）で、講義ノートや関連情報を公開しているので、そちらも参考にしてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

電子情報学科の教員の週間予定については、学科のWebサイトで参照することができます。スケジュールを確認して、1号館4階の研究室を訪問してください。

■講義計画

- ① 認知科学と人工知能について
- ② 感覚・知覚・認知
- ③ 記憶と学習
- ④ ニューラルネットワーク
- ⑤ 知識表現
- ⑥ 問題解決と探索
- ⑦ 推論
- ⑧ 演習問題解説 1
- ⑨ 脳と神経系
- ⑩ 心のモデル
- ⑪ エキスパートシステム
- ⑫ ロボット
- ⑬ インタフェース
- ⑭ 演習問題解説 2
- ⑮ 質疑応答

ネットワーク構成論（2007年度以降入学生）

【担当】 岡田 至弘

【開講】 後期 火2

■サブタイトル

ネットワークの基礎からインターネット・Webテクノロジーまで

■講義概要

通信の基本要素（遅延、帯域、信頼性と誤り制御）の理解から情報ネットワークまでの拡張を基本プロトコル階層の学習を通してすすめ、具体的なネットワーク構成の例（インターネット）からネットワーク構成の実際を学んでいく。ここでは、通信の基礎概念・用語・技術の羅列ではなく、データ伝送から情報通信までの概念を系統的に学習していく。一般的なOSI基本参照モデルなどのプロトコルレベルの概念紹介は行わず、TCP/IPやUDPなどの実体のあるプロトコルの理解からネットワーク構成の普遍性を理解することに力点を置く。

■到達目標

情報通信の概念整理と新たなネットワーク技術・サービスへの対応・理解

■講義方法

教科書、配布資料（プリント）、毎回のプレゼンテーション、Web教材を用いる。

■系統的履修

インターネットリテラシー、計算機基礎実習、ソフトウェア構成論

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に配布される資料を用い、予習・復習を毎週行い、講義中に指示されたWebページ、文献、問題の読了を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）
レポート（20%） 1 ないし 2 回の課題呈示に対応したレポート提出
定期試験（50%）

不定期の小テストと、定期試験の評価およびレポート課題含めた総合評価を行う。

■テキスト

岡田史郎 『インターネットプロトコル』 オーム社 2800円

■参考文献

村上優子著 『ネットワーク概論』 サイエンス社 1500円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義日（火曜日）の12：40～15：00

■講義計画

- ①マルチメディア通信を指向するネットワーク構成概略
- ②レイヤー、プロトコルおよびサービス概念
- ③インターネットのアーキテクチャ（物理層）
- ④インターネットのアーキテクチャ（データリンク制御）
- ⑤インターネットのアーキテクチャ（ネットワーク層）
- ⑥インターネットのアーキテクチャ（アドレス体系）
- ⑦インターネットのアーキテクチャ（トランスポート層）
- ⑧インターネットのアプリケーション（ストリーミング、QOS制御）
- ⑨セキュリティ
- ⑩ネットワーク管理
- ⑪分散コンピューティング1：NOS
- ⑫分散コンピューティング2：J A V A
- ⑬ネットワーク化マルチメディアシステム
- ⑭大規模ネットワークシステム事例
- ⑮大学ネットワークシステム

パターン情報処理（2007年度以降入学生）

パターン認識（2006年度以前入学生）

【担当】 高橋 隆史

【開講】 前期 金2

■講義概要

情報の科学と技術の進歩により、画像や音声のような、「パターン」と呼ばれる種類の情報を扱う「パターン情報処理」が身近なものになってきました。コンピュータ上に大量の音楽データを蓄積する、デジタルカメラで撮った写真を加工する、顔を見つけ出す、といった様々なことに応用されています。この科目では、このパターン情報処理の手法について、理論的・数学的な面を中心に解説していきます。コンピュータ上でパターンを表現する方法からはじめ、パターンデータを圧縮する方法やパターンを変換してその成分を分析する方法を考えます。音響信号や画像を対象とした応用例についても取り上げます。さらに、顔検出や音声認識などに応用されているパターン認識や機械学習といった技術についても紹介する予定です。

■到達目標

画像や音声などを扱うハードウェア／ソフトウェアの中でどんな計算が行われているのかを理解する。

■講義方法

授業中に配布する資料をもとにした講義が主です。

■系統的履修

線形代数、確率統計、情報処理などの基礎が役立ちます。さらに「計算科学Ⅰ／演習Ⅰ」を受講していると一部内容の理解が容易でしょう。また、この科目の内容は「デジタル信号処理」や「認知科学と人工知能」、その他いくつかの情報メディア学科の科目と関連しています。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布資料を読む、資料中で気になる所について調べる、資料中の問題を自分で解く、というように、予習・復習などのために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります。

■成績評価の方法

レポート（25%）
定期試験（75%）

■テキスト

特になし

■参考文献

この科目のウェブページに参考文献の情報が 있습니다。参考URLをたどってください。

■履修上の注意・担当者からの一言

この科目は、2007年度以降入学生にとっては「パターン情報処理」、2006年度以前入学生にとっては「パターン認識」という科目です。カリキュラム改革にともない、2009年度からの内容は2008年度までのものとは大きく変わっています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

参考URLをたどると、高橋のメールアドレスや時間割（オフィスアワー）を知ることができます。

■講義計画

- ①よりよい授業にするために、項目ごとの開始時期を前後にずらしたり順序を入れ替えたりすることがあります
- ②パターン情報処理とは
- ③標本化、量子化
- ④データ圧縮
- ⑤情報量と符号化
- ⑥フーリエ級数展開：実フーリエ級数展開
- ⑦フーリエ級数展開：複素フーリエ級数展開
- ⑧離散フーリエ変換
- ⑨直交展開
- ⑩音響信号処理の例
- ⑪画像処理の例：フィルタリング
- ⑫画像処理の例：アフィン変換、画素値の補間、テンプレートマッチング
- ⑬パターン認識とは
- ⑭最近傍則と線形識別関数
- ⑮機械学習とは
- ⑯機械学習アルゴリズムの例

微積分・演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
微積分および演習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】 阪井 一繁
【開講】 前期 木4・木5

■講義概要

微積分とその根本にある考え方は、理工学のあらゆる分野における基礎であり、理工学部生にとって必ず身につけておかなければならない「必須アイテム」である。この講義では特に「微分法」を扱う。高校の数学で勉強した微分法の考え方を改めて基本から整理し、高校の授業で扱う1変数関数だけでなく多変数関数も対象とした解析手法を解説する。また、基礎から応用まで数多くの演習問題に取り組み、基礎概念に対する理解を深めるとともに応用力と計算力の充実を目指す。

■到達目標

1変数および多変数関数の微分法について、基礎となる考え方を理解する。また具体的な問題を解くことで応用力と計算力を習得する。

■講義方法

2講時連続で、前半が講義、後半が演習。講義はプリント資料と教科書を併用しながら進めるが、教科書にない話題もいくつか紹介する。演習はティーチングアシスタントが補助する。また、適宜テストを行い、逐一理解を確認しながら進める。受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することもある。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習をしっかりと行いましょう。この講義での演習や小テストの対策になるのはもちろん、微積分の考え方や計算方法を徹底的に身につけようとする努力は、理工学部生としての今後に大きなプラスとなります。

■成績評価の方法

小テスト（50%）小テストおよび演習の成績の合計
定期試験（50%）

■テキスト

桑村雅隆 『微分積分入門』 裳華房 2520円

■参考文献

必要があれば講義中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

高校で出てこなかった新しい内容や考え方が次々に登場するので、「高校の微積分の復習程度だろうからこれまでの知識でなんとかなるだろう」と考えているとたちまち落ちこぼれてしまいます。むしろまったく新たな気持ちで取り組むことを勧めます。テストや演習で理解が不十分だと感じたらぜひ積極的に質問をしてください。また、数学序論、ティーチングアシスタントやチューター制度也大いに利用してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

自習してもわからないところは遠慮なく質問をしてください。オフィスアワー（曜講時は掲示などで案内されます）にでも部屋にきてくれれば対応します。

■講義計画

- ①いろいろな関数（高校数学の復習）
- ②微分係数・導関数の計算
- ③合成関数の微分、変数変換と微分
- ④陰関数の微分
- ⑤接線と接平面、全微分
- ⑥平均値の定理
- ⑦関数の多項式による近似
- ⑧テイラー展開
- ⑨テイラー展開の応用
- ⑩複素平面
- ⑪オイラーの公式
- ⑫1関数の極値とグラフ
- ⑬多変数関数の極値
- ⑭条件つき極値問題
- ⑮全体の復習

微積分・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
微積分および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】 森田 善久
【開講】 後期 月4・月5

■サブタイトル

積分法

■講義概要

「微積分および演習Ⅰ」に引き続く科目で、1変数の関数の積分と多変数関数の重積分について講義と演習をする。この科目は理系の基礎となる科目で、数学だけでなく応用数学や物理学、工学など応用の分野でより高度な計算技術を身につけるために欠かすことの出来ない科目である。重積分、ヤコビ行列など新しい内容がたくさん出てくる科目でもある。いろいろな具体例や幾何的な解説を交えながら新しい概念の意味を説明、計算方法を身につける。

■到達目標

積分・重積分などの基礎的計算方法とその応用、また多変数関数のイメージをつかむ。

■講義方法

週2回の授業を講義と演習の時間にわけて進めていく。演習はティーチングアシスタントの協力できめ細かな指導をする。演習の問題は別途プリントを配布する。

■系統的履修

微積分・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅰ、Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の演習プリントの残りは宿題となります。復習も兼ねてしっかりと解いてください。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席、演習プリントの提出、中間試験
定期試験（60%）期末試験
必修科目なので出席を前提として成績をつけます。理由なしで欠席した回数が多い場合、期末の受験資格がなくなることもあります。授業の初回に、成績評価についての詳細を説明します。

■テキスト

桑村雅隆 『微分積分入門』 裳華房 2520円

微積分・演習Ⅰと同じテキストです。演習問題が少ないのでプリントで補強します。

■参考文献

微積分の教科書は多数でています。テキスト以外に自分に合ったものが見つかるかもしれません。

■履修上の注意・担当者からの一言

重要な科目なのでしっかりと身に付くように勉強して下さい。演習時間に解けなかったプリントは宿題とします。チューター制度などを利用して、毎回宿題をきちんと自力で解いていきましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーや連絡先は、最初の講義の時に説明します。

■講義計画

- ①微分の復習：微分の基本
- ②積分の基本公式・部分積分・置換積分
- ③不定積分の計算
- ④微積分の基本定理と色々な関数の積分
- ⑤いろいろな定積分の公式
- ⑥定積分の応用：面積と弧の長さ
微分方程式の初等解法
- ⑦前半の復習（中間試験）
- ⑧累次積分の計算
- ⑨2重積分と累次積分
- ⑩変数変換とヤコビアン
- ⑪変数変換による重積分の計算
- ⑫極座標変換による重積分の計算
- ⑬3重積分の計算
- ⑭積分の応用：面積と体積
- ⑮後半の復習

微分幾何（2007年度以降入学生） 微分幾何入門（2006年度以前入学生）

【担当】 松本 和一郎
【開講】 後期 水3

■サブタイトル

曲線の微分幾何

■講義概要

図形の構造を調べる学問が幾何学である。その基本的な考え方は「何と同じと見なすか？」の違いによって分類される。合同な図形と同じと見なせばユークリッド幾何学、相似な図形と同じと見なせば射影幾何学、連続写像で写りあえる図形と同じと見なせば位相幾何学がえられる。微分幾何学とは、十分に微分可能な写像で写りあえる図形と同じと見なす幾何学で、位相幾何学よりはるかに古い歴史を持つ。本講義では、平面曲線論・空間曲線論の入り口を、古典的スタイルで説明する。理論と具体例の計算を半々に扱う。概念の構成は比較的易しいが、知識の積み重ねが重要なので、途中で手を抜くと途端に分からなくなる危険がある。なお、1年時の微積分・演習Ⅰ、Ⅱと線形代数・演習Ⅰ、Ⅱの知識（合成関数の微分、ユークリッド空間の正規直交基底など）はすべて習得されているものとして講義を進める。

■到達目標

曲線に乗って、ジェットコースターを楽しんでいるような気分になれば、曲線論がマスターできたといえる。

■講義方法

教科書を柱にしながら、具体例を豊富に挙げていく。事前にプリントを配布するから、講義の前に自宅で読んでくること。

■系統的履修

講義名にあるように、常微分・偏微分を多用する。同時に、線形代数の基本概念（ベクトルの線形独立性、基底、内積、正規直交、など）も多用するので、微積分・演習Ⅰ、Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ、Ⅱの内容を復習しておきなさい。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書・プリントをあらかじめ読んでから講義に臨むこと。適宜、レポートを課す。

■成績評価の方法

レポート（20%）講義の進捗状況に応じて、レポートを課せない可能性もあります。そのときは期末試験だけで評価します。

定期試験（80%）

■テキスト

小林昭七 『曲線と曲面の微分幾何（改訂版）』 裳華房
教科書の証明には間違いがあります。その間違いを自分で直せるくらいになってください。それほど難しい修正は要らない場合がほとんどです。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1年時の微積分・演習Ⅰ、Ⅱと線形代数・演習Ⅰ、Ⅱの知識（合成関数の微分、ユークリッド空間の正規直交基底など）を良く復習しておいてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

学期が始まってから、研究室の扉にオフィスアワーの時間を張り出します。

■講義計画

- ①平面曲線のパラメータ表示
- ②平面曲線の曲率
- ③フレネの標構
- ④フレネの公式
- ⑤具体例：フレネの公式の適用
- ⑥平行曲線
- ⑦宿閉線・伸開線
- ⑧包絡線
- ⑨具体例：包絡線の具体例
- ⑩常微分方程式への応用
- ⑪回転数、単純閉曲線、卵形線
- ⑫全曲率と4頂点定理
- ⑬空間曲線とフレネの標構
- ⑭フレネーセレの公式
- ⑮接触球

物理学序論

【担当】 國府 宏枝、松木平 淳太、松本 和一郎
【開講】 後期 金3

■サブタイトル

微積分・演習Ⅱ、線形代数・演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱを理解しよう

■講義概要

物理学序論は数学・物理系の授業（微積分・演習Ⅱ、線形代数・演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱ）をサポートする科目です。

高校までの数学を十分に習得していない場合、自分だけの力で不足分を補いながら、微積分・演習Ⅱ、線形代数・演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱに関して一定以上の理解レベルに到達するのは困難かも知れません。また、これらの授業は多くの学生を対象とした講義であり、授業での疑問がすぐに解決できるとは限りません。

物理学序論では、授業時間に解決できなかった疑問を解決できるように、授業で出てくる演習問題や課題を自分で解けるようにT Aや教員が指導します。

物理学序論の単位は「増加単位」であり、卒業要件単位ではないことに注意して下さい。

また、受講登録をしていない学生も参加できますから、疑問や質問があるときには随時お出で下さい（受講登録をしていない学生には単位認定はできません）。

■到達目標

微積分・演習Ⅱ、線形代数・演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱの授業での疑問を解決し、演習問題や課題を自分でしっかり解けるようになる。

■講義方法

物理学序論は少数の学生を対象として演習形式で行います。個々の学生のペースに沿って高校での数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、C、物理Ⅰ、Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅰ、物理数学・演習Ⅰで使われる物理と数学、の内容を理解できるようにきめ細かにサポートします。

■授業時間外における予・復習等の指示

上記の演習で出された問題を自分で解いてみて質問すること等を考えてきてください。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

微積分・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅰ、物理数学・演習Ⅰのテキストやプリント

■履修上の注意・担当者からの一言

単に自習する時間として使ってもらっても構いません。分からないことが出てきたら質問するというような参加形態でも構いません。分からないことを貯めてしまわないように、「物理学序論」を活用して下さい。

■講義計画

教員（國府・松木平・松本が交代で担当）とT Aが受講生からの質問に応じて指導します。

物理数学・演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
物理数学および演習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】飯田 晋司
【開講】前期 月4・月5

■サブタイトル

ベクトルと微分積分でボールをおいかけよう

■講義概要

微積分やベクトルを物体の運動の記述という観点から学びます。まず、物体の運動が、関数を使って表現できることを知ります。次に、その関数を微分、積分すると、運動の様子がよくわかることを体験します。さらに、運動が3次元になると、ベクトルを使うのが便利であることを学びます。この体験を通じて、ベクトルや微積分、運動についての直観と空間感覚とを獲得します。

■到達目標

簡単な状況下で、物体の位置関係や物体の運動を式で表せることを目標とします。

■講義方法

適宜プリントを用いた通常の講義。通例、4講時に講義、5講時に演習を行います。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して、理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法

その他（100%） 予定されている2回の確認テストの両方に60点以上をとるか、あるいは定期試験に60点以上をとることで合格とします。どちらの基準でも合格の場合、最終成績は確認テストの平均点と定期試験の点数の高い方とします。

■テキスト

特になし

■参考文献

和達三樹 『物理のための数学』 岩波書店 2835円
和達三樹 『例解 物理数学演習』 岩波書店 2940円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時に連絡します。

■講義計画

- ①簡単な運動の紹介、3次元のベクトルとその演算
- ②ベクトルの成分表示、ベクトルの内積とその使用例
- ③ベクトルの外積、平面の方程式、平行6面体の体積
- ④力のつりあい、力のモーメントと回転についてのつりあい、力のモーメントと回転の向き
- ⑤ベクトルによる運動の表現、等速度運動を表す位置ベクトル
- ⑥等加速度運動を表す位置ベクトル、微分の基本的性質
- ⑦直線上の運動における速度の正負と運動の向き、速度ベクトル、加速度ベクトル（第1回目確認テスト予定）
- ⑧速度ベクトルと物体の運動する向き、加速度ベクトルと速度の変化する向き
- ⑨直線上の運動における速度の積分、基本的な関数の積分
- ⑩直線上の運動：物体にはたらく力と初期条件から物体の運動を求める
- ⑪3次元の運動における加速度や速度の積分、運動方程式
- ⑫物理量と単位の換算、力といろいろな運動1：放物運動
- ⑬力といろいろな運動2：放物運動（運動の軌跡）、単振動
- ⑭力といろいろな運動3：リサージュ運動、等速円運動（第2回目確認テスト予定）
- ⑮全体のまとめ

物理数学・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
物理数学および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】松木平 淳太
【開講】後期 木4・木5

■講義概要

物理数学・演習Ⅰでは、物体の運動を数式で表現し、それから速度、加速度を求めることを学んだ。この授業では逆に、微分方程式から物体の運動を求めることを学ぶ。そのために必要な微分方程式の解き方も学ぶ。

■到達目標

力学における基礎的な問題において、以下の3ステップの考え方を身につけることが目標である。

1. 物体に働く力から微分方程式を立てる。
2. 微分方程式を数学的に解く。
3. 解から物体の運動を求める。

■講義方法

基本的には4、5講時目の前半に講義、後半に演習を行うが、状況に応じて変更することもありうる。

■系統的履修

物理数学・演習Ⅰ、微積分・演習Ⅰの内容を前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Webページを有効に活用すること。

■成績評価の方法

平常点（10%）
小テスト（30%）
定期試験（60%）

■テキスト

高木隆司 『力学（Ⅰ）』 裳華房 2100円

■参考文献

為近和彦 『ビジュアルアプローチ 力学』 森北出版 2500円
原康夫 『数学といっしょに学ぶ力学』 学術図書出版社 1500円
潮秀樹 『よくわかる力学の基本と仕組み』 秀和システム 2310円

■講義計画

- ①速度、加速度
- ②等速度運動、等加速度運動
- ③ニュートンの運動方程式
- ④摩擦力
- ⑤空気抵抗の力と変数分離型微分方程式
- ⑥小テスト1
- ⑦ばねの力と単振動
- ⑧ばねの力と減衰振動
- ⑨ばねの力と2階定数係数常微分方程式（減衰振動、過減衰、臨界減衰）
- ⑩ばねの力と2階定数係数常微分方程式（重力が加わった場合）
- ⑪仕事
- ⑫小テスト2
- ⑬エネルギー
- ⑭力学的エネルギー保存則の応用
- ⑮まとめ

■サブタイトル

演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要

「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切に、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自分を語るための理解を深めます。

■到達目標

1. 人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2. 就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3. ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や「傾聴力」を体得する。

■講義方法

- ・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
- ・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
- ・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践する。

■成績評価の方法

その他（100%）

授業の中で各自が発表する「論文」や「演習」などにより決定する

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画

- ①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
- ②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
- ③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
- ④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
- ⑤ブレンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
- ⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
- ⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
- ⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
- ⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
- ⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを得る手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
- ⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
- ⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
- ⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
- ⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
- ⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

■サブタイトル

演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要

「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切に、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自分を語るための理解を深めます。

■到達目標

1. 人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2. 就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3. ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や「傾聴力」を体得する。

■講義方法

- ・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
- ・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
- ・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践する。

■成績評価の方法

その他（100%）

授業の中で各自が発表する「論文」や「演習」などにより決定する

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画

- ①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
- ②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
- ③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
- ④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
- ⑤ブレンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
- ⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
- ⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
- ⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
- ⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
- ⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを取得する手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
- ⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
- ⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
- ⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
- ⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
- ⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

プログラミング・演習（2007年度以降入学生）
プログラミングおよび実習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】 馬 青
【開講】 前期 火2・火3

■サブタイトル

C言語によるプログラミング能力の強化

■講義概要

計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱに引き続いて、C言語によるプログラミングについての理解を深めるとともに、各種のデータ表現、データ構造、アルゴリズム、プログラミング技法を学習し、演習を通して実際のプログラミングに応用する能力を養う。特に、文字列の取り扱い、配列や構造体などを利用したデータ構造の実現などについて学ぶ。

■到達目標

プログラミング能力、論理的思考能力。

■講義方法

毎週2講時（講義1講時と演習1講時）の授業が開講される。講義部分では、配布資料を使った解説の後、プログラミングの演習問題が出題される。演習部分では、講義部分で解説した例題や演習問題のプログラムを実際に計算機上で動かしてみることで理解を深める。また、教員やティーチングアシスタントの助言を得ながら、作成したプログラムをよりよいものへ変更していく。

■系統的履修

計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

次回授業の1週間前に、講義プリントと演習課題をWebに載せておくようにしているので、必ず予習しておくこと。また、毎回の授業後は、未完成の演習課題と復習に十分な時間をかけること。

■成績評価の方法

平常点（30%）演習課題の完成状況+平常点
定期試験（70%）

■テキスト

プリントを配布（Webからもダウンロード可）

■参考文献

宇土顕彦『効率よく学ぶCプログラミング』 コロナ社
カーニハン、リッチー著、石田晴久訳『プログラミング言語C（第2版）』 共立出版

■履修上の注意・担当者からの一言

プログラミングは「習うよりも慣れよ」である。積極的に実習室を自習利用してプログラミングの楽しみを感じてほしい。

■講義計画

- ①C言語の基本（計算機基礎実習Ⅱの復習）
- ②1次元配列
- ③関数
- ④ポインタ
- ⑤関数とポインタ
- ⑥文字処理の基本
- ⑦文字処理の標準関数
- ⑧文字列処理の基本
- ⑨文字列処理の標準関数
- ⑩文字列の数値への変換
- ⑪2次元配列
- ⑫2次元配列と関数
- ⑬構造体
- ⑭構造体と関数
- ⑮総合演習問題

ベクトル解析（2007年度以降入学生）
応用ベクトル解析（2006年度以前入学生）

【担当】 阪井 一繁
【開講】 前期 水1

■講義概要

天気予報に出てくる「各地の気温」や「各地の降水量」の図を想像してみましょう。全国各地が気温の高低で色分けされていたり、降水量が各地から上に伸びる棒グラフで示されたりしています。これが、この講義に登場する「スカラー場」と呼ばれるものの一例です。また、同じく天気予報の「全国の風の様子」の図を想像してみましょう。全国各地に矢印（ベクトル）がくっついていきます。こちらは「ベクトル場」と呼ばれるものの一例です。スカラー場やベクトル場を微積分や線形代数で学んだ数学を駆使して調べるのが、ベクトル解析です。この講義ではベクトル解析の基本的な計算手法や応用範囲の広いいくつかの定理を解説します。

■到達目標

ベクトル解析の対象である「場」の概念の理解と、関連する計算手法、基本定理の修得を目指す。

■講義方法

ふつうの講義形式です。なお、受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することもあります。

■系統的履修

物理数学・演習Ⅰ、Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ、Ⅱの内容を理解していないと苦しいです。至急の復習を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

この科目は、ティーチングアシスタントの援助を受けられる演習の時間はあります。講義時間内に練習問題を解くことはありますが、それ以外にも自主的に予習・復習（自習用の問題は配布する予定です）を行い、理解度を毎週確認しておく必要があります。

■成績評価の方法

小テスト（20%）2回（日程は初回講義時に伝えます）予定しています。
定期試験（80%）

■テキスト

特になし

■参考文献

小林亮・高橋大輔『ベクトル解析入門』 東京大学出版会 2940円
昨年度までの教科書です。

■履修上の注意・担当者からの一言

新しい概念が次々に登場するので、脱落してしまうと取り返すことは不可能に近いです。講義への積極的な参加を心掛けましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

自習してもわからないところは遠慮なく質問をしてください。オフィスアワーの曜講時は講義中に案内します。

■講義計画

- ①曲線の接線と法線～微分とベクトルの復習
- ②曲線の長さ～積分とベクトルの復習
- ③「場」という考え方
- ④スカラー場の線積分
- ⑤ベクトル場の線積分
- ⑥方向微分・スカラー場の勾配
- ⑦重積分の復習・グリーンの定理
- ⑧ベクトル場の回転（渦度）
- ⑨保存場とポテンシャル
- ⑩ガウスの発散定理（2次元）
- ⑪ベクトル場の発散
- ⑫曲面の接平面と法線
- ⑬面積分・ガウスの発散定理（3次元）
- ⑭3次元保存場
- ⑮全体の復習

偏微分方程式

【担当】 松本 和一郎

【開講】 前期 水1

■サブタイトル

偏微分方程式の解法：フーリエ変換による解法とテーラー展開による解法

■講義概要

偏微分方程式の解法には、全ての方程式に通用する王道はありません。タイプに応じて各種の解法があり、解を持たない方程式もあります。この講義では、第1に、定数係数線形偏微分方程式の初期値問題をフーリエ変換し常微分方程式に直して、解いて、その解をフーリエ逆変換して元の偏微分方程式の解を得る、いう方法を解説します。具体的には、熱方程式や波動方程式が扱えます。第2に、非線形も含む「コワレフスキアン」の初期値問題において、設定がすべて解析的なとき、テーラー展開の形で解を求める方法を解説します。方程式が線形の時、「コワレフスキアン」であることが解析的解を持つための必要条件であることも説明します。

■到達目標

物理現象に即した解析が身につく。

■講義方法

板書による講義と学生との対話

■系統的履修

数理モデル基礎・演習Ⅰ,Ⅱ 現象の数学Ⅰ,Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜、課題を出す。

■成績評価の方法

平常点 (10%) 教室での活動 (質問をする、質問に答える、など) を評価します。

レポート (10%)

定期試験 (80%)

評価の配分は、講義を進める中で見直すことがある。

■テキスト

プリントを配ります。

■参考文献

適宜紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

偏微分方程式の理論は簡単ではないので、毎回復習をして、そのつど内容の理解を完璧にしていってください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

学期のはじめに研究室のドアに張り出します。

■講義計画

- ①偏微分方程式とは何か？
- ②偏微分方程式の型と解法
- ③物理に現れる偏微分方程式
- ④フーリエ変換の定義と函数空間
- ⑤フーリエ変換の基本的性質
- ⑥ディラックのデルタ
- ⑦ディラックのデルタのフーリエ変換
- ⑧フーリエの反転公式
- ⑨熱方程式の解
- ⑩波動方程式の解
- ⑪解析関数とその特徴付け
- ⑫テーラー展開で解を求める方法：漸化式
- ⑬コワレフスキアンの場合の漸化式の解
- ⑭コワレフスキアンでない場合
- ⑮2つの方法の比較

メカトロニクス (2006年度以前入学生)

【担当】 渋谷 恒司

【開講】 後期 金2

■講義概要

メカトロニクスは、メカニクス (mechanics: 機械工学) とエレクトロニクス (electronics: 電子工学) を融合した総合技術であり、様々な機器に応用されている。メカトロニクスを理解するためには、それを構成する個々の要素についての知識を深めるとともに、それらの構成手法についても理解する必要がある。この授業では電子回路、アクチュエータ、センサ、信号処理、インタフェース、コントローラ等のメカトロニクス要素についての理解を深めるとともに、具体的な例を通してメカトロニクスを応用したシステムの構成方法についても言及する。

■到達目標

メカトロニクスを構成する要素とその構成方法について理解すること。

■講義方法

テキストを中心に講義を進めるが、適宜テキスト以外の内容にもふれる。実物、スライド、ビデオ等を用いて、なるべく現実の物をイメージできるように工夫したい。

■系統的履修

力学Ⅰ・Ⅱ、電磁気学、電子制御Ⅰ・Ⅱ、制御工学Ⅰ・Ⅱ、ロボット工学

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書の該当箇所をよく読むと共に、学習した内容を参考文献で挙げた図書およびホームページ等でよく調べること。

■成績評価の方法

レポート (30%) 内容、分量等を勘案し決定する。

定期試験 (70%)

レポートの内容および期限は講義中に適宜指示する。なお、レポートの期限外提出は減点の対象となるので注意すること。また、全てのレポートを提出しないと単位取得は難しい。

■テキスト

高森 年 『メカトロニクス』 オーム社 2500円

■参考文献

武藤一夫 『実践 メカトロニクス入門』 オーム社 2900円

初澤 毅 『メカトロニクス入門』 倍風館 2700円

塩田 泰仁 『はじめてのメカトロニクス』 森北出版 1900円

三浦 宏文 『ハンディブック メカトロニクス』 オーム社 3800円
メカトロニクスの内容は多岐にわたり、1冊の教科書だけでは十分にカバーできない。できれば上に挙げた参考書も参照して欲しい。なお、他の参考文献も多数あるので、適宜授業で紹介するつもりである。

■履修上の注意・担当者からの一言

力学、電子回路、電磁気学、制御工学等についての基礎的な知識を要する。特に機械システム工学科以外の学生は、この点に注意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは特に設けないが、研究室 (1-314) に来てくれば、時間がある限り対応する。

■講義計画

- ①メカトロニクス概論
- ②アクチュエータ (1) アクチュエータ概論、D.C.モータ
- ③アクチュエータ (2) A.C.モータ
- ④アクチュエータ (3) ステッピングモータ
- ⑤アクチュエータ (4) その他の電気アクチュエータ、および油圧・空気圧アクチュエータ
- ⑥減速機構
- ⑦センサ (1) センサ概論、変位センサ
- ⑧センサ (2) 速度、加速度センサ
- ⑨センサ (3) 力センサ、その他のセンサ
- ⑩アナログ情報処理 (1) アナログ素子、OPアンプによる増幅とフィルタ
- ⑪アナログ情報処理 (2) A/D変換、D/A変換
- ⑫デジタル情報処理
- ⑬コンピュータ、コントローラ
- ⑭制御工学入門
- ⑮メカトロニクス設計法とまとめ

力学（2007年度以降入学生）
力学Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】 飯田 晋司
【開講】 前期 月2

■サブタイトル

質点・質点系・剛体の運動

■講義概要

「物理数学・演習Ⅰ・Ⅱ」に続き、質点・質点系・剛体の運動の取り扱い方やそれらの一般的な性質について説明する。前半では、大きさや形を無視して点で近似した物体（質点）に対して、複雑な運動を調べる上でも有用なエネルギーの概念と回転運動の記述に有用な角運動量の概念について説明する。後半では、質点の集まり（質点系）の運動を考える。相互作用する多数の質点の運動を一般的に扱うことは困難であるが、重心運動と相対運動という概念を導入して幾つかの解析できる場合を考える。特に、質点相互の位置が変わらないと近似した質点系（剛体）に対して、幾つかの簡単な場合で、その運動を理解する。

■到達目標

エネルギーの概念とそれによる運動の理解、力のモーメント・角運動量・慣性モーメントといった回転運動に関わる概念、質点系における重心の概念、大きさや形を考慮に入れた物体のつり合いや運動の仕組み

■講義方法

教科書・教員作成の資料によって通常の講義形式で授業を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

佐川弘幸／本間道雄 『力学 第2版』 シュプリンガー・ジャパン 2200円

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡先：iida@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①空間、時間、ベクトル
- ②物体の運動
- ③運動の法則
- ④運動と力
- ⑤仕事とエネルギー 1（1次元）
- ⑥仕事とエネルギー 2（3次元）
- ⑦保存力と3次元ポテンシャル
- ⑧前半のまとめ
- ⑨2つの物体の衝突
- ⑩重力の法則
- ⑪力のモーメント（トルク）と角運動量
- ⑫多粒子系の力学
- ⑬剛体の力学1（慣性モーメント）
- ⑭剛体の力学2（運動方程式）
- ⑮総まとめ

離散数学・演習（2007年度以降入学生）

【担当】 國府 宏枝
【開講】 後期 金2

■サブタイトル

証明問題に強くなろう。

■講義概要

論理的思考力、また、それを人にわかりやすく説明するといった能力はあらゆる場面に必要なものです。この講義では、論理パズルを解きながら、論理学の基礎を学びます。また、簡単な数学の証明問題にチャレンジします。証明の間違い探しや、証明を書くことを練習します。

■到達目標

論理力を鍛え、正しい証明をかけるようにします。

■講義方法

1回ごとに解説とテストをします。

■系統的履修

集合と位相および演習

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回出される1、2題の宿題を次回に提出してください。

■成績評価の方法

小テスト（70%）1回または2回まとめのテストをします。
定期試験（30%）
小テストである点数（80%程度）に達している人は定期試験をうけなくてもいいです。

■テキスト

特になし

■参考文献

小野田博一 『論理力を強くする』 講談社 800円
中内伸光 『ろんりの練習帳』 共立出版 2200円
野崎昭弘 『逆説論理学』 中公新書 760円

■履修上の注意・担当者からの一言

進路に合わせて、講義内容・講義計画の変更があるかもしれません。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1-514の前、あるいは1号館の掲示版に掲示されているので見ておってください。

■講義計画

- ①論理パズル1－真実とウソ
- ②論理パズル2－否定とand とor
- ③論理パズル3－ならば
- ④論理パズル4－十分条件と必要条件
- ⑤論理パズル5－恒真・恒偽
- ⑥論理パズル6－和積・積和標準形
- ⑦今までの確認テストと解説
- ⑧証明1－論理が正しい・対偶・逆
- ⑨証明2－背理法
- ⑩証明3－数学的帰納法
- ⑪述語論理－allとexist
- ⑫述語論理－allとexistの否定
- ⑬証明問題－allとexist
- ⑭後半の確認テストと解説
- ⑮連続性の定義

■サブタイトル

量子力学入門

■講義概要

量子力学は、通常は目で見える事のできない小さな世界の自然現象を記述する事ができる。20世紀の前半に、物理学者はそのような自然の法則を発見して確かな理論にまで至らせた。量子力学は最近の情報化社会を支える半導体やレーザーなどの技術にも応用されて現代文明の繁栄に貢献している。本講義では量子力学の基本概念・基本法則と、その簡単な応用例を説明する。

■到達目標

量子力学の基本的な考え方を理解する。

■講義方法

通常の講義形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の授業終了後に、復習をして、理解内容を定着させると共に、その内容から派生する事柄（内容を掘り下げる、別条件での場合、関連する演習問題、など）も考えて、自主的な学習に繋げて行って下さい。

■成績評価の方法

レポート（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜、講義中に推薦します。

■講義計画

- ①量子の発見
- ②光電効果
- ③粒子性と波動性
- ④ボーアの原子模型
- ⑤重ね合わせの原理と波束
- ⑥波束の不確定性
- ⑦シュレーディンガー方程式（1）
- ⑧シュレーディンガー方程式（2）
- ⑨波動関数と確率解釈
- ⑩物理量の期待値
- ⑪自由粒子
- ⑫束縛状態のエネルギー準位（1）
- ⑬束縛状態のエネルギー準位（2）
- ⑭調和振動子の量子論的記述
- ⑮まとめ

教職課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
カ	介護等体験	山中 健一／大西 俊弘／脇田 博文	通年	集中	269
	学校カウンセリング論	石川 眞理子	前期	水 4	269
	学校教育社会学	池田 曜子	後期	水 3	270
キ	教育の方法と技術	大西 俊弘	前期	土 1	270
	教育課程論	大西 俊弘	後期	土 2	271
	教育実習指導Ⅰ	山中 健一／大西 俊弘／脇田 博文	前期	月 3	271
	教育実習指導Ⅱ A	山中 健一／大西 俊弘／脇田 博文	通年	集中	272
	教育実習指導Ⅱ B	山中 健一／大西 俊弘／脇田 博文	通年	集中	272
	教育社会学	森 繁男	通年	月 3	273
	教育社会学Ⅰ	森 繁男	前期	月 3	274
	教育社会学Ⅱ	森 繁男	後期	月 3	274
	教職総合演習	脇田 博文	集中	前期	275
	教職論	山中 健一	前期	土 2	275
シ	情報科教育法	松原 伸一	通年	水 1	276
	情報科教育法Ⅰ	松原 伸一	前期	水 1	276
	情報科教育法Ⅱ	松原 伸一	後期	水 1	277
	情報と職業	北林 雅俊	前期	集中	277
	人権教育論／同和教育論	岸 衛	前期	水 4	278
ス	数学科教育研究 A	森原 則男	前期	木 4	278
	数学科教育研究 B	大西 俊弘	後期	木 4	279
	数学科教育法	大西 俊弘	前期	月 5	279
			後期	月 3	
	数学科教育法Ⅰ	大西 俊弘	前期	月 5	280
セ ト	数学科教育法Ⅱ	大西 俊弘	後期	月 3	280
	生徒指導論	脇田 博文	後期	金 1	281
	道徳教育指導法	牧崎 幸夫	後期	土 1	281
	特別活動論	脇田 博文	前期	金 1	282

介護等体験

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅰ（介護等体験）

【担当】山中 健一、大西 俊弘、脇田 博文

【開講】通年 集中

■サブタイトル

心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～

■講義概要

子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。国では教育職員免許法の特例等に関する法律（平成10年4月1日施行）により、小・中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前・事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。

■到達目標

教師に必要な「豊かな心」を育む。

■講義方法

- ・1年次の10月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。1年次に2回の説明会と講演会を行い、2年次には説明会及び事務手続きを行い、6月より随時体験に入る。
- ・2年次生以上の履修についても1年次生と同様。

■授業時間外における予・復習等の指示

指示されたことを確実に遵守し、龍谷大学生としての自覚をもって体験を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（50%）事前・事後指導及び体験への参加状況、意欲・態度を評価する。

小テスト（0%）

レポート（0%）

定期試験（0%）

その他（50%）提出された記録簿、レポートの内容、学校・施設からの報告書等を総合的に評価する。

上記の尺度・割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著しく欠く場合には単位を認定しない。

■テキスト

講義で適宜配布する。

■参考文献

講義で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出をし、指示を受けること。②教育実習の先修要件であるので、3年次までに履修すること。③書類などの提出日は厳守すること。④進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。⑤「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。⑥「体験」には真摯な態度で臨むこと。

■講義計画

- ①介護等体験説明会①－ガイダンス及び登録
- ②介護等体験説明会②－介護等体験の意義と課題
- ③介護等体験講演会1－障害児教育諸学校
- ④介護等体験説明会③及び事務手続き
- ⑤介護等体験講演会2－福祉施設
- ⑥介護等体験説明会④－福祉施設への参加手続き
- ⑦介護等体験説明会⑤－特別支援学校への参加手続き
- ⑧介護等体験への参加
 1. 障害児教育諸学校 2日間
 2. 社会福祉施設 5日間
- ⑨介護等体験を振り返って－記録簿等の書類提出

学校カウンセリング論

【担当】石川 眞理子

【開講】前期 水4

■サブタイトル

教育現場で活かすカウンセリングを学ぶ

■講義概要

教育現場では不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊などの心理・社会的諸問題が多発している。このような問題の指導や解決のためには、教師自身も心理カウンセリングの資質が必要となってくる。本講義では、学校現場におけるカウンセリングの基礎を学び、心理カウンセリング的な基本的態度と、具体的な対応について理解を深めていくこととする。

■到達目標

教育活動における心理カウンセリング的な基礎知識を習得し、問題を抱えた児童・生徒への援助方法を習得する。

■講義方法

講義+演習形式で行う。必要に応じて、資料・プリントを配布、視聴覚教材を用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業では小テストを5回実施するので、毎回授業の復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点（40%）平常点（出席+演習）取り組みを重視する

小テスト（30%）小テストを5回実施する

レポート（20%）最終講義で発表

その他（10%）ミニレポート（2回）

主体的な授業態度を重視する。

■テキスト

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

馬場謙一・松本京介（編）『スクールカウンセリングの基礎と経験』日本評論社

管佐和子・木之下隆夫（編）『学校現場に役立つ臨床心理学』日本評論社

関連文献は講義中に適宜紹介する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メール連絡とします。miv26045@fc.ritsume.ac.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②学校カウンセリング基本的理解（1）問題のある児童・生徒の早期発見・観察法
- ③学校カウンセリング基本的理解（2）問題のある児童・生徒の早期発見・診断・効果の測定のための心理テスト
- ④学校カウンセリング基本的理解（3）教師のための予防的・開発的グループカウンセリング技術
- ⑤学校カウンセリング基本的理解（4）個別面接による来談者中心カウンセリングの技術
- ⑥学校カウンセリング基本的理解（5）人間関係づくりのための集団カウンセリング
- ⑦学校カウンセリング基本的理解（6）社会生活能力を育てる訓練法
- ⑧学校カウンセリング基本的理解（7）進路指導のためのキャリアカウンセリング
- ⑨学校カウンセリングの基本的理解（8）無気力・無意欲の児童・生徒のための生活分析的カウンセリング
- ⑩学校カウンセリング応用（1）不登校・ひきこもりへの対応
- ⑪学校カウンセリング応用（2）いじめへの対応
- ⑫学校カウンセリング応用（3）学級崩壊への対応
- ⑬学校カウンセリング応用（4）暴力・非行への対応
- ⑭学校カウンセリング応用（5）スクールカウンセラーと連携した指導
- ⑮ミニ施行カウンセリング演習 まとめ

■講義概要

教育社会学の代表的な理論を、その歴史と近年の研究動向を踏まえながら解説する。特に、教育社会学の理論と学校組織、教育環境との関連に焦点を絞り、どのようにして、これからの社会における新しい教育のあり方、学校のあり方を多面的に考えていく。

■到達目標

講義内で取り上げる事象を身近なものとしてとらえ、批判的な思考力を養うことによって、その他の事象に関しても自ら理解を深められるようになることを目指す。

■講義方法

講義ごとに配布するレジュメや資料を利用し、講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

教育社会学に関する基礎的な概念・知識に関して、授業後復習し理解することが望ましい。授業で取り扱った内容に関連した時事問題に関心を持ち、積極的に授業において自ら紹介できるようになることを推奨する。

■成績評価の方法

レポート（30%）毎授業終了時に提出してもらう小レポート
定期試験（70%）学期末の筆記試験

■テキスト

講義ごとにレジュメや資料を配布します。

■参考文献

講義内において適宜紹介します。

■講義計画

- ①イントロダクション 日本の教育界の現状
- ②いじめ
- ③不登校
- ④子どもの居場所
- ⑤教師生徒関係
- ⑥教師の多忙化
- ⑦カリキュラムと学力①
- ⑧カリキュラムと学力②
- ⑨学ぶことの意味
- ⑩選抜と進路選択①
- ⑪選抜と進路選択②
- ⑫階層と努力①
- ⑬階層と努力②
- ⑭これからの学校の可能性①
- ⑮これからの学校の可能性②

教育の方法と技術 ※2011年度までの旧名称：メディア教育論

■講義概要

学校教育においては、板書を中心とした従来型の授業が中心ではが、視聴覚メディアを活用した授業も各地で実践されている。この授業では、まず授業の設計方法について概観し、次に、視聴覚メディアを活用した教育方法について講義する。主な講義内容は以下のとおりである。（1）授業の設計方法について概観し、指導案の作成等を行う。（2）各種メディアやICT機器の特性について考察し、授業での活用方法について学ぶ。（3）教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ。（4）プレゼンテーションの理論・技法について学び、教育への応用を考える。（5）教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ。

■到達目標

各教科の授業や総合学習において、適切な授業の設計ができ、必要に応じてICT機器を活用した授業を計画することができる。

■講義方法

講義形式だけでなく、グループ活動（ビデオ教材の制作・発表など）も行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義後、必ず復習を行い、理解を確実にものとする。

■成績評価の方法

レポート（20%）レポート未提出者は単位を認定しない。
定期試験（80%）基本事項を中心に幅広く出題。記述式。
レポート・作品（20%）、定期試験（80%）にて総合的に評価する。レポート・作品のテーマは授業中に指示する。授業への参加は必須要件であり、特別な理由なしに授業を3回以上欠席した場合、原則として単位を認定しない。また、レポート・作品未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

教員になる強い意志を持った人の受講を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117号室）にて。（ただし、6月は教育実習の巡回で不在のこともある。）連絡方法：電子メールにて（アドレスは講義で連絡する。）

■講義計画

- ①デジタル革命時代の学校教育
- ②授業設計の方法（1）（教育目標の具体化）
- ③授業設計の方法（1）（適切な授業方法の選択）
- ④授業における写真・映像の利用方法
- ⑤授業における統計・グラフの利用方法
- ⑥学校教育とメディアリテラシー
- ⑦授業におけるICT機器の利用方法
- ⑧ビデオ教材の実例紹介
- ⑨ビデオ製作実習（技術的解説）
- ⑩ビデオ製作実習（班別製作活動）
- ⑪ビデオ製作実習（班別製作活動）
- ⑫ビデオ作品発表会（予選会）
- ⑬ビデオ作品発表会（本選会）
- ⑭学校教育と著作権
- ⑮今後の学校教育の方向性（デジタル教科書等）

■講義概要

すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には、次のような内容に取り組む。

1. 中学校・高等学校における教育課程について、事例を通して概観する。
2. 学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3. 戦後の教育課題と関連させながら、学習指導要領の変遷について学ぶ。
4. 近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5. 学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6. 諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標

学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法

講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず確実に復習を行い、理解を確実なものとしてほしい。

■成績評価の方法

レポート（10%）レポート未提出の場合は、単位を認定しない。
定期試験（90%）基本事項を幅広く出題、記述式
レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。授業への参加は必須

要件であり、特別な事情なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。

また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

田中耕治 他3名『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 1900円
中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117号室）にて。連絡方法：電子メールにて（メールアドレスは講義で連絡）

■講義計画

- ①序論（教育をめぐる社会の状況）
- ②戦前の教育制度・教育改革
- ③戦前の教育課程について
- ④戦後の教育改革と生活単元学習
- ⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
- ⑥学校教育に関する法体系と教育課程
- ⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
- ⑧教育課程編成の実際
- ⑨高等学校における未履修問題
- ⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
- ⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
- ⑫観点別評価と生徒指導要録
- ⑬外国の教育課程
- ⑭教育改革の方向性と新学習指導要領
- ⑮新学習指導要領の実施に向けての課題

教育実習指導Ⅰ

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅱ（事前指導）

[担当] 山中 健一、大西 俊弘、脇田 博文

[開講] 前期 月3

■サブタイトル

教育実習の前に

■講義概要

教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。そのために、実習生は教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論A」「人権論B」「教育実践研究Ⅰ（介護等体験）」を必修と定めている。この他にも、「教師論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「教育制度論」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得している事が望ましい。これら先修科目の基盤の上に、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが、「教育実践研究Ⅱ」の目的である。

■到達目標

教壇に立つ心構えを身につける。

■講義方法

必要な資料を配布して説明する。

■系統的履修

教育実践研究ⅢAまたは教育実践研究ⅢB（教育実習）

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜指示を行う。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席状況
レポート（60%）毎回の講義で提出を求めるレポートの内容
その他（10%）教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。

■テキスト

『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

教育実習前は健康管理に十分気をつけること。

■講義計画

- ①はじめに（教育実習の意義）
- ②教育実習の準備と心得
- ③教員の服務
- ④教科指導
- ⑤教科外活動の指導
- ⑥最近の学校教育の現状と課題
- ⑦今後の教育改革の方向
- ⑧教育実習後の総括

教育実習指導Ⅱ A

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅲ A（教育実習）

【担当】 山中 健一、大西 俊弘、脇田 博文

【開講】 通年 集中

■サブタイトル

教えられる立場から教える立場へ

■講義概要

「教育実践研究Ⅱ A」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標

「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法

学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修

教育実践研究Ⅱ（事前指導）

■授業時間外における予・復習等の指示

十分な教材研究を事前に行うこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）実習後の報告・事後指導
小テスト（0%）
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
定期試験（0%）
その他（60%）実習校の評価

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後2週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト

特になし

■参考文献

教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言

・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画

- ①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
- ②事前打ち合わせ
- ③オリエンテーション
- ④教科指導 1. 授業見学（多くは期間前半に実施）2. 授業実施（多くは期間後半に実施）3. 研究授業と批評会
- ⑤特別活動の指導 1. 学級（SHR、LHR）指導 中学校では「道徳の時間」の指導を含む。 2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
- ⑥その他の校務分掌業務について
- ⑦教育実習全体の反省
- ⑧教職に就くに当たっての心得など

教育実習指導Ⅱ B

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅲ B（教育実習）

【担当】 山中 健一、大西 俊弘、脇田 博文

【開講】 通年 集中

■サブタイトル

教えられる立場から教える立場へ

■講義概要

「教育実践研究Ⅱ B」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標

「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法

学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修

教育実践研究Ⅱ（事前指導）

■授業時間外における予・復習等の指示

事前に十分な教材研究を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）実習後の報告・事後指導
小テスト（0%）
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
定期試験（0%）
その他（60%）実習校の評価

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後2週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト

特になし

■参考文献

教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言

・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画

- ①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
- ②事前打ち合わせ
- ③オリエンテーション
- ④教科指導 1. 授業見学（多くは期間前半に実施）2. 授業実施（多くは期間後半に実施）3. 研究授業と批評会
- ⑤特別活動の指導 1. 学級（SHR、LHR）指導 中学校では「道徳の時間」の指導を含む。 2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
- ⑥その他の校務分掌業務について
- ⑦教育実習全体の反省
- ⑧教職に就くに当たっての心得など

■サブタイトル

（前期）教育社会学入門 （後期）教育現象の社会学的理解

■講義概要

教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。本授業は教育に対するこうしたアプローチから次のように展開してゆく。 まず前期では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。 続いて後期では、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標

「教育」というきわめて「価値的」な営みを「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握し、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法

前期では、主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。 後期では、上記の方法以外に、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修

「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問や「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100％）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との関連の中で「教育現象の発生」を理解するような社会学的視点を養い、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②社会学的社会観と教育作用（1）
- ③社会学的社会観と教育作用（2）
- ④教育社会学の視点と方法（1）
- ⑤教育社会学の視点と方法（2）
- ⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
- ⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
- ⑧現代学校の理念と現実（1）
- ⑨現代学校の理念と現実（2）
- ⑩社会の変化と家族関係（1）
- ⑪社会の変化と家族関係（2）
- ⑫メディアと地域教育環境
- ⑬教育問題の発生と解釈（1）
- ⑭教育問題の発生と解釈（2）
- ⑮前期のまとめ
- ⑯教育学と社会学の接点（1）
- ⑰教育学と社会学の接点（2）
- ⑱家族・学校と教育の階層性（1）
- ⑲家族・学校と教育の階層性（2）
- ⑳文化的再生産と社会的相互作用（1）
- ㉑文化的再生産と社会的相互作用（2）
- ㉒ディスカッション（その1）
- ㉓ジェンダーと教育の諸現象（1）
- ㉔ジェンダーと教育の諸現象（2）
- ㉕メディアと青少年の文化問題（1）
- ㉖メディアと青少年の文化問題（2）
- ㉗ディスカッション（その2）
- ㉘教育社会学と教育実践
- ㉙教育社会学と教育改革
- ㉚後期のまとめ

教育社会学Ⅰ（2007年度以降入学生）

【担当】 森 繁男

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

教育社会学入門

■講義概要

教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。

■到達目標

「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。

■講義方法

主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。

■系統的履修

「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②社会学的社会観と教育作用（1）
- ③社会学的社会観と教育作用（2）
- ④教育社会学の視点と方法（1）
- ⑤教育社会学の視点と方法（2）
- ⑥社会化のとりえ方と社会学パラダイム（1）
- ⑦社会化のとりえ方と社会学パラダイム（2）
- ⑧現代学校の理念と現実（1）
- ⑨現代学校の理念と現実（2）
- ⑩社会の変化と家族関係（1）
- ⑪社会の変化と家族関係（2）
- ⑫メディアと地域教育環境
- ⑬教育問題の発生と解釈（1）
- ⑭教育問題の発生と解釈（2）
- ⑮前期のまとめ

教育社会学Ⅱ（2007年度以降入学生）

【担当】 森 繁男

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

教育現象の社会学的理解

■講義概要

本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標

社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法

「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修

「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。さらに前期の「教育社会学Ⅰ」を先修していることが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

様々な「教育現象」を社会学的にとらえ、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ①教育学と社会学の接点（1）
- ②教育学と社会学の接点（2）
- ③家族・学校と教育の階層性（1）
- ④家族・学校と教育の階層性（2）
- ⑤文化的再生産と社会的相互作用（1）
- ⑥文化的再生産と社会的相互作用（2）
- ⑦ディスカッション（その1）
- ⑧ジェンダーと教育の諸現象（1）
- ⑨ジェンダーと教育の諸現象（2）
- ⑩メディアと青少年の文化問題（1）
- ⑪メディアと青少年の文化問題（2）
- ⑫ディスカッション（その2）
- ⑬教育社会学と教育実践
- ⑭教育社会学と教育改革
- ⑮後期のまとめ

■サブタイトル

今日的課題に対していかに考え、取り組むか

■講義概要

これから教員を目指す者にとって、国際化・情報化の進展により社会が急速に変化する激動の時代の中で、どのように教育を進めていけばよいのか、どのような資質や能力を身につける必要があるのかが重要な課題となる。それにはまず、環境破壊、民族対立・紛争、人口と食糧など地球全体が直面する問題や少子・高齢化と福祉、家庭のあり方などのわが国に関わる問題について、自分自身の理解を深めることが不可欠である。この授業では、現在の社会が直面する様々な今日的課題から関心のあるテーマを自らが設定し、それに関わる調査研究を実施し、その結果をまとめて報告・発表する方法をとる。授業では、各自が意見を出し合い、議論を発展させてテーマを追求することが特に重要である。さらに、テーマに関わる内容を学校教育での実践として具体化していく必要がある。そのために、今日的課題に対して、学校の教育活動の各場面において、生徒に主体的かつ問題解決的に取り組ませるための指導計画を構想する力を養う過程も、本授業の重要な内容の一つとして位置づける。教員を目指す諸君の積極的な参加と意欲的な取り組みを期待する。

■到達目標

これからの教員に求められる実践的指導力を養う。

■講義方法

講義の他、調査研究・発表等の参加型授業を行う。

*授業は一部の内容を5～6月から実施し、大部分を8月の集中講義期間に設定する予定。開講日等の詳細は教職課程掲示板で連絡するので、各自で確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

積極的で主体的な学習を行うこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 事前オリエンテーション・集中講義への出席状況、意欲・態度

小テスト (0%)

レポート (30%) 「今日的課題に関わる指導の構想案」等の課題

定期試験 (0%)

その他 (40%) 調査・研究・発表・討議の諸活動の状況

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価を行う。

■テキスト

講義の中で適宜プリントを配布する。

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に取り組むこと。

■講義計画

- ①教職総合演習のねらいと今後の予定
- ②「今日的課題と学校教育（その1）」講義及び研究協議
- ③「今日的課題と学校教育（その2）」講義及び研究協議
- ④グループ分け及び研究テーマ・研究方法の決定
- ⑤研究テーマ・研究方法の発表と討議
- ⑥研究テーマ・研究方法のねりなおし
- ⑦グループ別の研究・調査活動（学内・学外での活動）
- ⑧研究・調査活動の中間報告
- ⑨研究成果のまとめ
- ⑩研究・調査の発表会と研究協議 1
- ⑪研究・調査の発表会と研究協議 2
- ⑫研究方法・発表方法の総括
- ⑬今日的課題を扱う指導内容・方法の構想
- ⑭研究・調査・発表・討議についての総括
- ⑮まとめ

教職論 ※2011年度までの旧名称：教師論

■サブタイトル

これからの教員に求められる資質能力とは何か。

■講義概要

教員に求められる資質能力とは何か。まず教員は豊かな教養をもち、高い専門的知識・技能、教員としての使命感、教育的愛情等のいつの時代にも求められる資質能力を有することが必要である。さらに、これからの教員には、社会変化の激しい時代にあって、子どもたちに「生きる力」を育むためにも、幅広い視野、課題解決能力、対人関係能力、変化への対応能力等の実践的指導力を併せてもつことが期待されている。本講義では、今日の教員が直面する教育課題や職務内容など、教職に関する全体像を理解するとともに、教育改革が進む中、これからの時代に期待される教師像について考察していく。

■到達目標

教員に求められる資質能力について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、学生参加型授業を取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

必要に応じて、小テストを実施するので復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%)

小テスト (10%) 必要に応じて実施する。

レポート (10%) 必要に応じて実施する。

定期試験 (50%)

上記の割合を原則として、総合的に評価する。

■テキスト

講義の中で適宜プリントを配布する。

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として、意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①教職の意義
- ②教員養成
- ③教育公務員としての任用と服務1
- ④教育公務員としての任用と服務2
- ⑤教育公務員としての任用と服務3
- ⑥教員が直面する教育課題1
- ⑦教員が直面する教育課題2
- ⑧教員が直面する教育課題3
- ⑨教員に求められる資質能力1
- ⑩教員に求められる資質能力2
- ⑪教員に求められる資質能力3
- ⑫教員研修
- ⑬学校内での職務の実際と連携
- ⑭家庭・地域等との連携
- ⑮教職への道

情報科教育法（2009年度以前入学生）

【担当】松原 伸一

【開講】通年 水1

■講義概要

前期では、情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。また、後期では、教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標

前期では、下記の通りとする。1. 教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。2. 情報教育の歴史的経緯について理解を深める。3. 情報教育の在り方とその目標について理解を深める。4. 情報科教育に関わる方法論について理解を深める。また、後期では、下記の通りである。1. 教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。2. 教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）毎授業の平常点（小演習、小テストを含む）
レポート（20%）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一『情報学教育の新しいステージ』開隆堂 2300円

■参考文献

文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

①ガイダンスおよび教科教育について

②教科「情報」の概要

③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで

④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂

⑤情報教育の在り方と目標

⑥小学校における情報教育

⑦中学校における情報教育

⑧教科「情報」新設の趣旨と意義

⑨共通教科「情報」の目標と科目構成

⑩専門教科「情報」の目標と科目構成

⑪評価と基準（規準）

⑫学習評価

⑬授業改善

⑭年間指導計画

⑮まとめ（前半）

⑯後半のガイダンス

⑰授業内容研究1 a：データと情報（理論）

⑱授業内容研究1 b：データと情報（実践）

⑲授業内容研究2 a：アナログとデジタル（理論）

⑳授業内容研究2 b：アナログとデジタル（実践）

㉑授業内容研究3 a：リアルとバーチャル（理論）

㉒授業内容研究3 b：リアルとバーチャル（実践）

㉓中間まとめと中間レポートの課題提示と考察

㉔授業内容研究4 a：メディア（理論）第5章

㉕授業内容研究4 b：メディア（実践）

㉖授業内容研究5 a：生活への影響（理論）

㉗授業内容研究5 b：生活への影響

㉘総合実践研究1

㉙総合実践研究2

㉚まとめ

情報科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

【担当】松原 伸一

【開講】前期 水1

■講義概要

情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。

■到達目標

1. 教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
2. 情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
3. 情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
4. 情報科教育に関わる方法論について理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）毎授業の平常点（小演習、小テストを含む）
レポート（20%）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一『情報学教育の新しいステージ』開隆堂 2300円

■参考文献

文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

①ガイダンスおよび教科教育について

②教科「情報」の概要

③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで

④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂

⑤情報教育の在り方と目標

⑥小学校における情報教育

⑦中学校における情報教育

⑧教科「情報」新設の趣旨と意義

⑨共通教科「情報」の目標と科目構成

⑩専門教科「情報」の目標と科目構成

⑪評価と基準（規準）

⑫学習評価

⑬授業改善

⑭年間指導計画

⑮まとめ

情報科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

【担当】松原 伸一

【開講】後期 水1

■講義概要

教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標

1. 教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
2. 教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）毎授業の平常点（小演習、小テストを含む）
レポート（20%）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一『情報学教育の新しいステージ』開隆堂 2300円

■参考文献

文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

- ①ガイダンスおよび教科教育について
- ②授業内容研究1 a：データと情報（理論）
- ③授業内容研究1 b：データと情報（実践）
- ④授業内容研究2 a：アナログとデジタル（理論）
- ⑤授業内容研究2 b：アナログとデジタル（実践）
- ⑥授業内容研究3 a：リアルとバーチャル（理論）
- ⑦授業内容研究3 b：リアルとバーチャル（実践）
- ⑧中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
- ⑨授業内容研究4 a：メディア（理論）
- ⑩授業内容研究4 b：メディア（実践）
- ⑪授業内容研究5 a：生活への影響（理論）
- ⑫授業内容研究5 b：生活への影響
- ⑬総合実践研究1
- ⑭総合実践研究2
- ⑮まとめ

情報と職業

【担当】北林 雅俊

【開講】前期 集中

■サブタイトル

情報化の進展が及ぼす社会生活の変容

■講義概要

情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。

■到達目標

情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。

■講義方法

テキストや資料を用いて授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの内容を把握しておくこと。
授業の終了時に次回の授業に必要な事項について指示するときは、事前に調べて説明できるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）
レポート（30%）
定期試験（40%）
試験、レポート、学習状況等を総合して評価する。

■テキスト

駒谷昇一 辰己丈夫 楠元範明 共著『IT Text 情報と職業』オーム社 2500円

■参考文献

文部省『高等学校学習指導要領解説 情報編』開隆堂出版株式会社 221円

■履修上の注意・担当者からの一言

高等教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画

- ①ガイダンス 科目「情報と職業」について
- ②情報化の進展と学校教育（1）情報化の進展
- ③情報化の進展と学校教育（2）情報教育
- ④情報化の進展と学校教育（3）情報科教員に求められる資質・能力
- ⑤情報化の進展と学校教育（4）校務の情報化の推進
- ⑥情報化の進展と職業（1）情報化社会と情報システム
- ⑦情報化の進展と職業（2）働く環境の変化と労働観
- ⑧情報化の進展と職業（3）企業の情報化と求められる人材の変化
- ⑨企業における情報活用
- ⑩情報化社会における犯罪と法律
- ⑪情報化社会における危機管理
- ⑫産業構造の変化（1）産業をとりまく環境
- ⑬産業構造の変化（2）産業の動向
- ⑭学校現場と著作権
- ⑮情報と職業のまとめ

人権教育論（2007年度以降入学生） 同和教育論（2006年度以前入学生）

【担当】 岸 衛
【開講】 前期 水4

■サブタイトル

「今」を問う・「自分」を問う

■講義概要

部落差別は過去の歴史的な「遺制」ではなく、「今、ここ」で恣意的かつ無根拠に作られている差別である。差別は人と人の関係の中で起こる。だから日常の自分と他人の関係の仕方を見つめることから始めたい。

今、「同和教育の深まりから人権教育への広がり」といわれている。同和教育の出発とそれがめざしたものが何であったのか、これからの人権教育で「同和教育」の観点をどう生かしていくのかを明らかにしたい。

差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。

■到達目標

「今」を見る目が養われる 「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる

■講義方法

基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってもらう。自分の言葉で「語る」人権問題のスピーチをする。

■系統的履修

人権論A・B（岸）

■授業時間外における予・復習等の指示

自分の課題・テーマを設定して、事前に資料その他をそろえて、教案を提出する。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席点・コミュニケーション・カード提出
小テスト（50%）教案提出
レポート（20%）まとめのレポート提出

■テキスト

岸 衛著『自分・差別・世間第2版』解放研究所しが 700円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②「同和教育と「解放教育」」自分を解放する部落問題学習の
実践
- ③部落の生徒と「出会う」
- ④差別の作られ方
- ⑤差別を考える視点
- ⑥部落差別問題とは何か 部落差別問題の「今」
- ⑦人権学習の実践①
- ⑧人権学習の実践①
- ⑨人権学習の実践②
- ⑩人権学習の実践②
- ⑪人権学習の実践③
- ⑫人権学習の実践③
- ⑬人権学習の実践④
- ⑭人権学習の実践④
- ⑮まとめ

数学科教育研究A（2010年度以降入学生）

【担当】 森原 則男
【開講】 前期 木4

■サブタイトル

数学の授業での創意工夫（教材・教具）

■講義概要

本年度から新学習指導要領が中学校で本格実施、高等学校で理科・数学が先行実施されます。これで算数・数学では小学校も含めすべて新学習指導要領の内容で指導が行われるようになります。授業において教科の指導を行うとき、教科書に書かれている内容をそのまま伝えるだけでは児童・生徒は十分に理解してくれるとは限りません。そこで、指導しようとする単元の内容の本質をしっかりと押さえ、教材での工夫を行います。この講義では私が高校の現場で行ってきた、そのような工夫について披露していこうと思っています。受講生には実際に教材を作ってもらったり、課題を考えてもらったりして話を聞くだけでなく参加をしてもらおうと考えています。また、時間が許せば、学習指導案の作成や模擬授業をしてもらったり、1つのテーマについての集団討論なども行えたらと考えています。

■到達目標

教壇に立ったとき、何を大切に授業を組み立てていくのか、どう工夫ができるのかをつかんで下さい。模擬授業でも教材や授業方法での工夫が出来るようにしてください。

■講義方法

講義概要でも述べたように、私が話をするだけでなく教材作りや課題を考えてもらったりします。模擬授業に関しては受講人数を勘案して時間・方法等は設定します。毎回の授業の最後に「授業日誌」（授業内容と感想・自分が教壇に立ったとき習った内容をどう活かすのか等）を書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容に関して課題を出します。提出日を指定しますので、その日に提出してください。模擬授業での学習指導案は予め 受講生数+2部 コピーを準備してください。

■成績評価の方法

平常点（100%）出席状況・授業参加状況・模擬授業の評価・課題提出状況等を総合評価します。

■テキスト

森原作成の冊子「数遊・数楽」を配布します。それをテキストとします。また、授業時に必要なプリント等を配布します。

■参考文献

中学・高校の教科書 中学校・高等学校の学習指導要領

■履修上の注意・担当者からの一言

授業に参加することが大切です。工作等を行うのではさみ・のり・定規を必ず持参してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

本人との直接対話で行います。

■講義計画

- ①図形教材1（折り紙教材1）
- ②図形教材2（折り紙教材2）
- ③授業開き（自己紹介・授業方法・評価について等）
- ④図形教材3（折り紙教材3）
- ⑤図形教材4
- ⑥順列・組み合わせ
- ⑦数列
- ⑧模擬授業1
- ⑨模擬授業2
- ⑩模擬授業3
- ⑪生活と数学
- ⑫数と式
- ⑬三角比・三角関数
- ⑭対数関数
- ⑮まとめ

数学科教育研究B（2010年度以降入学生）

【担当】大西 俊弘

【開講】後期 木4

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。1. 数学科の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。2. 指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。3. 数学科の教育課程について概観し、授業展開・評価等について考える。

■到達目標

教科書に記載されている内容を正確に理解し、指導者としての確かな授業計画を立案できる。グループ単位で学習指導案を作成し、模擬授業を行うことによって、授業の構成員・展開力を身につける。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義後、必ず復習を行い、理解を確実なものとする。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況、討論・模擬授業等への取り組み
小テスト（40%）数回実施する
レポート（40%）

授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。数学の教員として、確かな数学力を身につけ、教科内容に精通していることは最低条件である。そのため、小テストで合格点に達しない者は、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』教育出版

242円

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』実教出版 306円

中学校や高等学校の教科書を参考図書として使用予定であるが、書名や購入方法については別途指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

2010年度以降の入学生が対象であり、数学の教員免許取得希望者は、原則として2回生で履修すること。数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117D）にて。連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①新学習指導要領の特徴について
- ②数学Ⅰの指導法研究（「データの分析」）
- ③数学Aの指導法研究（「整数の性質」）
- ④数学Aの指導法研究（「図形の性質」）
- ⑤数学Ⅲの指導法研究（「複素数平面」）
- ⑥教具・模型の利用について
- ⑦ICT機器の利用について
- ⑧学習指導案と授業設計
- ⑨模擬授業（1）
- ⑩模擬授業（2）
- ⑪模擬授業（3）
- ⑫「数学的活動」の事例研究（中学校）
- ⑬「数学的活動」の事例研究（高等学校）
- ⑭「課題学習」の事例研究（中学校）
- ⑮「課題学習」の事例研究（高等学校）

数学科教育法（2009年度以前入学生）

【担当】大西 俊弘

【開講】前期 月5、後期 月3

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。

1. 中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
2. 指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。
3. 数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。
4. 数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。
5. 数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。
6. できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標

中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ・有用性について知る。学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。講義の3分の1程度は、コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席状況、討論・模擬授業等への取り組み
レポート（90%）年間10回程度
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく半期に3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』教育出版 242円
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』実教出版 306円
杉山 吉茂『中等数学科教育序説』東洋館出版社 3675円

■履修上の注意・担当者からの一言

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117D）

にて。（但し、6月は教育実習の巡回指導で不在のときもある。）連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①教材論（黄金比・白銀比）
- ②教材論（オリガミクス・くみがみ）
- ③教材論（ユークリッドの互除法等）
- ④学習指導案とは何か
- ⑤学習指導計画の作成方法
- ⑥模擬授業1
- ⑦観点別評価と評価規準
- ⑧評価規準を念頭においた学習指導案の作成
- ⑨模擬授業2
- ⑩授業研究（授業記録ビデオの分析）
- ⑪グラフツールGRAPES入門
- ⑫グラフツールGRAPESの活用＜教材作成1＞
- ⑬グラフツールGRAPESの活用＜教材作成2＞
- ⑭学力低下問題
- ⑮生徒の質問にどう答えるか
- ⑯数学教育史と学力観の変遷
- ⑰学習指導要領について
- ⑱作図ツールの基礎
- ⑲作図ツールの活用
- ⑳作図ツールを利用した課題学習
- ㉑課題学習の教材論（ピクスの定理等）
- ㉒グループによる学習指導案研究
- ㉓模擬授業（課題学習）
- ㉔グラフ電卓入門
- ㉕グラフ電卓の活用
- ㉖PISAにおける数学的リテラシー
- ㉗外国における数学教育
- ㉘新科目「数学活用」について
- ㉙統計・データ処理の指導法
- ㉚「数学的活動」とは何か

数学科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

[担当] 大西 俊弘

[開講] 前期 月5

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。1. 中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。2. 指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。3. 数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。4. 数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。5. 数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。6. できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標

中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ・有用性について知る。学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。講義の3分の1程度は、コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席状況、討論・模擬授業等への取り組み
レポート（90%）半期5回程度
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 数学編』 教育出版 242円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』 実教出版 306円
杉山 吉茂 『中等科数学科教育序説』 東洋館出版社 3675円

■履修上の注意・担当者からの一言

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117D）にて。（但し、6月は教育実習の巡回指導で不在のときもある。）連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①教材論（黄金比・白銀比）
- ②教材論（オリガミクス・くみがみ）
- ③教材論（ユークリッドの互除法等）
- ④学習指導案とは何か
- ⑤学習指導計画の作成方法
- ⑥模擬授業1
- ⑦観点別評価と評価規準
- ⑧評価規準を念頭においた学習指導案の作成
- ⑨模擬授業2
- ⑩授業研究（授業記録ビデオの分析）
- ⑪グラフツールGRAPES入門
- ⑫グラフツールGRAPESの活用＜教材作成1＞
- ⑬グラフツールGRAPESの活用＜教材作成2＞
- ⑭学力低下問題
- ⑮生徒の質問にどう答えるか

数学科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

[担当] 大西 俊弘

[開講] 後期 月3

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。1. 中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。2. 指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。3. 数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。4. 数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。5. 数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。6. できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標

中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ・有用性について知る。学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。講義の3分の1程度は、コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席状況、討論・模擬授業等への取り組み
レポート（90%）半期5回程度
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 数学編』 教育出版 242円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』 実教出版 306円
杉山 吉茂 『中等科数学科教育序説』 東洋館出版社 3675円

■履修上の注意・担当者からの一言

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117D）にて。連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①数学教育史と学力観の変遷
- ②学習指導要領について
- ③作図ツールの基礎
- ④作図ツールの活用
- ⑤作図ツールを利用した課題学習
- ⑥課題学習の教材論（ピクスの定理等）
- ⑦グループによる学習指導案研究
- ⑧模擬授業（課題学習）
- ⑨グラフ電卓入門
- ⑩グラフ電卓の活用
- ⑪PISAにおける数学的リテラシー
- ⑫外国における数学教育
- ⑬新科目「数学活用」について
- ⑭統計・データ処理の指導法
- ⑮「数学的活動」とは何か

■サブタイトル

学校教育における生徒指導の意義と役割

■講義概要

急速な社会変化の中で旧来の倫理観・価値観が大きく崩れ、家庭や学校の教育力は低下している中で、生徒指導の重要性とその対応のあり方については認識を新たにすることがある。最近の学校現場で起こっているいじめ、不登校、学級崩壊等の問題は生徒指導上の喫緊課題であるが、単に表面的な目に見える現象だけに注目し、問題行動を起こす生徒への治療・矯正や防止対策として生徒指導を捉えてはならない。生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格的発達への支援、将来の自己実現に向けてのガイダンスという積極的な教育機能として位置づけられるべきである。本講義では、まず生徒指導の本質的な意義や役割を明確にした上で、様々な問題例を通してその原因・背景・対処について実証的な考察を加え、さらにガイダンス機能の充実のための進路指導について触れる。そして教員には個人あるいは組織の一員としてどのような資質や能力や役割が求められているか理解したい。

■到達目標

教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、討論・発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。

■系統的履修

「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目

■授業時間外における予・復習等の指示

課題には主体的に取り組むこと。また紹介された参考文献等をよく読み、知識を深めるとともに、批判的な思考力を養うこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート (10%) 毎回出される小課題の達成度を評価する。
定期試験 (60%) 学習内容の理解、教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①はじめに
- ②学校及び青少年の現状と課題 1
- ③学校及び青少年の現状と課題 2
- ④生徒指導の意義と役割 1
- ⑤生徒指導の意義と役割 2
- ⑥生徒指導の意義と役割 3
- ⑦生徒理解 1
- ⑧生徒理解 2
- ⑨生徒理解 3
- ⑩問題行動・学級（授業）崩壊 1
- ⑪問題行動・学級（授業）崩壊 2
- ⑫いじめ・不登校 1
- ⑬いじめ・不登校 2
- ⑭進路指導のあり方
- ⑮まとめ

道徳教育指導法

■サブタイトル

道徳の時間の授業力を磨く

■講義概要

道徳教育の「要」の時間である「道徳の時間」の実践的指導力を身に付けるため、道徳の時間の指導案作成、模擬授業等を行いながら具体的な研究・考察を行う。

■到達目標

学習指導要領に示された道徳教育の目標、内容等について理解し、指導計画や学習指導案の作成、模擬授業等を通じて実践的指導力の基礎を身に付ける。

■講義方法

中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年9月）を活用し、道徳教育の目標、内容等について理解するとともに、読みもの資料をもとに指導案の作成、模擬授業を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義において、小中学校で行われる道徳教育研究会をはじめ、京阪神地区で毎月行われている「横山利弘先生を囲む道徳教育研究会」や「宇治市道徳教育研究会」等の開催について紹介するので、可能な限り参加し、学校現場の状況を把握するとともに、自らの実践的指導力の向上を図ること。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 平常点（授業への参加態度等）
小テスト (20%) 学習指導要領の内容、2回実施
定期試験 (60%) 提示された読みもの資料による学習指導案の作成

■テキスト

文部科学省 『中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年9月）』 日本文教出版 139円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①道徳教育の意義
-なぜ、今、道徳教育なのか-
- ②道徳教育の変遷
-学習指導要領における道徳教育はどのよう改訂されてきたのか-
- ③道徳教育の目標と内容
-道徳教育の目標と内容はどのように示されているのか-
- ④道徳の時間の学習指導案 (1)
-ヤマのある授業を行うための指導案作成は、どのような手順によるのか-
- ⑤道徳の時間の学習指導案 (2)
-資料はどのように読むのか-
- ⑥道徳の時間の学習指導案 (3)
-生徒の多様な意見を引き出す中心発問はどのように作るのか-
- ⑦道徳の時間の学習指導案 (4)
-中心発問につなぐ基本発問はどのように作るのか-
- ⑧道徳の時間の授業 (1)
-自主性や自律性を育てる授業をどう作るのか-
- ⑨道徳の時間の授業 (2)
-思いやりを育てる授業をどう作るのか-
- ⑩道徳の時間の授業 (3)
-生命の尊さを考える授業をどう作るのか-
- ⑪道徳の時間の授業 (4)
-人間の弱さを克服する力を育てる授業をどう作るのか-
- ⑫道徳の時間の授業 (5)
-規範意識を育てる授業をどう作るのか-
- ⑬道徳の時間の授業 (6)
-集団や社会との関わりについて考える授業をどう作るのか-
- ⑭学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育
-道徳教育の全体計画、指導計画はどのように作成するのか-
- ⑮まとめ
-生徒の多様な意見を引き出す道徳の授業はどのように作るのか-

■サブタイトル

もう一つの教育課程－学校教育における特別活動の役割

■講義概要

学校での様々な教育活動の意義は、生徒一人ひとりが個性の伸張を図るとともに、集団や社会の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする態度を身につけることにある。この意味で、学校が知識や技術の習得のためだけに合目的に機能を単一化し、その本来的な多機能性（特に人間形成）を失い、居心地のよい場所でなくなりつつある現状を見ると、もう一つの教育課程である特別活動の意義は見直されるべきである。特別活動は、生徒の自主的、集団的な活動の時間であり、まさに「生きる力」を養う場として、各学校・教員が創造的にいろいろな実践や工夫を行う余地が多く残されている。本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけ、その教育的意義と内容、具体的な展開と工夫などについて考察しながら、学校教育における特別活動の基本的な役割について理解を深め、ひいてはこれからの時代に期待される教師のあり方について明らかにしたい。

■到達目標

教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、討論・発表等の参加型授業を導入する。

■授業時間外における予・復習等の指示

随時出される課題には主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（40％）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
小テスト（20％）授業中に出される課題の達成度を評価する。
レポート（40％）学期末の課題の達成度を評価する。

上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜講義中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①特別活動の意義と特性 1
- ②特別活動の意義と特性 2
- ③特別活動の意義と特性 3
- ④望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 1
- ⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 2
- ⑥望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 3
- ⑦教育課程としての特別活動
- ⑧学級活動の意義と運営
- ⑨学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
- ⑩特別活動の指導計画と工夫 1
- ⑪特別活動の指導計画と工夫 2
- ⑫特別活動の指導計画と工夫 3
- ⑬特別活動の指導計画と工夫 4
- ⑭特別活動と特色ある学校づくり・総合的な学習の時間
- ⑮まとめ

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
キ	教化法	竹本 了悟／季平 博昭／ 赤井 智顕	通年	水 5	285
コ	勤式	熊本 義秀／大八木正雄／ 土岐 好道	通年	土 4	286
シ	宗教学概論	古賀 和則	通年	月 5	287
	真宗学概論	中平 了悟	通年	月 4	288
	真宗史	仲尾 孝誠	通年	土 1	288
ニ	日本仏教史	下間 一頼	通年	火 4	289
フ	仏教学概論	道元 徹心	通年	水 3	289

■サブタイトル

浄土真宗における布教伝道－理論の考究と実践の修得－

■講義概要

宗教においてはその教えを正確に他の人々に伝え、教化伝道していくことの重要性があることはいうまでもない。特に浄土真宗は聞法が中心であり、それ故に布教伝道が重要視されている。本講義ではその布教伝道の理論を浄土真宗の法義に基づき、明らかに考究していく。しかし単に理論を学ぶだけでは、実際に布教伝道することは難しい。現在の布教現場にあっては、一体何が問題であり課題であるのか、このような布教伝道の現代的課題を考慮に入れながら、理論面と共に実践的側面の修得を目指す。

■到達目標

■講義方法

複数の講師によるチェーンレクチャー形式をもって講義を進める。

布教伝道の理論的側面と、実践的側面の具体的な課題について口述をもって講義する。

実践的課題の修得のため、話し合い法座の実習や、布教実演と相互研鑽も取り入れる。

■系統的履修

真宗学に関する諸講義。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容の予習・復習、並びに積極的な情報収集。

■成績評価の方法

平常点（40%）受講態度などから総合的に評価する。

その他（60%）チェーンレクチャーのため、各担当教員からの指示による課題をもって評価する。

■テキスト

『拝読 浄土真宗のみ教え』編集委員会 『拝読浄土真宗のみ教え』 本願寺出版社 315円

テキストの使用については講義時に各担当教員から指示する。

■参考文献

育成研修部編 『伝道』 本願寺出版社 1000円

上記は一例。講義時に各担当教員から適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

布教伝道の現場に即した、実践的側面を具体的に取り上げるので、自らの課題として積極的・主体的に取り組んで欲しい。

■講義計画

- ①【教化伝道の理論について】 浄土真宗本願寺派の特徴①
 - ②【教化伝道の理論について】 浄土真宗本願寺派の特徴②
 - ③【教化伝道の理論について】 宗教における教化伝道
 - ④【教化伝道の理論について】 仏教における教化伝道
 - ⑤【教化伝道の理論について】 浄土真宗における教化伝道①
 - ⑥【教化伝道の理論について】 浄土真宗における教化伝道②
 - ⑦【教化伝道の理論について】 教化伝道の理論①
 - ⑧【教化伝道の理論について】 教化伝道の理論②
 - ⑨【教化伝道の現代的課題について】 現代における教化伝道の諸相①
 - ⑩【教化伝道の現代的課題について】 現代における教化伝道の諸相②
 - ⑪【教化伝道の現代的課題について】 現代における教化伝道の諸相③
 - ⑫【教化伝道の現代的課題について】 教化伝道の種類①
 - ⑬【教化伝道の現代的課題について】 教化伝道の種類②
 - ⑭【教化伝道の現代的課題について】 教化伝道の種類③
 - ⑮【教化伝道の現代的課題について】 教化伝道の種類④
 - ⑯【宗門の教化伝道について】 同朋運動
 - ⑰【宗門の教化伝道について】 門信徒会運動
 - ⑱【宗門の教化伝道について】 宗門の組織教化
 - ⑲【宗門の教化伝道について】 話し合い法座の実習①
 - ⑳【宗門の教化伝道について】 話し合い法座の実習②
 - ㉑【宗門の教化伝道について】 話し合い法座の実習③
 - ㉒【教化伝道の実践について】 法話布教の理論①
 - ㉓【教化伝道の実践について】 法話布教の理論②
 - ㉔【教化伝道の実践について】 法話布教の理論③
 - ㉕【教化伝道の実践について】 法話布教の作法
 - ㉖【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修①
 - ㉗【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修②
 - ㉘【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修③
 - ㉙【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修④
 - ㉚【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修⑤
- 各回の担当者および学修内容は、講義進行状況に応じて変更することがある。

勤式

【担当】 熊本 義秀、大八木正雄、土岐 好道

【開講】 通年 土4

■サブタイトル

勤式とは何か。なぜ荘厳をするのか。僧侶とは。

■講義概要

浄土真宗本願寺派僧侶として、寺院活動を進める上で必須の一つが勤式である。本講義では寺院における日常勤行・法要儀式の荘厳・作法等の実演指導、及び住職として必要な基本姿勢を身につけることを重点的に学習する。

■到達目標

■講義方法

作法・荘厳の講義及び声明の実演。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

平常点（100%）受講状況から総合的に評価する。

■テキスト

講義時に指示する。

■参考文献

講義時に指示する。

■講義計画

- ①勤式を学ぶ心得と年間授業概要
- ②領解文・御文章（末代無知・聖人一流章）偈文勤行・合掌礼拝作法
- ③信心獲得・白骨・御正忌章
- ④仏事阿弥陀経読誦の心得と作法・節柝の打法
- ⑤正信偈読誦の説明・歴史・出拠他
- ⑥正信偈 草譜 偈文
- ⑦正信偈 草譜 念仏・和讃
- ⑧正信偈 草譜 念仏・和讃・回向

⑨正信偈 行譜 偈文

⑩正信偈 行譜 念仏・和讃（道光明朗以下6首）

⑪法式規範 その1 作法・荘厳

⑫法式規範 その2 打物・衣体他

⑬葬場勤行 A

⑭葬場勤行 B

⑮葬場勤行 C おかみそり・入棺尊号

⑯音楽理論

⑰阿弥陀経作法 その1

⑱阿弥陀経作法 その2

⑲無量寿経作法 A

⑳無量寿経作法 B

㉑奉讃大師作法

㉒大師影供作法 その1

㉓大師影供作法 その2

㉔二門偈作法

㉕五会念仏作法

㉖御伝鈔 拝読と作法 御絵伝の荘厳と説明

㉗～㉚往生礼讃偈（初夜偈）

※各回の担当者および学修内容は、講義進行状況に応じて変更することがある。

■サブタイトル

宗教学は宗教をどのように見てきたか

■講義概要

広義の宗教学は、宗教を研究対象とする学問であり、神（宗）学、宗教哲学、宗教史、科学的宗教学の領域があります。また、教義の宗教学では宗教史と科学的宗教学があります。この講義では、まず、広義の宗教学の概要をたどり、続いて狭義の宗教学を取り上げ、主要な研究テーマを絞ります。

■到達目標

宗教研究の概要の理解。

■講義方法

講義形式ですが、前後期に各1回程度の討論会（シンポジウム）を行います。

■系統的履修

「現代社会と宗教」「生活の中の宗教」「心と身体と宗教」「哲学」「社会学」「心理学」「文化人類学」

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回レポート候補の課題を示すので、準備に取りかかっておく。

■成績評価の方法

平常点（20%）前期、後期各1回以上のミニシンポ参加。
&準備
レポート（80%）前期まとめレポート（40点）、後期まとめレポート（40点）

■テキスト

特になし

■参考文献

上田・柳川編 『宗教学のすすめ』 筑摩書房
石田・藺田編 『宗教学を学ぶ人のために』 世界思想社
井上・月本・星野編 『宗教学を学ぶ』 有斐閣
脇本著 『宗教学入門』 講談社
武・宮庄・高田編 『宗教学の現在』 三和書房
細谷・藤田編 『新しい教養のすすめ 宗教学』 昭和堂

■履修上の注意・担当者からの一言

宗教学には広い範囲があります。それは、対象の宗教が多種多様であることもあります。また、学ぶ立場の多様性もあります。この講義では、主として、宗教を広くとらえ、科学的に分析しようとする立場にたちます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

e-mail: koga@soc.ryukoku.ac.jpでアポイントを取ることに。

■講義計画

- ①ブリーフィング 宗教学の成立：成立の背景と分野
- ②宗教の規定
- ③科学と宗教
- ④宗教史Ⅰ：
- ⑤ミニシンポ「スピリチュアル パワー」
- ⑥宗教史Ⅱ
- ⑦宗教史Ⅲ
- ⑧宗教現象学Ⅰ
- ⑨宗教現象学Ⅱ
- ⑩宗教社会学Ⅰ
- ⑪宗教社会学Ⅱ
- ⑫宗教社会学Ⅲ①
- ⑬宗教社会学Ⅲ②
- ⑭宗教社会学Ⅳ
- ⑮宗教社会学Ⅴ
- ⑯宗教心理学Ⅰ
- ⑰宗教心理学Ⅱ
- ⑱宗教心理学Ⅲ
- ⑲宗教心理学Ⅳ
- ⑳宗教心理学Ⅴ
- ㉑ミニシンポ「現代人の宗教意識」
- ㉒宗教生理学
- ㉓宗教人類学Ⅰ
- ㉔宗教人類学Ⅱ
- ㉕宗教人類学Ⅲ：
- ㉖宗教地理学
- ㉗宗教民俗学Ⅰ
- ㉘宗教民俗学Ⅱ
- ㉙宗教民俗学Ⅲ
- ㉚まとめ

■講義概要

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想の体系的な理解を目的に講義を行う。「真宗学」の中心は、親鸞聖人によって明らかにされた思想・教義としての「浄土真宗」にある。どのような視点に立とうとも、「真宗学」という名称を用いる以上、親鸞聖人の思想や立場が前提とされる。釈尊によって説かれた経典、およびインド・中国・日本の諸師（高僧）による経典の解釈を、親鸞聖人はどのように受容したのか。また、親鸞聖人によって説き示された（教えとしての）「浄土真宗」は今に至るまで、どのように理解・解釈されて来たのか。一年間の講義を通して、その概略について講義をしたい。本講義は、入門的な内容を講義する予定である。しかし、一般的な意味で「簡単」ではないと思う。受講者の主体的な学びの態度がなければ、成立しないことを念頭に置いて受講して欲しい。

■到達目標

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想を体系的に理解できるようになることを目的とする。

■講義方法

講義形式。板書とレジュメを中心に講義を行う。尚、テキストは必ず持参すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に小テストを実施するので、各自自主的な復習をすること。また、課題等については講義時に指示する。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席は当然。受講態度などから総合的な判断する
小テスト（10%）講義時に行う小テストも評価の対象となる。
レポート（20%）期末のレポートを予定している。
定期試験（60%）期末のテストを予定している。

規定数以上の出席は、評価の前提。規定に満たない場合は、単位は認定されない。

■テキスト

『浄土真宗聖典註釈版（第二版）』 本願寺出版社
村上速水 『親鸞教義とその背景』 永田文昌堂
このほか、必要があれば講義時に指示する。

■参考文献

講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

◆本講義は「本願寺派教師資格」に関する講義です。講義内容・方針もそれに見合ったものとなるように努めるので、受講者も了承の上受講してください。

◆「真宗学」の理解には、主体的に問い、学ぶことが必要です。知識は大切なものに近づく手がかりになるかも知れませんが、絶対的な条件ではありません。受講者の主体的な学びが必須です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時に連絡方法などについては説明する。また必要があれば、講義前後に相談してください。

■講義計画

- 1 回目 : オリエンテーション 講義概略・評価方法等の説明
- 2～3 回目 : 浄土真宗について
- 4 回目 : 真宗学について
- 5 回目 : 浄土真宗の教義一概要
- 6～11 回目 : 親鸞聖人の生涯と思想
- 12～15 回目 : 親鸞聖人の著述と思想
- 16～18 回目 : 親鸞聖人の思想の背景（1）浄土三部経の思想
- 19～24 回目 : 親鸞聖人の思想背景（2）七高僧の思想
- 25～30 回目 : 親鸞聖人の思想体系

真宗史

■サブタイトル

浄土真宗の成立と変容の歴史

■講義概要

親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えに生きる者の同朋教団であると公称されている。では御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていたのか。さらには、親鸞の開いた教団がその後、国家および民衆との関係においてどのように展開していったのか。浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日の実践課題を共に明らかにしていきたい。

■到達目標

浄土真宗の歴史の全容。日本における宗教と国家、宗教と人権に関する基礎的な知識。

■講義方法

テキストを中心に講義するが、視聴覚教材も活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内で指示する

■成績評価の方法

平常点（50%）
レポート（10%）
定期試験（40%）

■テキスト

福間光超・堀大慈 『真宗史（中央仏教学院テキスト）』（本願寺出版社）
柏原祐泉 『仏教と部落差別その歴史と今日（人権ブックレット9）』 解放出版社

■参考文献

財・同和教育振興会 『差別・被差別からの解放本願寺教団と部落差別（増補版）』 本願寺同朋センター
他は講義の際適宜紹介する

■講義計画

- ①浄土真宗の教勢
- ②日本の仏教宗派
- ③～④日本への仏教伝来
- ⑤～⑥日本仏教の差別体質
- ⑦～⑧法然とその教団
- ⑨～⑪親鸞とその教団
- ⑫～⑬大谷廟堂と本願寺
- ⑭～⑮蓮如と本願寺教団
- ⑯～⑰一向一揆
- ⑱～⑳近世本願寺教団の形成
- ㉑～㉒近世教学と信仰
- ㉓～㉔維新政治と真宗
- ㉕～㉖近代天皇制国家と教団
- ㉗～㉘戦後における真宗の動向 - 部落問題・靖国問題

■サブタイトル

日本における仏教受容とその展開

■講義概要

外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。本講義では日本仏教のあり方を歴史学的方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。

■到達目標

高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。ここでは仏教を方法的視座にすえることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。

■講義方法

講義形式で授業を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に指示する

■成績評価の方法

平常点 (20%)

レポート (20%)

定期試験 (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂 2400円

■講義計画

1～3回目：仏教の基本原理

4～6回目：仏教伝来

7～15回目：古代仏教

16～20回目：中世仏教

21～23回目：近世仏教

24～26回目：近代仏教

27～28回目：現代社会と仏教

29～30回目：まとめ

仏教学概論

■講義概要

仏教思想について、歴史的展開をふまえながら体系的に講義する。『仏教要論』をテキストに用いて講義する。仏教が「真理の宗教」とされる理由を説き、根本原理について講義する。そして、宗派仏教として広まった内容を説明する。特に天台教義・浄土教義については詳しく講義する。また、現代社会における仏教思想の有する意義についても考察を試みたい。

■到達目標

本願寺派教師資格科目の一つとして、要求される知識を身につける。

■講義方法

基本的に『仏教要論』をテキストに用いて、第一編「仏教概説」から第二編「各宗教義」へと順に講義する。また、必要に応じてプリントを配布し、視聴覚教材も用いる。

■系統的履修

必修の「仏教の思想」A・Bを履修済みであること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況と受講態度

レポート (50%) 前期末と後期末に課するレポート

■テキスト

龍谷仏教学会編 『仏教要論』 百華苑 1545円

■参考文献

講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養ってほしい。

■講義計画

①仏教とは何か

②仏教の根本原理

③縁起の思想

④仏教の実践

⑤仏教と社会生活

⑥宗派仏教への広がり

⑦天台教義

⑧浄土教義

⑨仏教と現代

付 録

教員名簿

理工学部専任教員

※ダイヤルインは1号館、2号館は077-543-内線番号、7号館は077-544-内線番号

【数理情報学科】				内線	【電子情報学科】				内線
飯田	晋司	1号館	513 研究室	7513	石崎	俊雄	1号館	411 研究室	7798
池田	勉	1号館	512 研究室	7512	上原	徹	1号館	443 研究室	7414
宇土	顯彦	1号館	506 研究室	7797	植村	渉	1号館	410 研究室	7410
大西	俊弘	2号館	117D研究室	7198	小野	景子	1号館	438 研究室	7495
※(外線) 077-544-7198					海川	龍治	1号館	402 研究室	7402
岡本	雄二	2号館	312 研究室	7654	川上	肇	1号館	403 研究室	7403
國府	宏枝	1号館	501 研究室	7503	木村	昌弘	1号館	406 研究室	7406
阪井	一繁	1号館	503 研究室	7508	木村	睦	1号館	407 研究室	7407
佐野	彰	1号館	507 研究室	7507	熊野	雅仁	1号館	437 研究室	7437
高橋	隆史	1号館	508 研究室	7501	小島	肇	1号館	443 研究室	7414
中野	浩	1号館	514 研究室	7518	小堀	聡	1号館	401 研究室	7419
樋口	三郎	1号館	502 研究室	7514	里井	久輝	2号館	311 研究室	7656
馬	青	1号館	505 研究室	7505	斉藤	光徳	1号館	408 研究室	7487
松本平淳太		1号館	504 研究室	7488	張	陽軍	1号館	412 研究室	7412
松本和一郎		1号館	510 研究室	7510	中川	晃成	1号館	409 研究室	7409
道元	徹心	4号館	318 研究室	7868	中村	奉夫	1号館	405 研究室	7405
森田	善久	1号館	509 研究室	7509	野口紳一郎		1号館	443 研究室	7414
山岸	義和	1号館	507 研究室	7507	藤井	大輔	1号館	437 研究室	7437
四ッ谷晶二		1号館	511 研究室	7511	松田	時宜	1号館	438 研究室	7495
					山本	伸一	1号館	404 研究室	7404

【機械システム工学科】				内線	【物質化学科】				内線
岩本	太郎	1号館	315 研究室	7445	青井	芳史	1号館	205 研究室	7465
大津	広敬	1号館	301 研究室	7431	S. C. Yenik	2号館	314 研究室	7655	
大槻	志郎	2号館	315 研究室	7657	石井	大輔	1号館	309 研究室	7599
金子	康智	1号館	302 研究室	7432	今井	崇人	1号館	307 研究室	7439
河嶋	壽一	1号館	311 研究室	7441	岩澤	哲郎	1号館	201 研究室	7461
左近	拓男	1号館	313 研究室	7443	内田	欣吾	1号館	202 研究室	7462
塩見	洋一	1号館	316 研究室	7458	大柳	満之	1号館	206 研究室	7464
渋谷	恒司	1号館	314 研究室	7444	糟野	潤	1号館	211 研究室	7471
進藤	康則	1号館	308 研究室	7429	下埜	勝	1号館	310 研究室	7440
田原	大輔	1号館	305 研究室	7435	白神	達也	1号館	210 研究室	7470
辻上	哲也	1号館	306 研究室	7411	富崎	欣也	1号館	209 研究室	7469
堤	一義	1号館	304 研究室	7446	中沖	隆彦	1号館	204 研究室	7661
永瀬	純也	1号館	319 研究室	7434	林	久夫	1号館	203 研究室	7463
西村	和男	1号館	339 研究室	7533	藤原	学	1号館	212 研究室	7472
野口	佳樹	1号館	303 研究室	7433	前田	尚志	1号館	310 研究室	7440
本田	尚義	1号館	308 研究室	7429	松重	和美	智光館	211 研究室	7192
前田	英史	1号館	320 研究室	7408	松中	岩男	1号館	307 研究室	7439
森	正和	1号館	312 研究室	7442	宮武	智弘	1号館	207 研究室	7467
					渡辺	英児	2号館	329 研究室	7667
					和田	隆博	1号館	208 研究室	7468

【情報メディア学科】

岩嶋 浩樹	7号館	コラボレーション 演習準備室	7148
岡田 至弘	7号館	情報研究室 2	7132
片岡 章俊	7号館	情報研究室 5	7135
寄能 雅文	7号館	コラボレーション 演習準備室	7148
芝 公仁	7号館	情報研究室11	7142
新川 芳行	7号館	情報研究室 3	7133
曾我麻佐子	7号館	情報研究室13	7144
外村 佳伸	7号館	情報研究室 4	7134
南條 浩輝	7号館	情報研究室14	7140
野村 竜也	7号館	情報研究室 6	7136
長谷 智弘	7号館	情報研究室 7	7137
藤田 和弘	7号館	情報研究室 1	7131
三浦 雅展	7号館	情報研究室12	7143
三好 力	7号館	情報研究室 8	7138
吉見 毅彦	7号館	情報研究室 9	7139
渡辺 靖彦	7号館	情報研究室10	7141

内線**【環境ソリューション工学科】**

浅野 昌弘	7号館	環境研究室14	7114
市川 陽一	7号館	環境研究室 4	7104
占部 武生	7号館	環境研究室 9	7109
菊池隆之助	7号館	環境研究室 1	7101
岸本 直之	7号館	環境研究室 7	7107
越川 博元	7号館	環境研究室 2	7102
近藤 倫生	7号館	環境研究室11	7111
竺 文彦	7号館	環境研究室 5	7105
桧尾 亮一	7号館	実験実習準備室	7117
丸山 敦	7号館	環境研究室12	7112
宮浦 富保	7号館	環境研究室 6	7106
山中 裕樹	7号館	実験実習準備室	7126
遊磨 正秀	7号館	環境研究室 3	7103
横田 岳人	7号館	環境研究室 8	7108
Thomas T. Lei	7号館	環境研究室10	7110

内線**【理工学部教務課】**

077-543-7730 ~ 7732

瀬田学舎近隣医療機関

※診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認してください。

	病院名	住所	電話番号	診療時間	月	火	水	木	金	土	診療科目
総合 病院	① 滋賀医科大学 附属病院	大津市瀬田月輪町	077-548-2111 時間外 548-2770	初診 午前 8:30～10:30 再診 午前 8:30～11:00 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	×	
	② 大津市民病院	大津市本宮 2 丁目9-9	077-522-4607	午前 8:30～11:30 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	×	
	③ 大津赤十字病院	大津市長等 1 丁目1-35	077-522-4131	午前 8:00～11:30 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	×	
	④ 社会保険滋賀病院	大津市富士見台16-1	077-537-3101	午前 8:30～11:30 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	×	
内科	⑤ 小西医院	大津市大萱 1 丁目17-35	077-543-3600	午前 9:00～12:30 月～土 午後 5:00～7:30 月・火・木・金	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	内科・皮膚科・ 泌尿器科・ 外科
	⑥ 瀬田クリニック	大津市一里山 3 丁目1-5	077-545-3945	午前 9:00～12:00 月～土 午後 1:00～5:00 月・水・木	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	○ ×	
	⑦ 大道医院	大津市大將軍 1 丁目15-7	077-547-3650	午前 9:00～12:00 月・火・木～日 午後 4:30～7:30 月・火・木・金	○ ○	○ ○	×	○ ○	○ ○	○ ×	内科・呼吸器 科・循環器科
外科	⑧ はえうち診療所	大津市一里山 4 丁目25-21	077-543-3861	午前 9:00～12:00 月～土 午後 3:00～5:00 月・火・木・金	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	内科・胃腸科・ 肛門科・外科
整形 外科	⑨ 棚橋整形外科	大津市大萱 1 丁目20-12	077-545-8020	午前 9:00～12:00 月～土 午後 3:30～6:30 月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	
	⑩ さいき整形外科	大津市一里山 3 丁目19-4	077-545-7711	午前 9:00～12:00 月～土 午後 4:30～7:30 月～水・金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ×	
眼科	⑪ 本田眼科	大津市大萱 1 丁目16-15	077-543-0878	午前 9:30～12:30 月～水・金・土 午後 4:00～6:00 月～水・金	○ ○	○ ○	○ ○	×	○ ○	○ ×	
耳鼻科	⑫ 瀬田耳鼻咽喉科	大津市一里山 1 丁目2-13	077-543-1490	午前 9:00～12:30 月～土 午後 3:30～7:00 月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	
婦人科	⑬ かとう医院	大津市大將軍 3 丁目8-16	077-544-1012	午前 8:30～12:00 月・水・金・土 (第 2 土曜休診) 午後 3:00～6:00 火・金	○ ×	×	○ ×	×	○ ○	○ ×	
皮膚科	⑭ 田中皮フ科医院	大津市一里山 1 丁目8-29 一里山中央ビル 2 階	077-545-1232	午前 9:30～12:30 月～水・金・土 午後 4:00～7:30 月～水・金	○ ○	×	○ ×	×	○ ○	○ ×	
歯科	⑮ まるやま歯科 クリニック	大津市一里山 1 丁目3-6	077-547-3560	午前 9:00～午後 1:00 月～土 午後 3:00～8:00 月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	

※救急医療ネットしが


 携帯電話版”救急医療ネットしが”は、県民の皆様が外出時等に医療機関をお探しになる場合に、携帯電話のブラウザ（i-mode/EZweb/Yahoo!ケータイ）からアクセスするサイトです。
 県内の医療機関の場所や診療時間・診療科目等を検索していただき、受診の参考にしていただくためのものです。

携帯電話検索サービス

<http://www.shiga.iryu-navi.jp/m/>

救急医療情報ネットしが

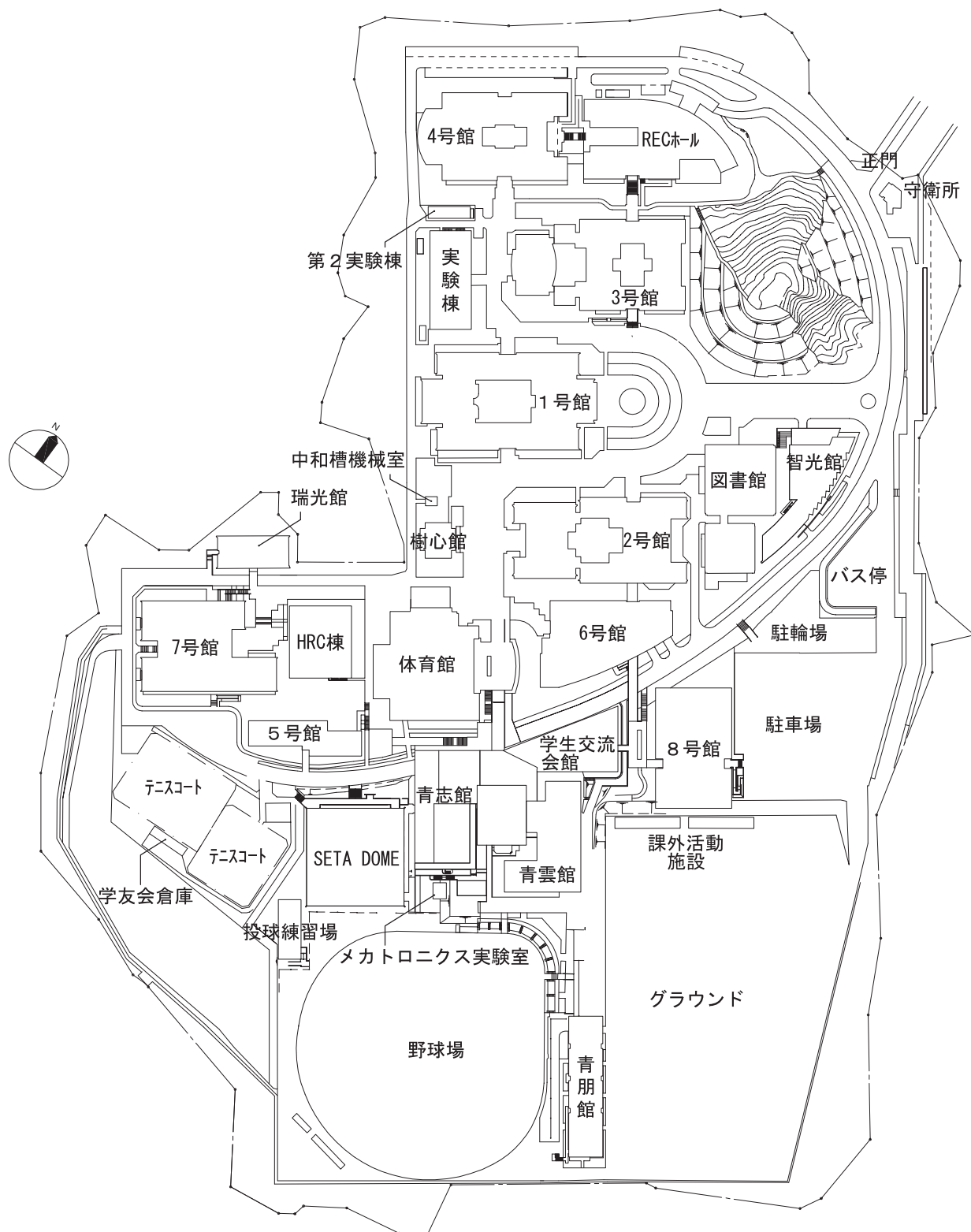
<http://www.shiga.qq-net.jp/>

利用になるための注意

- ※電話・FAXで現在診療中の医療機関を案内するサービスです。
- ※事前にメモの用意をしておくとう便利です。
- ※案内を受けた病院・診療所に行く場合は、必ず電話で確認を行ってください。
- ※重症の場合や命にかかわるような症状の場合は、救急車を要請してください。
- ※一部のダイヤル式電話機では、利用ができない場合がありますので注意してください。

医療機関をお探しの地域	電話番号
大津市	077-525-3799
草津市、守山市、栗東市、野洲市	077-553-3799
甲賀市、湖南市	0748-62-3799
近江八幡市、東近江市（旧八日市市・永源寺町・五個荘町・能登川町・蒲生町）、蒲生郡	0748-23-3799
愛知郡、東近江市（旧湖東町・愛東町）	0749-45-3799
彦根市、犬上郡	0749-23-3799
長浜市、米原市	0749-63-3799
高島市	0740-22-3799

龍谷大学瀬田学舎見取図



履修要項・Syllabus利用の手引き

学期はじめのQuestion

- ◆ 1年間のスケジュールはどこを読めばいいですか。
→ 学年暦
- ◆ 授業を受けるにあたって注意することはありますか。
→ P2：履修をはじめるにあたって
- ◆ 単位ってなんですか。
→ P3：単位制度と単位の認定
- ◆ 教養教育科目と固有科目、必修・選択・グループ必修・随意の違いってなんですか。
→ P26：教育課程の編成・履修方法
- ◆ 受たい科目の内容を知りたいのですがどこを読めばいいですか。
→ P91：シラバス
- ◆ 登録に際しての方法や注意することはありますか。
→ P8：履修登録
- ◆ 教職などの資格についてどこを読めばいいですか。
→ P66：諸課程等の履修方法
- ◆ 他学科の科目を受講するにはどうすればよいですか。
→ P59：他学科科目の履修について
- ◆ 大学コンソーシアム京都などの単位互換制度を受けるにはどうすればよいですか。
→ P60：単位互換制度について

学期途中のQuestion

- ◆ どのような場合に休講になるのですか。
→ P80：授業休止の取り扱い基準
- ◆ 証明書を発行するにはどうしたらよいですか。
→ P76：窓口事務
- ◆ 講義の内容が理解できず困っているのですが。
→ P18：教育支援
- ◆ 留学したいのですが。
→ P87：留学
- ◆ 休学について知りたいのですが。
→ P82：学籍の取り扱い

学期末のQuestion

- ◆ 成績の評価はどのようになっているのですか。
→ P13：成績評価
- ◆ 定期試験等を受験する際に注意すべきことは何ですか。
→ P15：筆答試験
- ◆ 追試験について知りたいのですが。
→ P15：筆答試験
- ◆ 進級するためにはどのような要件があるのですか。
→ P40、P46、P52：固有科目の履修（卒業・進級の要件）
※入学年度により異なるため注意すること
- ◆ 過去問などを知りたいとき(数理情報学科)
→ <http://whale2.math.ryukoku.ac.jp> 参照（要パスワード）